里昂

里昂市民	六、二〇七、〇〇（法）	八二七、九五（円）
里昂市民	三、四五二、〇〇	四八〇、三〇
里昂市	一〇〇、〇〇〇、〇〇	一〇、四五二、一七
里昂商業會議所	一〇、〇〇〇、〇〇	一、一六九、五九　未着
モンプレザール女子小學校	七二、〇〇	九、五一
若月領事代理外書記生一名	三六、一二	
里昂市民	二、〇三八、一八	三四〇、七四
里昂日本人會	六、四五〇、〇〇	七二三、〇三
モンプチール救濟會及其他	二、〇六八、一五	二三二、七四
里昂音樂聯合會	八三二、八〇	九五、四九
里昂生絲商組合兩	五〇、〇〇〇、〇〇	五、九五二、三〇（福災生絲業者救濟費なれば分配方農商務省へ依託す）
〃	三二、〇〇〇、〇〇	三、〇五九、九〇
ストラスブルグ市在留波蘭勞働者	八八一、〇〇	九五、六六
ガツプ市日本救濟演會來會者醵金	一、一六五、八〇	一二四、七四
計		二三、五二八、一五

馬耳塞

馬耳塞商業會議所	一〇、〇〇〇、〇〇（法）	一、一九九、〇四（円）
馬耳塞日本人會	二、〇〇〇、〇〇	二三九、八〇
在小林眷吉	一、三二七、八〇	一〇〇、〇〇
馬耳塞地方有志	一、一五六、三〇	一四六、七四
馬耳塞地方外人有志	二、一五六、三〇	二三一、八八
馬耳塞新聞組合	一、一四〇、〇〇	四九、七七、三三

白耳義

日本救濟委員會	一〇〇、〇〇〇、〇〇（法參）	九、九二四、一〇（円）
〃	一〇〇、〇〇〇、〇〇	一〇、三九、〇〇

計		九、三〇四、一二
計		一〇五、四〇九、五五
內（在留邦人		二、六五二、八六
外（外人		一〇一、三四三、二七

2、佛領印度支那

河內經濟院附檢事總長	「ピアストル」換一〇〇、〇〇（法參）	一四四、三〇（円）
在河內市一佛人海防市二暹羅國	一六六、八〇	一八二、一〇
在海防邦人	二九一、〇〇	一、二二二、〇〇
〃 內外人		二九六、八一
在河內邦人	一三五、二四九、〇〇	七〇四、〇八
佛領印度支那總會	一三五、二四九、二四（佛）	二三二、七四　未着
西貢日本人會	二、三二二、〇四（佛）	二、六五四、九四
計		一三〇、三一〇、八八　內未着一二五、二四
內（在留邦人		九四二四錢
外（外人		四、六五九、二七
內外人を區別し得ざる分		一二五、三五五、四四
佛國本土及其領土合計		二六六、八二
內（在留邦人		二三四、三二一、三五
外（外人		七、〇〇五、一五
內（外人		三六、九二八、九一
外（外人		二九四、二七

〃	一〇〇、〇〇〇、〇〇	一〇、四〇八、〇〇
〃	一〇〇、〇〇〇、〇〇	一〇、三五九、〇〇
〃	一〇七、〇〇〇、〇〇	一〇、三五九、〇五
〃	一〇〇、〇〇〇、〇〇	一〇、一四〇、八〇
〃	一〇〇、〇〇〇、〇〇	九、九四七、一四
〃	一〇〇、〇〇〇、〇〇	九、九四三、三六
〃	一〇〇、〇〇〇、〇〇	九、九四六、三五
〃	一〇〇、〇〇〇、〇〇	九、九四七、四五
〃	一〇〇、〇〇〇、〇〇	九、九四八、九六
在アンベルス內外人	二一、六二三、〇〇	二、〇四八、九六
在白帝國大使館員		四三、八六六、一四
計		二、〇四八、九六
內（外人		一四一、六三五、九六
外（人		

諾威

諾威赤十字社在東京諾威總領事代理		五七一、七五（円）
諾威赤十字社及同極東專門協會の後援による講演會收益金		五〇〇、〇〇
		九四、九
計		一、一六九、九四

瑞典

日瑞協會	一〇、〇〇〇、〇〇（クロン）	四九、六五二、〇〇（円） 未着

瑞典赤十字社	二、三五〇、一〇（ボンド）	日本赤十字社宛
在瑞典帝國公使館員	二五〇、〇〇	
計	二、六〇〇、一〇	
內（邦人	五七、三四四、二四	
外（人	五六、八四四、二四	

瑞西

佛語日曜學校生徒	四〇、〇〇（法）	三一、〇四（円） 罹災兒童へ寄贈
瑞西赤十字社在チユリツヒ來國總領事	一、一三七、七二	五四〇、一八 東京市罹災者へ寄贈
瑞西政府チユーリツヒ救助慈善會	五〇、〇〇〇、〇〇	一八、三五八、〇〇
		一、七八八、九三
計		二、一三三、八〇
內（外人		一四三、八六六、一四
外（人		二、〇四八、九六
		一四一、六三五、九六

和蘭本土及其領土

和蘭政府	一〇、〇〇〇、〇〇（夾）	七、九五六、三〇（円） 日本赤十字社へ寄贈
來人ジエ、エフシモンス		九八、四三
和蘭救濟委員會		七六、〇〇〇、〇〇
計		八四、〇四四、九三

蘭領東印度

バタヴイア		五〇、〇〇〇、〇〇（円）
バタヴイア蘭國官民		三〇、〇〇〇、〇〇
〃		九七三

爪哇日報主催募集			一四、一五六・四六
〃	バタヴイア熱帶病醫學協會		二、〇三五・四八
同會書記長ヅヘラー博士			一、〇五四・〇〇
バタヴイア日本人會			三、六〇〇・〇〇
〃			一〇、一四九・六六
爪哇各地日本人會			三、三五五・五〇
クラーセン會社			九八・一五
爪哇日報社			四四〇・〇五
〃			二三五・六八
バタヴイア廟國官民			五〇、〇〇〇・〇〇
爪哇各日本人會及其他			七、六〇三・一九
〃			七、〇四六・〇五
計			一四、三五八・四八
スラバヤ			
スラバヤ救濟委員會			三五、〇〇〇・〇〇円
〃			四一、八〇〇・〇〇
〃			一六、六〇〇・〇〇
在スマラン支那商總會			八、六〇〇・〇〇
スラバヤ日本人會			一〇、〇〇〇・〇〇
スマラン日本人會			七、〇〇〇・〇〇
スラバヤ日本人會			九、一四七・九六
〃			一、〇〇〇・〇〇
バウクバレ在留邦人			四六〇・〇〇
計			二八、九四七・九六
計			三六一、三六七・四四

〃	在留邦人		四六、九三一・四二
內	外人		三三九、六三五・六八
內	外人		一四、九四九・二四
和蘭本土及領土合計			三五五、三四一・七四
內	在留邦人		四六、九三一・四二
內	外人		三、三五五・五〇
內	外人		一四、九四九・二四
盤谷			
暹羅			
暹國政府		銀	五〇、〇〇〇・〇〇
在暹內外人			九〇・〇〇
〃			一三、一三五・〇〇
〃			二、八四八・九七
〃			一、三五五・〇〇
〃			四一六・〇〇
〃			二、四九一・一八
〃			二四〇・〇〇
〃			三九四・〇〇
在暹支那人有志			九〇〇・〇〇
計			四二、三〇〇・〇〇円
內	暹國人		八三三・〇〇
內	外人		四一、四六七・〇〇
露領亞細亞			
浦潮			
支那官民			一、〇〇〇・〇〇円
在留內外人			九、三一九・八六
計			一〇、三一九・八六
ニコリスク			
在留邦人			一二五・〇〇円
計			一二五・〇〇
ペテロパウロフスク			
在留邦人			一四〇・〇〇円
合計			一〇、五四四・九八
內	在留邦人		二六五・〇〇
內	外國人		一、〇〇〇・〇〇
內外人を區別し得ざる分			九、三一九・八六

其他

ラトヴイア國		一三五、〇〇〇・〇〇	一、三一五・〇〇円
國際聯盟總會各國代表			一〇、九五五・三六
在獨邦人及獨逸人		一、四六〇、〇〇〇・〇〇	一三、〇六八・三三
羅馬法皇		三〇〇、〇〇〇・〇〇	四〇、六〇九・一四
伊太利チユーリン Hogmann & Chiti Tosi社			三〇〇・〇〇
在澳門葡人		一、一六三・〇〇	一、四四一・〇四
ラトヴイア國		一四四、一〇〇・〇〇	一、三九二・三〇
〃		六〇、〇三一・〇三	五四〇・〇〇
羅馬尼亞在留外人		三、一一一・〇一	三五五・三三
在土耳古英米少女			一四四・八五
〃			六八・八七
マダムコヴア			
波蘭國學校及其他諸團體			七三八・一七
波蘭國小學兒童		二、一三〇・〇〇 紙幣	三、〇〇〇・〇〇
伊國人有志		八四〇・〇〇 利	九八・三一
在米蘭伊國九商會		七六〇・〇〇	六八・〇〇
米蘭在留邦人			一八〇・八〇
埃太利			七七八・八五
ウイーン、ホテル、イムペリアル(支那人の主催に係る茶會醵金)			一二六・五〇
チツコスロバキア國赤十字社			二九、一〇〇・〇〇
計			一〇五、〇四四・九六
內	在留邦人		一八〇・八四
內	外人		一〇四、六六四・一八
總計			一一、三六三、一四三・〇六
內	在留邦人		三、九四三、一四三・〇六
內	外國人及外人		七、三六四、八一二・九七
			三三一、三六八・八一八

二、義捐品

北米合衆國本土及領土

北米合衆國本土在留民

在紐育總領事館管內

紐育日本人會　朝子　一〇、〇〇〇個　六〇〇弗

在ポートランド領事館管内

寄贈者名	品名	數量	金額	備考
オレゴン州日本人會	麥粉	四、〇〇〇袋	四、二六〇・〇〇弗	九月十四日ポートランド發バラナ號積出
〃	毛布	一、〇〇〇枚	二、三五〇・〇〇	〃
〃	新古衣類及下着類	一三〇包	一、九二六・〇〇	〃
〃	鮭鑵詰	一五〇函	一、三五〇・〇〇	十月一日ポートランド發陽南丸積出
	計		一〇、四二六・〇〇	
シアトル日本人會	米	六〇〇俵	—	九月五日シアトル發横濱丸積出
タコマ日本人會	米	三五〇〃	—	九月七日シアトル發馬尼剌丸積出
シアトル日本人會	慰問袋	三、〇一七個	—	九月十一日シアトル發富山丸積出
〃	バケツ及コップ	三六噸	—	〃
〃	古着、靴類	六〇函	—	九月二十五日シアトル發アフリカ丸積出
〃	鮭	一樽	—	〃
〃	米	一〃	—	〃
タコマ日本人會	磨臼、米櫃	—	—	〃
タコマ佛教會	慰問袋	二七六個	—	〃
〃	其の他	四函	—	〃
タコマ有志		六、〇〇〇砂	—	〃
シアトル日本人會	鮭鑵詰	一、〇八二函	九月二十一日シアトル發伊豫丸積出	
〃	コーン、ビーフ	一三三〃		〃
〃	コーン、ビーフ、ハシユ	三三三〃		〃

シアトル日本人會	臺所用具	三三函	一六、二八〇・〇〇弗	九月二十一日シアトル發伊豫丸積出
〃	バケツ	三九〃		
〃	食鹽	八〇〇袋		
〃	麥粉	二四三〃		
〃	白米	五〃		
〃	鮪鑵詰	七、〇〇〇函		
〃	クラツカー	四〃		
〃	洋服	二〃		
〃	下着	一〃		
〃	鹽	一樽		
〃	古着類	三六函		
〃	慰問袋	二二〇袋		
〃	古着類	七函		
〃				十月十四日シアトル發布哇丸積出
〃	古着類	八梱		
〃		五〃		

在サンフランシスコ總領事館管内

寄贈者名	品名	數量	金額	備考
桑港日本人會	米	二、〇〇〇俵		九月六日桑港發プレジデントタフト號積出
〃	味噌	一〇〇樽		九月八日桑港發ソンム號積出
〃	米	一、九八〇俵		
〃	豆	一〇〇函		
〃	コーン、ビーフ	七三〃		
〃	鰯	二〇〇〃		
〃	ミルク	三〇〇〃		
〃	衣類	三〇俵		

桑港日本人會	麥	一、三〇〇袋	—	九月十八日桑港發天洋丸積出
〃	毛布	三〇、〇〇〇枚	—	〃
〃	古着類	一、三〇二袋	—	〃
〃	鑵詰品	三三函	—	〃
〃	鑵詰牛乳	一三函	—	〃
〃	縫衣機	三挺	—	〃
〃	米及豆	三〇袋	—	〃
桑港日本婦人會	慰問袋	一〇、八三五袋	—	〃
桑港日本人救濟會	鑵詰果物	二函	—	九月廿六日桑港發ヘフロン號積出
〃	鑵詰乾果物	一四三函	—	〃
〃	乾魚	二六函	—	〃
〃	昆布絲	一〇〇函	—	〃
〃	氷糖子	二函	—	〃
〃	豆	八袋	—	〃
〃	乾桃	四〇袋	—	〃
〃	米	二俵	—	〃
〃	衣類	三九包	—	〃
〃	パタ	二函	—	〃
〃	衣類	一〇入包	—	九月廿九日桑港發美津丸積出
〃	豆	四袋	—	〃
〃	鮒	一樽	—	〃
〃	米	四俵	—	十月十日桑港發春洋丸積出
〃	乾桃	六函	—	〃
〃	シヤベル	一函	—	〃
〃	衣類	三二包	—	〃
〃	鹽	一袋	—	〃

桑港日本人救濟會	慰問袋	二、〇二個	—	十月十日桑港發春洋丸積出
日本聯合婦人團	慰問袋	三、八〇三個	—	十月廿二日桑港發四比利亞丸積出
〃	乾桃	一函	—	〃
〃	古着	六〇函	—	十一月七日桑港發巴洋丸積出
〃	食料品	四袋	—	〃
〃	慰問袋	一、四〇二袋	—	〃
桑港母國災害救濟會	衣類	二函	一〇〇・〇〇弗	十一月二十六日桑港發樂洋丸積載
〃	食料品	四函	三〇・〇〇	〃
〃 日本聯合婦人會ノ	慰問袋	三、〇八二袋（一三三函）	三、三四二・三〇	〃
〃		一三函	九三・〇一	十二月一日桑港發天津丸積出
〃	衣類	一函〃	〃	〃
〃	乾杏	二函	一〇〇・〇〇	〃
〃	葡萄酒	一函〃	〃	〃
〃	鑵詰野菜	一函	—	十二月九日桑港發龍洋丸積出
〃	栗	二函	—	〃

在ロスアンゼルス領事館管内

羅府日本人有志	鮪鑵詰	一〇〇ケース	一、〇〇〇・〇〇弗	九月六日桑港發プレジデントタフト號積出
〃	米	一〇〇俵	四〇・〇〇	〃
羅府日本人會	米	一、八〇〇俵	九、〇四〇・一二	九月八日桑港發ソムン號積出
〃	麥粉（四斤封度）	六〇〇袋	一、二〇〇・〇〇	九月十八日桑港發天洋丸積出
〃	古着	二九函	一、三〇〇・〇〇	サンペドロ、アイリス開基督教婦人會救世軍經由

羅府日本女子基督教青年會	古着	毛包	二、000.00	九月廿四日桑港發ヘプロン號積出
南加サンペドロ日本婦人會	衣類	三函	—	九月廿九日桑港發美津丸積出
〃	鮭鑵詰	100ケース	六00.00	九月廿九日桑港發美津丸積出
〃	鮪鑵詰	100ケース	四00.00	十月三日サンペドロ發タコマ丸積出
〃	衣類	二包	三00.00	〃
〃	雜貨袋及古着類	二六個	一、000.00	〃
		計	三一、九三三・一七	

2、北米合衆國赤十字社

〃	米	一、000俵	10、000.00（弗價）	九月六日桑港發プレシデントダフト號積出
〃	米	八俵、六六袋	七二、八0弗二九（弗價）	九月十九日桑港發ザエガ號積載
〃	砂糖	六噸	〃	〃
〃	燒豆	五0噸	〃	〃
〃	ニベホレーテツトミルク	一三噸	〃	〃
〃	麥粉	七六噸	〃	〃
〃	挽木材	一三噸	〃	〃
〃	石鹼	一0噸	〃	〃
〃	銅鐵材	四六噸	〃	〃
〃	下着	三三、000枚	一、000、000.00（弗價）	九月十八日桑港發天洋丸積出
〃	毛布	100、000枚	〃	〃
米國赤十字社タコマ支部	白木綿	七函	—	九月七日シアトル發馬尼剌丸積出
〃	米	三三袋	—	〃
〃	米	七、000俵	四二、000.00（弗價）	九月廿四日桑港發ヘプロン號積出
〃	古着	三函	—	九月廿九日桑港發美津丸積出
〃	鮭鑵詰	100ケース	六00.00（弗）	〃
〃	鮪鑵詰	100ケース	四00.00（弗）	十月三日サンペドロ發タコマ丸積出
〃	衣類	二包	三00.00	〃
〃	雜貨袋及古着類	二六個	一、000.00	〃
		計	三一、九三三・一七	

2、北米合衆國赤十字社

〃	米	一、000俵	10、000.00（弗價）	九月六日桑港發プレシデントダフト號積出
〃	米	八俵、六六袋	七二、八0弗二九（弗價）	九月十九日桑港發ザエガ號積載
〃	砂糖	六噸	〃	〃
〃	燒豆	五0噸	〃	〃
〃	ニベホレーテツトミルク	一三噸	〃	〃
〃	麥粉	七六噸	〃	〃
〃	挽木材	一三噸	〃	〃
〃	石鹼	一0噸	〃	〃
〃	銅鐵材	四六噸	〃	〃
〃	下着	三三、000枚	一、000、000.00（弗價）	九月十八日桑港發天洋丸積出
〃	毛布	100、000枚	〃	〃
米國赤十字社タコマ支部	白木綿	七函	—	九月七日シアトル發馬尼剌丸積出
〃	米	三三袋	—	〃
〃	鮭	一、000函	七、000.00	九月廿一日シアトル發ベルフアスト號積出
〃	敎恤用具各一具	—	九、三三0.00	九月廿三日シアトル發プレシデントジエツファーソン號積出
〃	鮭鑵詰	四、000函	一七、六00.00	十月一日シアトル發ウエストヘンショウ號積出
〃	屋根板	三、000、000枚	—	〃
〃	木材	三、000、000呎	二0、000.00（弗）	〃
〃	鐵類	一五0噸	三0、000.00（弗）	〃
〃	釘	五0噸	三00.00（弗）	〃
〃	亞鉛板	二、三三東	—	〃
〃	木材	四、五00、000枚	二五、000.00（弗）	九月廿二日ポーランド發デユイー號積出
〃	鐵板	六三0東	七、三00.00（弗）	九月廿九日シアトル發博多丸積出
〃	釘	一一函	〃	〃
〃	下着	七包	—	〃
〃	靴	四函	—	〃
ワシントン州ワッワル市寄贈	麥粉	三五噸	二、三五0.00（弗）	十月九日シアトル發ベアポート號積出
シアトル十日會ノ斡旋ニ依リワケナトラムバー及マアチアスミル兩會社寄贈	松板小角材	三五、000呎	二六、000.00（弗）	十月三日桑港發カペラ號積出
	鮭	三、九四九樽	〃	〃
	米	七、10八、一四四磅	—	〃
	屋根板	一三、六三0磅	—	〃
	醫術用綿	八0、一三五磅	—	〃
	麥	一七、七三0磅	—	〃
	鮭鑵詰	一四八函	四、三五0.00	十月十四日シアトル發布哇丸積出

米國赤十字社タコマ支部	鮭	一、000函	七、000.00（弗）	九月廿一日シアトル發ベルフアスト號積出
〃	敎恤用具各一具	—	九、三三0.00	九月廿三日シアトル發プレシデントジエツファーソン號積出
〃	鮭鑵詰	四、000函	一七、六00.00	十月一日シアトル發ウエストヘンショウ號積出
〃	屋根板	三、000、000枚	—	〃
〃	木材	三、000、000呎	二0、000.00（弗）	〃
〃	鐵類	一五0噸	三0、000.00（弗）	〃
〃	釘	五0噸	三00.00（弗）	〃
〃	亞鉛板	二、三三東	—	〃
〃	木材	四、五00、000枚	二五、000.00（弗）	九月廿二日ポーランド發デユイー號積出
〃	鐵板	六三0東	七、三00.00（弗）	九月廿九日シアトル發博多丸積出
〃	釘	一一函	〃	〃
〃	下着	七包	—	〃
〃	靴	四函	—	〃
ワシントン州ワッワル市寄贈	麥粉	三五噸	二、三五0.00（弗）	十月九日シアトル發ベアポート號積出
シアトル十日會ノ斡旋ニ依リワケナトラムバー及マアチアスミル兩會社寄贈	松板小角材	三五、000呎	二六、000.00（弗）	十月三日桑港發カペラ號積出
	鮭	三、九四九樽	〃	〃
	米	七、10八、一四四磅	—	〃
	屋根板	一三、六三0磅	—	〃
	醫術用綿	八0、一三五磅	—	〃
	麥	一七、七三0磅	—	〃
	鮭鑵詰	一四八函	四、三五0.00	十月十四日シアトル發布哇丸積出
	靴	二七九函	—	十月三日桑港發カペラ號積出
シアトル十日會の斡旋に依りワケナトラムバー及マアチアスミル兩會社寄贈	寒暖計	一函	—	〃
	下着	一、八00包	—	〃
	〃	一六袋	—	〃
	墜パン	九二、三六六磅	—	〃
	燕麥麩米	七五、七三五磅	—	〃
	靴下	一六包	—	〃
	〃	二包	—	〃
	外科用衣	三三袋	—	〃
	圓形スープ	三一0封度	—	〃
	靴下	二六包	—	十月九日シアトル發博多丸積出
	麥粉	二、000袋	—	〃
	材木	四、三三五、0九七呎	九六、0九0.00	十月七日ポートランド發デューウエイ號積出
	病院用材木レデーメード家屋五棟分	一二九、三三0呎	一三、五00.00（弗）	〃
	同附屬室	三三、二三一磅	—	〃
	煖爐及附屬品	一五個	二三九・五七	〃
	釘	九四0函	四、三三三・00	〃
	屋根葺用鉄（波形平形）	一六八噸	二四、八五0.00（弗）	〃
	バシフイツク、コースト、シルデツト、ホウキート商會	ビスケット	三000函	一、九三三・00	〃
	〃	鮭鑵詰	一四八函	四、三五0.00	十月十四日シアトル發布哇丸積出

パシフイツク、コースト、シルヂツト、ホウキート商會	毛布	一六箇	七、三〇〇、〇〇	十月十四日シアトル發布哇丸積出		
〃	肌着	男六函				
〃	〃	三二箇	—	〃		
〃	醫療用品	二函八函	—	〃		
〃	消毒用石灰	一、二四〇俵	—	〃		
〃	綿織物	二八函	—	〃		
〃	防水屋根紙	一、四二五卷	—	〃		
シアトル十日會ノ幹旋ニ依リウイリアムランバーミル會社寄贈	木材	六七、〇〇〇呎	—	十月十五日シアトル發カイキユー丸積出		
シアトル十日會ノ幹旋ニ依リヌチムソンミルコムパニー寄贈	松板	一〇〇、〇〇〇呎	—	十月十六日シアトル發評岡丸積出		
〃	鹽鮭	三〇バーシル	—	十一月八日シアトル發ウエスチンソン號積出		
〃	醫料用品	二六函	二、六〇〇、〇〇弗	十一月十五日シアトル發セイルスタット號積出		
〃	下着	九三函	—	〃		
〃	毛布	三、〇六三袋	—	十一月七日桑港發[已]洋丸積出		
〃	パケツ	六三〇函	—	〃		
〃	エナメル器具	五〇四函	—	〃		
〃	衣類	四三函	—	〃		
〃	藥品	一三〇函	—	〃		
〃	慰問袋	一函	—	〃		
〃	剃刀	一〇函	—	〃		
〃	繃帶木綿	一函	—	〃		
〃	靴	二函	—	〃		

桑港支部家具類　一二、五四七、〇〇　十一月二十六日桑港發樂洋丸積出

〃	靴	二五、八六二、〇	〃		
〃	衣類	一七、三五〇、〇〇	〃		
〃	〃	三、〇一三、〇〇	十二月一日桑港發天洋丸積出		
〃	醫藥品衣類及其他	八〇〇噸	—	十二月二十日シアトル發スチコーアート ダラー積出	
〃	〃	二〇噸	—	十一月二十八日シアトル發エル、ドリツヂ號積出	
シアトル十日會ノ幹旋ニ依リウイリアムランバーミル會社寄贈	木材	一、〇〇〇噸	—	十一月三十日シアトル發ウエスト、ヒムラド號積出	
〃	〃	一、〇〇〇噸	—	十二月三十日シアトル發セント、ダンスタン號積出	
〃	衣類其他	一、三〇〇噸	—	一月七日シアトル發パーマ丸積出	
〃	〃	一、二二三噸	—	〃	
〃	木材	四八噸	—	〃	
〃	剃刀	一〇函	—	桑港發[已]洋丸積出	
〃	双物	一〇函	—	〃	
〃	外科用衣	五函	—	〃	
〃	繃帶	一函	—	〃	
〃	靴	二函	—	〃	
〃	下着	二函	—	〃	
〃	藥種	二〇函	—	〃	
〃	毛布	三、九九二包	—	〃	

（參考）米國赤十字社より發送したる救護用物資總料

（十二年十月米國赤十字社發表）

一一、〇〇〇、〇〇〇呎

木材

屋根板　五、〇〇〇、〇〇〇個
毛布　三〇二、〇〇〇枚
靴下　二四〇、〇〇〇足
大人用下着　三五〇、〇〇〇着
小人用下着　一〇〇、〇〇〇着
小供服　一〇〇、〇〇〇着
婦人靴下　一〇〇、〇〇〇着
「シヨール」　一〇〇、〇〇〇足
背廣服　五〇、〇〇〇着
外套　五〇、〇〇〇着
襦衣　一〇〇、〇〇〇着
カラー　五〇〇、〇〇〇個
帽子　一〇〇、〇〇〇個
オーバーオール　五〇、〇〇〇着
スエーター　五〇、〇〇〇着
綿フランネル　三〇〇、〇〇〇碼
蒲團用綿　五一五、〇〇〇砂
エナメル器具　三〇〇、〇〇〇個
靴　〇〇、〇〇〇足
安全剃刀　三〇、〇〇〇挺

尙右の外、太平洋沿岸諸港より食料品數千函。

貨車三十萬臺の醫療用諸器（價格三十萬弗）送付の途に在り。

3、米國赤細亞艦隊及其幹旋に依る寄贈品

發航地及發送月日	船名	搭載物件	
橫濱着	鐵船	物	
定	ブラツクホーク	青島 品川	テント用材　二八本　米　二八一、〇〇〇斤
〃	〃	大豆	三三、〇〇〇斤　砂糖　九、三〇〇斤

ブラツクホーク	青島 品川 九、一〇	麥粉	一三〇、〇〇〇斤	味噌　一六、〇〇〇斤
〃	〃	醬油	二九、〇〇〇斤	牛乳　三五〇函
〃	〃	豐	一八、〇〇〇斤	牛肉罐詰　三、〇〇〇斤
〃	〃	豚肉	一、〇〇〇斤	鮪罐詰　一、〇〇〇斤
〃	〃	生牛肉	三、〇〇〇斤	卵　四〇、〇〇〇個
〃	〃	馬鈴薯	三一、〇〇〇斤	林檎　三〇、〇〇〇斤
〃	〃	ガソリン	三、〇〇〇	莚　三一、〇〇〇枚
〃	〃	ガソリン	二、六五〇個	木材（六角）　三〇〇本
〃	〃	村木	一、二五三枚	
ビターン	天津 九、二	軍醫官一、陸軍看護部員二、赤十字醫員一、天幕一六三、スウエター八五〇、毛布三二六、其他雜療材料		
ウエストオロワ	神戸 九、九	ガソリン　二、五〇〇函　モビール　二七「ドラム」		
シンミン	上海 九、八	モビール一七二「バーレル」フオート　シヤシー三		
ブレジデントクラインド	香港 九、七	牛乳　一、〇〇〇函　オートミル　四〇函		
ピコス	馬尼羅 九、五	コーンビーフ　二〇函		
メリツ	馬尼羅 九、一〇	（フオード貨物自動車一二、（フローズンミート八（萬斤）		
フインチ	漢口 九、一九	食糧品　一、〇〇〇噸　醫療材料、建築材料　二〇〇噸		
アバレン	〃 九、一九	木材　二、〇〇〇枚　ガーゼ　一英卷		
シエテル	長崎 不明	二五〇袋　陸軍軍醫部員		
アラバスラーガ	曳船 九、二六	米		
		比律賓赤十字醫員及看護婦　六名、食糧品　六〇〇噸		
		醫療材料　一五〇噸		
		テント用材　七六〇束　乾食糧木材　一五五個		
		醫療材料		
		自動車　二臺　自動車車體　五臺		

スラーガ	ガソリン	九九九函	ガソリン二、九三二函（有償）	
〃	精製魚油	三、〇〇〇函	米國陸軍、米國海軍、比島總督、米國赤十字社馬尼刺支部總計三、〇〇〇噸寄贈	九月十日マニラ發九月十七日横濱着メイゲス號
〃	生肉	二組	〃	
〃	假設病院	〃	〃	
〃	自動車	不明	〃	
〃	運搬車	〃	〃	
〃	寢具	三〇、〇〇〇着	〃	
〃	軍用事業服	三〇、〇〇〇個	〃	
〃	帽子	三四、〇〇〇枚	〃	
〃	シャツ	一〇、〇〇〇枚	〃	
〃	合羽	三五、〇〇〇枚	〃	
〃	毛織カーキシャツ	一一、〇〇〇枚	〃	
〃	毛布	六五、〇〇〇呎	〃	
〃	材木	不明	〃	
〃	病院用具	四六、三二〇袋	〃	
〃	建築材料	一、〇〇〇袋	〃	
〃	米	四、五〇〇函	〃	
〃	麥粉	一、〇〇〇函	〃	
〃	鰯			
〃	鹽漬鰯（乾）			

自動車二四臺米國「スペリー」商會より米國亞細亞艦隊の斡旋に依り海軍省を經て帝國政府へ寄贈方申出あり、内七臺は受領濟。

4、北米合衆國陸軍省

寄贈者名	品名	數量	備考
米國陸軍省	米	五、〇〇〇俵	一
〃	醫藥品及醫療器械類	九九九函	ガソリン二、九三二函（有償）
〃	天幕及附屬品	三、〇〇〇噸 五、〇〇〇個	米國陸軍、米國海軍、比島總督、米國赤十字社馬尼刺支部總計三、〇〇〇噸寄贈

5、シアトル商業會議所

シアトル商業會議所	麥粉	二〇〇噸	九月六日シアトル發テンダラス號積出
〃	ミルク	一、〇〇〇函	〃
〃	鮭繊詰	五〇〇函	〃
〃	天幕用布	一、〇〇〇枚	〃
〃	堅パン	四〇〇噸	〃
〃	衣料	五、五〇〇人分	〃

6、ボストンクリスチヤン、ザイエレス教會

食器類		一五、五〇〇・〇〇弗價	九月二十三日シアトル發プレシデントジエツフアーソン號積出
綿毛布		〃	
フランネル		〃	
天幕用布		〃	
上衣		〃	
食糧品		〃	
組立小屋	五個	七、五〇〇・〇〇弗價	十月十四日シアトル發布哇丸積出
建築材料		一一、四四二・〇〇	十一月七日桑港發巴洋丸積立
毛布衣類		一三、三九二・〇〇	
移動家屋	三四噸	七、四一〇弗	一月七日シアトル發バーマ丸
	計	四七、八三四・〇〇	

7、救世軍

米國救世軍	衣類及雜貨	一七噸 一〇、〇〇〇・〇〇弗價	九月十八日桑港發天洋丸積出
〃	衣類	三一函	九月廿九日桑港發三津丸積出
〃	毛布	七〇、〇〇〇・〇〇	
桑港支部	タイプライター	七臺 一、〇〇〇・〇〇	
〃	衣類	二七俵	十一月二日横濱入港美津丸積載
救世軍紐育支部	〃	五函	
救世軍桑港支部	石鹸	二五〇函	十月二十二日桑港發四比亞丸積出
〃	自動車	一臺 一〇、〇〇〇・〇〇	十一月七日桑港發巴洋丸積出
救世軍ボス	衣類	四個	十一月廿九日晩香坡發エンプレスオヴエインレア號積出
トン支部	衣類	五八六包	十月十六日ホノルン發春洋丸積出
		四函	
桑港日本人部	衣類	七、五〇〇弗	十一月二十六日桑港發洋丸積出
〃	食料品	一、〇〇〇弗	
〃	自動車トラック及附屬品	三臺 三、〇〇〇弗	

8、其他

シアトル市ランクストーヴ會社	料理用ストーヴ	二臺 二、二〇〇・〇〇	九月廿三日シアトル發プレシデントジエファーソン號積出、東京横濱兩市へ各一臺寄贈
夕刊ポートランド、テレグラム紙主催活動寫眞會にてポートランド市兒童寄附	諸種罐詰	一六函 七〇・〇〇	十月四日ポートランド發東光丸積出
ポートランド市アトキンソン小學校兒童寄贈	〃	六函 三〇・〇〇	
ポートランド米國婦人	〃	一個 五・〇〇	

ドクラスフアー、エキスプロイテーション、アンド、エキスポートコムパニー（一月二十三日タコマ發甲南丸積出）

木村	材	二、四九五、六六五呎	五〇、〇〇〇・〇〇弗
グレイス、ハーバーエキスポートコムパニー	木材	六四七、七二三呎	一三、四五〇、〇〇
紐育市ホッチキフ總（古着 三函 〃 〃 一二袋			十一月十四日紐育發アラスカ丸積出
プリンストン女學校アンナ、ドレイフエス總	古着	一函	十二月十四日紐育發南貫丸積出

9、北米合衆國赤十字社布哇支部

	衣類下着	五噸	九月三十日横濱入港天洋丸積載
	衣類	五八六包	十月十六日ホノルン發春洋丸積出
		四函	

10、布哇在留民

ホノルン母國震災救援會	新舊被服、下着毛布類	四二八包	九月十二日ホノルン發プレシデントタフト號積出
ホノルン日進宗締人會	救恤品	一六六包	
ホノルン母國震災救援會	衣服下着	一、八一五包	天洋丸積出

11、比律賓諸島

マニラ領事館管内

サンホアンガカトリツク教會	醫藥品	一函 三〇〇（安藤丸積載十月八日マニラ發同十七日神戸着）	
グアム島在留邦人	小麥粉	一〇三袋	十月十四日横濱着大洋丸積載
〃	米	七九袋	日本赤十字社へ寄贈
〃	砂糖	一〇袋	
〃	鮭繊詰	三一函	

グアム島在留邦人	煉乳	三〇函	日本赤十字社へ寄贈		
〃	鰯缶詰	五函	〃		
〃	ビスケット	二七函	〃		
〃	コーンビーフ	一五函	〃		
〃	細個純	一〇函	〃		
〃	バター	二函	〃		
	計	三七八九ケ			

南洋方

黒馬日本人會	砂糖	三四五袋	九月十日カリヤオ發		
〃	衣	一五打	靜洋丸積出		
サンパウロ、パラナミナス、ザュラス、ゴオヤ、スマトクラソ在留邦人					
〃	毛布	六、二〇〇枚	十月十日サレトス發		
〃	〃（大）	三、三〇〇枚	二六、六〇〇円	シアトル丸積出	
〃	毛布（小）	二、四〇〇枚		マーク丸積出	
サンボーロ在留邦人及外人					
〃	毛布	一三、〇〇〇枚	二四七、三〇〇シルバーイス	十一月廿七日サント	
				ラ發メキシコ丸積出	

支那

北京

寄贈者名	品目	數量	價格	備考
ロックフエラー醫學校	食糧品及衛生材料		二八、〇〇〇・〇〇円	帝大醫學部へ寄贈九月廿七日天津發相模丸
張懷芝	ビスケット	一、〇〇〇函	一〇、〇〇〇・〇〇	
〃	牛肉罐詰	三〇函	日本赤十字社へ寄贈	
〃	煉乳	五函	〃	
〃	鰯罐詰	二七函	〃	
〃	ビスケット	一五函	〃	
〃	コーンビーフ	一〇函	〃	
〃	細個純	二函	〃	
〃	バター	二函	〃	
	計	三七八九ケ		
張懷芝	牛肉罐詰	三〇函	損傷あり發送見合	
世界紅卍學會	米	二、〇〇〇石	三二、〇〇〇・〇〇	一石十六圓と假算す
中華總會				
日災共濟會	綿地木綿	七、〇〇〇枚	七、〇〇〇・〇〇円	一反一・二五と概算す
	計		七七、〇〇〇・〇〇	（牛肉罐詰を含まず）

上海

支那人及白人	白米	一〇、〇〇〇擔	九、六〇〇・〇〇円	九月八日上海出帆靜銘號約六百石、一石十六圓と假算
〃	麥粉	三〇、〇〇〇包	四〇、〇〇〇・〇〇	〃 靜銘號
母國災害救濟義捐金募集委員	毛布	四〇、〇〇〇枚	七二、〇〇〇・〇〇	九月廿二日出帆日光丸
怡和洋行	毛布	二、〇〇〇枚	二、八〇〇・〇〇	
上海婦人會	〃	二、〇〇〇枚	四、二〇〇・〇〇	
上海醫師會	ミルク	二〇〇打	二、七〇〇・〇〇円	
邁州震災救濟會	豆	二、〇〇〇包	七、〇〇〇・〇〇弗	
內外人慈善會	晶		一、二〇〇・〇〇	
計			二四二、二〇〇・〇〇（四、弗「ハー」ノ概算）	

天津

母國震災慰問會	馬鈴薯	二六二袋	一、二四二・二〇弗	九月九日天津發大智丸積兵庫縣知事經由事務局宛
〃	玉葱	六三袋	一、六二三・八〇	
〃	アンペラ	二、〇〇〇枚	一、二〇〇・〇〇	
〃	砂糖	二〇〇俵	五九四・八〇	
〃	紙	五俵	四三〇・〇〇	
〃	蠟燭	三五〇函	一、〇五〇・〇〇	
〃	ミルク	二五〇打	一、一〇一・八〇	

漢口

親交倶樂部（土着在留民）	衣類	四、〇〇〇點	二、二九八・八〇
	計		二、二九八・八〇

南濟

母國災害救濟會	衣類雜品	二三函	四九四・六二円	九月十七日發送
〃	慰問袋	二、〇一四・五〇	四二函	計 七、三〇九・一二

芝罘

在留邦人	衣服類	一六六點	一一一・七〇円

青島

在留邦人	食料品	一四、〇〇〇・〇〇	九月二十六日發送
	累計	三二六、九四九・四七円	張懷芝の鑵詰を含まず使用先指定のもの
			二八、二六〇・〇〇
	内	一七八、九八九・四七	邦人
	〃	六二、一六〇・〇〇	支那人
	〃	二八、〇〇〇・〇〇	外人
	〃	五七、八〇〇・〇〇	雜

關東廳滿鐵經由の部

ハルピン

露國赤十字社・日本震災國際救護會露西亞部	衣類	六函	五〇〇・〇〇円
	木材		一、〇〇〇・〇〇
	計		一、五〇〇・〇〇

奉天

在留邦人	白米		一、六二九・〇〇円
〃	醬油		一二二・〇〇
〃	衣類		三八八・〇〇
〃	毛布		三〇〇・〇〇
〃	煙草		一二〇・〇〇
〃	雜品		二〇〇・〇〇

在留邦人	慰問袋		二、一四四・四〇
張作霖	生牛	一〇〇頭	一〇、〇〇〇・〇〇
東三省	白米	三、三四五石	一三三、二四一・五〇
〃	麻袋	六、三九〇枚	三、一八六・七〇
〃	麥粉	二〇、〇〇〇袋	一〇四、〇〇〇・〇〇
〃	毛布	八、〇〇〇枚	一三二、〇〇〇・〇〇
〃	綿布	四、四〇〇匹	六五、九四〇・〇〇
〃	食麵麭	一二、八六八斤	三、三四五・六八
〃	粗布	二、一〇〇匹	三六、七五〇・〇〇
〃	木箱其他	一三五個	一、五三六・一二
	計		五一四、八九三・四〇

九月八日より十月三日に亘り大連向發送

吉林

在留邦人	木材	二、五〇〇坪	一、〇〇〇・〇〇円

九月十一日大連向發送

牛莊

在留邦人	メリケン粉	三〇〇袋	一、一七七・〇〇円
〃	支那米	六〇石	一、二六〇・〇〇
〃	衣服類	二七函	一、二七六・〇〇
〃	慰問袋	一、二七六個	一、二七六・〇〇
	計		六、四一三・〇〇

一函百圓と假算
一個一圓と假算

鐵嶺

在留邦人	衣服類	一〇、五七三點	六、六五一・二七円
〃	麥粉	一〇〇袋	三九〇・〇〇
〃	精米	五俵	四八・〇〇
	計		七、〇八九・二七

長春

附屬地商務會	麥粉	一、三三〇袋	五、〇〇〇・〇〇円

九月十七日大連向發送

城内總商會	麥粉	二、〇〇〇俵	八、〇〇〇・〇〇
	計		一三、〇〇〇・〇〇

九月十七日大連向發送

鄭家屯

婦人有志	衣類	一三六點	四〇八・〇〇円
	累計	五四四、三〇三・六七	
	内	一九、八〇三・六七	邦人
		三三三、〇〇〇・〇〇	支那人
		一、五〇〇・〇〇	外人
	合計	八七一、二三三・一四	
	内	一九八、七九三・一四	邦人
		三八五、一六〇・〇〇	支那人
		二九、五〇〇・〇〇	外人
		五七、八〇〇・〇〇	雜

一點三圓と假算

英國本國及其領土

1、英國本土

寄贈者名	品目	數量	價格	備考
英國政府	米	一〇〇噸	磅	九月十日横濱着、ホーキンス號積載
〃	藥品	多量	未詳	〃
倫敦ハントレイアンドバーマース商會	ビスケット	一〇、〇〇〇包	二〇〇	神戸シングルトンベンダ商會氣付發送
倫敦メリンス、フート會社	メリンス、フート	—	五〇〇	十一月二十四日倫敦發伏見丸積載
倫敦レリースサプライ、コムミフライ	drnmsjinfotant	一五〇個	—	十月十三日倫敦發鹿島丸積載
〃	ポートワイン	五〇函	—	〃

倫敦レリースサツプライ・コムミフライ	布地毛布其他	一二包	—
〃	ココア	二〇〇袋	—
〃	drnmsjiginfoo tant	一〇〇個	—
〃	外科用繃帶	一函	—
〃	毛布及衣服	九包	—
〃	ミルク	二一函	—
〃	モルテツド、ミルク	四一函	—
〃	ココア	七〇函	—
〃	下着	一函	二、七九五磅
〃	毛布及布地	九包	—
〃	drnmgdiginfoo fant	八〇個	—
〃	ココア	五〇函	—
〃	綿	五包	—
〃	毛布及其他	三二包	—
〃	毛布、綿フランネル、裏地其他	一八包	—
〃	下着	四函	—
〃	ココア	一函	—
〃	消毒劑	一函	—
〃	毛布	一〇、〇〇〇枚	一、〇〇〇
倫敦市	小兒用スエーター	一、〇〇〇打	一、五〇〇
〃	〃	二、七八〇枚	三四六
〃	毛布	一三、三〇〇枚	三、九九〇

十月十三日倫敦發鹿島丸積載
熱田丸積載（九月二十九日倫敦發十一月十四日神戸着
〃
〃
〃
〃
〃
十月二十七日倫敦發箱根丸積載
〃
〃
〃
十一月十日倫敦發諏訪丸積載
〃
〃
〃
十一月二十四日倫敦發伏見丸積載
〃
十一月二十四日倫敦發伏見丸積載
十二月十五日倫敦發箱崎丸積載

レリースサプライコムミティ	締切後受付けたる分	衣服及毛布	二包 一函	一月十九日倫敦發機名丸積載
〃		チョコレート		

2、濠洲

濠洲政府		食糧及衣類	七、四二五砂	九月十五日シドニー發アウストラルマウント號安藝丸積載
〃		ジャム	一、三六七函	〃
〃		純粉	二、三五袋	〃
〃		肌着	八〇枚	〃
〃		jerseys	五〇〇枚	〃
〃		khaki shirts	四、五〇〇枚	〃
〃		drill jackets	二、四〇〇枚	〃
〃		trousers (khaki)	一、四〇〇枚	〃
〃		dungaree (trovers)	三、六〇〇着	〃
〃		singlets	八、〇〇〇着	〃
〃		ミセス、エル、イーベツケミス、ベック	二包	〃
〃		エフ、ダー、フォーカー會社	一〇六砂	クラケネス號積載
シドニー、マルタ、ホーイ商會シドニー商業會議所		:pioed mutton	約二、〇〇〇	九六足
		フランネル	(三、四二九碼半)	未詳
		毛布其他	—	セント、アルバン號積載

3、海峽植民地

海峽殖民地政府		藥品及ミルク	—	—
〃		衛生材料及看護婦	—	—

4、南阿聯邦

南阿聯邦政府		毛布	三、〇〇〇枚	一月十九日倫敦發機名丸積載

5、英領加奈陀

加奈陀政府の部

罐詰ミルク		一〇四、三三個	三、〇〇〇、〇〇弗	九月六日晩香坡發、エンプレス、オヴ、ルシア號にて積出
粉ミルク		一、二九〇〃	〃	〃
鮭罐詰		一天九、六八〇〃	〃	〃
麥粉(四九斤入)		七、四〇〇袋	一七、三五三、三〇〇弗	〃
		一、四〇〇〃	〃	〃
木材		二、一八、六四四呎		十一月九日ヴイクトリア發キヤナダヤン、トランスポーター號にて積出
毛布		一、四〇〇枚		〃

BC州政府の部

木材		一天八、六三呎	二、八〇〇、〇〇弗	九月二十二日プリンス、ルパート發カナデヤン、スカーミツシヤー號にて積出
木材		一、九六一、四一六板尺	三、八三〇、〇〇	木材運賃二二、八九三弗十一月九日ヴイクトリヤ發キヤナダヤントランスポーター號にて積出

ケープダウンロツクランド高等女學校		衣類	二包	一月廿日頃ケープ發神奈川丸

英領印度の部

在印一邦人		白地薄ネル	六匹	—
在キダホール在留一邦人		衣類及雜品	三五〇	九月二十日カルカツタ發秋田丸積載
〃		靴下	二打	十一月八日カルカツタ發河內丸積載
〃		足袋	一〇足	
シキム蕃邦政府		絹紗	二〇〇碼(三函)	十二月三十一日カルカツタ發山形丸積載

加奈陀政府の部

罐詰ミルク		一〇四、三三個	三、〇〇〇、〇〇弗	九月六日晩香坡發、エンプレス、オヴ、ルシア號にて積出
粉ミルク		一、二九〇〃	〃	〃
鮭罐詰		一天九、六八〇〃	〃	〃
麥粉(四九斤入)		七、四〇〇袋	一七、三五三、三〇〇弗	〃
		一、四〇〇〃	〃	〃
木材		二、一八、六四四呎		十一月九日ヴイクトリア發キヤナダヤン、トランスポーター號にて積出
毛布		一、四〇〇枚		〃

BC州政府の部

木材		一天八、六三呎	二、八〇〇、〇〇弗	九月二十二日プリンス、ルパート發カナデヤン、スカーミツシヤー號にて積出
木材		一、九六一、四一六板尺	三、八三〇、〇〇	木材運賃二二、八九三弗十一月九日ヴイクトリヤ發キヤナダヤントランスポーター號にて積出

蒙根板		二、八四〇束	三、七四四、〇〇	木村運賃二二、八九三弗十一月九日ヴイクトリヤ發キヤナダヤントランスポーター號にて積出
釘		二、三〇〇砂	三一〇、〇〇	〃
計			三九、六四四、〇〇	

加奈陀赤十字社の部

罐詰ミルク		二四、〇〇〇個	三、三〇〇、〇〇弗	九月六日晩香坡エンプレスオヴルシア號積載
粉ミルク		一〇〇ポンド	〃	〃
パジヤマ		三、六兩	一、二五〇、〇〇	九月十四日晩香坡エルドリツヂ號積出
靴下		三〇〇足	三五二、〇〇	〃
罐詰ミルク		三、八個	三五、〇〇	〃
衣類其他		一、三〇〇點		
清零劑		一個		
衣類毛布		二、四二三點	三六、四二五	十月十一日晩香坡發エンプレスオヴオーストラリヤ號積出日本赤十字社宛
毛布		三〇〇枚	二、六五〇、〇〇	十月四日晩香坡發エンプレスオヴエイシア號積出日本赤十字社宛
鮭罐詰(十斤入)		二、六五〇個		
麥粉(四九斤入)		三〇〇袋	一、二五〇、〇〇	十月十八日晩香坡發エンプレス、オヴ、カナダ號積出日本赤十字社宛
毛布(二枚續き)		八〇枚	三、〇〇〇、〇〇	十一月一日晩香坡發エンプレス、オヴ、ルシア號積出日本赤十字社宛
フランネル		一〇卷ボルツ	一四四、三五	〃右船積出東京基督教青年會宛
屋根葺用材料		二、〇〇〇巻	七、一〇八、三五	十一月九日ヴイクトリア發キヤナデヤントランスポーター號にて積出
屋根葺用材		二、〇〇〇包(九〇噸)	七、〇三七弗	九月廿六日晩香坡發富山丸積出
プランケット		一三包	一、四二五弗	十二月十日晩香坡發富山丸積載
ミルク		七五函	一、四二五弗	十二月二十七日晩香坡發エムプレス、オヴ、ロシア號東京基督教青年會宛

其他の部

ミルク		七五函	一、四二五弗	十二月二十七日晩香坡發エムプレス、オヴ、ルシア號東京基督教女子青年會宛
フランネル		二包	三、〇三二、三二弗	
フランネル婦人用コート針及糸		二ノ		
綿フランネル、アーミーフランネル		三包	七九五、八〇	一月十七日晩香坡發常磐丸積出日本赤十字社宛
其他衣類				
計			三二、四八二、〇三	

在留民の部

バンクーバー日本人會		麥粉(九八斤入)	一、〇〇〇袋	九月六日晩香坡發エンプレス、オヴ、ルシア號積出
米本與吉外邦人十名		鮭罐詰	二、〇〇〇、〇〇弗	
入野忠兵衛外四名		鮭罐詰	三、七四四個	九月廿六日晩香坡發富山丸積出
晩香坡日本婦人會		鮭罐詰	四八〇〇個	三五〇、〇〇
〃		毛布及蒲團	三函	〃
〃		下着シヤツ	一〇函	〃
〃		洋服オーバーコート	二〇函	〃
〃		石鹸	三函	〃
〃		靴	三函	〃
〃		足袋及靴下	一函	〃
〃		毛糸スエータ類	三函	〃
〃		タオル切地	三函	〃
〃		子供用帽子	一函	〃
〃		日本着物	六函	〃
〃		鮭罐詰	一函	〃
〃		オーシヤン、フアルス日本婦人會	衣類シヤツ	四二枚

晩香坡同胞婦人團	新古衣類	二、四五五點		十月四日晩香坡發エンプレス、オヴ、エイシア號積出
晩香坡日本人會主宰震災救濟會	ストローベリージャム（四斤入）	四三〇個	三五〇・〇〇	十月十二日ヴイクトリア發布哇丸積出
是永蓉吉外十名	鹽鮭	二〇〇尾	四、〇〇〇・〇〇	九月二十二日ブリンスルパート發カナデヤンスカーミシヤー號積出
ブリンスルパート日本人會	鮭鑵詰	一六、八〇〇個	一、三〇〇・〇〇	十一月二十九日晩香坡發、エンプレス、オヴ、エイシア號積出
加奈陀佛敎處女會	衣類ネル單衣 同ネル襯衿	四五枚 四三枚	一三〇・〇〇	

前項以外の部

アイ、ジー、フアーリー市	鐵形テント	一組	八〇〇・〇〇	九月六日晩香坡發富山丸積出
ケンウヤードミルス會社	毛布	一三枚		
ビクトリヤフオード會社	鮭鑵詰	二、四〇〇個	二三〇・〇〇	十月四日晩香坡發エンプレス、オブ、エイシア號積出
ニュー、ウエストミンスター、ハーモンド、セターコムパニー	壁板	三〇、〇〇〇板尺	一、〇〇〇・〇〇	十一月二十八日晩香坡發常磐丸積出
ブリンスルパート市	鮭鑵詰（一人一個入）	四三〇函		九月二十三日ブリンス、ルパート發カナデヤン、スカーミシヤー號積出
〃	〃	八三函	三五〇・〇〇	十月六日晩香坡發フエイター號積出
ウオーカース、ロスインコーポレーテツト	白米	三〇噸	八〇〇・〇〇	九月五日白鹿丸船長に託送
香港	米	三〇〇噸	三、八〇一・七一	九月六日發エムプレス、オヴ、アシヤ號
聯合救濟會	フローズンミルク	八、〇〇〇罐	一八、四一八・四〇	九月七日發プレシデントクラント積
〃	米	一〇〇噸	二一、〇五六・九二	九月八日發カルマラ積出支那罹災者へ
〃	牛肉鑵詰	三三函	三〇〇・〇〇	外人罹災者へ
〃	ビスケット	四八鑵	七二一・八二	〃
〃	生卵	三〇、〇〇〇個	三六八・三二	アラフラ
〃	ビスケット	二〇〇鑵	九六八・〇二	サイベリヤ
〃	毛布	二、〇〇〇枚	二八、六九九・九二	九月二十三日發樺・名丸
〃	天幕	一〇〇個	三、〇〇〇・〇〇	〃
〃	靴下	四〇〇足	一、三三四・〇一	十月一日エムプレス、オヴ、ルシヤ
〃	バラック	四棟	八、六六六・三〇	橫濱市へ寄贈
〃	毛布	二、〇〇〇枚	三、二九六・三一	Tai wayfoon
〃	假小屋	二棟	八、〇〇〇・〇〇	橫濱市へ
〃	木炭	一〇〇包	三三四・〇〇	〃
〃	半毛肌着靴下	三〇〇枚 一、〇〇〇足	四一〇・四一	〃
〃	木綿肌着	三〇〇枚	三二三・三〇	〃
〃	靴	一四〇足	八六六・〇六	〃
〃	產所用具		六二一〇・〇〇	〃
計			一四二、〇四八・四八	

佛國本土及其領土

佛國本土

寄贈者名	品目	數量	價額	備考
在巴里帝國各宮殿下及邦人有志	ネル襯衿	三三枚	未詳	十月二十一日倫敦發鹿島丸積載
巴里新聞組合	兵站病院用具		一式約一〇、〇〇〇・〇〇法	十一月三日馬耳寒より發送

一佛婦人毛布及編物		十數點		
一無名士（小兒救濟の取扱に係るもの）				
フオスフアチーヌ（小兒用食料品）		一函		十二月二十三日馬耳寒發紐崎丸
小兒用毛絲蒲團及其他毛絲製品		一函		事務長託送

佛領印度支那の部

佛國印度支那政府	米	一〇〇噸		コルディレラ號積載
〃	實扶的里亞虎列剌			
〃	窒扶斯	豫防注射	一〇〇、〇〇〇人分	
〃	破傷風			
〃	天然痘			
〃	外科用藥品			
〃	外科用器械			
〃	繃帶			
〃	擔架			

埃太利國

埃國政府	繃帶材料	一〇函		十一月初旬馬耳寒發日本郵船會社船船積載
〃	有毒用具	一式		
〃	消毒藥	若干		
〃	殺菌器械	〃		
〃	手術臺	二臺		
〃	砂子板附	四臺		
〃	浣腸器	二臺		
〃	手術椅子	二脚		
〃	鐵製椅子	二脚		
〃	手術器階段	二個		
第一篇　慮念措置　第七章　救援				

埃國政府	洗濯臺	二臺		十一月初旬馬耳寒發日本郵船會社船積載
〃	大型手術器械	一函		
〃	中型	二函		
〃	小型	六函		
〃	耳鼻咽喉療具	一揃		
〃	齒拔器械	一揃		
〃	眼療具	一揃		
〃	擔架	二五臺		
〃	車	二輛		
〃	外科ナイフ	五〇挺		
〃	ピンセット	五〇個		
〃	外科鋏	五〇個		
〃	野外醫具	六		

伊太利國

伊國赤十字社	防寒具及被服	三〇〇個	一、六四、〇〇〇リラ	十月二十日發Duchessa Aosta號積載
〃	移動家屋	二九噸		十一日二十日發波斯號積載

瑞西國

在ローザンプユーデル未亡人	幷	二枚	天	
〃	足	二袋	二足	
〃	雪駄	三足		
〃	小兒服	一着		

瑞典國

官民委員會　米　穀　二、八六五袋　カントン號積載

和蘭國本土及其領土

和蘭國本土の部

寄贈者名	品目	數量	價格	備考
ロッテルダムカツテンブルク商會	被服	三梱	鳥取丸積載	

蘭領印度の部

スラバヤ在留邦人	毛布	二〇枚	
〃	ネル肌着	一二五枚	
〃	ネル着物	四枚	
〃	ネル襦袢	五枚	
〃	ネル腰巻	二二枚	

外國義捐金

一九二四年四月末現在
外務省通商局調査

國名	金額	國名	金額
	圓		圓
アメリカ合衆國	一、九八〇、三三四、四四	ノルウェー	一、一六九、三四四
內本土	一、一三五、八三一、三〇	スエーデン	三五、九〇六、四四四
領土	八三四、四四一、八四四	スイス	三三、二四四、一三
	〇、四四二、一三	オランダ	三七七、九三二、三三
キューバ	一三九、一八八、九二	內本土	八四、〇一四、九三
メキシコ	一四四、六四三、八	領土	二三三、四四七、四四三
ベルギー	三三四、六九二、二	パナマ	三、九七七、九八
フランス	三一、七八八、三九	ペリユー	一八四、四七、〇六
內本土	一三一、四〇三、八三	チリー	一七、八七七、八四
領土			

餘錄

勞役奉仕として地方より來援したる青年團、在鄉軍人團、消防組其他の內、東京府市受付の分を擧ぐれば左の如し。

應援團體（東京府東京市受付の分）

自九月二日至十一月初旬
同上人員數

道府縣名	應援團體數	同上延人員數
東京府	三〇	七八〇
群馬縣	七〇	二、五〇二。
栃木縣	一八	一、〇一六
千葉縣	四	七二七
福島縣	四	一七七
宮城縣	二五	八五八
岩手縣	九	三一七
秋田縣	一	九

ポリビヤ	一〇、六五二、三九	アルセンチン	五一、三七七、〇一
ブラジル	一一四、〇八四、六四四	イギリス	四、二〇四、〇九、六〇
シヤム	六一、三五二、七七	內本土	二、二三〇、四三〇、四二
シナ	一、九五七、二四二、一六	領土	一、九三四、三六一、一九
露領アジヤ	一〇、三六四、九八	同保護領及租借地	七二、九四四、四八
ラトビヤ	五、八六〇、一六		
ドイツ	一三、八二〇、九八	ルーマニヤ	三五、一三
イタリヤ	四二、四三六、六八	トルコ	一九三、四三
ポルトガル	一、四四二、〇四四	スペイン	三、八四〇、〇〇
ポーランド	三、七六、七六	エヂプト	四、六二五、六六
オーストリヤ	一八六、一三	イラーク	一、四四一、一六
チエツコスロバキヤ	二九、一〇〇、〇〇	總計	三三、三九二、二六四、九九

義捐金

一、金九九二、四三一圓八九〇

內海外分九、六二七圓

東京市扱

寄贈品

東京市扱

企業品名	數量	品名	數量
名	數	鑵詰	二、七八四個 三四六函
味噌	一二、三六七樽 四、五八三貫	茶	二、七〇〇本 一七函
梅干	一、五四二樽 一四貫三函	砂糖	八、五〇〇斤
漬物	二、四〇九樽 一、二五〇貫	鶏卵	三〇、〇〇〇個 四一函
牛肉	三二、〇〇〇斤	ビスケツト	二三三函
豚肉	一一、〇〇〇斤	黍粉	三四九貫、二個
鯖	七〇〇鑵	醬油	七、三七四樽 二八、九七五斤
鰯	一、八〇〇尾	麥麭	三〇〇把、三〇〇貫
鯵	三、〇〇〇尾	乾麵	二二函、四車
鮭	一七、七五〇砂 六二〇貫四八〇〇個	純	二二一函 七二一函
鹽		パン	九一八俵
鮭	二〇〇尾、四〇俵	鰯鹽漬	二俵
煮	一二函	若布	五四個
鯛	一、二六八個	食物	五〇噸
鰯鹽漬	一一二俵	乾魚練詰	一四合、五噸
乾魚	八四〇函	糧	二一種
鰹節	一〇〇貫、五本	日用雜貨類	
鰹佃煮	七四樽	手拭	一、三九二枚 一二四個
給しぐれ煮	四〇函	石鹸	四二四個
葉子	八、八七三個	繪	六一個
併	五七五個、一函	擰	一四〇函
葡萄酒	七〇〇本	蠟燭	一四〇函
澤庵漬	七〇〇樽、六三六本	郵便切手	一、四〇〇枚
平野水	四函	郵便端書	二五〇、〇〇〇枚
ウイスキー	一函	私製端書	九、八〇〇枚
パインアップル	一函	書簡紙	一〇、〇〇〇枚
ミルク	七五九函	紙	一、三〇〇束
ローストビーフ	二、〇〇〇鑵	摸造紙	一包
握り飯	自米六俵分	封筒	一〇、〇〇〇枚
身欠鰊	七〇俵	鉛筆	一、〇〇〇本
豚	八二個	墨汁	一個
鯉	一八五個	手巾	一函

地方寄贈金品

（大正十三年三月三月末日現在）

富山縣	一	牛肉	一八
山形縣	一	豚肉	四〇
佐賀縣	一	鯖	三三
長野縣	一	鰯	六
新潟縣	一	鯵	一二六
岐阜縣	三	鮭	四四三
愛知縣	一	鹽	二四
茨城縣	二	鮭	一五八
埼玉縣	一	煮	一九五
山梨縣	一	鯛	一四一
山口縣	六	鰯鹽漬	三六二
北海道	一	乾魚	三〇
計	一八一	鰹節	八、九五二

牛肉	三二、〇〇〇斤	ビスケツト	二三三函
豚肉	一一、〇〇〇斤	黍粉	三四九貫、二個
鯖	七〇〇鑵	醬油	七、三七四樽 二八、九七五斤
鰯	一、八〇〇尾	麥麭	三〇〇把、三〇〇貫
鯵	三、〇〇〇尾	乾麵	二二函、四車
鮭	一七、七五〇砂 六二〇貫四八〇〇個	純	二二一函 七二一函
鹽		パン	九一八俵
鮭	二〇〇尾、四〇俵	鰯鹽漬	二俵
煮	一二函	若布	五四個
鯛	一、二六八個	食物	五〇噸
鰯鹽漬	一一二俵	乾魚練詰	一四合、五噸
乾魚	八四〇函	糧	二一種
鰹節	一〇〇貫、五本	日用雜貨類	
鰹佃煮	七四樽	手拭	一、三九二枚 一二四個
給しぐれ煮	四〇函	石鹸	四二四個
葉子	八、八七三個	繪	六一個
併	五七五個、一函	擰	一四〇函
葡萄酒	七〇〇本	蠟燭	一四〇函
澤庵漬	七〇〇樽、六三六本	郵便切手	一、四〇〇枚
平野水	四函	郵便端書	二五〇、〇〇〇枚
ウイスキー	一函	私製端書	九、八〇〇枚
パインアップル	一函	書簡紙	一〇、〇〇〇枚
ミルク	七五九函	紙	一、三〇〇束
ローストビーフ	二、〇〇〇鑵	摸造紙	一包
握り飯	自米六俵分	封筒	一〇、〇〇〇枚
身欠鰊	七〇俵	鉛筆	一、〇〇〇本
豚	八二個	墨汁	一個
鯉	一八五個	手巾	一函

塵紙	二、〇〇〇束、一一個
風呂敷	一七〇枚
文具類	九個、六、九二二點
日用雜貨	八五個
蔬菜及果實類	
野菜	八五六貫八〇〇匁 四七九俵
馬鈴薯	二五、〇〇〇磅 四、三一八貫八〇〇匁 二、三〇〇俵
甘藷	四斗五升 五、二三六貫 四二五俵
玉蜀黍	八〇本、三俵
林檎	四、〇〇〇磅
梨	二、〇九五函
南瓜	二、二八九貫三〇〇匁 一、五八五俵
西瓜	七三六貫、七俵
茄子	一二八貫五〇〇匁 二二俵
葱	三七九貫九〇〇匁 三〇三俵
牛蒡	一〇貫
葡萄	一四〇個
バナヽ	三籠
ポンカン	一籠
被服類	
衣服	九五、三八七點 二、一一六個
襦袢	九個(包と函) 一二三、一六三枚
袢天	二包、二六三點
帶	九七函、三九個
子供用マント	二包
腰卷	一〇三筋
腹掛	六枚
胸掛	四枚
コート	一着
反物	一九三反
袴地	四枚
木綿地	一包
被服類	三函、二個
まわし	一九枚、一包
古着	一五〇枚、三函
帽子	一〇三個
工事用品類	
アスファルト	二石入一鑵
タール	
アスファルト	二石入一〇鑵
重油	二、八〇〇ガロン
ガソリン	
穀類	
白米	二八九、八〇〇磅 二一、九四九俵半
玄米	三、七〇〇俵
押麥	八俵
挽麥	二八俵
大豆	二一三、〇〇〇斤 九一俵
煎豆	七俵
蠶豆	一俵半
精麥	二一俵
雜穀	七八俵半
厨具類	
釜	四四個
鍋	六、三四一個、一函
食器	八七一個、七個
バケツ	三一九個、二包
焜爐	一、九〇〇個
飯臺	一個
其他の厨具	三二六個、八個
疲具及敷物類	
蒲團	四五七四枚、四二個
座蒲團	二包、一二枚、四一個
毛布	二〇枚、三個
敷莚	東二〇枚として換算 六一、一六〇枚
蚊帳	九枚
敷物類	三包
綿布類	
手拭地	七七反
袈裟	八三個
晒木綿	五、七〇三反
タオル	一個、一函
履物類	
下駄	一、一〇〇足 一一個
草履	一五〇足、三個
足袋	九〇〇足、三七個
靴下	一二足、二五個
慰問品	
花	一〇包
慰問袋	二、六〇九個 一七、三一六個
供物	一個
木燃料	
薪炭	八俵 三四五五束
コークス	一、〇〇〇俵
コーライト	二二、〇〇〇俵
兒童用品	
玩具給具	一包
玩具	三個
教科書	七八冊、一包
雜品	
腰戸	一個
風呂桶	一個
机	三脚
本函	二個
シャベル	一〇挺
モッコ	二〇枚
擔棒	四〇本
繩	二一〇個
鋸	六一丁
藻屑	一個
古自轉車	三輛
新自轉車	一輛
古撒水車	二輛
雜巾	一〇〇枚
石油炎鑵	八二個
蓆	一包
蓑	五〇枚
函入	一、三六八個
布包	三四三個
樽入	四〇七個
俵物	九六一個
枠〆	一個
茶瓶	二個
籠入	一個
莚包	五俵
衣類家具	一車
荷棚	一七個、一〇五〇點
雜品	三車、一函
財布	一〇七個
教科書雜誌	五七一冊、四個
救恤品	四〇個
紙張	五張

第二篇　善後措置

第一章　統叙

震災が千古稀覯の慘禍たるは事新しく言ふまでもなし、然れども禍福は糾へる繩の如く、轉禍爲福の機自ら其中に存し、帝都改造の期千載に一遇して、殆ど復た得べからざらんとす、帝都百代の大計を定め、帝都を改造して眞に帝都の帝都たるべき規模を有せしめ、帝都の帝都たるべき設備を整へ、帝都の帝都たるべき莊觀と安快とを具へ、以て方に世界に將來しつゝある、都市時代の人類生活に最も恰應適合すべき基礎を立つるは、唯斯時を然りと爲す、畏くも　天皇陛下は、大詔を下して

東京ハ帝國ノ首都ニシテ、政治經濟ノ樞軸トナリ、國民文化ノ源泉トナリテ、民衆一般ノ膽仰スル所ナリ、一朝不慮ノ災害ニ罹リテ、今ヤ其ノ舊形ヲ留メスト雖、依然トシテ我國都タルノ地位ヲ失ハス、是ヲ以テ其ノ善後策ハ、獨リ舊態ヲ回復スルニ止マラス、進ンテ將來ノ發展ヲ圖リ、以テ巷衢ノ面目ヲ新ニセサルヘカラス。

惟フニ我カ忠良ナル國民ハ、義勇奉公、朕ト共ニ其ノ慶ニ賴ラムコトヲ切望スヘシ、之ヲ慮リテ、朕ハ宰臣ニ命シ、速ニ特殊ノ機關ヲ設定シテ、帝都復興ノ事ヲ審議調査セシメ、其ノ成案ハ或ハ之ヲ至高顧問ノ府ニ諮ヒ、或ハ之ヲ立法ノ府ニ詢リ、籌畫經營、萬遺算ナキヲ期セムトス、在朝有司、克ク朕カ心ヲ心トシ、迅ニ災民ノ救護ニ從事シ、嚴ニ流言ヲ禁遏シ、民心ヲ安定シ、一般國民、亦克ク政府ノ施設ヲ翼ケテ、奉公ノ誠悃ヲ致シ、以テ興國ノ基ヲ固ムヘシ。

と宣らせ給ふ、仰で深遠宏大なる聖旨を奉體し、俯して後世兒孫の爲に久永の安泰を計るは、生れて斯日に遭遇する總國民の責務に非ずや、蓋都市時代の都市は、獨都市住民の都市に非ず、亦兼て總國民の都市なればなり。

是に於て乎、政府は、災禍の突發と同時に、難を拯ひ變に備へ、民心の安定を圖り、應急百般の施設を爲すの一面、直に善後の措置を講じ、國家の力を以て帝都を改造して理想的都市ならしめんと期し、帝都復興最高政策を審議決定するため、臨時帝都復興調査會を設け、復興の計畫及執行を掌るため、獨立機關を創し、以て都市の復興計畫並に執行、諸官廳舍の建築、建築監督、土地區劃整理、災民救護及復興財務を處理するの計畫を樹て、經費三十五億圓、國家負擔の原則下に長期公債を發行して之を支辨し、更に理想的規畫を實現するため、一旦罹災地の全土地を買收せんと企圖したりき、又山手郡部に亘つて施設せんと欲したりしなり。然るに議は變じて、諸官廳舍の建築並に各省主司の事業は、各省各其所管を管する事と爲り、特設機關は之を省とせず、復興院として、單に罹災地域の都市計畫都市計畫事業の執行及市街地建築物法施行其他の復興事業を掌るに止む、復興計畫は、是に至りて復興復舊兩事業に分たれたるを見る。

所謂臨時帝都復興調査會は、大正十二年九月十九日、帝都復興審議會として官制の公布となり、即日委員の任命ありて成立し、實施機關たる帝都復興院は、二十七日官制の公布、二十九日總裁副總裁以下の任命を見て、十月三日開院し、十八日には參與評議會員を任命して、

機關幹部の具足を告げ、二十三日院の理事者間に帝都復興計畫の大綱を決定す、即ち地下鐵道及埋設物の根本整理を省き、經費約十三億圓、精しく言へば十二億九千五百圓を以て、

東京復興（十一億九千五百萬圓）。

街路（六億五千萬圓）、橋梁（五千萬圓）、市內河川（六千萬圓）、京濱運河（一千五百萬圓）、港灣（三千五百萬圓）、上水道（五百萬圓）、下水道（一億一千萬圓）、墓苑處分（一千萬圓）、建築助成（六千萬圓）、公園（三千萬圓）、區劃整理（四千萬圓）。

以上事務費三千萬圓。

橫濱復興（二億圓）。

の各事業を擧げんとするものたり、當初の三十五億圓計畫中、諸官廳學校建設及諸官廳直轄事業の復興費二十億圓及地下鐵道建設費二億圓を除きたるものを本計劃と爲す、前者は之を復興事業に讓り、後者は之を異日に期せるなり。

十一月一日、九日兩度參與會を開きて、帝都復興案を討議し、參與會は三種の小委員會を設け、第一小委員會三回、第二小委員會二回、第三小委員會一回會議し、以て攻究補修する所あり、更に十五日、二十一日に於ける評議會に付議し、評議會亦特別委員會三種を設け、第一、第二、第三特別委員會、何れも三回の會議を爲し、審議奏定す、此間計畫を燒跡域內に止めて、七億五千萬圓案を立て、次で豫算の形式を整理して、

帝都復興費	七億二百九十七萬七千九百八十一圓
帝都復興院費	二千八百四十萬圓
帝都復興事業費	五億五千四百五十五萬二千圓
東京復興費	四億八千八百三十七萬圓
街路費	四億六百四十萬圓

と

し

港灣費　三千二百七十五萬圓
運河費　二千八百五十七萬圓
公園費　一千百九十萬圓
土地整理費　八百七十五萬圓
橫濱復興費　五千二百四十三萬二千圓
街路費　四千二百三十萬圓
運河費　五百六十一萬二千圓
公園費　百九十五萬九千圓
土地整理費　二百五十六萬一千圓
京濱運河費　一千三十二萬五千四百二圓
復興事業費貸付金　一千三百七十二萬五千四百二圓
東京復興事業費貸付金　七百七十四萬九千六百九十八圓
神奈川復興事業費貸付金　二百五十七萬五千七百四圓
復興事業補助　一億九百七十萬五百七十九圓
防火地區建築費補助　二千萬圓
土地區劃整理費補助　二百七十七萬五千圓
地方復興事業費補助　五千八百十六萬六千五百六十九圓
東京府復興事業費補助　五百八萬三千五百六圓
神奈川縣復興事業費補助　七十四萬二千三百七十一圓
東京市復興事業補助　四千百五十七萬九千二百九圓
橫濱市復興事業費補助　一千七十六萬一千四百八十三圓
地方復興事業債利子補給　二千八百七十五萬九千十圓
東京市復興事業債利子補給　二千百九十九萬六百八十八圓
橫濱市復興事業債利子補給　六百七十六萬八千三百二十圓

とし、以て大正十二年度より十八年度に至る、七箇年繼續の事業たらしめんと期したり。應急施設は勿論此外なり。

然るに二十四日、二十七日の帝都復興審議會は、之に對して異議ありたるもの、如く、坊間傳へて、東京港築造京濱運河計畫の如き、之を復興事業外に置き、計畫及執行年度を縮め、一面上下道工事等を速成すべしとの說ありたりと云ふ、是に於て計畫を縮小して、築港運河の如きは之を除き、大正十二年度より十七年度に至る六箇年繼續を以て、

帝都復興費　五億七千四百八十一萬六千四十九圓

東京復興費　四億二百七十九萬三千圓

街路費	三億二千百八十二萬三千圓
運河費	二千八百五十七萬圓
公園費	一千百九十萬圓
土地整理費	四千五十萬圓
橫濱復興費	四千五百七十七萬七千圓
街路費	三千百七十二萬八千圓
運河費	五百六十一萬二千圓
公園費	百九十五萬九千圓
土地整理費	六百四十七萬八千圓
地方復興事業費貸付金	一千五百三十二萬五千四百二圓
東京府貸付金	一千二百七十四萬九千六百九十八圓
神奈川縣貸付金	二百五十七萬五千七百四圓
防火地區建築費補助	二千萬圓
地方復興事業費補助	六千九百二十二萬五千九百十七圓
東京府補助	七百五十八萬三千五百六圓
神奈川縣補助	七十四萬二千三百七十一圓
東京市補助	五千十五萬六千七百七圓
橫濱市補助	一千七十四萬三千三百三十三圓
地方復興事業債利子補給	二千百六十九萬四千七百三十圓
東京市債利子補給	一千七百四十萬八千二百七十四圓
橫濱市債利子補給	四百二十八萬六千四百五十六圓

の事業を爲す事とし、之が協贊を第四十七議會に求めたり。

第四十七議會は、大正十二年十二月十一日開院二十四日閉院し、復興豫算及復興法規を討議し、衆議院は、政府の手に執行せんとしたる土地整理事業中、街路修築に伴ふ東京市の百萬坪、橫濱市の三十萬坪、合計百三十萬坪前後を政府の手に殘したる外、之を自治體の執行に委する目的を以て、東京の部三千百七十五萬圓橫濱の部三百九十一萬七千圓、合計三千五百六十六萬七千圓を削り、幅員十二間以下の街路修築亦之を自治體執行に移すが爲め、東京の部六千四百三十六萬四千六百圓、橫濱の部六百三十四萬五千六百圓、合計七千七十一萬二百圓を削除す、即ち事業費一億六百三十七萬七千二百圓の削除なり、加ふるに之が執行機關を內務省の一局たらしめんとして、復興院費全額二千三百九十三萬一千圓、內大正十二年度分七十萬二千四百十圓をも削除したり、同時に之が根本法規たる帝都復興計畫法を修正して特別都市計畫法とす、政府は止むを得ずして之を承認し、貴族院亦衆議院の修正案を通過せしむると共に、時機を見て計畫の不備を補正すべきことを決議せり。

既にして通常議會第四十八議會十二月二十七日を以て開院し、復舊事業計畫及第四十七議會の修正に基く復興事業の一部たる變更計畫を付議すべき筈なりしも、大正十三年二月一日衆議院解散せらるゝに會ひて果さず、臨時第四十九議會六月二十八日開院し、七月十九日閉院するに及び、所謂復舊事業經費及復興事業變更部經費の協贊を求むるを得、政府は玆に復舊費六億五百九十萬圓中、大正十三年度分一億二千二百三十五萬六千六百七十五圓及復興費殘額一億五百萬圓中、大正十二年度に於ける豫算分支出二百三十六萬圓を除き、一億二百六十四

寓圓の追加豫算を要求し、議會の協贊を經たり。

是に於て帝都復興事業は、第四十七、第四十九兩議會の協贊したるものを合せて、

帝都復興費　五億七千三百四十三萬八千八百四十九圓

帝都復興事業費　三億四千二百十九萬二千八百圓

東京復興費　三億六百六十七萬八千四百圓

街路費　二億五千七百四十五萬八千四百圓

運河費　二千八百五十七萬圓

公園費　一千百九十萬圓

土地整理費　八百七十五萬圓

橫濱復興費　三千五百五十一萬四千四百圓

街路費　二千五百三十八萬二千四百圓

運河費　五百六十一萬二千圓

公園費　百九十五萬九千圓

土地整理費　二百五十六萬一千圓

復興事業貸付金　六千百四十七萬四百二圓

地方復興事業費貸付金　六千百四十七萬四百二圓

東京府復興事業費貸付金　一千二百七十四萬九千六百九十八圓

神奈川縣復興事業費貸付金　二百五十七萬五千七百四圓

東京市復興事業費貸付金　四千百七十四萬三千圓

橫濱市復興事業費貸付金　四百四十萬二千圓

復興事業費補助　一億四千八百八萬九百十七圓

地方復興事業費補助　一億二千八百八萬九百十七圓

東京府復興事業費補助　七百五十八萬三千五百六圓

神奈川縣復興事業費補助　七十四萬二千三百七十一圓

東京市復興事業費補助　一億三百二十一萬六千七百七圓

橫濱市復興事業費補助　一千六百五十三萬八千三百三十三圓

防火地區建築費補助　二千萬圓

復興事業債利子補給　二千百六十九萬四千七百三十圓

地方復興事業債利子補給　二千百六十九萬四千七百三十圓

東京市復興事業債利子補給　一千七百四十萬八千三百七十四圓

橫濱市復興事業　四百二十八萬六千四百五十六圓

と爲り、之に自治體負擔一億六千八百十三萬二千六十圓を加へて、合計七億四千百五十七萬九百五圓の事業を執行する事と爲れり。

而して他方の復舊事業は、

復舊費　七億八千四百六十四萬六千八百八圓

內務省復舊費　一億二千六百六十七萬九千三百二十一圓

震災復舊費　二千二百五十五萬九千八百七十一圓

內務本省其他復舊事務費　四百二十五萬圓

相模川外四箇川流域砂防費　四百九十八萬六千八百七十一圓

橫濱港復舊及修繕費　千四百九十八萬圓

官幣社復舊費　九十四萬五千圓

神奈川縣爆揮發物貯藏庫其他復舊費　百二十二萬三千圓

震災貸付金　六千二百五十二萬圓

震災復舊費補助　三千三百七十六萬八千圓

震災土木費補助　二千九百二十六萬八千圓

震災地道路改良費補助　四百三十萬圓

東京府立精神病院震災復舊費　二十萬圓

震災借入金利子補給　七百八十三萬一千四百五十圓

大藏省復舊費　三千九百五十一萬五百三十二圓

震災復舊諸費　三千九百五十一萬五百三十二圓

橫濱稅關上屋其他復舊費　五百二十八萬五千圓

稅務所廳舍其他復舊費　百十六萬八千百八十圓

貴衆兩議院廳舍其他復舊費　七十一萬四百圓

印刷局廳舍工場其他復舊費　千七百二十九萬百十八圓

專賣局所屬工場其他復舊費　千四百六十萬圓

震災善後會計檢查の檢查資料復舊費　五萬八千二百十圓

震災地租稅調查處分費　十四萬五千二百三十九圓

土地臺帳其他簿書器具類復舊費　十九萬二千七百八十五圓

陸軍省復舊費　一億三千三百六萬三千九百五十五圓

震災復舊費　一億三千三百六萬三千九百五十五圓

各部隊建造物其他復舊費　四千八百七十二萬二千八百八十圓

防禦營造物復舊費　三千七百七十三萬七百十二圓

陸軍造兵廠建造物其他復舊費　四千四百八十七萬三百六十三圓

千住製絨所建造物其他復舊費　百七十五萬圓

靖國神社復舊寄附金　三十萬圓

海軍省復舊費　七千七百十八萬六千九十八圓

震災復舊費　七千七百十八萬六千九十八圓

官衙學校其他建造物復舊費　二千二百四十八萬九千四百三十圓

軍需品其他復舊費　五千四百六十九萬六千六百七十八圓

司法省復舊費　九百八萬九百五十四圓

震災復舊諸費　九百八萬一千九百五十四圓

裁判所復舊費　百二十六萬四千四百二十圓

刑務所復舊費　四百七十一萬七千五百三十四圓

巢鴨刑務所移築費　三百十萬圓

文部省復舊費　一億四百八十七萬三千四百圓

震災復舊諸費　八千四百七十七萬三千四百圓

文部本省其他復舊事務費　三十八萬圓

東京帝國大學復舊費　四千三百八十九萬九千二百二十圓

東京商科大學其他復舊費　二千八百二十七萬七千十圓

東京高等工業學校其他復興費　千二百七萬七千百七十圓

古社寺臨時保存會　十四萬圓

震災復舊費貸付金　二千十萬圓

公立學校震災復舊費貸付金　一千七百十萬圓

私立學校震災復舊費貸付金　三百萬圓

農商務省復舊費　二千二百八萬八千八百六十一圓

震災復舊及計營費　一千三百七十九萬七千四百五圓

農商務本省其他復舊費　七百四十七萬三百九十五圓

生絲檢查所經營費　四百九十四萬五千圓

絹業試驗所經營費　百三十五萬圓

林業試驗場其他復舊費　三萬二千十圓

震災地產業其他復舊及復舊助成費　七百三十九萬千四百五十六圓

農業復舊助成費　四百九十三萬五千九百九圓

耕地整理費補助　四十三萬二千六百五十圓

用排水幹線復舊事業費補助　三百四十七萬二千二百四十圓

開墾地復舊助成金　百二萬一千八百十九圓

共同搾乳所營繕費補助　九千六百圓

工業復舊助成費　二百三十九萬五千二百九十三圓

荒廢林地復舊助成費　三百九十八萬五千二百五十四圓

漁業復興助成費　百二十六萬四千四百二十圓

震災地復舊用鋼鐵製造設備費　七十六萬二千圓

製鐵所設備補足費　九十萬圓

遞信省復舊費　一億四千七百十四萬三千六百二十八圓

震災復舊及經營費　一億四千七百十四萬三千六百二十八圓

電信電話施設費	九千四十萬圓
郵便局舍其他經營費	三千五百四十五萬六千六百二十八圓
航路標識復舊費	五十萬七千圓
貯金原簿其他復舊及整理費	三百六萬圓
物品購買其他設備復舊費	千七百七十二萬圓
鐵道省復興費	一億二千萬圓
帝國鐵道建設及改良費震災追加	一億二千萬圓
總係費	七百三十六萬三千圓
線路及建造物復興費	八千八百二十三萬二千圓
電氣復興費	一千六百七十八萬三千圓
車輛復興費	五百三十八萬四千圓
工場復興費	二百二十三萬八千圓

外に豫算外支出を爲したるもの、四千百三十九萬八千六百二十四圓なり、合せて八億二千五百九十二萬六千三百七十三圓、以て大震災の善後經營を爲さんとするものたり。

是より先復興事業は、大正十三年二月一日特別都市計畫委員會官制定まり、二日委員の任命ありて、計畫議定の機關成り、二十三日帝都復興院帝都復興審議會廢せらるゝと同時に、內務省中復興局の新置を見、二十五日之が長官部長任命せられて、實行機關亦更定す。

特別都市計畫委員會は、大正十三年二月五日第一回會議を開き、東京都市計畫並都市計畫事業及其執行年割、橫濱都市計畫並都市計畫事業及其執行年割を議し、特別委員を設け、東京特別委員は五會合、橫濱特別委員は二會合を爲し、以て審議する所あり、二十八日の第二總會に於て、東京街路計畫、東京運河計畫及橫濱街路計畫を議定す、此等は何れも內閣の認可を經て、三月十一日內務省之を公告したり。

第三回特別都市計畫委員會は、三月十四日を以て開催し、東京公園計畫、同中央卸賣市場計畫、同土地區劃整理區域、土地區劃整理に依る街路計畫、土地區劃整理事業及其執行年割同補助街路事業及其執行年割を議し、東京土地區劃整理區域、區劃整理事業及其執行年割、東京補助街路事業及其年割を卽決し、公園市場及區劃整理を特別委員に附託す、是に於て區劃整理委員は七回、公園市場委員は二回の會合を爲して審議し、二十八日の總會に報告するや、總會は區劃整理に依る街路計畫及公園計畫を議定し、市場計畫を特別委員の再議に付し、外に東京府執行の街路事業及東京運河堀立計畫等を議定す、內東京土地區劃整理區域、東京土地區劃整理事業及其執行年割、東京補助街路事業及其執行年割は、三月二十日、東京公園計畫は四月一日それ〳〵公示せらる。

其より公園市場特別委員會は、更に東京市場計畫を審議すること三回、四月二十三日之を第五回總會に報告し、總會は之を議定すると同時に二三の議定を爲し、五月二日東京市場計畫公告せらる。

五月二十二日、第六回特別都市計畫委員會の開催あり、東京小公園計畫を付議し、特別委員に託す、特別委員會一回、六月二十七日第七總會に報告し、直に之を議定すると共に、橫濱土地區劃整理計畫を議定す、東京小公園の公告は、七月四日に在り、其後十二月十日に至り、第八回特別都市計畫委員會開催して、東京市下水道變更計畫及橫濱運河計畫を議定し、二十九日東京下水道變更計畫の公告を見、二十七日第九回特別都市計畫委員會開催して、東京地域地區變更指定計畫を議定し、東京防火地區變更計畫を特別委員に付託す、其議定公示の遽からざるや知るべきなり。

此くの如くにして復興計畫の決定を見るの一面、東京市に在りては、大正十二年十二月二十五日市會に於て復興に關する意見書提出を決議し、十三年二月六日街路修築土地整理事業を決議す、第四十七議會に復興豫算協贊せられて國家の復興事業實施期に入るに伴ひ、市亦十三日より三月十二日の市會に復興豫算、上水道復興豫算、街路修築土地整理豫算、中央市場分場豫算を決議し、二十七日處務規程を改めて之が分掌を定め、市執行の土地整理計畫を告示し、第四十九議會の決議に基き、政府の街路修築土地整理に對する計畫確立するや、同二十九日の市會に街路修築土地整理豫算を決議し、又電氣事業の復興豫算及復興事業の缺を償ふべき復舊事業の豫算を決議す。

是に於て市は、復興施設として、大正十二年度より十七年度に至る六箇年間に、

帝都復興費	一三二、六四〇、一〇〇圓(六箇年)
道路橋梁改築	一六、〇五五、一〇〇(六箇年)
下水道改良費	四三、五〇〇、〇〇〇(六箇年)
公園費	一〇、〇〇〇、〇〇〇(六箇年)
塵芥處分設備費	一、八五〇、〇〇〇(三箇年)
中央卸賣市場建設費	一五、〇〇〇、〇〇〇(三箇年)
小學校建設費	三八、六一〇、〇〇〇(五箇年)
施療病院新設費	六〇〇、〇〇〇(二箇年)
實費診療所新設費	二、五〇〇、〇〇〇(四箇年)
社會事業施設費	四、五二五、〇〇〇(五箇年)
街路修築並土地整理費	一〇一、四八二、八二四(六箇年)
街路修築費	六七、五三一、八二四(六箇年)
土地整理費	三三、九五一、〇〇〇(五箇年)
水道復興費	一〇、〇〇〇、〇〇〇(四箇年)
水道設備復興費	五、三〇〇、〇〇〇(四箇年)
水道擴張工事速成費	七〇〇、〇〇〇(三箇年)
電氣事業復興費	四〇、五〇〇、〇〇〇(三箇年)
電氣軌道事業復興費	三七、九八〇、〇〇〇(三箇年)
電氣供給事業復興費	二、五二〇、〇〇〇(二箇年)
計	二八四、六三三、九二四

の事業を擧げ、復舊施設として、大正十三年度より十七年度に至る五箇年間に、

震災復舊費	二三、一二八、四八六圓(六箇年)
區役所建設費	四、七八六、〇〇〇(三箇年)
小學校設備費	六、一七七、六〇〇(五箇年)
圖書館建設費	一、〇〇〇、〇〇〇(四箇年)
本所病院隔離所並消毒所建設費	四、二七五、〇〇〇(三箇年)
街頭便所新設費	五七一、〇〇〇(五箇年)
公園施設費	一、〇二五、三八六(三箇年)
街燈設備費	五八二、五〇〇(五箇年)
河川造修費	三、七三〇、〇〇〇(五箇年)
施療病院建設費	一、二八一、〇〇〇(三箇年)
電氣軌道復舊費	五、四九六、〇〇〇(一箇年)
上水道復舊費	四八五、〇七三(一箇年)
養育院復舊費	五〇、〇〇〇(一箇年)
計	二九、一五九、五五九

の事業を擧ぐる事と爲り、市事業の輪廓亦定まる。

此くの如くにして計畫決定の一面、政府市共、實施に着手し得べき部分より執行を開始し、着々工事を進めつゝあり、功程大要

帝都復興復舊事業

計畫期

上期　立案時代

大正十二年
九　月　四　日　後藤內相帝都復興策創案。
同　　六　日　閣議帝都復興策上議。
同　十五　日　假建築會。
同　十九　日　帝都復興審議會官制公布。
　　帝都復興審議會委員任命。
同　二十七　日　帝都復興院官制公布。
同　二十九　日　帝都復興院總裁副總裁以下任命。
十　月　三　日　帝都復興院初會議。
同　四　日　帝都復興院廳舍を定む。
同　十八　日　帝都復興院分課を定む。
同　十九　日　帝都復興院評議會員任命。
　　帝都復興院理事會、帝都復興計畫骨子を決定す。
同　二十九　日　復興院帝都復興案を決定す。
十一月　一　日　第一參與會、帝都復興案付議。
同　九　日　第二參與會、帝都復興案決議。
同　十三　日　東京市會帝都復興事業費に關する意見書提出決議、東京市復興委員規程設定決議。
同　十五　日　第一評議會、帝都復興案付議。
同　十七　日　東京市復興委員規程を定む。
同　二十一　日　第二評議會、帝都復興案議決。
同　二十四　日　第一審議會、帝都復興案付議。
同　二十七　日　第二審議會、帝都復興計畫協定。
十二月　三　日　東京市會復興意見書提出決議、東京市復興委員選定。
十二月　六　日　第三評議會、建議案に關する議を決す。
　　中期　前計畫決定時代
同　十一　日　第四十七議會開院式。
同　十九　日　衆議院帝都復興豫算を修正可決す。
同　二十　日　衆議院帝都復興計畫法案を修正可決す。
　　衆議院震災善後公債法案及國債證券復興事業費支拂法律案可決。
同　二十一　日　貴族院帝都復興豫算衆議院修正案可決。
　　貴族院震災善後公債法案及國債證券復興事業等支拂法律案可決。
同　二十三　日　貴族院帝都復興計畫法衆議院修正可決。
同　二十四　日　特別都市計畫法公布。
　　帝都復興豫算公布。
　　震災善後公債法及國債證券復興事業費支拂法律公布。
　　帝國議會閉會式。
同　二十五　日　東京市會復興に關する意見書提出決議。
同　二十七　日　第四十八議會開院式。
大正十三年
一　月　七　日　內閣更迭。
二　月　一　日　特別都市計畫委員會官制公布。
　　衆議院解散。
同　二　日　特別都市計畫委員任命。
同　五　日　第一回特別都市計畫委員會。
同　六　日　東京市會街路修築土地區劃整理事業可決。

二　月十三　日　米英公債發行規程公布。
同　十六　日　假建築會延期。
同　十九　日　內國債を起す。
　　下期　後計畫決定時代
（執行準備時代乃至開始時代）
同　二十三　日　帝都復興審議會官制廢止。
　　帝都復興院官制廢止。
　　復興局官制公布。
同　二十五　日　復興局長官部長任命。
　　復興局分課規程を定む。
同　二十八　日　第二回特別都市計畫委員會。
　　東京街路計畫議定。
　　東京運河計畫議定。
　　橫濱街路計畫議定。
三　月十一　日　東京街路計畫公示。
　　東京運河計畫公示。
　　橫濱街路計畫公示。
　　復興局出張所分掌及區域決定。
同　十二　日　東京市會復興豫算、上水道復興豫算、街路修築土地區劃整理豫算、中央市場分場豫算を可決す。
同　十四　日　第三回特別都市計畫委員會。
　　東京土地區劃整理區域議定。
同　十五　日　特別都市計畫法施行令公布。
同　二十　日　東京土地區劃整理區域其他公示。
同　二十七　日　東京市處務規程改正。
　　庶務課分掌に復興事業を加へ、道路局に第二道路課を置き、新に區劃整理局、臨時建築局を置く。
　　東京市執行土地整理告示。
三　月二十八　日　第四區特別都市計畫委員會。
　　東京土地整理に由る街路改修計畫、公園計畫、運河埋立計畫、東京府執行復興事業議定。
同　二十九　日　東京市會大正十三年度復興豫算、上水道復興豫算、街路土地整理豫算を可決し、電氣事業復興豫算を可決す、又大正十三年度複舊費を可決す。
四　月　一　日　東京公園計畫公示。
　　東京土地整理に由る街路計畫公示。
同　二　日　土地區劃整理委員會、規程決定。
同　十四　日　市執行土地區劃整理委員會。
同　二十三　日　第五回特別都市計畫委員會。
　　東京市中央市場計畫議定。
五　月　二　日　東京市中央市場計畫公示。
同　六　日　政府執行土地區劃整理委員選擧開始。
同　二十二　日　第六回特別都市計畫委員會。
　　東京小公園計畫議定。
同　三十一　日　復興公債交付勅令公布。
六　月　六　日　東京市區劃整理局分課を定む。
同　十一　日　內閣更迭。
同　十二　日　復興公債發行規定公布。
　　東京市執行第一回土地區劃整理委員會開會。
同　二十七　日　第七回特別都市計畫委員會。

東京市小公園計畫議定。
横濱土地整理計畫議定。
六　月二十八日　第四十九回帝國議會開院式。
　　横濱土地整理に因る街路計畫議定。
七　月　四　日　補償審査會長委員任命。
　　東京市小公園公示。
同　七　日　道路新設擴張受益者負擔規程改正。
同　八　日　衆議院復興追加豫算可決。
同　九　日　衆議院復舊豫算及復興公債法改正可決、復興公債發行事務承諾可決。
同　十二日　貴族院復興公債法改正可決。
同　十六日　貴族院復興追加豫算可決、復興公債發行事務承諾可決。
同　十七日　貴族院復舊豫算及復興公債法改正可決。
同　十九日　帝國議會閉院式。
八　月　四　日　補償審査會長委員任命。
同　五　日　防火地區建築補助規則規定。
同　十八日　政府執行土地整理委員最終選擧。
同　二十二日　假建築舍延期。
　　復興豫算追加公布、震災善後公債法中改正公布
　　復舊豫算公布。
同　二十三日　復興貯蓄財債法公布。
同　二十九日　府縣震災土木費國庫補助規程決定。
九　月　一　日　東京市區劃整理局現場從事員勤務規程を定む。
同　三　日　第一補償審査會開會。
十一月八日　東京市役所處務規程を改正す。

十一月十四日　東京市役所復興總務部を置く。
　　建物移轉補償金前拂規程決定。
十二月　一　日　第八回特別都市計畫委員會東京市下水計畫變更
同　十　日　議定及横濱運河計畫を議定す。
同　十七日　市街地建築物法施行規則中改正。
同　二十七日　第九回特別都市計畫委員會。
　　東京市地域地區變更指定計畫議定。
　　東京市防火地區變更計畫付議。
同　二十九日　東京市下水計畫變更公示。
　　横濱運河計畫公示。

にして、概言すれば、大正十二年、十三年は寧ろ之を計畫期とも稱すべく、執行期は實に十四年以降に在るを見る、即ち十四年度以降十七年度に至る間に於て、此等の事業は執行せらるべきものたり。

然れども完全なる帝都復興事業即ち帝都改造事業とも謂ふべきものは、未だ必ずしも此等復興復舊施設のみに止まらず、必ずや第二段第三段の復興施設を俟たざるべからざるが如し、何となれば震災燒失地域以外の半市たる山手方面は、殆ど全く未施設のまゝ遺されたればなり、現に事實上の東京たる大東京地域内の隣接町村、亦若干街路の外、同じく未施設の遺されたればなり、將た百年の大計上より考慮すれば、横濱市を併せて同一規畫の下に規畫せざるべからざる者在ればなり、加之燒失地域内に在りても、更に進歩の施設を要すべきもの亦尠なからざればなり。

土地の整理次第に緒に就き、本建築家屋の着手と爲り、帝都に一大建築時期到來すべきと共に、之に對する徹底的施設を見るに非されば、復興事業は九仞の功を一簣に缺き、街衢井然たる新方街に、高低參差たる倭屋備比の怪觀を呈するに至らんとす、建築補助の途開かれ、補助費豫算の如き業に決すとは云へ、此僅にして建築時期に入らん乎、所期の新帝都を見出すこと恐らくは難からん、鄽の銀座市街建設の日の如く、政府の手に整一建築を爲して之を拂下ぐる能はざるまでも、官設若くは政府保護の建築會社に依り、或は建築費年賦支拂の大廈を起し、或はブロック共同のビルヂングを造るが如き、若干の制限奬勵勸誘に併せて、極めて有效なる援助を强要せずんばあらざるべし、建築援助に次で、是非共何等かの形式を以て實現せしめざるべからざるは、陸に高速度鐵道の建設あり、海に東京港の築造あり、共に立計半途に復興事業外に置かれたるもの、就中東京港は、市の經濟生活上に於ける口腔なり、之が築造に依りて優に市の新使命を開拓するに足らんとす、結局外國貿易港たるべき大規模の築造を須要すること勿論なれども、一時内國貿易港としての築造に甘んぜんと欲せば、同時に京濱運河の開鑿を並施條件とせざれば不可なり、高速度交通機關たる地下線鐵道は、現に事實上の東京たる大東京を活躍せしむる所以、之が建設に依りて能く市の脈搏を緊張せしめ、市の生活力上更に幾段の强烈を添ふるを得んとす。

山ノ手都市の區劃整理及街路改築公園擴置等は、燒失地域の施設を了ると同時に緊切に要求さるべき事業なり、引續き大東京地域内の區劃整理及街路改築公園擴設等亦恐らくは要求せられずして已むべきものには非じ、然らざれば所謂復興事業は竟に徹底せずして、全く片ちんばの改造に終らんとすればなり。

而して此等幾多の事業施設を、最も有效に有力に將た秩序的經濟的に施行せんとする乎、先づ大都市制を布き、首として統制ある組織機關を設くるを先決問題とす、今の事實上に於ける東京の如く、頭腦なく神經脈絡なき大小多數都市の聚處雜居にして、焉ぞ能く徹底的施設を見るを望まんや。

第二章　各紀

第一節　政府施設

第一項　復興施設

上前記

第一機關

一　機關特置準備

震災に對し、應急の措置として被害を救濟するの一面、善後の措置を講じ、復興の大計を立てざるべからざるは言ふまでもなき所なり、而も其被害の甚大なる、復興施設は自ら大規模のものならざる能はず、從て之が機關亦特置の必要あり、是に於て政府は、臨時震災救護事務局を設けて罹災者を救濟し、戒嚴司令部を設けて秩序を維持すると同時に、復興の手段を講じ、後藤內務大臣は、九月四日帝都復興方策を立案し、先づ之を六日午前開催の閣議に提出したり、聞く所に據れば、大要帝都復興に關する高等政策を定むるための調査機關及之が執行に當るべき獨立機關を設け、以て一面罹災民の救護に任ずると共に、一面復興計畫を樹て、諸官廳舍の建築を爲し、罹災地を整理し、同時に市民の建築をも監督せんとしたるものにして、更に復興計畫樹立のため當局者への諸問機關をも設くるの意ありたるもの、如し、或は罹災地整理の爲め、一旦全災地を買收するの議ありと傳へ、或は特設機關を一省とし、國費を以て復興會事業を擧げんとするものと、單に計畫機關を設け、執行は之を各官省に分擔せしめんとするものとの兩說ありたりとも傳ふ、又總經費は約三十五億圓を要すべしと噂させられたり。

要するに閣議の結果、帝都復興に關する最高諮問機關として帝都復興審議會を設け、事業管掌の特設機關として帝都復興院を置き、以て各省所管以外の復興事業を管掌せしむる事と爲りたるは、此等官制の發表に依りて明かなり。

二　帝都復興審議會設置

震災地の復興に關する重要事件の諮詢機關たる帝都復興審議會は、大正十二年九月十九日勅令第四百十八號を以て設置せらる。

朕帝都復興審議會官制ヲ裁可シ、玆ニ之ヲ公布セシム。

御名　御璽

攝政名

大正十二年九月十九日　內閣總理大臣　伯爵　山本權兵衞

勅令第四百十八號

帝都復興審議會官制

第一條　帝都復興審議會ハ、內閣總理大臣ノ諮詢ニ應シ、帝都其ノ他ノ震災地ノ復興ニ關スル重要ノ案件ヲ審議ス。

第二條　帝都復興審議會ハ、帝都其ノ他ノ震災地ノ復興ニ關スル重要ノ案件ニ付、內閣總理大臣ニ建議スルコトヲ得。

第三條　帝都復興審議會ハ、總裁一人、委員若干人ヲ以テ之ヲ組織ス。

第四條　總裁ハ、內閣總理大臣ヲ以テ之ニ充ツ。

委員ハ國務大臣、國務大臣タリシ者、親任官又ハ學識經驗アル者ノ中ヨリ之ヲ勅命ス。

第五條　總裁ハ、會務ヲ統理シ會議ノ議長ト爲ル。

總裁事故アルトキハ、內閣總理大臣ノ指名スル委員其ノ職務ヲ代理ス。

第六條　帝都復興審議會ニ幹事長一人、幹事若干人ヲ置ク。

第七條　幹事長ハ、委員ノ中ヨリ之ヲ勅命ス、庶務ヲ掌理ス。

第八條　幹事ハ、內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ、內閣ニ於テ之ヲ命ス。

幹事長ノ命ヲ承ケ、庶務ヲ整理ス。

第九條　委員ハ、國務大臣ノ禮遇ヲ受ク。

附　則

本令ハ、公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス。

是日委員其他の任命あり。

（各　通）

外務大臣	男爵	伊集院彥吉	
內務大臣	子爵	後藤新平	
大藏大臣		井上準之助	
陸軍大臣	男爵	田中義一	
海軍大臣		財部彪	
司法大臣		平沼麒一郎	
文部大臣		岡野敬次郎	
農商務大臣	男爵	田健治郎	
遞信大臣		犬養毅	
鐵道大臣		山之內一次	
從三位勳一等	子爵	高橋是清	
從二位勳一等	子爵	加藤高明	
從二位勳一等	伯爵	伊東巳代治	
從三位勳一等		江木千之	
正三位勳一等	子爵	澁澤榮一	
正四位勳一等		市來乙彥	
正六位		和田豐治	
從三位勳三等	子爵	青木信光	
正三位勳三等		大石正巳	

帝都復興審議會委員被仰付

帝都復興審議會委員　子爵　後藤新平

帝都復興審議會幹事長被仰付

（各　通）

從四位勳二等	塚本清治	
從五位勳六等	樺山資英	
正五位勳三等	松本烝治	

帝都復興審議會幹事被仰付

三　帝都復興院特設

帝都復興事業を管掌する特設機關は、九月二十七日勅令第四百二十五號を以て帝都復興院を設けらる。

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ、帝都復興院官制ヲ裁可シ、玆ニ之ヲ公布セシム。

御名　御璽

攝政名

大正十二年九月二十七日　內閣總理大臣　伯爵　山本權兵衛
內務大臣　子爵　後藤　新平
農商務大臣　男爵　田　健次郎

勅令第四百二十五號

帝都復興院官制

第一條　帝都復興院ハ、內閣總理大臣ノ管理ニ屬シ、東京及橫濱ニ於ケル都市計畫、都市計畫事業ノ執行及市街地建築物ノ施行、其ノ他復興ニ關スル事務ヲ掌ル。

帝都復興院ハ、前項ノ外臨時物資供給令ノ施行ニ關スル事務ヲ掌ル。

第二條　帝都復興院ニ左ノ職員ヲ置ク。

總裁		親任
副總裁	二人	勅任
技監	一人	勅任
理事	七人	勅任
書記官	專任十五人	奏任
事務官	專任三十人	奏任
技師	專任百五人	內十人ヲ勅任ト爲スコトヲ得
屬	專任百五十人	判任
技手	專任三百五十人	判任

前項事務官ノ外、內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ、關係各官廳高等官ノ中ヨリ、內閣ニ於テ事務官ヲ命スルコトヲ得。

第三條　帝都復興院ニ總裁官房及左ノ六局ヲ置ク。

計畫局	土地整理局
建築局	土木局
物資供給局	經理局

第四條　總裁官房ニ於テハ、機密、人事、文書其ノ他各局ニ屬セサル事項ニ關スル事務ヲ掌ル。

第五條　計畫局ニ於テハ、都市計畫其ノ他復興計畫ニ關スル事務ヲ掌ル。

第六條　土地整理局ニ於テハ、土地區劃整理其ノ他土地ノ整理ニ關スル事務ヲ掌ル。

第七條　建築局ニ於テハ、市街土地建築法ノ施行其ノ他建築ニ關スル事務ヲ掌ル。

第八條　土木局ニ於テハ、都市計劃事務其ノ他ノ復興事業ノ執行ニ關スル事務ヲ掌ル。

第九條　物資供給局ニ於テハ、臨時物資供給令ノ施行其ノ他復興事業ニ要スル諸材料ノ調達ニ關スル事務ヲ掌ル。

第十條　經理局ニ於テハ、豫算決算其ノ他諸會計ニ關スル事務ヲ掌ル。

第十一條　第二條職員ノ外、院務ニ參與セシムル爲、參與及參事ヲ置ク。

第十二條　總裁ハ、所屬職員ヲ總督シ、院務ヲ統理シ、判任官以下ノ進退ヲ專行ス。

第十三條　副總裁ハ、總裁ヲ輔佐シ、總裁事故アルトキハ、內閣總理大臣ノ指名シタル副總裁其ノ職務ヲ代理ス。

第十四條　技監ハ、技術ヲ統理ス。

第十五條　局ニ局長ヲ置キ、理事ヲ以テ之ニ充ツ。

局長ハ、上官ノ命ヲ承ケ、局務ヲ掌理ス。

第十六條　理事ニシテ局長タラサルモノハ、上官ノ命ヲ承ケ、院務ヲ掌ル。

第十七條　書記官及事務官ハ、上官ノ命ヲ承ケ、事務ヲ掌ル。

第十八條　技師ハ、上官ノ命ヲ承ケ、技術ヲ掌ル。

第十九條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ、庶務ニ從事ス。

第二十條　技手ハ、上官ノ指揮ヲ承ケ、技術ニ從事ス。

第二十一條　帝都復興院ニ評議員ヲ置ク。

評議會ハ、總裁ノ諮詢ニ應シ、重要ノ事項ヲ調査審議ス。

第二十二條　評議會ハ、會長一人、評議員若干人ヲ以テ之ヲ組織ス。

特別ノ事項ヲ調査審議スル爲必要アルトキハ、臨時評議員ヲ置クコトヲ得。

第二十三條　會長、評議員及臨時評議員ハ、內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ、內閣ニ於テ之ヲ命ス。

第二十四條　會長ハ、會務ヲ總理シ、會議ノ議長ト爲ル。

第二十五條　評議會ニ幹事ヲ置ク、內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ、內閣ニ於テ之ヲ命ス。

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ、庶務ヲ整理ス。

第二十六條　評議會ニ書記ヲ置ク、內閣ニ於テ之ヲ命ス。

書記ハ、上司ノ指揮ヲ承ケ、庶務ニ從事ス。

附則

本令ハ、公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス。

翌々二十九日、總裁副總裁以下職員の任命を見たり、即ち左の如し。

內務大臣從二位勳一等　子爵　後藤新平

兼任帝都復興院總裁

（各通）　北海道廳長官從三位勳二等　宮尾舜治
從四位勳四等　松木幹一郎

任帝都復興院副總裁

叙高等官一等　正六位　直木倫太郎

任帝都復興院技監

叙高等官一等

（各通）　帝都復興院副總裁從三位勳二等　宮尾舜治
同　從四位勳四等　松木幹一郎
帝都復興院技監正六位　直木倫太郎
社會局長官正五位勳三等　池田宏

兼任帝都復興院理事

叙高等官一等　東京帝國大學教授正五位勳四等　佐野利器

任帝都復興院理事

叙高等官二等　鐵道書記官兼鐵道省參事官從五位勳六等　十河信二
鐵道省參事官從五位勳五等　金井清

任帝都復興院書記官

叙高等官三等　內閣書記官正六位　長谷川赳夫

兼任帝都復興院書記官

叙高等官四等

帝都復興院理事　宮尾舜治

帝都復興院土地整理局長ヲ命ス

帝都復興院理事　松木幹一郎

帝都復興院物資供給局長ヲ命ス

帝都復興院理事　直木倫太郎

帝都復興院土木局長ヲ命ス

帝都復興院書記官　十河信二

帝都復興院經理局長心得ヲ命ス
十月六日更に左の如く任命せらる。
北海道廳土木部長正五位勳四等　稻葉健之助
任帝都復興院理事
叙高等官二等
帝都復興院技師工兵少尉
正五位勳四等　太田圓三
兼任帝都復興院理事
叙高等官二等
（各　進）
鐵道技師陸軍工兵少尉
正五位勳四等　太田圓三
内務技師兼鐵道技師都市計畫
地方委員會技師從五位勳六等　山田博愛
正六位勳四等　岸一太
任帝都復興院技師
（各　進）
帝都復興院副總裁
兼帝都復興院理事　宮尾舜治
帝都復興院技監
兼帝都復興院理事　直木倫太郎
免兼官
帝都復興院理事　稻葉健之助
帝都復興院土地整理局長ヲ命ス
帝都復興院理事　太田圓三
帝都復興院土木局長ヲ命ス
此くの如くにして帝都復興院の組織成るや、十月三日職員一同内務大臣官邸に參集し、總裁より訓示あり、曰く、

曩ニ宏遠ナル優詔ヲ拜シ、今ヤ帝都復興ノ規畫其歩ヲ進メントスルニ當リ、各其機能ヲ傾ケ、全力ヲ擧ゲテ災後ニ善處シ、以テ上聖明ノ仕命ヲ體膺シ率リ、下萬民ノ信憑ニ塞貢スルナキヲ期スベキハ固ヨリ言ヲ俟タズ、顧ルニ這次ノ天殃ハ寔ニ前代無比ノ慘禍ニシテ、假ニ帝都ノ形情ヲ震災以前ノ狀態ニ復舊セシメントスルモ、各個人ノ被害恢復ハ之ヲ別問題トシ、國家及ビ自治體ノ施設ニ俟タザルベカラザル重要事業費ノ約幾億ノ巨額ニ上ルベキカ、未ダ卒カニ算出シ能ハズ、元來我東京市ハ、舊時代ノ礎上ニ築カレタル都市ナルヲ以テ、文明機關ノ級容精緻ヲ加フル毎ニ、却ツテ益々不自然ノ發展ヲ爲シ、ソレガ整齊既ニ甚ダ至難ナルモノアリ、然ラバ今日帝都復興ノ時期ニ於テ、之ガ改善ヲ圖リ、科學上ヨリ見タル合理的施設ノ上ニ、更ニ經濟的ナル計畫ヲ實現シ、以テ文明都市ノ實體ヲ具備セシムベク、深ク意ヲ用ヒ、奇形都市ノ跡ヲ絶ツノ要アルハ論ナキコロナリ、抑ゝ帝都ハ一國文化ノ源泉ニシテ、國家機能ノ中樞地タリ、之ガ復興ノ實績如何ハ、況ク中外ノ凝視スル所ナルノミナラズ、其影響ノ及ブ所、敢テ一市邑又ハ一局部商工業ノ盛衰ニ止ラズ、廣ク國民經濟ノ消長ニモ繫リ、國家精神ノ隆替ニモ關スルモノナシトセズ、院ニ列スル者ノ責任極メテ重大ナルト同時ニ、各部機關ノ運用最モ宜キヲ期セザルベカラズ、即チ先ヅ緊切ニシテ精細ナル調査ヲ行ヒ、更ニ成案ニ就テ審議評決シ、然ル後實行ニ移ルヲ當然ノ要務トス、調査ナクンバ成案ヲ得ス、成案無クンバ決議ヲ實行スル能ハズ、之ニ必要ナル豫算モ亦然リ、固ヨリ言ヲ調査評定ニ藉リテ曠日彌久、職司ヲ轉ンズルガ如キハ、斷ジテ責任觀念ヲ有スルモノト言フヲ得ズ、況ヤ非常ノ秋ニ臨ンデ、非常ノ業ニ責ヲ負フニ於テヲヤ、優詔宣示アラセ給フ所、炳トシテ日星ノ如シ、須ラク誠悃ヲ注ギテ最善ノ效ヲ收ムベク、協力一致シテ復興ノ大業ニ貢獻センコトヲ期スベキナリ。
翌四日廳舍を定めて、

總裁官房、計畫局（總務課、調査課、制度課）、物資供給局、經理局　永田町村井吉兵衛邸
土地整理局、建築局、土木局、計畫局（第一及第二技術課）　丸ノ内　三菱　本館
とし、十八日分課規程を定む。
大正十二年十月十八日帝都復興院總裁達

帝都復興院分課規程

第一條　總裁官房ニ左ノ二課ヲ置キ、其ノ事務ヲ分掌セシム。
秘　書　課
一、機密ニ屬スル事項。
二、人事ニ關スル事項。
三、總裁ノ官命及院命ノ管守ニ關スル事項。
文　書　課
一、公文書類及成案文書ノ審査、接受及發送ニ關スル事項。
二、公文書類ノ編纂及保存ニ關スル事項。
三、統計及報告ノ調製ニ關スル事項。
四、他ノ局課ノ主管ニ屬セサル事項。
第二條　計畫局ニ左ノ五課及一出張所ヲ置キ、其ノ事務ヲ分掌セシム。
總　務　課
一、都市計畫上行政ニ關スル事項。
二、他課ノ主管ニ屬セサル事項。
第一技術課
一、道路、軌道、鐵道、河川、運河、港灣其ノ他交通企畫上技術ニ關スル事項。
二、上水道、下水道及地下埋設物ノ整理計畫上技術ニ關スル事項。
第二技術課
一、地域地區其ノ第一技術課ニ屬セサル技術ニ關スル事項。
調　査　課
一、都市計畫、都市ノ區域及組織其ノ他復興ノ經濟調査ニ關スル事項。
制　度　課
一、都市計畫其ノ他復興ノ制度ニ關スル事項。
橫濱出張所
一、橫濱ニ於ケル都市計畫ニ關スル事項。
第三條　土地整理局ニ左ノ三課ヲ置キ、其ノ事務ヲ分掌セシム。
庶　務　課
一、土地ノ收用及使用ニ屬スル事項。
二、土地ノ賣買交換及貸借等ニ關スル事項。
三、土地臺帳ノ調製、登錄、整理及保管ニ關スル事項。
四、公用地ノ調査ニ關スル事項。
設　計　課
一、土地ノ測量ニ關スル事項。
二、土地區劃整理其ノ他ノ土地整理ノ設計ニ關スル事項。
施　業　課
一、土地區劃整理其ノ他ノ土地整理ノ施業ニ關スル事項。
第四條　建築局ニ左ノ三課ヲ置キ、其ノ事務ヲ分掌セシム。
庶　務　課
一、建築ノ事務ニ關スル事項。
技　術　課
一、建築ノ技術ニ關スル事項。

營繕課

二、營繕ニ關スル事項。

第五條　土木局ニ左ノ六課及五工事部ヲ置キ、其ノ事務ヲ分掌セシム、但シ工事部ノ分掌事項及管轄區域ニ付テハ別ニ之ヲ定ム。

工務課

一、道路、橋梁其ノ他土木事業ノ事務ニ關スル事項。

會計課

一、本院所屬一般會計及特別會計ノ經由ニ關スル事項。

二、本院所屬諸收入ノ取扱ニ關スル事項。

三、支拂ニ關スル事項。

四、現金ノ運用出納保管及亡失處分ニ關スル事項。

五、其ノ他會計ニ關スル事項。

道路課

一、道路ノ技術ニ關スル事項。

橋梁課

一、橋梁ノ技術ニ關スル事項。

河港課

一、河港ノ技術ニ屬スル事項。

水道課

一、上水道及下水道ノ技術ニ關スル事項。

公園課

一、公園ノ技術ニ關スル事項。

第六條　物資供給局ニ左ノ三課ヲ置キ、其ノ事務ヲ分掌セシム。

計畫課

一、生活必需品其ノ他物資供給ノ計畫ニ關スル事項。

調度課

一、生活必需品其ノ他ノ物資ノ買入、賣渡、交換及買入若ハ賣渡ノ委託ニ關スル事項。

用品課

一、生活必需品其ノ他物資ノ加工及貯藏ニ關スル事項。

第七條　經理局ニ左ノ二課ヲ置キ、其ノ事務ヲ分掌セシム。

主計課

一、本院所管ノ豫算及決算ニ關スル事項。

二、本院所管特別會計ノ豫算及決算ニ關スル事項。

會計課

一、本院所屬一般會計及特別會計ノ經由ニ關スル事項。

二、本院所屬諸收入ノ取扱ニ關スル事項。

三、支拂ニ關スル事項。

四、現金ノ運用出納保管及亡失處分ニ關スル事項。

五、其ノ他會計ニ關スル事項。

若夫れ本職の外、院務に參する參與及總裁の諮問機關たる評議員會評議員は、同じく十月十八日を以て任命を見たり。

帝都復興院參與（大正十二年十月十八日任命）

（各　通）

內閣書記官長　樺山資英
法制局長官　松本烝治
宮內次官　關屋貞三郎
外務次官　松平恒雄
內務次官　塚本清治
內務技監　原田貞介
社會局長官　池田宏
大藏次官　西野元
陸軍次官　宇垣一成
陸軍中將　武藤信義
海軍次官　岡田啓介
海軍中將　堀田三郎
司法次官　山內確三郎
文部次官　赤司鷹一郎
農商務次官　岡本英太郎

遞信次官　若宮貞夫
鐵道次官　中川正左
警視總監　湯淺倉平
東京府知事　宇佐美勝夫
神奈川縣知事　安河內麻吉
從三位勳二等　本多靜六
從三位勳三等　三宅米吉
從三位勳二等　丹羽鋤彥
正三位勳二等　長尾半平
從三位勳二等　渡邊勝三郎
從四位勳三等　永田秀次郎
勳六等　結城豐太郎
正七位　矢野恒太
磯村豐太郎
加藤恭平
米山梅吉
桐島像一

帝都復興院參與被仰付

帝都復興院評議員會（大正十二年十月十八日評議員任命）

從三位勳一等　男爵　阪谷芳郎

帝都復興院評議會會長被仰付

（各　通）

正四位勳一等功三級　山路一善
從三位勳一等　男爵　古市公威
正三位勳一等功二級　長岡外史
從三位勳一等　上山滿之進
從四位勳一等　馬場鍈一
從三位勳二等　宇佐美勝夫
從三位勳二等　斯波忠三郎
正四位勳二等　安河內麻吉
正四位勳三等　伊東忠太
從四位勳三等　岡野昇
正四位勳三等　子爵　大河內正敏
從四位勳二等　湯淺倉平
正五位勳四等　澁澤元治
從三位勳三等　伯爵　林博太郎
正三位勳二等　大久保利武
同　正六位　廣井勇
內藤久寬
正四位勳二等　橋本圭三郎
從四位勳二等　伊藤多喜男
從三位勳二等　渡邊勝三郎
正四位勳二等　澤柳政太郎
從三位勳三等　子爵　井上匡四郎
正四位勳四等　子爵　八條隆正
從三位勳三等　男爵　毛利五郎
從四位勳三等　小林丑三郎
正五位勳三等　吉植庄一郎
從四位勳三等　秦豐助
正四位勳三等　杉浦宗三郎
從五位勳三等　原富太郎
從四位勳三等　永田秀次郎
勳四等　小泉又次郎

勳四等　指田義雄
同　小泉策太郎
同　鳩山一郎
正六位勳四等　若尾幾造
從七位勳四等　秋田清
若尾璋八
近藤達兒
三木武吉
大濱忠三郎
森恪
正六位　藤山雷太
正五位勳四等　池田謙三
勳四等　星野錫
同　福田又一
同　平沼亮三
正五位勳六等　關一
正五位　宮島幹之助
從五位　大橋新太郎
同　渡邊銕藏
勳六等　神戸拳一
井坂孝
伊東米治郎
磯部尙
池田勝次郎
堀江正三郎
小野英二郎
門野重九郎
梶原仲治
片岡安
兒玉謙次
小坂梅吉
小島七郎
木村久壽彌太
木內傳之助
宮島清次郎
上部信助

帝都復興院評議會評議員被仰付
（各選）　從五位勳五等　金井清
正六位　長谷川赳夫

帝都復興院評議會幹事被仰付

第二　活動

一　復興計畫樹立

帝都復興院に於ける帝都復興計畫は、理事會に於て立案し、參與會に付して院の定案を作り、之を評議會に諮問し、審議會の決定を待ちたるものとす。

第一、理事會　帝都復興計畫は、大正十二年十月帝都復興院理事會に於て、復興計畫各案を研究し、計畫局原案を基礎として之を立案したるものにして、世に傳ふる三十五億圓案中、諸官廳學校の建設及直轄事業の復興を主司官廳に移し、地下鐵道の經營を除き、約十三億圓を以て之を施行する事とし、總裁は、十月二十四日二十六日の閣議に、院議定の帝都復興計畫大綱を報告し、二十七日之が諒解を求め、二十九日院議を決定す。

第二、參與會　活動の大要左の如し。

第一回參與會は、十一月一日午前十時十五分首相官邸に開會し、山本內閣總理大臣及後藤復興院總裁の挨拶あり。

內閣總理大臣挨拶

諸君、今日玆ニ參與會ヲ開キマシテ復興ニ關スル所ノ大體議ヲ審議セラルルニ際シマシテ、一言御挨拶ヲ申述ベテ置キタイト思フノデアリマス。

抑〻今回ノ震災ニ續キ火災ガ起リマシテ、其ノ慘害ハ實ニ詞ニ盡セヌ程デアリマシタ、而シテ罹災地ノ安寧秩序ヲ保タンガ爲メニハ、非常ナル熱心ヲ以テ努力ヲ致シマシタガ、陸海軍ガ初期ニ於テ此目的ニ副フ爲メニ努力致シタノデアリマス、又當局ノ責任者ハ何レモ引續キ之ニ力ヲ合セテ努力シタノデアリマス、而シテ尙ホ安寧秩序ヲ保チマスル上ニ於テ、一日モ早ク其ノ目的ヲ達スルガ爲メニハ、復興復舊ニ關シテ大體ノ見當ヲ附ケテ置カナケレバナラヌノデアリマス、併シ此事業タルヤ、決シテ尋常一樣ノコトデハアリマセヌ、官民ガ非常ナル努力ヲ致シマシテ、互ニ相協力シテ其ノ大體ヲ盡スニ非ザレバ、其ノ目的ノ幾分ダモ達スルコトハ容易ノコトデハアリマセヌ、且又之ニ對スル責任者ハ、初メニ於テ帝都及橫濱其ノ他罹災地ノ復興及復舊ヲ大體ニ於テ如何ニスレバ宜シキカト云フコト、取リモ直サズ、昔ノ武藏野原ヲ其儘處理スルト云フ譯ニ參ラズ、先ヅ理想ト實際ヲ加味シ、大體ノ計畫ヲ致サレタノデアリマス、併シナガラ復興計畫ハ、國家ノ財政ト相俟ツテ考ヘナケレバナリマセヌ、且又、民間ノ經濟ヲモ考慮スル必要ガアリマス。

今ヤ實行期ニ入ラントスル時ニ當リマシテ、其ノ計畫ガ諸君ノ御希望ニ副ハヌコトガ多々アラウト思フノデアリマスガ、此等ハ前後本末ヲ明カニシテ、國家經濟ト民間經濟ト相俟ツテ相當ノ所ニ實質的復舊復興ノ計畫ヲ定メ、唯外見ノ飾リヲ良クスルニ非ズシテ、實質的ニ精神上ガ誠ヲ現ハシ、其ノ成ルヤ何人ガ見テモ眞摯ニシテ健全ナルモノデナケレバナラヌト信ズルノデアリマス、其ノ邊ノ事ニ對シテハ、吾々共ニ當事者ハ無論ノコト、又民間ノ中ヨリモ諸君ガ御出デニナツテ居リマスガ、深キ決心ト同情トヲ以テ、職務ニ對シテ協力ヲ爲サレテ、最大ノ努力ヲ盡サレ、以テ一日モ早ク此目的ヲ完成センコトヲ期スルニ外ナラヌノデアリマス。

玆ニ簡單ニ御挨拶ヲ述ベマシテ、尙ホ宜シク御運ビヲ希望致シマス。

復興院總裁挨拶

是カラ參與ノ各位ト共ニ帝都復興ノコトニ付テ御協議ヲ致シタイト存ジマス、本會ハ他ノ會議ト異リマシテ、院務ニ參畫シ、院務ノ完成ヲ期スル爲ニ御協議ヲ願フノデアリマスカラ、實ハ各位ノ御意見ヲ承ツテ然ル後初メテ之ヲ達成スル譯デアリマス、就テハ先ヅ當局トシテ調ベマシタモノガアリマスカラ、之ニ依ツテ大體ノ考ヲ申上ゲルコトニ致シマス。

又參與中各省ノ次官ニ在ツテハ、其ノ主管事務ニ關係アルコトニ付テ御意見ヲ承ルコトデアリマスケレドモ、其ノ御意見タルヤ必ズシモ主管事務ニ局限セラルヽコトナク、御氣附キノ點ハ御腹藏

ナク何ナリトモ御述ベ下サルコトニ願ヒタイノデアリマス。又各省ノ關係ニ於テ文書ヲ以テスル繁雜ナル往復ヲ避ケ、大要ノ御相談ヲ遂ゲラレマシテ、唯必要ナモノ丈ケ文書ヲ以テ御相談スルコトニ致シタイト云フコトモ、亦玆ニ各省次官ノ御多忙ナルニ拘ラズ參與ノ任命モ見ルニ至ツタ次第デアリマス。

而シテ次官以外ノ參與ノ各位ハ、其ノ有セラル、所ノ豐富ナル學識經驗ヲ以テセラレテ、當局ノ計畫ニ付テ、理想實現ノ上ニモ、實際利便ノ上ニモ、充分ナル御意見ヲ吐露セラレテ、遠算ナキコトヲ期セラレタイノデアリマス、尙ホ各省次官ノ外ニ陸軍海軍カラ參與ニ特ニ任命セラレマシタ方々ニ於テハ、其ノ職務上ニ關スル事ハ固ヨリ主ナル問題デアリマスガ、併ナガラ軍事ニノミ限局スル意見ノミデナク、廣ク御考ヘ下サツテ偏ニ御協力ヲ願フ次第デアリマスカラ、是亦一言申添ヘテ置キマス。

斯ル次第デゴザイマスカラ、本會議ニ於テハ敢テ議事規則ナドモ設ケマセス、總テ懇談的ニ議案ヲ進メテ行キタイト思ヒマス、此議モ併セテ御諒承ヲ願ヒマス。

私ハ帝都復興院ノ總裁ト致シマシテ、玆ニ就職致シマシタニ付キマシテハ、一言申上ゲテ置キタイト思フノデアリマス。

私ハ此重任ヲ擔ヒマシテ共ノ完キヲ致スコト能ハザルヲ恐レテ居ル譯デアリマス、今迄多少ノ都市計畫ニ從事シタ經驗モアリマスガ、此等ハ田舍芝居ニ過ギナイノデ、長春ノソレノ如キ、豪中豪北ノソレノ如キ、何レモ今回ノ帝都復興ニ比較シマシタナラバ、其ノ規模ノ大小固ヨリ日ヲ同ジクシテ論ズベカラザルモノデアリマシテ、唯今總理大臣ノ仰セノ如ク、帝都ノ復興ハ武藏野ニ物ヲスルノデナイト云フコトハ洵ニ金言デアルト私ハ考ヘルノデアリマス。ソレデアリマスカラ、所謂「位負ケ」「場所負ケ」ヲ致シマシテ、私ハ果シテ共ノ任務ヲ完ウスルコトガ出來ルヤ否ヤヲ恐レテ居ルノデアリマス、各位ニ於カレマシテモ私ノ此裏情ノ御諒察ヲ願ヒタイノデアリマス、サレバ世ノ中ニハ私ガ大層老大ナ計畫ヲスルナド、言ツテ居リマスガ、之ヲ既往ニ徵シテ見マスト、私ノヤツタ事ガ老大デ後チ困ツタト云フモノハナク、寧ロ今デハ狹小ナルヲ感ジテ居ル位デアリマス、是ヨリ推測スルモ私ハ徒ラニ老大ナルコトヲ努ムル譯デハナイノデアリマス、此邊モ亦各位ノ御賢察ヲ願ヒタイノデアリマス。

要スルニ此會議ハ、理事者ガ原案ヲ維持スルト云フヤウナ意味ト遠ヒマシテ、偶ゝ議事體ノ如ク見エマスノハ唯相談ヲ整理スル爲ノコトデアリマスカラ、左樣ニ御承知ヲ願ヒタイノデアリマス。

是レヨリ一言御挨拶ヲ申上ゲマス。

帝都ノ機能ヲ速ニ復活セシムル樣ニシタイトイフコトハ、輿論ノ一致スル所ト思ヒマス、乍併災後ニ善處スルノ策トシテ、單ニ震災前ノ舊態其儘ニ回復スルニ止ムルカ否カハ、獨リ東京及橫濱トイフ一市府ノ問題ダルニ止マラズシテ、我國將來ノ禍福ノ岐カルル重要ノ案件デ、之ガ決定ニ就テハ極メテ愼重ナル攻究ヲ必要トシ、之ガ實行ニ就テハ全國民ノ非常ナル覺悟ヲ要スルコト、存ジマス、若シ之ヲ唯原狀回復ノ程度ニ止メテ可イモノナラバ、問題ハ甚ダ簡單デアリ且容易ノ事デアリマセウ。

第一ニ、帝都ニ在リテハ震災前ニ於テサヘ既ニ百般ノ弊ニ堪ヘズシテ、都市計畫事業ニ着手セザルヲ得ザリシ程窮局シテ居タコトハ周知ノ事實ナリシコト、第二ニ、今回ノ大慘禍ノ跡ニ鑑ミレバ、此際一大英斷ヲ以テ相當ノ備ヲ爲スニ非ザレバ、帝都トシテノ機能ヲ完フスルコト能ハザルトニ想到スレバ、徒ニ因循姑息ノ

計ヲ墨守シテ、悔ヲ百年ノ後ニ貽シ、禍害ヲ後昆ニ傳フベキデナイト考ヘマス、假令如何ナル困難ガ前途ニ橫ハルニシテモ、飽ク迄之ヲ排シテ、須ラク長計ヲ按ジテ、帝都タルノ規模ニ稽ヘ、健全ナル帝都建設ノ業ヲ大成スルノ鴻圖ヲ立テ、財力ト事情ノ許ス範圍ニ於テ、着々之ガ實現ヲ期スルヲ以テ理想トシ、勇猛ニ策進シナケレバナラヌ筋合デアリマス。

恭シク帝都復興ニ關スル詔書ヲ拜シマスルニ、

抑ゝ東京ハ帝國ノ首都ニシテ、政治經濟ノ樞軸トナリ、國民文化ノ源泉トナリテ民衆一般ノ瞻仰スル所ナリ、一朝不慮ノ災害ニ罹リテ今ヤ其舊形ヲ留メスト雖、依然トシテ我國都タルノ地位ヲ失ハス、是ヲ以テ共ノ善後策ハ獨リ舊態ヲ回復スルニ止マラス、進ンテ將來ノ發展ヲ圖リ、以テ巷衢ノ面目ヲ新ニセサルヘカラス。

ト仰出サレテアリマス、是任ニ帝都復興ノ局ニ膺ルト否トヲ問ハズ、國民ノ齊シク謹ミ奉戴シテ些ノ過誤ナキヲ期シ、依リテ以テ禍害ノ跡ヲ斷ツト共ニ、興國ノ基ヲ固メナケレバナラヌコト、存ジマス。

然ルニ性質上自ラ單ナル一市府興廢ノ問題トシテ取扱フコトノ出來ナイ帝都ノ復興ヲ圖ルノ事ヲ目シテ、中央ノ施設ニノミ偏シテ、地方ヲ疲弊セシムルモノナリトスル向モアルガ、是ハ思ハザルノ甚シキモノデ、識者ハ必ズヤ今回ノ慘害ハ假令帝都ヲ含ム關東一部ノ地域ニ限局サレタルニ止マルニモセヨ、其影響スル所ハ容易ナラヌ事態ヲ釀シテ、直接ニ汎ク全國一般ニ波及シ、其ノ我國ノ產業及金融上等ニ與ヘタル影響ノ頗ル痛烈ニシテ深刻ナルモノアリシコトヲ體驗シテ、健全ナル帝都復興ノ基礎ヲ固ムルコトヲ以テ、剞下ノ最先急務ナリトシ、且之ガ實現ヲ期スルヲ以テ、今日ノ場合ニ於テ、全國ノ福利增進ノ爲ニ施設スル所以ナルコトヲ領解スルコトデアリマセウ。

以上ノ趣旨ニ依リテ、帝都復興ノ基礎案ナルモノガ、各位ノ協力ニ賴リテ速ニ適當ニ編成セラル、ニ至ラムコトハ、本官ノ切ニ期待スル所デ、之ガ參考案ハ御覽ニ入レテ、關係當局ヲシテ親シク御說明モ致サセ、各位ニ於テ御考ヘニナツテ居ル點モ腹藏ナク自由ニ御提議アリテ、篤ト御攻究ヲ煩ハシタイト存ジマス、夫ニ就テ一應ノ愚見ノ存スル處ヲ申上グレバ、帝都東京ハ帝國ニ於ケル政治文化及經濟ノ中樞ニシテ、單ナル消費ノ中心デハナイ、否之ヨリ國內到ル所ニ分派スベキ一大勢力（ライツ）ノ中樞ヲ構成スルモノナレバ、之ガ復興案ノ骨子ハ、東京ニ帝都タルノ適格ヲ具有セシムル爲相當ノ施設ヲ爲シ、商工業ノ中樞地帶ヲ設定シ、水陸ノ聯絡ヲ便易ニシ、凡帝都ノ交通衞生保安及經濟等ニ關シ、永久ニ安寧ヲ維持シ、福利ヲ增進スルノ重要施設計畫ノ進捗ヲ圖ルニ在ルト考ヘマス。

然ルニ東京ハ、イフ迄モナク先帝登極ノ初特ニ車駕東幸シテ宮城ヲ定メサセ給ヒテヨリ五十有六年ノ星霜ヲ閱シマシテ、既ニ帝都トシテノ規模モ略ゝ出來テ居マスシ、橫濱亦開港以來國港トシテノ使命モ定マツテオリマスカラ、第一ニ、橫濱港ハ帝都ノ關門タルニ適スルノ施設ヲ整ヘテ、東京トノ聯繫ニ意ヲ用キ、第二ニ各種營造物等ノ配置ニ留意シ、其災害ニ罹リ必ズシモ市內ニ存置スルノ必要ナキモノ、如キハ、出來得ル限リ之ヲ適當ノ地ニ移轉セシムル方針ニ則リテ、其跡地ノ利用ヲ完ウシ、第三ニ、既成ノ街路ト既定ノ計畫ニシテ自ラ帝都ノ規模ニ適シ、其ノ構築ノ規格ニ合スルモノハ可成之ヲ尊重スルハ勿論デアルガ、篤ト地域ノ性質ヲ案ジテ、交通ノ系統ヲ整シ、特ニ街路運河公園等ノ開通ニ意ヲ

注ギマシテ、建築物ハ震害及火災ヲ避クルニ足ルベキ街衢ノ上ニ造營スルノ途ヲ講ジテ、凡ソ此等帝都構成ノ基幹ト爲ルベキ施設ニ付テハ、他日ノ悔ヲ胎サザル樣ニ十分ノ備ヲ爲シ、第四ニ、此等ノ基礎計畫ニ伴ヒテ、或ハ建築敷地ノ利用ヲ定カラシムル爲、適當ナル土地區劃ノ整理ヲ遂ゲ、公共設備ニシテ失ハレタルモノノ回復ヲ圖ルハ勿論、下水廢棄處分等ノ施設ヲ始メ、市民ノ日常生活上必要ナル施設ニシテ爲スベクシテ殘サレタルモノ、經營ニ對シテ、着々共事功ヲ擧ゲル樣ニシタイト考ヘマス。

此等ノ施設中ニハ、素ヨリ都市ノ自治協力ニ俟ツヲ本則トスルモノモアリ、又帝都構成ノ基幹ト爲ルガ爲ニ、自治ノ運用ニ俟タシメ難キモノモアリマセウ、此等ハ須ラク事業ノ性質及種類ニ依リテ、適當ニ國ノ施設ニ俟ツベキモノト、地方ノ設營ニ俟ツベキモノトヲ區分按排スルコトニ依リテ、國ノ施設ト地方ノ施設ト兩々相俟チテ、一定ノ組織的計畫ニ基キテ、帝國ノ產業及經濟ノ復興ト相伴ハシメ、依リテ以テ完全ナル帝都復興成ルノ日ノ速ナランコトヲ切ニ希望スル次第デアリマス、終リニ今回ノ災害ニ對スル列國ノ同情ガ翕然トシテ我國ニ集マリシコトニ付テハ一言ナキヲ得マセヌ、就中米國ガ既ニ多額ノ金品ヲ寄贈シ來レルニ止マラズ、今尙同情ニ基ク寄附金ノ集マルモノ少カラズトイフ風デアルガ、此等ハ正ニ我帝都東京ノ世界的價値ヲ表示スルモノデハナイカト存ジマス、果シテ然ラバ、吾人ハ我帝都ヲ復興スルニ際シテハ、須ラク世界的資金ヲ以テ世界的都市ヲ再建スルノ慨ヲ以テ進ムベキデアツテ、若シ單ニ震災前ニ於ケル市街ノ舊態ヲ回復スルニ止マラシムルガ如キコトデアツテハ、何ノ面目アリテ列國ニ見ユルコトガ出來マセウ、彼ヲ思ヒ是ヲ想フニツケテモ、帝都ノ復興計畫ハ誰レニ見セテモ一點非難ノ打チ處ナキモノニシナケレバナラナイシ、又世界ノ期待ニ背カザルモノトシナケレバナラヌト思ヒマス、夫レニハ各位ニ負フ所ノモノ頗ル大ナルモノアリト信ジマスカラ、何卒十分ニ御貫献下サル樣ニ願ヒマス。

以上分リ切ツタ事ヲ長々ト申上ゲタヤウデアリマスガ、私ノ所信ヲ申述ベテ、サウシテ各位ノ御意見ヲ腹藏ナク承ルコトヲ希望スルノ餘リ、贅言ヲ費ヤシタ次第デアリマス。

尙ホ吳々モ申上ゲテ置キマスガ、議事ノ體裁ト云フコトヨリモ、意見ノ御交換ト云フコトヲ專ラトシテ戴キタイノデアリマス、ドウゾ左樣ニ御承知ヲ願ヒマス、是ヨリ御質問ガアリマスレバ充分御發言ヲ願ヒマシテ、副總裁以下各々其ノ主管ニ付テ御答ヘ申上ゲルヤウニ致サセマス、速記ハ取ツテ置キマスカラ、各位ノ後ノ御參考ニナツテ往クヤウニ致サウト思フテ居リマス、私ハ豫算會議ガゴサイマスノデ是カラ一時退席致シマスガ、濟ミ次第又戻ツテ參リマス、其ノ間丈ケ宮尾副總裁ニ座長ノ席ヲ代ツテ戴キマス、併シ必ズシモ各位ハ御發言ノ場合ニ座長ヲ呼ンデ戴格ニナサヌデモ宜シイ譯デアリマスカラ、其ノ邊モ御含ミヲ願ヒマス。

會議に入るや、復興事業の範圍方針に關して永田（秀次郎）、桐島（像一）、結城（豐太郎）各參與の質問あり、後藤總裁之を說明し、乃ち左の原案を付議す。

第一、主要街路ノ施設及其規格ニ關スル件

大震火災ノ慘害ニ鑑ミ、最交通系統ノ整備ニ意ヲ用キ、主要幹線ノ規格ハ之ヲ十五間以上二十四間トシ、豫メ高速鐵道ノ敷設ニ備ヘ、之ニ配スルニ幅員六間以上ノ街路ヲ以テシ、其ノ電氣軌道網ヲ構成スル路線ノ規格ハ十一間以上トシ、地域ノ情況交通ノ系統ニ稽ヘ、宜シキニ隨テ各路線ノ規格ヲ定メント欲ス。

第二、各種營造物ノ配置ニ關スル件

中央官廳學校其他官公ノ廳舍市場屠場等ノ營造物ノ配置ニ留意シ災害ニ罹リタル廳舍兵營學校寺院墓地工場其他公私ノ營造物ノ類ニシテ、利用上强テ在來ノ位置ニ存スルノ必要ナキモノハ、之ヲ郊外其他適當ノ地ニ移轉セシムルノ方針ヲ採リ、其ノ跡地ハ他ノ公用又ハ街路公園其ノ他公共ノ用ニ任スヘキモノノ外、所在地域ノ性質ニ依リ、之ヲ市街宅地トシテノ開發ヲ圖ラムト欲ス、

第三、建築ニ關スル件

市街地建築物法ニハ此際適當ナル修正ヲ加ヘ、特ニ保安ニ備ヘ、一切ノ建築物ハ復興計畫ニ從フモノヽ外、豫メ建築線ノ指定ヲ受クルニ非サレハ建築スル事ヲ得サラシメ、建築敷地ニシテ宅地トシテノ利用完カラサルモノニ對シテハ、土地區劃ノ整理ヲ遂ケ、必要ニ依リ街路ト併セ行ヒ、所在地域ノ性質ニ適從スル所アラシメムト欲ス。

第四、復興計畫ノ統制及復興事業ノ執行ニ關スル件

一切ノ復興計畫ハ帝都復興院ニ於テ企劃ヲ統制シ、之ニ基キテ施設スヘキ事業ノ執行ハ、出來得ル限リ地方自治制ノ運用ニ依ルヲ本旨トシ、帝都復興院ハ、特ニ委託ヲ受ケタルモノ又ハ特ニ必要アルモノヽ外、主トシテ帝都構成ノ基幹ト爲スヘキ施設ヲ擔當スルニ止メムト欲ス。

第五、復興事業費ノ負擔區分ニ關スル件

國ニ於テ執行スル事業ノ費用ハ、大體從來ノ例ニ依ルモノヽ外、事業ノ種類ニ從ヒ相當ノ率ヲ以テ關係公共團體ノ負擔ニ俟タシメ地方ニ於テ施設スル事業ニ對シテハ、法令等ニ別段ノ定アルモノヽ大體其例ニ依リ、其ノ他ハ事業ノ種類ニ從ヒ、適當ノ率ヲ以テ國庫ヨリ補助セムト欲ス。

第六、復興事業費ノ財政計畫ニ關スル件

帝都復興ハ帝國ノ產業及經濟ノ復興ト相須タシメ、復興事業ハ可成速ニ完成セシムルモノトシ、之ニ要スル經費ハ、起債（割增金附小額債券ヲ含ム）ニ俟チ、地方費ノ負擔ニ屬スルモノニ付テハ必要ニ應シテ國ヨリ資金ノ貸付ヲ爲シ、此資金ハ復興事業ノ竣功スル迄ノ間無利息トシ、復興スルニ隨テ可成短期間ニ償還セシムルノ方針ニ依リ、財政計畫案ヲ確定セムト欲ス。

說明質問後、特別委員設置ノ動議成立し、總裁より左の委員を指名して散會す。

第一小委員（議案第一乃至第三に關する事項）

委員長海軍次官岡田敬介、委員官內次官關屋貞三郎、內務次官塚本清治、大藏次官西野元、陸軍次官宇垣一成、文部次官赤司鷹一郎、農商務次官岡本英太郎、遞信次官若宮貞夫、鐵道次官中川正左、本多靜六、丹羽鋤彥、長尾半平、結城豐太郎、矢野恒太、磯村豐太郎。

第二小委員（議案第四乃至第六に關する事項）

委員長桐島像一、委員內務次官塚本清治、大藏次官西野元、法制局長官松本烝治、東京市長永田秀次郎、東京府知事宇佐美勝夫、加藤恭平、米山梅吉、神奈川縣知事安河內麻吉、橫濱市長渡邊勝三郎。

第三小委員（物資供給に關する事項）
委員長農商務次官岡本英太郎、委員外務次官松平恒雄、宮內次官關屋貞三郎、內務次官塚本清治、遞信次官若宮貞夫、鐵道次官中川正左、東京市長永田秀次郎、橫濱市長渡邊勝三郎、磯村豐太郎、加藤恭平、米山梅吉。

特別委員會
甲、第一委員會　大正十二年十一月二日、四日、六日の三回開會して攻究する所あり、大要左の諸項を決定す。

第一委員會決定要領

第一項ニ關スルモノ

一、主要路線ニ關スル實行案ヲ編成スルコトハ當局ニ任スコト從テ甲乙案其他各種ノ案ニ對シテノ說明ヲ諒シ、當局ノ取捨ニヨリ完全ナル案ヲ作ルコト。

二、街路及運河ノ擴張及延長ノ必要ヲ認ム、之カ配置ハ適當ニ當局ニ於テ按配スルコト、尙運河配置ニ當リテハ、出來得ルナラハ、四堰留ヲ延長シテ神田川ニ通スル運河ヲ考慮ニ置クコト。

三、主要幹線街路ノ幅員ハ十五間以上三十間トシ、必スシモ一律同幅ノ規格ニ依ルヲ要セサルノ趣旨ニ依リ、其ノ實際ノ詮衡ヲ適當ニ爲スコト。
電車ヲ通スル線路ノ幅員ハ十三間以上ヲ原則トシ、十一間迄下ルコトヲ得。

四、土地ノ收用ハ區劃整理ノ方法ニ依ルコト。

五ノ一、隅田川河口芝浦築港京濱運河ハ原案ニ從ヒ施行スルコト、但シ京濱運河ハ經費ノ都合上出來サレハ計畫タケナリトモ爲シ置クコト。

五ノ二、京濱運河ハ之カ利用ノ日數極メテ少ナキモノナルニヨリ、此際之ニ對シ經費ヲ役シテ施行スル必要ナキコトノ丹羽氏ノ反對意見アリ。

五ノ三、京濱運河ニ就キ海邊ニ之ヲ設ケ、其陸側タケヲ工業地帶トナス案ノ外、寧ロ工業地帶ニ重キヲ置クノ立場ヨリ、運河ヲ更ニ一層、陸地寄ニ設クル案ノ調査ヲ望ムトノ委員ノ希望アリ。

五ノ四、永代橋以下ノ隅田川ハ、川幅ヲ擴大シ、之ヲ二十四尺迄浚渫ノ調査ヲ望ムトノ委員ノ希望アリ。

五ノ五、隅田川下流沿岸ニハ倉庫地帶ヲ設置シ、之ニ配スル道路ヲ考慮スルコト。

六、地下埋沒物ニ對シテハ當局ノ說明ヲ諒トシ、一系統ニ統一施設スルコトハ之ヲ見合スコト、但シ類似ノモノハ成ルヘク統一集合シテ埋沒スルコト。

七、高速度鐵道ハ、各種ノ案ノ說明ヲ綜合シ、之ヲ根本トシ、街路ノ系統ヲ之ニ調和セシムルコト。

八、鐵道當局ニ於テ可成市內ノ中心ニ近キ地區ニ於テ貨物驛ヲ新設改良擴張セントスルハ、一ニ市內小運送ノ費用ヲ輕減セントスルノ趣旨ニ外ナラス、就テハ市內電車ノ貨物夜間運轉市內運河ノ改良擴張並驛附近ニ於ケル倉庫ノ設備等、荷物ノ積卸及保管ノ便ヲ計ル必要アリトノ鐵道當局ノ意見ハ、之ヲ考慮スヘキコト。

九、海嘯ニ對シテハ適當ノ防禦方法ヲ考慮スヘキコト。

十、空中攻擊ニ對シテ防禦方法ヲ講スヘシトノ意見ニ付十分ニ考慮スルコト。

第二項ニ關スルモノ

一、學校敷地ニ付適當ノ位置ヲ撰定シ、實際ノ必要ニ應シ擴張ヲ圖リ、兒童公園ノ用ヲ兼ネシムルコト。

二、參與ヨリ提出ノ希望、左ノ如シ。

イ、既設ノ公園ヲ整理擴張スルト同時ニ、新ニ適當ノ位置ニ各種公園ヲ設置シ、就中大中ノ公園ハ之ヲ公園連絡廣路又ハ幹線廣路ニヨリ互ヒニ系統的ニ聯絡セシメ、以テ全市ノ公園ヲ有機的ニ活用セシムルコト。

ロ、河海濠池ノ沿岸ハ成ルヘク之ヲ公園又ハ公園連絡廣路ニナシ、船着場荷揚場倉庫其他公共用ノ外、成ルヘク普通住宅ヲ許サヽルコト。

ハ、公園及ビ公園連絡廣路並ニ公園廣路兼用幹線道路ノ合計面積ハ全地積ノ一割以上トナスコト。

ニ、以上ノ諸設備ハ、平時ニハ市ノ裝飾ト保健ノ用ニ資シ、非常ノ際ニハ何レノ住民モ數町ノ距離ニシテ、公園又ハ廣路ニ出テ、安全ニ避難シ得セシムルヲ目的トシテ設計スルコト。

第三項ニ關スルモノ

第三項ニ關シテハ原案ヲ承認シタル外、尙左ノ希望條項ノ提出アリタリ。

一、車輛ヲ道路ニ放置セサル樣相當考慮セラレタキコト。

二、復興計畫ニ於テ建築物ニ對シテハ相當ノ低利資金ヲ貸出スカ、又ハ材料ノ供給ヲ便宜ニスル等、適當ナル助成方法ヲ考慮セラレタキコト。（參與提出）

三、建築助成ノ方法トシテ右需要者ニ低利資金ノ貸出ヲナスコト必スシモ不可ナラサルモ、或ハ卸テ商人ヲ利スルコトヲ助成スル恐ナキニシモアラス、寧ロ建築材料ノ供給ヲ豐富ニシ、且其價格ヲ低廉ナラシムル方法ヲ講セラレ度シ。（參與提出）

四、復興計畫ヲ急キ、本建築ニ着手シ得ル日ノ一日モ早クセラレ度キコト。（參與提出）

乙、第二委員會　は、大正十二年十一月二日、七日二回の開會あり、左の如く決定す。

第二委員會決定要領

議案第四ハ之ヲ承認シ、第五ニ付テハ、「大體從來ノ例ニ依ルモノノ外」、及「法令等ニ別段ノ定アルモノハ大體其例ニ依リ、其ノ他ハ」、第六ニ付テハ「割增金付小額券ヲ含ム」ヲ削ルコト、シ、大體之ヲ承認セリ。

丙、第三委員會　は、大正十二年十一月二日を以て開會し、物資供給に關して攻究す。

第二回參與會は、十一月九日午後四時內相官邸に開催す、後藤總裁座長たり、第一特別委員長岡田參與より委員會の經過結果を報告し、長尾安河內三宅渡邊湯淺各參與、對後藤總裁松本副總裁直木技監等の間に回答あり、委員長の報告を承認し、次に第二特別委員長桐島參與審議の經過を報告し、米山安河內丹羽各參與より發言あり、亦委員長の報告通り承認す、尋で第三特別委員岡本參與の報告あり、亦委員長報告を承認し、午後六時四十分を以て散會す。

第三、評議會　活動の大要左の如し。

第一回評議會は、十一月十五日午後二時二十分首相官邸に開會したり、議案は、

諮問第一號

帝都復興院評議會

左ノ件ニ付、其ノ會ノ意見ヲ諮フ。

大正十二年十一月十五日　帝都復興院總裁子爵後藤新平

一、復興計畫區域及復興事業ノ規模ニ關スル件。
二、復興計畫ノ統制及復興事業ノ執行ニ關スル件。
三、復興事業ノ負擔區分ニ關スル件。

一、復興計畫區域及復興事業ノ規模ニ關スル件

復興計畫ノ區域ハ、大體ニ於テ東京及横濱ノ都市計畫區域ニ則リ地域ニ關スル制亦大體規定ノ方針ニ從ヒ、既住ノ成蹟ト大震火災ノ慘害ニ鑑ミ、又特ニ將來ノ發展ニ意ヲ用ヰ、大要左ノ如ク其規模ヲ定メムトス。

一、街路　街路ノ擴築ニ就テハ特ニ交通幹線ノ配置ニ意ヲ用ヰ、主要街路ノ規格ハ幅員十五間乃至三十間トシ、以テ豫メ高速度鐵道ノ敷設ニ備ヘ、配スルニ幅員六間以上ノ街路ヲ以テシ、又電氣軌道網ヲ構成スル路線ノ規格ハ十一間以上トシ、地域ノ情況ト交通ノ系統ニ稽ヘ、各路線ノ配置及規格ヲ定メムトス。

二、公園及市場　公園及市場ノ位置ヲ凡ソ左ノ如ク定メムトス、

(一)公園　官公有地ヲ公園用地トスルモノヽ外、數箇所ニ遊園ヲ設ケ、尚出來得ル限リ燒跡地域内ニ於ケル小學校地ヲ擴張シ兒童公園ノ用ヲ兼ネシメムトス。

(二)市場　中央市場ハ築地海軍省用地跡ニ設ケ、蔬菜市場ハ兩國秋葉原兩驛附近ニ設ケムトス。

三、防火地區建築助成　防火地區ニ就テハ、既定計畫ノ外、前掲新設主要街路ノ沿道ニ路線形ノ防火地區ヲ設定シ、特ニ商業中樞地區ニ於テハ、集團的防火地區ヲ擴張シ、其ノ防火地區内ニ於ケル不燃質建築ニ對シテハ適當ノ方法ニ依リ之ヲ助成セムトス。

四、土地區劃整理　街路ノ新設又ハ擴築ニ圖リ、建築敷地トシテノ利用完カラサルモノヲ生シタルトキ、其ノ他土地ノ情況ニ依リ必要アルモノニ付テハ、土地區劃整理ヲ行フモノトス。

五、港灣運河　横濱港ヲ以テ帝都ノ外港トシ、隅田河口ニ内港ノ設備ヲ施シ、兩港ノ聯絡ヲ完全ニシ、且ツ沿岸工業地域ノ開發ニ資スルカ爲、京濱運河ヲ開鑿シ、又市内水道ノ便ヲ增進スル爲ニ必要ナル運河ヲ新鑿改修シ、沿岸ニ適當ナル倉庫地帶ヲ設定セムトス。

二、復興計畫ノ統制及復興事業ノ執行ニ關スル件

東京及横濱ニ於ケル復興計畫ハ、其ノ連絡統一ヲ保持スル爲、帝都復興院ニ於テ之ヲ統制シ、之ニ基キテ執行スル事業ニシテ、其ノ都市構成ノ基幹ト爲スヘキ重要ナル施設、即チ(一)主要街路ノ新設及擴築、(二)港灣ノ築設、(三)河川運河ノ改修及開鑿、(四)其ノ他特ニ必要アルモノハ、帝都復興院之ヲ執行シ、其他ハ地方公共團體ノ施設ニ委ネムトス。

三、復興事業費ノ負擔區分ニ關スル件

國ニ於テ執行スル事業ノ費用ハ、其ノ事業ノ種類ニ依リ、相當ノ率ヲ以テ關係公共團體ニ之ヲ分擔セシメ、又地方ニ於テ施設スル事業ニ對シテハ、其ノ事業ノ種類ニ從ヒ適當ノ率ヲ以テ國庫ヨリ補助シテ之ヲ助成セムトス。

附屬書類

街路之部

番號	路線(起點及經過地)	延長(約)間	幅員間
一、	品川町ヨリ木芝一丁目、芝口一丁目、木挽町、江戸橋、和泉橋、車坂町三ノ輪町ヲ經テ千住町大橋ニ至ル	八、〇二〇	一八乃至二四
内譯	品川ヨリ木芝一丁目迄	一、八五〇	一八
	右終點ヨリ芝口一丁目迄	一、一五〇	二〇
	右終點ヨリ車坂町迄	三、一五〇	二四
	右終點ヨリ千住大橋迄	一、八六〇	一八
二、	九段坂下ヨリ南神保町、兩國橋ヲ經テ龜戸町ニ至ル	三、四一〇	一五乃至二四
内譯	九段坂下ヨリ南神保町迄	三一〇	一八
	南神保町ヨリ兩國橋西詰迄	一、四九〇	二四
	兩國西詰ヨリ龜戸町迄	一、六一〇	一五
三、	吳服橋外ヨリ永代橋ヲ經テ砂町ニ至ル	二、九二〇	二〇
四、	有樂町一丁目ヨリ尾張町、木挽町三丁目、築地三丁目ヲ經テ月島二號地ニ至ル(隅田川ヲ含マス)	一、二五〇	一五乃至二〇
内譯	有樂町一丁目ヨリ木挽町三丁目迄	四八〇	二〇
	木挽町三丁目ヨリ築地三丁目迄	二三〇	一八
	築地三丁目ヨリ月島二號地迄	五四〇	一五
五、	築地三丁目ヨリ入船町、龜島町、濱町三丁目、淺草橋、南元町、芝田原町ヲ經テ金杉下町ニ至ル	四、二四〇	一八
六、	上野公園前ヨリ駒形町ヲ經テ押上町ニ至ル	二、〇〇〇	二〇
七、	東京驛東口城邊河岸ヨリ下槇町、龜島橋ヲ經テ新船松町ニ至ル	八五〇	一三乃至二八
内譯	東京驛東口ヨリ下槇町迄	二三〇	二八
	下槇町ヨリ龜島橋西詰迄	一九〇	一八
	龜島橋西詰ヨリ新船松町迄	四一〇	一二
八、	永樂町一丁目壕端ヨリ元千代田町ニ至ル	一一〇	四〇
九、	櫻田門外ヨリ新議事堂前ニ至ル	三二〇	三〇
一〇、	相生橋南詰ヨリ和倉町、相生町ヲ經テ中ノ郷竹町ニ至ル	二、七八〇	一三五乃至二〇
内譯	相生橋南詰ヨリ和倉町迄	六九〇	二〇
	和倉町ヨリ中ノ郷竹町迄	二、〇九〇	一三五
一一、	東京驛北口錢瓶町ヨリ新常磐橋、小傳馬町一丁目ヲ經テ淺草橋ニ至ル	八七〇	一五
一二、	神田橋内ヨリ淡路町一丁目ヲ經テ本郷三丁目ニ至ル	一、二九〇	一五乃至一八
内譯	神田橋内ヨリ淡路町一丁目迄	四二〇	一八
	淡路町一丁目ヨリ本郷三丁目迄	八七〇	一五
一三、	一ツ橋ヨリ南神保町、水道橋、植物園前、大塚跨道橋ヲ經テ巣鴨町庚申塚ニ至ル	三、七八〇	一三乃至二〇
内譯	一ツ橋内ヨリ大塚跨道橋迄	三、一八〇	一五
	大塚跨道橋ヨリ巣鴨町庚申塚迄	六〇〇	一二
一四、	大手町一丁目ヨリ一ツ橋、内雉子橋、新川橋、飯田橋、山吹町、音羽五丁目ヲ經テ高田町ニ至ル	四、〇五〇	一五乃至二〇
内譯	大手町一丁目ヨリ一ツ橋内迄	三四〇	二〇
	一ツ橋内ヨリ高田町迄	三、七一〇	一五
一五、	市ケ谷見附ヨリ市ケ谷谷町ヲ經テ淀橋町跨道橋ニ至ル	一、七二〇	一五
一六、	溜池町ヨリ六本木町、青山六丁目ヲ經テ道玄坂下ニ至ル	二、四〇〇	一五
一七、	虎ノ門ヨリ西久保神谷町、中ノ橋、白金臺町ヲ經テ目黒驛ニ至ル	三、〇九〇	一五
一八、	櫻田本郷町ヨリ芝公園ニ至ル	五八〇	一八
一九、	鍛冶橋外ヨリ柳町、彈正橋、高橋ヲ經テ箱崎町四丁目ニ至ル	八八二	一三乃至一八

	内譯	假治橋外ヨリ柳町迄	二八〇　六
		柳町ヨリ箱崎町迄	六四二　三
二〇、		芝口一丁目ヨリ虎ノ門ヲ經テ赤坂見附ニ至ル	一、三一〇　八
二一、		一ツ橋外ヨリ鎌倉河岸城邊河岸ヲ經テ新橋畔ニ至ル	二、〇八〇　一三
二二、		雉子橋内ヨリ九段坂下ヲ經テ飯田町三丁目ニ至ル	八四〇　一三
二三、		九段坂下ヨリ富士見町一丁目、牛藏門前ヲ經テ新議事堂前ニ至ル	一、三五五　一三
二四、		鎗殼町二丁目ヨリ人形町通ヲ經テ岩本町ニ至ル	八六〇　一三
二五、		壹岐殿坂下ヨリ本郷一丁目、二長町、御藏前片町法恩寺橋ヲ經テ龜戸町ニ至ル	三、六八〇　二乃至一三
	内譯	壹岐殿坂下ヨリ御藏前片町迄	一、八五五　一三
		御藏前片町ヨリ龜戸町迄	一、八二五　一三
二六、		淺草區村木町ヨリ吉野橋ヲ經テ三ノ輪ニ至ル	一、四〇〇　一三
二七、		兩國橋東詰ヨリ兩國畔ニ至ル	九五　一八
二八、		四谷大久保町ヨリ新宿畔ニ至ル	八〇　一八
二九、		木挽町九丁目ヨリ築地四丁目ニ至ル	二一〇　一三
三〇、		南元町ヨリ厩橋通黒船町ニ至ル	八〇〇　一三
三一、		深川公園前ヨリ砂町ニ至ル	一、三五〇　一三
三二、		濱町三丁目ヨリ中洲町石島町ヲ經テ砂町ニ至ル	二、一四〇　一三
三三、		濱町三丁目ヨリ新大橋、蔵川橋ヲ經テ大島町ニ至ル	一、四五〇　一三
三四、		中ノ郷元町ヨリ寺島町ニ至ル	一、〇九〇　一三
三五、		山ノ宿町ヨリ龜岡町ヲ經テ橋場町ニ至ル	八六〇　一三
三六、		吉野橋ヨリ南千住町常磐路切ニ至ル	九五〇　一三
三七、		大手町一丁目ヨリ北鞘町、荒布橋濱町一丁目ヲ經テ兩國橋西詰ニ至ル	一、六五〇　一三

三八、龍閑橋北詰ヨリ緋屋町、美倉橋、竹町ヲ經テ入谷町ニ至ル　二、一四〇　一三

三九、道三町ヨリ鎌倉河岸、昌平橋、天神町二丁目ヲ經テ池ノ端七軒町ニ至ル　一、九二五　一三

四〇、鴨宮下ヨリ大塚辻町ヲ經テ池袋ニ至ル　一、〇四〇　一三

四一、霞町ヨリ廣尾町ヲ經テ惠比須畔前ニ至ル　一、四三〇　一三

四二、今入町ヨリ愛宕町ヲ經テ赤羽橋南詰ニ至ル　一、〇六〇　一三

四三、千束町一丁目ヨリ龜岡町ニ至ル　六三〇　一三

四四、入谷町ヨリ山ノ宿町淺草畔前本所畔脇ヲ經テ洲崎ニ至ル　二、八三〇　一三

四五、先布橋東詰ヨリ思案橋ヲ經テ小網町四丁目ニ至ル　二一〇　一三

四六、西久保神谷町ヨリ字田川町ニ至ル　三五〇　一三

公園之部

名稱	坪數	摘要
隅田公園	四〇、〇〇〇坪	隅田川沿岸
江東公園	四〇、〇〇〇〃	深川御料地附近
日本橋公園	一〇、〇〇〇〃	日本橋區内

港灣之部

第一、橫濱港

稅關設備ヲ復舊シ、第三期擴張計畫ヲ遂行ス。

第二、東京港

港門ヲ大森地先ニ設ケ、航路ヲ芝浦地先ニ導キ、繫船埠ヲ築造シ、永代橋以下ヲ浚渫シ、緩溜及船溜ヲ設ケ、防波堤及導流柵ヲ配置ス。

航路　延長約三千百間、幅員百間、水深朔望干汐平均水面以下二十五尺。

船溜　水深二十五尺、面積約五十六萬坪。

緩溜　水深十二尺、面積約十二萬坪。

永代橋川口間　延長約千四百間、幅員八十間、水深二十尺。

繫船岸壁　水深二十五尺、岸壁日ノ出町及芝浦町地先、延長約千三百間。

物揚場　水深八尺、品川停車場先、延長約八百四十間。

防波堤　各砲臺ヲ連結シ、月島地先ニ約千九十間ノ假防波堤ヲ設クルノ外、砲臺外航路ヲ擁シテ左ノ防波堤ヲ築造ス。

南防波堤　延長千五百間。

北防波堤　延長千五百間。

陸上設備　上屋約三千七百坪。

運河之部

第一、京濱運河

神奈川縣鶴見地先ヨリ、六鄕川ヲ橫斷シテ大森地先ニ至ル、延長約八千九百間、幅員五十間ヲ、朔望干潮平均水面以下十二尺ニ浚渫ス。

第二、市內運河

番號	名稱	延長(間)	幅員(間)	深度(零點下尺)	備考
新築	第一	三三〇	二二	六	新築第二ト共ニ橫十間川ヲ洲崎川ニ連絡スルモノ
〃	第二	三五〇	〃	〃	新築第一ト共ニ洲崎川ヲ橫十間川ニ連絡スルモノ
〃	第三	一三〇	〃	〃	同大島川ノ曲線部ヲ直繫スルモノ
〃	第四	一六〇	一八	〃	築地川ト楓川ヲ連絡スルモノ
〃	第五	二九〇	〃	〃	東堀留川ト西堀留川及濱町川ヲ連絡スルモノ
改修	小名木川	一、三五〇	三〇	七	

改修築地川		三〇〇	二六	六
〃	紳田川	七八〇	〃	〃
〃	日本橋川	二六〇	〃	〃
〃	橫十間川	二、〇一〇	二二	〃
〃	大島川	一、一一〇	〃	〃
〃	洲崎川	二五〇	〃	〃
〃	北十間川	五七〇	〃	〃
〃	源森川	三四〇	〃	〃
〃	平久川	二三〇	〃	〃
〃	汐留川	二二〇	〃	〃
〃	築地川	六二〇	〃	〃
〃	楓川	六七〇	〃	〃
〃	京橋川	三三〇	〃	〃
〃	櫻川	四一〇	〃	〃
〃	西堀留川	二一〇	〃	〃
〃	東堀留川	三〇〇	一五	〃
〃	濱町川	四九〇	一八	〃

橫濱街路之部

番號	路線(起終點及經過地)	延長(約)	幅員	
一、	國道第一號線市鄙境界子安町ヨリ東神奈川驛前神奈川現橫濱驛前戶部六丁目鹽田久保町道上ヲ經テ保土ケ谷町岩間ニ至ル	四、九六九	一〇乃至一八	間
	内譯 市鄙境界子安町ヨリ東神奈川驛前十番町迄	一、四二五	一五	
	有終熟ヨリ現橫濱驛廣場迄	一、四二五	一八	
	有終熟ヨリ久保町道上迄	一、〇一〇	一二	
	有終熟ヨリ保土ケ谷町岩間迄	六四五	一〇	
二、	現橫濱驛廣場ヨリ花咲町櫻木町驛前、辨天橋、本町四丁目ヲ經テ萬國橋南詰ニ至ル	一、二一	九乃至一五	

内訳 現橫濱驛前場ヨリ辨天橋東詰迄　七七六　九
一、右鉄路ヨリ萬國橋南詰迄　四五五　一五
二、本町四丁目ヨリ本町一丁目ニ至ル　三三四　一五
三、本町三丁目ヨリ眞砂町、羽衣町、足曳町、南吉田町、苞田町ヲ經テ大岡町高等工業學校前ニ至ル　二、四二六　二乃至一五
内訳 本町三丁目ヨリ南吉田町七ツ目ニ至ル　一、四二六　一五
一、右鉄路ヨリ大岡町高等工業學校前迄　一、〇〇〇　三
四、南吉田町南六ツ目ヨリ中村町、根岸町、瀧頭町、瀧頭町、八幡橋四詰ヲ經テ櫻子町郡市境界ニ至ル　二、三四〇　一二
五、大江橋南詰ヨリ馬車道、尾上町四ノ橋西詰、元町、北方町ヲ經テ本牧町原ニ至ル　二、三六〇　二乃至一四
内訳 大江橋南詰ヨリ四ノ橋北詰迄　九二　一三
一、右鉄路ヨリ本牧町原ニ至ル　一、六八〇　三
六、神奈川隧橋ヨリ反町、神奈川二ツ谷、東神奈川驛裏ヲ經テ郡市境界六角橋ニ至ル　一、二〇〇　九乃至一五
内訳 神奈川隧橋ヨリ神奈川二ツ谷迄　三五　九
一、右鉄路ヨリ郡市境界六角橋迄　八五　一五
七、神奈川隧橋ヨリ反町、神奈川二ツ谷、東神奈川驛裏ヲ經テ郡市境界六角橋ニ至ル　一、二〇〇　九乃至一五
内訳 神奈川隧橋ヨリ神奈川二ツ谷迄　三五　九
一、右鉄路ヨリ郡市境界六角橋迄　八五　一五
八、淺間町（國道橫濱中野線ヨリ四戸部町鹽田、藤棚南太田町、假町、吉岡町五丁目ヲ經テ中村町ニ至ル　二、一五〇　九乃至一三
ツ目ニ至ル
淺間町ヨリ四戸部町（俗稱藤棚）迄　三五〇　一三
内訳 右鉄路ヨリ假町迄　二五〇　一〇
一、右鉄路ヨリ吉岡町五丁目迄　二三〇　一三
右鉄路ヨリ中村町迄　三六〇　九
九、神奈川町隧橋東詰ヨリ東輕井驛、淺間下ヲ經テ淺間町供謄寺前ニ至ル　一、四六〇　九乃至一三
内訳 神奈川町隧橋東詰ヨリ淺間下迄　八四五　九
一、右鉄路ヨリ淺間町供謄寺前迄　六一五　六
一〇、國道第一號線神奈川町ヨリ東神奈川驛ニ至ル　一、二六〇　一三
一一、平沼橋南詰ヨリ岡野町新田間橋ヲ經テ淺間下ニ至ル　九七〇　一五
一二、橫濱稅關前　三五〇　一〇
一三、北方町小港ヨリ新山下町ニ至ル　三五〇　一〇
合計　二九、八六二

谷ニ至ル
一一、國道第一號線子安町ヨリ神ノ木ニ至ル　四五〇　九
一二、四平沼町ヨリ伊勢町、野毛町、日ノ出町、長者橋ヲ經テ千秋橋南詰ニ至ル　一、四四八　一〇乃至一二
西平沼町ヨリ伊勢町ニ至ル　六八五　一二
内訳 右鉄路ヨリ日ノ出町ニ至ル　三五〇　一〇
右鉄路ヨリ千秋橋南詰ニ至ル　四二六　一二
一三、東橋ヨリ中村町字打越ヲ經テ山元町ニ至ル　三五〇　一〇
一四、石川町二丁目ヨリ中村町中村橋ヲ經テ蒔田町六反目ニ至ル　一、二〇〇　九
一五、藤田町六反目ヨリ非土ケ谷町、大岡川村永田ヲ經テ保土ケ谷町岩間ニ至ル　一、三五五　九乃至一三
蒔田町六反目ヨリ非土ケ谷町法心下迄　六〇〇　九
内訳 右鉄路ヨリ大岡川村永田迄　四二五　一三
右鉄路ヨリ保土ケ谷町岩間迄　三五〇　一〇
一六、櫻木町一丁目ヨリ野毛町三丁目、日ノ出町、物音町、南太田町ヲ經テ井土ケ谷町ニ至ル　一、二二〇　九
一七、四戸部町鹽田ヨリ同町反目ニ至ル　四七五　九
一八、千歳町二丁目ヨリ千歳橋ヲ經テ南吉田町字南七ツ目ニ至ル　一、四六五　一三
一九、新橫濱驛ヨリ平沼町三丁目ヲ經テ現橫濱驛廣場ニ至ル　三一三　一八
二〇、國道第一號線神奈川町ヨリ東神奈川驛ニ至ル　一二六　一三
二一、平沼橋南詰ヨリ岡野町新田間橋ヲ經テ淺間下ニ至ル　九七　一三
二二、橫濱稅關前　三五〇　一〇
二三、北方町小港ヨリ新山下町ニ至ル　三五〇　一〇
合計　二九、八六二

橫濱公園之部

名稱	坪數	摘要
日ノ出川公園	四、八〇〇	日ノ出川跡地
山下公園	二五、〇〇〇	山下町埋立地
野毛山公園	二〇、〇〇〇	野毛山貯水池跡及隣接地
神奈川公園	六、〇〇〇	神奈川區有水面埋立地
計	五三、八〇〇	四ケ所

橫濱運河之部

運河（起鉄熙及經過運河々川名）　延長（約）　幅員
山下橋ヨリ堀川、中村川及堀割川ヲ經テ八幡橋ニ至ル　二、六〇〇間　八間

山本首相後藤總裁阪谷（芳郎）評議會長の挨拶あり。

山本首相挨拶

諸君、玆ニ帝都復興院ニ於ケル評議院會ヲ開キマスルニ當リマシテ、諸君ト相見エ聊カ所見ヲ披瀝スルノ機會ヲ得マシタルハ最モ欣幸トスル所デアリマス、惟フニ帝都復興ノ事業ハ、曾ニ一市府ノ問題ニ非ズ、其ノ關係スル所國家全體ニ大ナル影響ヲ及ボスモノデゴザイマス、故ニ是ガ計畫ト實行トニ依リマシテハ、充分ナル注意ヲ拂ヒマシテ萬遺憾ナキコトヲ期セネバナラヌト申スコトハ異議ノナイコトデアラウト存ズルノデアリマス長多クモ　陛下ニ於カセラレマシテハ、深ク震災後ノ帝都復興ニ關シ叡慮ヲ惱マセラレ、特ニ優渥ナル御沙汰ヲ賜リマシタコトハ、各位ノ充分ニ諒知セラルル所デゴザイマス、之ニ對シマシテ政府ハ厚ク聖旨ノ在ル所ヲ奉戴致シマシテ、豫算ノ範圍ニ於キマシテ緊切且ツ實際的ノ方法ニ依リマシテ、萬遺憾ナキヲ期シマシテ、復興ノ大事業ヲ充分徹底的ニ成功致シタイト希望スルノデゴザイマス、諸君如上ノ趣意ヲ御熟考ニナリマシテ充分ニ且ツ熱心ニ是ガ成功ヲ期スルコトニ御盡力アランコトヲ偏ニ希望致スノデゴサイマス、即チ簡單ナガラ右ノ趣意ヲ以テ御挨拶ニ代ヘタイト思フノデゴザイマス。

後藤總裁挨拶

帝都復興院總裁ト致シマシテ一言御挨拶ヲ申上マス。

復興審議會ニ關スル官制ハ、九月十九日ニ公布セラレ、亞イデ九月二十七日ニ帝都復興院ノ官制ガ發布セラレマシタ、而シテ又帝都復興院評議員及參與ノ諸君ノ任命ハ、十月十八日ニ行ハレマシタノデアリマス、斯ノ如ク帝都復興ノコトニ付キマシテハ、急ヲ要スルコトデアルニ拘ラズ、當局ト致シマシテハ其調査ニ日ヲ費シマシテ、今日漸ク各位ノ御參集ヲ仰グコトニナリマシタノデアリマス、之ガ爲ニ帝都ノ市民ハ勿論、內外人共ニ均シク目ヲ着クル所デアリマシテ、一日モ早ク此發表ヲ見ルコトヲ熱望致シテ居ルコトハ今更玆ニ言フヲ俟タヌコトデアリマス、ケレドモ、此調査タルヤ實ニ諸般ノ事ニ渉リマシテ、其ノ進行モ意ノ如クナラザルコトハ、當局自カラ遺憾トスル所デアリマス、各位ノ御任命ノアリマシテカラ今日迄遷延シマシタコトニ付テハ、當局自カラ其ノ責ヲ免レザルコト、恐縮致シテ居ル次第デアリマス。

帝國復興ガ帝都復興ヲ促スモノデアリマシテ、帝都復興ノコトハ全ク帝國ノ復興ノ力ニヨッテ完成スルト申シテモ好イ位デ、是レ唯一部ノコトデナイト云フコトハ、唯今總理大臣ノ御挨拶中ニモアツタヤウナ次第デアリマス、從ツテ此事ニ付マシテハ、物質的精神的此兩方面ニ關係ヲ持ツコトデアリマスガ故ニ、評議會ニ於テハ各方面ノ方々ニ御願ヒヲスルコトニナリマシテ、

是ニ伴ツテ遠算ナキコトヲ期シタイト思フ次第デアリマス、此實情ヲ以上申述ベマシテ御挨拶ニ代ヘタイノデアリマス。

阪谷會長挨拶

私ハ計ラズモ此度本會々長ヲ仰付ケラレマシタ、頗ル恐縮致シテ居ルノデゴザイマス、洵ニ微力未熟ナ者デゴザイマスルガ、皆樣ノ御援助ニ俟ツテ共ノ職責ヲ完ウセンコトヲ切ニ望ム次第デゴザイマス、一言御挨拶ヲ申上ゲマス。

其より議事規則を議定し、震害に關する諸外國の同情に對し、感謝の決議を爲した。

復興院評議會員ハ、今回ノ災害ニ付テ、友邦各國ノ政府及國民ヨリ寄セラレタル深厚ナル同情ニ對シテ、衷心感謝ノ意ヲ表シ、既ニ送ラレ又將ニ送ラントスル救恤ノ金品ガ、罹災者ニ對シテ、多大ノ便利ヲ與ヘタル事ハ、永久ニ我々及我々ノ子孫ガ記念スベキ事ナルト共ニ、此等ハ皆友邦各國人士ノ博愛仁義ノ發露ニシテ、世界平和ノ象徵ナル事ヲ確認シ、感謝ノ情一層切實ナル事ヲ開會ノ劈頭ニ於テ決議ス。

と云ひ、諸問第一號の審議に入り、宮尾副總裁の說明、吉植（庄一郎）、鳩山（一郎）、藤山（雷太）、伊澤（多喜男）、三木（武吉）、小泉（策太郎）、森（恪）、片岡（安）、長岡（外史）各評議員の質問あり、近藤（達兒）評議員の動議に基き、議案を三分して特別委員に付託す、委員は會長より左の如く指名し、午後六時散會す。

第一委員（街路、公園及市場、防火地區及建築助成、土地區劃整理ニ關スル事項）

委員長伯爵林博太郎、委員鳩山一郎、岡野昇、伊東忠太、橋本圭三郎、大橋新太郎、永田秀次郎、長岡外史、近藤達兒、關一、渡邊勝三郎、澤柳政太郎。

第二委員（港灣運河ニ關スル事項）

委員長子爵大河內政敏、委員上山滿之進、若尾璋八、宇佐美勝夫、藤山雷太、伊東米治郎、廣井勇、井坂孝、梶原仲治、秋田清。

第三委員（橫濱ニ關スル事項）

委員長內藤久寬、委員渡邊勝三郎、安河內麻吉、三木武吉、伊澤多喜男、平沼亮三、子爵井上匡四郎、泰豐助、兒玉謙次、男爵毛利五郎。

特別委員會

甲、第一委員會　大正十二年十一月十六日、十七日、十八日を以て開催す、第一回に委員の追加指名あり。

小野英次郎、宇佐美勝夫、藤山雷太、馬場鍈一、片岡安、神戸拳一。

攻究三日大要左の如く決定す。

第一委員會決定要領

第一委員會付託ノ街路、公園及市場、防火地區及建築助成、土地區劃整理ニ關スル事項ヲ調査スルニ、右ハ可決スヘキモノト議決シタリ。

尙左記希望事項併テ可決セリ。

本會ニ提出セラレタル諸問案ニ添附セル圖面及附屬書類ノ內容ニ付テハ、考慮スヘキ點多々アルヘキモ、今之ヲ審ニ研究スルノ餘日ナキヲ以テ、右ハ單ニ參考案トシテ之ヲ認メ、將來適當ナル時期ニ於テ實施計畫ヲ立テ、再ヒ本會ニ諮問セラレンコトヲ望ム。

尙左ノ諸點ニ考慮セラレンコトヲ望ム。

街路ノ部

一、地下鐵道ハ、市內ニ成ルヘク多クシ且ツ普遍的ニ敷設スルコト。

二、道路計畫ニ付テハ、高速鐵道建設ニ支障ナキヲ期スルコト。

三、放射狀線其他都市計畫トシテ決定セル路線ヲ實施スルコト。

四、國ニ於テ施行スヘキ街路ニハ、其ノ鋪裝工事ヲモ併セ施行スルコト。

五、交通火防衞生美觀ノ爲メ、主要街路ノ交叉點其他數箇所ニ廣場ヲ設クルコト。

六、地下埋設物ノ整理ヲ行フコト。

公園及市場ノ件

七、公園及市場ハ、出來得ル限リ之ヲ增設スルコト、公園ノ候補地トシテハ、例ヘハ砲兵工廠及鐵秣廠跡隅田川兩岸ノ如キヲ考慮スルコト。

八、官有地ハ、可成公園敷地トシテ無償ニテ市ニ下附セラレタキコト。

防火地區及建築助成ノ部

九、街路ニ面スル建築線及宅地間ノ境界線ハ、六箇月以內ニ之ヲ決定シ、買收ノ必要アル土地ハ、一箇年以內ニ之ヲ終ルコト。

十、建築線間ノ距離ハ二間以上トスルコト。

十一、防火建築助成ノ爲メ、一般ニ補助金ヲ下附シ、其計畫ニ必要ナル法律ヲ定ムルコト。

補助金トシテハ、總額少クトモ一億圓ノ支出ヲ希望スルコト

土地區劃整理ノ部

十二、土地區劃整理ノ結果トシテ、街路敷地ノ一部ハ之ヲ無償收用シ得ルニヨリ、其費用ハ之ヲ防火建築補助費及土地區劃整理費ニ充當スルコト。

十三、土地利用ノ增進ヲ圖リ、保安衞生上ノ支障ヲ少カラシメムカ爲メ、燒失區域全體ニ亘リ、土地區劃整理ヲ徹底的ニ斷行スルコト、但道路公園共ノ他公用ニ供スルタメ、土地區劃整理關係上土地ノ約一割ヲ無償提供セシムルコト。

希望決議

十四、復興都市計畫ノ實行及財政ノ便宜ヲ圖ル爲メ、東京市內ノ官有地ヲ整理シ、成ルヘク之ヲ開放シ、又ハ東京市ニ交付スルコト。

乙、第二委員會は、開會二回、大正十二年十一月十六日、十八日、之を開き、大體原案を承認す、內東京港築造計畫は、直木按監の說明に據れば、大略左の如きものなりしと聞く。

東京築港ハ、大體港門ヲ大森地先ニ設ケ、航路ヲ芝浦地先ニ導キ、繫船埠ヲ築造シ、永代橋以下ヲ浚渫シ、艀溜及船溜ヲ設ケ、防波堤及導流樁ヲ配置スル考ニシテ、四五千噸以下ノ船舶ノ出入ヲ便ナラシムル方針ナリ、築港完成後東京橫濱兩港ノ關係ハ恰モ大阪神戶兩港ノ如ク、兩港各其ノ機能ヲ異ニシテ發達セシムルヲ得ヘシ、東京築港ニ要スル經費ハ、大體三千五百萬圓トス、尙京濱運河ハ、神奈川縣鶴見地先ヨリ六鄕川ヲ橫斷シテ、大森地先ニ至ル、延長約八千九百間、幅員百間ノ內、先ツ五十間ヲ朔望干潮平均水面以下十二尺ニ浚渫シ、以テ京濱間ノ艀舟聯絡ヲ圓滑ナラシメント欲ス。

丙、第三委員會　開會三回、大正十二年十一月十七日之を開き、

第二回に左の委員の追加指名あり。

森恪、原富太郎

希望條件を付して諮問案を承認す。

第三委員會決定要領

復興計畫區域及復興事業ノ規模ニ關スル件

一、横濱港ヲシテ帝都ノ關門タル使命ヲ全カラシムル爲メ、横濱港震災復興工事費豫算執行ハ、遲クモ大正十三年度中ニ完了シ、尙左ノ工事ヲ施スヲ適當ト認ム。

イ、目下施行中ノ第三期擴張計畫ハ、港ノ現狀ニ鑑ミ、年度割ヲ繰上ケ、大正十五年度中ニ其ノ完成ヲ期スルコト。

ロ、鶴見川口ヨリ新山下町ニ達スル防波堤ヲ別紙計畫書ノ通新設スルコト。

二、京濱運河ノ速成ヲ期シ、其ノ幅員及水深ハ可成大ナラシムルヲ適當ト認ム。

三、土地區劃整理ハ、可成燒跡地全部亘リ之ヲ施行スルコトヲ必要ト認ム。

復興事業ノ負擔區分ニ關スル件

四、横濱市ハ殊ニ被害甚大ニシテ、負擔困難ナルニ依リ、公共團體ノ負擔ハ、特ニ低減スルヲ適當ト認ム。

希望決議

五、高架鐵道ハ、都市構成ノ基幹トナルヘキ重要ナル施設ナルヲ以テ復興院ニ於テ速ニ之ヲ建設スルコトヲ希望ス。

六、地下埋設物ノ整理ニ關スル計畫ヲ定メ、之ヲ實行スルコトヲ希望ス。

第二回評議會は、十一月二十一日午前十時首相官邸に開會す、谷

阪委員長より對外感謝決議周知の報告を爲し、會議に入りて第一委員長林博太郎、第二委員長大河內正敏、第三委員長內藤久寬より、各委員會の經過結果を報告し、磯部、秦、上山各評議員の質問後對議に入り、大橋、湯淺(倉平)、吉植(庄一郎)、渡邊(錢藏)、藤山、近藤(達兒)各評議員の議論あり、採決の結果、第一第二第三各委員の決定通り希望條件を付して可決す、外に委員より建議案七件の提出あり、之を審議する爲め、更に第四第五委員會を設く、所謂建議案左の如し。

第一號、四谷見附ト新橋(烏森)トノ間ヲ聯絡スル鐵道ヲ敷設スル件

提出者門野重九郎、贊成者杉浦宗三郎、澁澤元治、內藤久寬

帝都交通ニ對スル鐵道系統ヲ按スルニ、其外環ト稱スヘキ東京驛ヨリ品川ヲ經由手線ニヨリ上野ニ出ツル線路ハ、萬世橋上野間ニ缺陷アルモ、此區間ハ既ニ起工中ニシテ、近キ將來ニハ此環線ノ完成ヲ見ルコトナルヘシ、然ルニ中野新宿ヨリ四谷見附ヲ經テ東京驛ニ入ルモノハ、此處ニ前記外環ニ合シ居ルヲ以テ中野新宿方面ヨリ新橋京橋方面ニ出テントスルモノハ、萬世橋ヲ迂廻セサルヘカラス、此不便ヲ除キ又御茶ノ水線ノ負擔ヲ輕減シ、且市內路面電車ノ過重ノ負擔ヲモ緩和スルノ目的ヲ以テ中央線四谷見附附近ヨリ南ニ分岐シ、外濠ニ沿ヒ、溜池ヲ通過シ、虎ノ門ニ出テ、新橋驛附近ニ於テ現在ノ高架線ニ聯絡スルノ新線ヲ建設セハ、四谷見附萬世橋東京新橋(又ハ有樂町)溜池ヲ通スル所謂內環線トナリ、公衆ノ利便甚大ナルモノアルヘシ、尤モ此內環線敷設ノ暁ハ、新橋萬世橋間ニ增線ヲ要スルコト、ナルヘシ

第二號、東京市內高速度鐵道ノ速成ニ關スル希望

提出者森恪、小泉又次郎、贊成者藤山雷太、指田義雄、大濱忠三郎

一、東京及横濱兩市內ニ於ケル高速度鐵道ノ速成ヲ期スル爲メ、適當ナル方法ヲ講セラレ度シ。

二、市內高速度鐵道ヲ民間ヲシテ經營セシムル場合ニハ、左ノ方法ヲ講セラレ度シ。

(一)國庫ヨリ適當ナル補助ヲナスコト。

(二)國庫ヨリ低利資金ノ長期貸付ヲナスコト。

(三)政府ハ東京横濱間及山ノ手線中央線ノ電車線路及設備ヲ提供シ、民間企業家ト合同シテ市內高速度鐵道ノ速成ヲ計ルコト。

第三號、希望條件

提出者鳩山一郎、贊成者馬場鍈一

一、復興計畫區域及復興事業ノ規模ニ關スル件中

一、街路ノ部ニ就テ　幅員十二間未滿ノ分ノ街路用トシテ買收スル土地ハ、三十萬坪以上ニ達スルニ拘ハラス、復興院ヨリ示サレタル附屬書類中ニハ此點ニ就キ何等ノ明示ナシ、然レトモ是等ノ路線モ幅員十二間以上ノ路線ト同時ニ市民ニ周知セシメラレンコトヲ望ム。

一、復興事業費ノ負擔區分ニ關スル件ニ就テ　從來關係公共團體ノ事業ニ對シ、國ハ國道ニ對シ工費二分ノ一、其ノ他ノ府縣道ニ對シテハ三分ノ一ヲ補助セリト雖モ、震災後ノ公共團體ニ於テハ、財源著シク缺陷ヲ來タシ、從來ノ補助率ニテハ到底事業成功期シ難キヲ以テ、全額補助若クハ適當ニ補助率ヲ增加セラレンコトヲ望ム。

第四號、

提出者藤山雷太、贊成者片岡安

一、耐火建築助成ノ爲メ長期ノ低利資金ヲ貸付クルコト。

二、東京市ノ下水工事完成ヲ期スル爲メニ適當ナル方法ヲ講セラレタキコト。

第五號、

提出者長岡外史、贊成者藤山雷太

隅田川河口ニ近キ地ニ水陸飛行場ヲ設ケ、陸地飛行場ノ廣サヲ十六萬坪トセラレタシ。

(理由)歐洲各國ニ於テハ、先年來數多ノ空中路ヲ拓キ、飛行機ヲ以テ國際間ニ郵便旅客物品ヲ速達スル事業ヲ創メ、年ヲ逐ヒ著大ノ效果ヲ擧ケツヽアリ、將來ニ於テハ恐ルヘキ進歩發達ヲ爲スヘキ見込確實ナリ、而シテ右ノ新文明ノ利用ヲ完フセンカ爲メ、第一ノ手段ハ都心ニ近キ地ニ飛行場ヲ設クルニ在リ、伯林市ノ「テンペルホーフ」ノ如キ、最モ此ノ目的ニ合スルモノナリ、本邦ノ國際的空中交通ノ狀況ニ於テハ、又水上ニ重キヲ置クノ必要アリ、仍テ水陸兼用ノ飛行場ヲ設クルコトハ經濟ニシテ便利ナリ。

第六號、希望條件

提出者安河內麻吉、贊成者平沼亮三、森恪

横濱市燒失區域ノ平面測量ハ、速ニ着手遂行セラレンコトヲ望ム。

(理由)横濱市ノ土地臺帳土地登記簿等土地ニ關スル公文書ハ總

テ烏有ニ歸シ、僅ニ罹災保管ノ永代借地權ニ關スル地券臺帳ヲ殘存スルニ過キス、故ニ幾失區域ノ現狀尙消滅セサル今日ニ於テ、速ニ之ヲ測量シテ土地ノ限界ヲ明ニシ、以テ他日所有權其他ノ爭議解決ノ資料ニ供シ、區劃整理其他復興事業ノ遂行ニ障害ナカラシメンコトヲ要ス。

米突法ノ實施促進ニ關スル建議ノ件

提出者　新波忠三郎、贊成者　門野重九郎、杉浦宗三郎、
澁澤元治、內藤久寬

我邦度量衡ノ基準トシテ米突法採用ノ事ハ、大正十年四月法律ヲ以テ既ニ決定シ居ルモ、從來ノ習慣アリ、其ノ因襲久シキ爲ニ此新ナル基準ハ容易ニ一般人士ノ念頭ニ入リ難ク、隨ツテ其ノ實施期日ニ關シテハ成ルヘク之ヲ後年ニ延期セント欲スルノ傾向アリ、然ルニ這般帝都及其附近ノ大變災アリ、此ノ復興事業ニ際シ、之カ計畫ニハ總テ米突法ヲ用ヒ、復興院ヨリ發表ノ道路幅員等ニ使用セハ、此式ノ宣傳トナリ、追テ全國ニ普及セシムル爲メ遙スヘカラサル好機會ナリト信ス、仍テ復興計畫ニ關シテハ一切米突法ヲ採用セラレン事ヲ建議ス。

（參照）メートル法採用ノ件ハ、大正十年四月十二日法律第十一號ヲ以テ決定シ、實施期間ノ勅令未タ發布セラレサルモノナリ。

第四委員（審議案第一乃至第六號ニ關スル事項）

委員長伯爵林博太郎、委員、永田秀次郎、鳩山一郎、大橋新太郎、渡邊龜藏、馬場鍈一、藤山雷太、宇佐美勝夫、上山滿之進、渡邊勝三郎、安河內麻吉、伊澤多喜男、原富太郎、三木武吉、秦豐助、平沼亮三、內藤久寬、子爵大河內正敏、岡野昇、長岡外史、門野重九郎、森恪。

第五委員（未突法ノ實施促進ニ關スル事項）

委員長男爵新波忠三郎、委員小林丑三郎、馬場鍈一、星野錫、藤山雷太、男爵古市公威、子爵大河內正敏、澁澤元治、大島義清、岡野昇、杉浦宗三郎。

特別委員會

甲、第四委員會　大正十二年十一月二十九日を以て開催す、是日後藤總裁より審議會の經過に關する報告あり、委員中には原案すら不滿足なるに審議會の修正は一層不滿足なりとの意を述べたるものありと傳ふ、決議する所左の如し。

第一號、四谷見附ト新橋トヲ聯絡スル高速度鐵道施設ノ件　否決。

第二號、東京市內高速度鐵道速成ニ關スル希望　速成ヲ計ル事及其手段タル第二項第一第二兩案可決、第三案否決。

第三號、復興計畫區域及復興事業ノ規模ニ關スル件　可決。

第四號、耐火建築助成並東京橫濱下水工事ニ關スル件　提出者「東京市」ヲ「東京橫濱兩市」ト訂正ス、「耐火」ヲ削リテ「罹災地」ト修正シ、更ニ「復興建築事業促進ノ爲、政府ノ援助ニヨリ建築會社ヲ設立セラレタキコト」ノ希望條件提案有リ、修正可決。

第五號、隅田川河口ニ近キ地ニ水陸飛行場ヲ設ケ、陸地飛行場ノ廣サヲ十六萬坪トセラレタシ可決。

第六號、橫濱市燒失區域ノ平面測量ノ件　可決。

乙、第五委員會　大正十二年十月二十九日開會、復興事業に關しては、成るべくメートル法を採用せられんことを望むとの希望を可決す。

第三回評議會は、內相官邸に於て十二月六日午前十時二十分開會す、第四委員長林博太郎の報告、木村（久壽彌太）、大橋、藤山、伊澤、宮島（清次郎）各評議員の發言あり、「隅田川口ニ飛行場ヲ設立スル件」は、土地不足の場合に於て、十六萬坪を要する飛行場の設置は、尙考慮を要するとの理由に依り削除し、他は委員長の報告通り可決す、次に第五委員長斯波忠三郎の報告あり、直に可決して散會す、時に午後零時四十分なり。

第四、審議會　活動の大要左の如し。

第一回審議會　十一月二十四日午前十時二十分首相官邸に開會す。議長山本首相（樞兵衞）開會を宣し、宮尾幹事（舜治）諮問案を朗讀す。

帝都復興審議會議案

一、帝都復興計畫案ノ大綱ニ關スル件

大正十二年九月烘發セラレタル　詔書ノ　聖旨ヲ奉戴シ、東京及橫濱兩市ノ災後ニ善處スルト共ニ、其ノ將來ノ發展ニ備フル爲メ、帝都復興計畫ノ規模ヲ按スルニ、其ノ計畫區域トシテハ、各都市計畫區域ノ都市計畫法ニ依リテ確定シタルアリ、共ニ社會上經濟上都府トシテ有機的生活ヲ營ムニ足ルノ地域ヲ包含シ、今遽ニ之ヲ變改スルノ必要ヲ認メス、商工業及住居ノ地域ニ關スル制、亦震災ノ直前ニ於テ都市計畫法ニ依リ夫々權限アル機關ノ議定ヲ經タルアリ、之ヲ土地ノ狀況交通運輸ノ利便並災後ニ於ケル復興ノ趨向等ニ照ラシ、大體ニ於テ則トルニ足ルモノト認ム、依ツテ帝都ノ復興ニ關シテハ東京及橫濱ノ兩市共ニ、其ノ都市計畫區域內ニ、健全ニシテ秩序アル都府ノ建設ヲ促進スルヲ主眼トシ、民度ト財力ノ許ス範圍ニ於テ事ノ緩急ヲ稽ヘ、序ヲ逐ヒテ案ヲ進メ、交通衞生保安經濟教育等ニ關スル重要施設ノ整備ヲ圖リ、永久ニ帝都ノ安寧ヲ維持シ、福利ヲ增進スルノ基礎ヲ固ムル爲、先ツ以テ主トシテ燒失地域ノ復興ニ必要ナル施設ノ遂行ヲ期シ、其ノ國ニ於テ執行スルモノト、地方ニ於テ執行スルモノトノ區分及其ノ負擔方法ハ別ニ定ムル所ニ依リ、後者ニ對シテハ財政上ノ援助ヲ與ヘテ施行セシメント欲ス、其ノ要綱左ノ如シ。

第一、街路ノ規格及線路ノ系統　都市構築ノ規矩タル街路ニ於テハ、大震火災ノ慘害ニ鑑ミ、此際特ニ英斷スルノ要アリ、乃專ラ交通幹線ノ配置ニ意ヲ用ヒ、之カ規格ハ高速度鐵道ノ敷設ニ備フル爲、幅員ヲ十五間以上三十間トシ、幅員六間以上ノ街路ヲ之ニ配シ、其ノ電氣軌道網ヲ構成スヘキ路線ノ規格ハ、十一間以上トシ、地域ノ狀況ト交通ノ系統ヲ案シテ、主要路線ノ系統及其ノ規格等大要左ノ如ク定メ、主要街路ノ交角並橋臺地等ニハ適當ナル廣場ヲ設ク。

東京之部

番號	路線	延長（約）	幅員
一	品川町ヨリ本芝一丁目、芝口二丁目、木挽町、江戶橋、和泉橋、東坂町ヲ經テ三ノ輪町ニ至ル	七、四一〇間	一八乃至二四間
二	九段坂下ヨリ南神保町、兩國橋ヲ經テ龜戶町ニ至ル	三、四一〇	一五乃至二四
三	吳服橋外ヨリ永代橋ヲ經テ砂町ニ至ル	二、九二〇	二〇
四	有樂町一丁目ヨリ尾張町、木挽町三丁目、築地三丁目ヲ經テ月島二號地ニ至ル（隅田川ヲ含マス）	一、二五〇	一五乃至二〇
五	築地三丁目ヨリ入船町、龜島町、濱町三丁目、淺草橋、南元町、北田原町ヲ經テ金杉下町ニ至ル	四、四二〇	一八
六	上野公園前ヨリ駒形町ヲ經テ押上町ニ至ル	二、〇〇〇	二〇
七	東京驛東口城邊河岸ヨリ下槇町、龜島橋ヲ經テ新船松町ニ至ル	八三〇	一二乃至二八
八	永樂町一丁目濠端ヨリ元千代田町ニ至ル	一一〇	四〇

九	濱町三丁目ヨリ中洲町、石島町ヲ經テ砂町ニ至ル	二、一四〇	一二
一〇	濱町三丁目ヨリ新大橋、菊川橋ヲ經テ大島町ニ至ル	一、七七〇	一二
一一	中ノ郷元町ヨリ寺島町ニ至ル	一、〇九〇	一二
一二	山ノ宿町ヨリ龜岡町ヲ經テ橋場町ニ至ル	八六〇	一二
一三	吉野橋ヨリ南千住町常磐線踏切ニ至ル	七七〇	一二
一四	大手町一丁目ヨリ北新町、荒布橋、濱町一丁目ヲ經テ兩國橋四詰ニ至ル	一、六四〇	一二
一五	神田橋北詰ヨリ紺屋町、美倉橋竹町ヲ經テ入谷町ニ至ル	二、一八〇	一二
一六	濱三町ヨリ鎌倉河岸、昌平橋、天神町二丁目ヲ經テ池ノ端七軒町ニ至ル	一、九二五	一二
一七	今入町ヨリ愛宕町ヲ經テ赤羽橋ニ至ル	一、〇六二 六三〇	一二
一八	千束町一丁目ヨリ龜岡町ニ至ル		一二
一九	入谷町ヨリ山ノ宿町、淺草驛前本所驛脇ヲ經テ洲崎ニ至ル	三、八七〇	一二
四〇	荒布橋東詰ヨリ愚案橋ヲ經テ小網町四丁目ニ至ル	二一〇	一二
四一	西久保神谷町ヨリ宇田川町ニ至ル	五〇〇	一二

橫濱之部

番號	路線	延長(約)	幅員
一	國道一號線市部境界子安町ヨリ東神奈川驛前、神奈川、現橫濱驛前戸部六丁目、鶴田、久保町道上ヲ經テ保土ケ谷町岩間ニ至ル	四、七六九間	一〇乃至一八間
二	現橫濱驛廣場ヨリ花咲町、櫻木町驛前、弁天橋、本町四丁目ヲ經テ高島橋南詰ニ至ル	一、一二一	九乃至一五
三	本町四丁目ヨリ本町一丁目ニ至ル	三二〇	一三五
四	本町三丁目ヨリ眞砂町、羽衣町、足曳町、南吉田町、蒔田町ヲ經テ大岡町高等工業學校前ニ至ル	二、四一六	一二乃至一三五

五	大江橋南詰ヨリ馬車道、尾上町西ノ橋詰、元町、北方町ヲ經テ本牧町原ニ至ル	二、五九一	一二乃至一三五
六	神奈川縣橋ヨリ反町、神奈川町、二ツ谷、東神奈川驛裏ヲ經テ郡市境界六角橋ニ至ル	一、二〇〇	九乃至一三五
七	淺間町（縣道橫濱中野線）ヨリ四戸部町豐田、藤棚、南太田町、霞町、吉岡町五丁目ヲ經テ中村町ニ至ル	二、一四〇	九乃至一二
八	神奈川町縣橋東詰ヨリ東輕井澤淺間下ヲ經テ淺間町俱利伽羅寺前ニ至ル	一、四八七	九乃至一二
九	國道一號線輕井澤ヨリ反町ヲ經テ神奈川二ツ谷ニ至ル	九六二	一二
一〇	國道一號線子安町ヨリ神ノ木ニ至ル	七五〇	九
一一	四平沼町ヨリ伊勢町、野毛町、日ノ出町長者橋ヲ經テ千歳橋南詰ニ至ル	一、四五八	一〇乃至一二
一二	車橋ヨリ中村町字打越ヲ經テ山元町ニ至ル	三三〇	一〇
一三	石川町一丁目ヨリ中村町中村橋ヲ經テ蒔田町六反目ニ至ル	一、七二〇	九
一四	蒔田町、六反目ヨリ井土ケ谷町、大岡川村永田ヲ經テ保土ケ谷町岩間ニ至ル	一、三五五	九乃至一二
一五	櫻木町一丁目ヨリ野毛町三丁目、日ノ出町初音町、南太田町ヲ經テ井土ケ谷町ニ至ル	一、七二〇	九
一六	西戸部町豐田ヨリ同町反目ニ至ル	四七五	九
一七	千歳町二丁目ヨリ千歳橋ヲ經テ南吉田町字南七ツ目ニ至ル	一、四六三	一二
一八	新橫濱驛ヨリ平沼町三丁目ヲ經テ現橫濱廣場ニ至ル	三一二	一八
一九	國道一號線神奈川町十番町ヨリ東神奈川驛ニ至ル	一二六	一五
二〇	平沼橋南詰ヨリ岡野町新田間橋ヲ經テ淺間下ニ至ル	三九〇	一二
二一	橫濱稅關前	九七	一五
二二	北方町小港ヨリ新山下町ニ至ル	三五〇	一〇

第二節　善後措置　第二章　各紀

第二、公園ノ配置　公園ハ主トシテ官有地等ノ整理ニ伴ヒ、漸ヲ逐ヒテ之カ配置ノ適切ナルヲ期シ、取敢ヘス東京及橫濱ニ各左ノ數公園ヲ開設スルト共ニ、別ニ出來得ル限リ燒失地域内ニ於テ復興ヲ必要トスル小學校ノ附近ニ兒童遊園ヲ設クルヲ得シム。

東京之部

隅田公園　約四萬坪

隅田川沿岸枕橋上ニ設ケ勝地ヲ保存ス。

江東公園　約四萬坪

深川御料地附近ニ設ク。

日本橋公園　約一萬坪

日本橋區内ノ適地ニ設ク。

橫濱之部

日ノ出公園　約四千四百坪

長者町日ノ出川ヲ埋築ス。

山下町公園　約二萬五千坪

山下町海岸ヲ埋築ス。

野毛山公園　約二萬坪

野毛山貯水池跡ニ設ク。

青木町公園　約六千坪

神奈川區有水面ヲ埋築ス。

第三、市場ノ配置　中央卸賣市場ノ位置ハ、東京ニ在リテハ築地海軍省用地跡、橫濱ニ在リテハ高島町附近トシ、市場設備ニ關スル市ノ經營ヲ助成ス、蔬菜市場ハ中央市場以外ニ、東京ニ在リテハ兩國及秋葉原兩驛ノ附近ニモ開設スルコトヲ得シム。

第四、市街宅地割ノ整理　街路又ハ運河ノ類ノ施設ニ因リ建築敷地トシテノ利用完カラサルモノヲ生シタルトキ、其ノ他土地ノ情

況ニ依リ必要アルモノニ付テハ、土地區劃整理ヲ行フ。

第五、防火措置　防火措置ニ關シテハ、都市計畫法ニ依リ主要街路ノ沿道並中樞地區ニ對シ既ニ防火地區制ノ定メアルモ、今回街路ノ新設擴築ヲ見ルヘキニ依リ、新ニ計畫街路ノ沿道トナルヘキ一帶ノ土地ニ對シ、路線形ニ防火地區ヲ指定スルノ外、中樞地區ニ於テハ、集團的防火地區ノ擴張ヲ圖ルト共ニ、適當ナル方法ニ依リ、防火地區內ニ於ケル不燃質建築物ノ築造ヲ助成ス。

第六、京濱ノ關係並港灣及運河ノ施設　京濱ノ關係ニ就テハ、橫濱港ヲ以テ帝都ノ外港トシ、既成設備ノ回復ト第三期擴張計畫ノ促進ヲ期シ、隅田川ノ河口ニ內港ノ設備ヲ施シ、兩港ノ連絡ヲ完全ニシ、且沿岸工業地域ノ開發ニ資スルカ爲、神川縣鶴見地先ヨリ六郷川ノ旅來部ヲ橫斷シテ大森地先ニ至ル延長約八千五百間ノ間ニ、幅員五十間水深八尺ノ運河ヲ開鑿シ、港灣設備地鐵道主要貨物驛及商工業地域相互ニ必要ナル運河ヲ新鑿又ハ改修シ、水運ノ便ヲ增進スルト共ニ、沿岸ニハ適當ナル倉庫地帶ヲ設クルヲ得ヘカラシム、隅田川河口ニ於ケル內港設備ノ概要及市內運河ノ改修計畫ノ大要左ノ如シ。

一、內港設備

港門ヲ大森地先ニ置キ、延長約三千百間幅員百間水深二十五尺ノ航路ヲ芝浦地先ニ導キ、永代橋以下ノ隅田川浚鑄延長約千四百間ハ、幅員八十間ヲ水深二十尺ニ淺渫ス、芝浦地先ニ延長約五百間水深二十五尺ノ繫船岸壁及面積約五十二萬坪水深二十五尺ノ船溜ヲ設ケ、品川驛地先ニ延長約八百四十間水深八尺ノ物揚場及面積約十六萬坪水深八尺乃至十二尺ノ船溜ヲ置キ、之ヲ防護スルニ各砲臺ヲ連結シテ月島地先ニ至ル約千九十圓ノ假防波堤ヲ以テスル外、砲臺外航路ヲ擁シテ南ニ延長千百間並ニ延長千五百間ノ防波堤ヲ築造シ、陸上設備トシテ上屋約三千坪ヲ施設ス。

二、市內運河

東京之部

名稱	延長(約)	幅員	深度(零點下)	備考
新堀第一	二三〇間	二二間	六尺	大島川ノ曲線部ヲ直堅ス
〃 第二	一六〇	一八	六	築地川ト楓川ヲ連結ス
改修小名木川	一、三五〇	三〇	七	隅田川合流ヨリ砂留川ニ連絡スルノ間ハ二十六間トシ其他ハ十八間トス
築地川	九二〇	一八乃至二六	六	
〃 神田川	七八〇	二六	六	
〃 日本橋川	二六〇	二六	六	
〃 槇十間川	二、〇二〇	二二	六	
〃 大島川	一、一一〇	二二	六	
〃 汐留川	二二〇	一八	六	
〃 楓川	六七〇	一八	六	
〃 京橋川	三三〇	一八	六	
〃 櫻川	四一〇	一八	六	

橫濱之部

名稱	延長(約)	幅員	深度(零點下)	備考
堀割川	一、一七二間	一八間	五尺	
中村川及堀川	一、七二八	一八	五	

二、帝都復興計畫事業年度及財政方針ニ關スル件

帝都復興計畫ハ、本年度以降七年間ニ完成スルモノトシ、之ニ要スル費用ハ、必要ニ應シ公債ヲ以テ支辨シ、地方財政ノ實情ニ顧ミ、此際ニ於ケル非常ノ措置トシテ、

第一、國ニ於テ執行スル事業ニ對スル地方公共團體ノ負擔金ハ復興事業ノ繼續年期間其ノ徵收ヲ猶豫シ地方財力ノ恢復相當ノ年期ヲ定メテ之ヲ分納セシムルコト、シ、

第二、地方ニ於テ執行スル事業費中、道路橋梁上下水道學校中央市場墓苑處分其ノ他衞生施設及社會事業並公園瓦斯及電氣事業等ノ施設ニ必要ナル費用ハ、府縣ニ對シテハ復興事業ノ繼續年期間無利子ニテ之ヲ貸付シ、市ニ對シテハ國ノ保證ニ依リ地方債ヲ起スコトヲ得シメ、上水及電氣瓦斯ノ供給並軌道ノ如キ收益事業ニ要スルモノヲ除キ、其ノ他ニ要スル起債ノ利息ハ年七分ヲ限度トシテ復興事業年度間國ヨリ補給スルモノトシ、貸付金ハ復興事業完成後遲クモ三十年間ニ償還セシムルモノトシテ經理セシトス。

三、帝都復興計畫ノ統制及其ノ事業ノ執行ニ關スル件

東京及橫濱ニ於ケル復興計畫ヲ統制シ及復興事業ヲ執行スル爲、帝都復興計畫法ヲ制定セムト欲ス、其ノ要綱左ノ如シ。

第一、復興計畫事業及復興計畫區域ハ、帝都復興院評議會ノ意見ヲ聞キ、帝都復興院總裁之ヲ決定シ、內閣ノ認可ヲ受ケシム。

第二、主要ノ街路河川運河公園ノ新設改修及港灣ノ築設ノ如キ帝都構成ノ基幹タルヘキ重要ナル施設ニシテ國ノ行政官廳ニ於テ執行スルモノ、外、復興事業ハ公共團體ヲ統轄スル行政官廳ヲシテ執行セシムルヲ原則トシ、其ノ他ノ者ハ帝都復興院總裁ノ許可ヲ得テ執行セシム。

第三、國ノ行政官廳ニ於テ執行スル復興事業ニ要スル費用ハ國庫ノ負擔トシ、其ノ一部ハ事業地ノ屬スル公共團體ヲシテ分擔セシム。

第四、公共團體ヲ統轄スル行政廳ニ於テ執行スル復興事業ニ要スル費用ハ、其ノ公共團體ノ負擔トシ、其ノ一部ハ國庫ヨリ補助ス、其ノ補助歩合ハ別ニ之ヲ定ム。

第五、復興事業ニ要スル費用ヲ負擔スル公共團體ニハ、該事業ニ因リ著シク利益ヲ受クル者ヨリ相當ノ金額ヲ受益者負擔金トシテ徵收スルヲ得シム。

受益者負擔金ヲ徵スヘキ事業ノ種類負擔金額及負擔方法等ニ關スル制限ハ、勅令ヲ以テ之ヲ定ム。

第六、市街地建築物法ニ依ル地域及地區ノ外復興計畫區域內ニ於テハ、風致又ハ風紀ノ維持其ノ他經濟上特殊ノ目的ノ爲ニ地區ヲ指定シ、其ノ地區內ニ於ケル工作物又ハ土地ニ關スル工事又ハ權利ハ勅令ノ規定ニ制限スルコトヲ得シム。

前項地域及地區ノ指定ハ、市街地建築物法ニ依ルモノト否トヲ問ハス、帝都復興院評議會ノ意見ヲ聞キ、帝都復興院總裁之ヲ決定シ內閣ノ認可ヲ受ケシム。

第七、復興事業ニ要スル土地ハ、境域內ニ於ケル土地ノ變更工作物ノ築造及竹木土石ノ採取ニ付テハ禁止又ハ制限スルヲ得シム。

第八、復興計畫復興事業又ハ地域地區ニ關スル調査又ハ工事ノ爲必要アルトキハ、官吏又ハ吏員ヲシテ他人ノ土地ニ立入リ測量又ハ檢査ヲ爲シ、障害ノ竹木土石等ヲ移轉又ハ除却セシムルヲ得シム、但シ之ニ因リ生シタル損害ハ補償セシム。

第九、復興計畫區域內ニ於ケル土地ニ付テハ、宅地トシテノ利用ヲ增進スル爲、土地區劃整理ヲ行フモノトシ可成土地區劃整理組合ヲ設立セシメ之ヲ行ハシム。

土地區劃整理ニ付テハ、耕地整理法ニ規定スル耕地整理ノ例ニ依ルモノトシ、其ノ例ニ依リ難キ事項ニ關シテハ別段ノ定メヲ

爲ス。

第十、復興事業ニ要スル土地物件及土地ニ關スル所有權以外ノ權利ハ、之ヲ收用又ハ使用スルヲ得ルモノトシ、土地收用ノ爲ニ一宅地ヲ爲スニ足ラサル殘地ヲ生スル場合ニハ、併セ收用スルコトヲ得シム。

收用又ハ使用ニ關シテハ、土地收用法ニ依ル土地收用ノ例ニ依ルモノトシ、協議ヲ爲シ難キ場合ニ於ケル收用ノ時期區域及損失補償等ニ付テハ、補償審査會ヲ設ケ收用審査會ニ代ラシム。

第十一、主務大臣復興事業ノ爲必要アリト認ムルトキハ、公共團體ヲシテ其ノ公用又ハ公共用ノ土地ヲ事業執行者ニ供用セシム。

第十二、土地區劃整理ノ爲又ハ一宅地ヲ爲スニ足ラサル爲收用シタル土地ニ付テハ、買戻權ヲ認メス、且復興事業ニ依リ生シタル認備ノ管理及歸屬ニ付テハ勅令ヲ以テ別ニ之ヲ定ム。

第十三、本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ノ强制訴願訴訟等ニ付テハ、郡市計畫法ノ規定ニ準ス。

帝都復興院

帝都復興讐算

俸給	二八、四〇〇、〇〇〇圓
事務費	一一、三六〇、〇〇〇圓
帝都復興事業費	一七、〇四〇、〇〇〇圓
東京復興費	五五四、五五二、〇〇〇圓
街路費	四八八、三七〇、〇〇〇圓
港灣費	四〇六、四〇〇、〇〇〇圓
運河費	三二、七五〇、〇〇〇圓
公園費	二八、五七〇、〇〇〇圓
土地整理費	一一、九〇〇、〇〇〇圓
橫濱復興費	八、五〇〇、〇〇〇圓
街路費	五二、四三二、〇〇〇圓
運河費	四二、三〇〇、〇〇〇圓
公園費	五、六一二、〇〇〇圓
土地整理費	一、九五九、〇〇〇圓
京濱運河費	二、五六一、〇〇〇圓
復興事業費貸付金	一三、七五〇、〇〇〇圓
東京府復興事業費貸付金	一〇、三二五、四〇二圓
神奈川縣復興事業費貸付金	七、七四九、六九八圓
復興事業費補助	二、五七五、七〇四圓
防火地區建築費補助	一〇九、七〇〇、五七九圓
土地區劃整理費補助	二〇、〇〇〇、〇〇〇圓
地方復興事業費補助	二、七七五、〇〇〇圓
東京府復興事業費補助	五八、一六六、五六九圓
神奈川縣復興事業費補助	五、〇八三、五〇六圓
東京市復興事業費補助	七四二、三一七圓
橫濱市復興事業費補助	四一、五七九、二〇九圓
地方復興事業債利子補給	一〇、七六一、四八三圓
東京市復興事業債利子補給	二八、七五九、〇一〇圓
橫濱市復興事業債利子補給	二一、九九〇、六八八圓
合計	六、七六八、三二二圓
	七〇二、九七七、九八一圓

是日後藤幹事長(新平)提出理由を說明し、審議に入るや、委員中異議あり、結局閣內閣外より委員を設けて協議する事となり、議長より左記の委員を指名し、伊東伯を委員長とす。

閣外より　伯爵伊東巳代治、子爵高橋是清、子爵加藤高明、江木千之、子爵青木信光、子爵澁澤榮一。

閣內より　子爵後藤新平、井上準之助、岡野敬次郎、男爵田健次郎、犬養毅。

第二回審議會　十一月二十七日午後一時十分首相官邸に開會す、議長山本總裁開會を宣し、諮問案第一號第二號第三號を併せて議題とす、伊東委員長起ちて報告し、委員會は二十五六兩日間に前後二回開會し、各委員の腹藏なき意見の交換を行ひ、愼重審議を盡し、閣外委員間の意見一致を見たりとて、協定の要項を說明し、贊成者あり、議長は委員長の報告及說明の趣意を以て決議せられたるものと認め、政府は此決議の趣意を尊重して、十分之に副ふ樣努力すべしと述べて散會す、聞く所に據れば、協定の要旨は、品川より三ノ輪に至り、九段下より龜戸に至る二幹線を適當に收縮して擴築するを認め、共他の道路は已むを得ざるもの、外舊道を利用する事とし、東京の上下水道地下埋設物整理は、一時國費を出して速成し、土地整理は自治體に委し、東京築港京濱運河は、復興事業より切離し、市內運河公園市場防火設備等は大體異議なく、復興法に對しては意見を保留し、一方に商工業の復興に對しては資金の融通を望み、完全なる火災保險制度の創定を希望し、又復興事業の執行年度を五箇年にすべしと云ふの類なりしと云ふ。

二　復興計畫修正

十月三日帝都復興院組織成るや直に復興計畫をなし、參與會の意見を考慮し、評議會に諮問して成案を得たりしも、審議會の修正する所と爲り、更改せざるべからざるもの少なからざるに至れり、是に於て政府は、審議會決定の協定案に基きて豫算を削減し、十一月二十八日變更案を決定し、十二月三日閣議に之が承認を求めたるもの、如く、一方に十一月三十日銀行集會所に於ける總裁の評議員招待あり、十二月二日、市政調査會の帝國ホテルに於ける新聞記者招待あり、六日には總裁內相官邸に於て參與を招待し、七日は內閣に豫算內示會あり、共議會に提出したる所を見れば、京濱復興事業を街路運河公園及土地整理に止め、東京府神奈川縣に復興事業費を貸付け、東京府神奈川縣及京濱兩市の復興事業を補助し、京濱兩市の復興事業債の利子を補給するに、五億七千四百八十一萬六千四十九圓を以てせんとするものたりしなり、又六日の參與招待席上に於ては、燒失區域全部の土地整理方針を提示せられたりと云ふ。

三　物資供給

上、物價供給令實施

經濟機關の中樞たる帝都の破壞は、到底復興材料の供給を圓滑ならしむる能はざるべきを慮り、政府自ら震災地に於ける之が供給の任に當るの計畫を立つ。

初め政府は、大正十三年度に於て、一億圓を限り、震災地に於ける米穀以外の生活必需品土木建築用具及材料を買入實渡交換加工貯藏を爲す事とし、九月二十二日臨時物資供給令並に臨時物資供給特別會計令を發布し、同時に農商務省令を以て之が物資の品目を檢定し、同省をして其施行に當らしむる事としたりき。

朕玆ニ緊急ノ必要アリト認メ、樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ、帝國憲法第八條第一項ニ依リ、臨時物資供給令ヲ裁可シ之ヲ公布セシム。

御名　御璽

攝政名

大正十二年九月二十二日

內閣總理大臣伯爵　山本權兵衛
內務大臣　子爵　後藤新平
文部大臣　岡野敬次郎
海軍大臣　財部彪
陸軍大臣　男爵　田中義一
農商務大臣　男爵　田健治郎
遞信大臣　犬養毅
司法大臣　平沼麒一郎
鐵道大臣　山之內一次
大藏大臣　井上準之助
外務大臣　男爵　伊集院彥吉

勅令第四百二十號

臨時物資供給令

第一條　政府ハ、震災地ニ於ケル米穀以外ノ生活必需品並土木又ハ建築ノ用ニ供スル器具機械及材料ノ供給ヲ圓滑ナラシムル爲必要アリト認ムルトキハ、當該物資ノ買入賣渡交換加工若ハ貯藏ヲ爲シ、又ハ他人ニ委託シテ、買入若ハ賣渡ヲ爲スコトヲ得、前項ノ品目ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム。

第二條　政府ハ震災地ニ於ケル前條ノ物資ノ供給ヲ圓滑ナラシムル爲、特ニ必要アリト認ムルトキハ、勅令ノ定ムル所ニ依リ、期間ヲ指定シ、其ノ輸出ヲ制限又ハ禁止スルコトヲ得。

第三條　政府ハ震災地ニ於ケル第一條ノ物資ノ供給ヲ圓滑ナラシムル爲必要アリト認ムルトキハ、其ノ生產者取引業者倉庫業者其ノ他占有者ニ對シ、必要ナル事項ノ報告ヲ命シ、又ハ官吏若ハ吏員ヲシテ其營業所倉庫其他ノ場所ニ臨檢シ、帳簿物件ヲ檢査セシムルコトヲ得。

第四條　前條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ、又ハ當該官吏若ハ吏員ノ職務ノ執行ヲ妨ケタル者ハ、五百圓以下ノ罰金ニ處ス。

附　則

本令ハ、公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス。

朕玆ニ緊急ノ必要アリト認メ、樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ、帝國憲法第八條第一項及第七十條第一項ニ依リ、臨時物資供給特別會計令ヲ裁可シ、之ヲ公布セシム。

御名　御璽

攝政名

大正十二年九月二十二日

內閣總理大臣伯爵　山本權兵衛
內務大臣　子爵　後藤新平
文部大臣　岡野敬次郎
海軍大臣　財部彪
陸軍大臣　男爵　田中義一
農商務大臣　男爵　田健治郎
遞信大臣　犬養毅
司法大臣　平沼麒一郎
鐵道大臣　山之內一次
大藏大臣　井上準之助
外務大臣　男爵　伊集院彥吉

勅令第四百二十一號

臨時物資供給特別會計令

第一條　震災地ニ於ケル米穀以外ノ生活必需品並土木又ハ建築ノ用ニ供スル器具機械及材料ノ供給ヲ圓滑ナラシムル爲必要アリト認ムル物資ノ買入賣渡交換加工又ハ貯藏ニ關スル一切ノ歲入歲出ハ、之ヲ一般ノ歲入歲出ト區分シ、特別ノ會計ヲ立テシム。

第二條　本會計ニ屬スル經費ヲ支辨スル爲必要アルトキハ、政府ハ本會計ノ負擔ニ於テ、一億圓ヲ限リ借入ヲ爲スコトヲ得。

第三條　本會計ノ負擔ニ屬スル借入金ノ償還及利子支拂ニ必要ナル金額ハ、國債整理基金特別會計ニ之ヲ繰入ルヘシ。

第四條　本會計ハ、借入金物資賣渡代金及附屬雜收入ヲ以テ歲入トシ、物資ノ買入代金物資ノ買入賣渡交換加工貯藏運搬ニ關スル諸費借入金ノ償還金及利子其ノ他諸費ヲ以テ歲出トス。

第五條　本會計ノ收入支出ニ關スル規定ハ、勅令ヲ以テ之ヲ定ム。

第六條　本會計ハ、大正十四年三月三十一日迄ノ期間ヲ通シ一會計年度トシテ整理シ、當該會計年度限リ之ヲ廢止ス。

第七條　本會計廢止ノ際ニ於ケル收入支出其ノ他必要ナル事項ニ關スル規定ハ、勅令ヲ以テ之ヲ定ム。

附　則

本令ハ、公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス。

農商務省令臨第二號

勅令第四百二十號第一條第二項ノ規定ニ依ル物資ノ品目指定ノ件、左ノ通定ム。

大正十二年九月二十二日　農商務大臣男爵　田　健治郎

勅令第四百二十條第一條第二項ノ規定ニ依リ、物資ノ品目ヲ左ノ通指定ス。

一、薪　炭
二、木　材
三、亞鉛板及薄鐵板類
四、釘　類
五、亞鉛板及薄鐵板類
六、釘及鐵線類
七、屋根葺材料及疊席類

附　則

本令ハ、公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス。

是ニ於テ農商務省ハ、建築材料木炭等ノ供給計畫ヲ樹テ、災後三箇年間ニ建築スヘキ假建築三十萬戶ヲ豫想シ、先ツ一箇年半分ノ計畫ヲ爲シ、銅鐵材料ノ半數ヲ米國ニ注文スル事トシ、木材ハ其五割五分餘ヲ政府ノ手ニ供給スル意向ヲ以テ、內一箇年分ノ六割六分餘ヲ、北米太平洋岸ノ供給ヲ受クヘク計畫シ、木炭亦初半年ノ需用額五割ヲ政府ノ手ニ取扱ハンとしたりき。

然るに九月二十七日帝都復興院ノ官制定まり、院內ニ物資供給所ヲ設ケ、主ら復興材料ノ供給ニ任スル事となりたるを以て、十月四日之ガ事務ノ引續ヲ受ケ、十一月七日ニ至リ、閣令ヲ以テ農商務省指定ノ品目中服食ニ關スル物資ヲ除キ、左ノ四種改メ指定せらる。

閣令第九號

臨時物資供給令第一條第二項ノ規定ニ依ル物資ノ品目指定ノ件、左ノ通定ム。

大正十二年十一月七日　內閣總理大臣　山本權兵衛

臨時物資供給令第一條第二項ノ規定ニ依リ、物資ノ品目ヲ左ノ通指定ス。

一、薪　炭
二、木　材
三、亞鉛板及薄鐵板類
四、釘　類

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス。

大正十二年農商務省令臨第二號ハ之ヲ廢止ス。

復興院に於ては、一面十一月一日二日二十七日十二月四日八日十一日二十六日等參與會を開きて、岡本農商務次官を委員長とする特別委員を設け、以て大體の方針を協議すると同時に、一面農商務省計畫の後を承け、執行に着手し、買入方針、賣拂方針、保管方針を定め、米國より木材八十萬石鐵材二萬三千噸、加奈太より木材二十三萬石、英國より鐵板三千五百五十噸、南洋より家具材三萬石を輸入する事とし、內地に於ても、樺太材八十萬石の購入を豫約し、官行材二萬石、民間材二萬石を購入し、木炭亦官民製合せて二百六十餘萬貫の購入を爲し、輸送保管の方法を定むる等、着々業務の進捗を計れり。

中、帝國議會不承諾

政府は物資供給續行の見込を以て、第四十七議會に、臨時物資供給令、臨時物資供給特別會計令の承諾を求めり、案は大正十二年十二月十五日を以て衆議院の議事に上り、國務大臣子爵後藤新平、同井上準之助提出の理由を說明す。

後藤國務大臣言ふ、震災に依り、帝都の經濟商業の中樞機關破壞し、罹災市民の生活必要品及復興主要品の供給上、一大脅威を痛感す、是れ政府が臨時物資供給令を公布して物資供給の圓滑を期したる所以、而して現下の事情、猶本令の持續を必要と認むと。

井上國務大臣言ふ、臨時物資供給令に依り、建築材料等購入のため支出する金額は、之が賣却と共に回收し得べき者なり、一般の收入支出に區別し、特別會計として經理せざるを得ず、大正十四年三月三十一日限り廢止する見込を以て其間を一會計年度とし、買入に要する資金は借入金を以て之に充てんとすと。

案は直に特別委員に付託せられたり。

臨時物資供給令(承諾を求むる件)外一件

田邊熊一	杉浦五兵衛	加藤衆四郎	
長谷場敎	本多貞次郎	清水市太郎	
矢野丑乙	一宮房治郎	木下甚三郎	
池田猪三次	西川嘉門	飯島信明	
山道襄一	高田耘平	正木熊藏	
藤井啓一	土井權大	上田彌兵衛	

特別委員會は、田邊委員を委員長とし、十二月十五日十七日十九日開會し、一宮委員より物資供給令存續の必要なしとする說出で、災後取引機關中止の日に於て、罹災民のため生活必要品を供給するは、臨機の處置として必要なりしならんも、已に數十日を閱し、交通通信其他取引上必要機關平時に復興したるの今日は、寧ろ之を營業者に委し、政府は單に監督して可なりと、藤井委員存續說を主張し、高田委員は一宮說を贊す、松本政府委員(幹一)原案を維持せしに、矢野委員亦民業壓迫の恐れありとなす、採決の結果一宮說に決す。

臨時物資供給特別會計令亦一宮委員の反對あり、同く一宮說に決す。

報告書

一、臨時物資供給令(承諾ヲ求ムル件)

右ハ本院ニ於テ承諾ヲ與フヘキモノニ非スト議決致候此段及報告候也。

臨時物資供給令(承諾ヲ求ムル件)委員長

大正十二年十二月十九日　田邊熊一

衆議院議長　粕谷義三殿

報告書

一、臨時物資供給特別會計令(承諾ヲ求ムル件)

右ハ本院ニ於テ承諾ヲ與フヘキモノニ非スト議決致候此段及報告候也。

臨時物資供給特別會計令(承諾ヲ求ムル件)委員長

大正十二年十二月十九日　田邊熊一

衆議院議長　粕谷義三殿

勅令第五百九號

臨時物資供給令ハ、將來ニ向テ其效力ヲ失フ。

〔參照〕

明治二十二年二月十一日公布大日本帝國憲法抄錄

第八條天皇ハ公共ノ安全ヲ保特シ又ハ其ノ災厄ヲ避クル爲緊急ノ必要ニ由リ帝國議會閉會ノ場合ニ於テ法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發ス。

此ノ勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出スヘシ若議會ニ於テ承諾セサルトキハ、政府ハ將來ニ向テ其ノ效力ヲ失フコトヲ公布スヘシ。

脫帝國憲法第八條第二項ニ依リ、臨時物資供給特別會計令ノ效力ヲ將來ニ失ハシムルノ件ヲ裁可シ、玆ニ之ヲ公布セシム。

御名　御璽

攝政名

大正十二年十二月二十四日

內閣總理大臣伯爵	山本權兵衛
內務大臣 子爵	後藤新平
文部大臣	岡野敬次郎
海軍大臣	財部彪
陸軍大臣 男爵	田中義一
農商務大臣 男爵	田健治郎
遞信大臣	犬養毅
司法大臣	平沼騏一郎
鐵道大臣	山之內一次
大藏大臣	井上準之助
外務大臣 男爵	伊集院彥吉

脫帝國憲法第八條第二項ニ依リ、臨時物資供給令ノ效力ヲ將來ニ失ハシムルノ件ヲ裁可シ、玆ニ之ヲ公布セシム。

御名　御璽

攝政名

大正十二年十二月二十四日

內閣總理大臣伯爵	山本權兵衛
內務大臣 子爵	後藤新平
文部大臣	岡野敬次郎
海軍大臣	財部彪
陸軍大臣 男爵	田中義一
農商務大臣 男爵	田健治郎
遞信大臣	犬養毅
司法大臣	平沼騏一郎

織道大臣　山之內一次
大藏大臣　井上準之助
外務大臣　男爵　伊集院彥吉

勅令第五百十號
臨時物資供給特別會計令ハ、將來ニ向テ其ノ效力ヲ失フ。

閣令第十一號
大正十二年閣令第九號臨時物資供給令第一條第二項ノ規定ニ依ル物資ノ品目指定ノ件、廢止ノ件左ノ通定ム。
大正十二年十二月二十四日　內閣總理大臣伯爵　山本權兵衞
大正十二年閣令第九號ハ、臨時物資供給令失效ノ日限リ之ヲ廢止ス。

第三　帝國議會協贊

一　四十七議會

帝都復興事業の協贊を求むる爲の臨時第四十七回帝國議會は、大正十二年十二月十日を以て召集せられ、十一日開院す。
朕帝國憲法第七條及議院法第五條ニ依リ十二月十一日ヲ以テ帝國議會ノ開會ヲ命ス。
御名　御璽
攝政名
大正十二年十二月十日
內閣總理大臣伯爵　山本權兵衞
內務大臣　子爵　後藤新平
文部大臣　岡野敬次郎

財部彪
陸軍大臣　男爵　田中義一
農商務大臣　男爵　田健治郎
遞信大臣　犬養毅
司法大臣　平沼騏一郎
織道大臣　山之內一次
大藏大臣　井上準之助
外務大臣　男爵　伊集院彥吉

十一日攝政宮午前十時三十五分赤坂離宮御出門、貴族院に行啓あらせられ、帝國議會開院式を行はせらる、左の勅語を賜ふ。
朕玆ニ帝國議會開院ノ式ヲ行ヒ、貴族院及衆議院ノ各員ニ告ク。
今次ノ變災ニ當リ、官民一致、賑恤救護ニ勉メ、同胞共存ノ精神ヲ發揮シタルハ、朕深ク之ヲ欣フ、此時ニ際シ、宇內ノ友邦亦咸我國民ニ救援ノ至情ヲ寄セタルハ、朕ノ特ニ銘記スル所ナリ。
朕ハ國務大臣ニ命シテ、緊急ナル追加豫算案及法律案ヲ帝國議會ニ提出セシム、卿等克ク朕カ意ヲ體シ、和衷審議、以テ協贊ノ任ヲ竭サムコトヲ望ム。
二十四日閉會式を行はせらる。
〔附　記〕第四十八議會
大正十二年十二月二十七日開會を命ぜらる。
朕帝國憲法第七條及議院法第五條ニ依リ、十二月二十七日ヲ以テ帝國議會ノ開會ヲ命ス。
御名　御璽
攝政名
大正十二年十二月二十五日　內閣總理大臣伯爵　山本權兵衞
（外各大臣副署、第四十七議會に同じ）

二十七日攝政宮貴族院に行啓、帝國議會開院式を行はせらる。勅語、
朕玆ニ帝國議會開院ノ式ヲ行ヒ、貴族院及衆議院ノ各員ニ告ク。
帝國ト締盟各國トノ交際ハ、益々親厚ヲ加フ、朕深ク之ヲ欣フ。
朕ハ國務大臣ニ命シテ大正十三年度豫算案及各般ノ法律案ヲ帝國議會ニ提出セシム、卿等克ク朕カ意ヲ體シ、和衷審議、以テ協贊ノ實ヲ竭サムコトヲ望ム。
大正十三年二月一日衆議院解散を命ぜらる。

二、復興法規議定

大正十二年十二月十一日第四十七議會開院するや、政府は即日復興法規たる帝都復興計畫法を衆議院に提出したり。

帝都復興計畫法

第一條　本法ニ於テ復興計畫ト稱スルハ、東京及橫濱ニ於ケル都市計畫ヲ謂フ。
第二條　行政官廳復興計畫事業ヲ執行スル場合ニ於テハ、勅令ノ定ムル所ニ依リ、關係公共團體ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得。
第三條　行政官廳又ハ公共團體カ執行スル土地區劃整理ニ付テハ、耕地整理法第四十三條ノ規定ニ拘ラス、建物アル宅地ヲ土地區劃整理施行地區ニ編入スルコトヲ得。
前項ノ土地區劃整理ニ付テハ、耕地整理法第三十一條ノ規定ニ拘ラス換地處分ヲ爲スコトヲ得。
第四條　前條第一項ノ土地區劃整理ヲ施行スル場合ニ於テハ、設計換地處分及第七條第一項ノ補償金ノ配當ニ關スル事項ハ、勅令ノ定ムル所ニ依リ、土地所有者及借地法ニ謂フ借地權者ヲ以テ組織スル土地區劃整理委員會ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ム。
第五條　第三條第一項ノ土地區劃整理施行ノ爲必要アルトキハ、換地豫定地ヲ指定シテ土地區劃整理施行地區內ニ存スル建物其他ノ工作物ノ所有者ニ對シ其ノ移轉ヲ命スルコトヲ得、此ノ場合ニ於テハ少クトモ三月前ニ所有者及占有者ニ其ノ旨ヲ豫告スヘシ。
所有者又ハ占有者カ、前項ノ移轉ニ因リテ損害ヲ受ケタルトキハ、共ノ通常受クヘキ損害ニ限リ之ヲ補償スヘシ。
前項ノ規定ニ依ル補償金ハ、補償審查會之ヲ決定ス。
耕地整理法第二十五條並土地收用法第八十二條第一項及第二項ノ規定ハ、第二項ノ規定ニ依ル補償金ニ關シ之ヲ準用ス。
第六條　第三條第一項ノ土地區劃整理ノ施行ニ因リ道路廣場運河其ノ他ノ公共ノ用ニ供スヘキモノトナリタル土地ハ、其ノ施行ニ要スル費用ヲ負擔スル國又ハ公共團體ノ所有地ニ編入ス。
前項ニ規定スル土地ハ、勅令ノ定ムル所ニ依ル、其ノ編入ニ關シテモ亦同シ。
第七條　第三條第一項ノ土地區劃整理ノ施行ニ因リ、土地區劃整理施行地區內ニ於ケル施行後ノ宅地ノ總面積カ、施行前ノ宅地ノ總面積ヨリ一割以上ヲ減少スルニ至リタルトキハ、其ノ一割ヲ超エル部分ニ對シ、勅令ノ定ムル所ニ依リ補償金ヲ交付スルコトヲ要ス。
前項ノ宅地トハ、勅令ニ依リ公共ノ用ニ供スル土地ト定ムルモノ以外ノ土地ヲ謂フ。
第五條第三項及第四項ノ規定ハ、第一項ノ補償金ニ關シ之ヲ準用ス。
第八條　都市計畫法第十三條第二項ノ規定ハ、第三條第一項ノ土地區劃整理ニ之ヲ準用ス。
第九條　補償審查會ハ、內閣總理大臣ノ監督ニ屬ス。

補償審査會ハ、會長一人及委員十四人ヲ以テ之ヲ組織ス。

會長ハ、關係各廳高等官又ハ學識經驗アル者ノ中ヨリ、內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス。

委員ハ、左ニ揭クル者ヲ以テ之ニ充ツ、內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス。

一、關係各廳高等官　三人。

二、關係府縣高等官　二人。

三、關係府縣市參事會員　六人。

四、學識經驗アル者　三人。

前項第二號及第三號ノ規定ニ依ル委員ハ、關係府縣市ニ關セサル事項ニ付議事ニ參與スルコトヲ得ズ。

補償審査會ニ關スル費用ハ、國庫ノ負擔トス。

第十條　都市計畫法第二十三條乃至第二十六條ノ規定ハ、本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ之ヲ準用ス。

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス。

帝都復興計畫法案理由書

大正十二年九月ノ震災ノ結果ニ鑑ミ、東京及橫濱ノ復興ニ關スル計畫ヲ樹テ、其ノ事業ヲ遂行スルノ必要アリ、是レ本案ヲ提出スル所以ナリ。

討議に上りたるは、大正十二年十二月十四日にして、國務大臣伯爵山本權兵衛提出の理由を說明す、言ふ、現行都市計畫法は、今次の如き大震災を讓想したるものに非されば、十分の運用を爲す能はず、殊に復興計畫は多く土地區劃整理の方法を以て之を遂行するに依り、是に關する法規を要す、是れ本法案の提出を見たる所以なり、其第一條に東京橫濱に於ける都市計畫と稱し、本法に規定無きものに限り、都

市計畫法を適用することとし、第三條以下に於て、事業執行上必要なる規定を設け、力めて公共の利益と個人の利益とを調和せしめんとしたる者なりと、議員松本君平質問して、其計畫の小なるを疑ひ、國務大臣子爵後藤新平、本法は土地の區劃整理を主としたるものにして、復興事業の全部に非ざることを辯じ、更に木下莞三郎、秦豐助。安藤正純の質問國務大臣後藤新平の答辯あり、議長指名の委員二十七名に付託す。

十五日十六日十七日十九日二十日委員會あり。

委員會議事經過　左の如し。

高橋委員長(光威)宣して討議に入るや、小橋委員(一太)修正案を提出す、修正の箇所は、

「帝都復興計畫法」ナル法案ノ名稱ヲ「特別都市計畫法」ト改メ、其ノ結果第一條中「復興計畫」ヲ「特別都市計畫」ト改メ、第二條中「復興計畫事業」ヲ「特別都市計畫事業」ト改メ、第三條中「行政廳又ハ公共團體カ施行スル」トアルヲ削リ、及第二項中「前項ノ」ト云フ三字ヲ削リ、第三條ノ次ニ左ノ如ク第四條ヲ加フルコト。

第四條土地區劃整理ヲ施行スル爲土地區劃整理組合ヲ設立セムトスル場合ニ於テ、土地所有者同意ヲ爲スニ付テハ、勅令ノ定ムル所ニ依リ借地法ニ云フ借地權者ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス、前項ノ借地權者ハ、登記ナキモ耕地整理法第二條ノ二ノ規定ニ依リ前項ノ組合ノ組合員トナルコトヲ得。

共ノ結果、第四條ヲ第五條トシ、同條中「前條第一項ノ」ト云フ六字ヲ「行政廳又ハ公共團體カ」ニ、「第七條」ヲ「第八條」ニ改メ、第五條ヲ第六條トシ、同條中「第三條第一項」ヲ「前條」ニ改メ、第六條ヲ第七條トシ、同條中「第三條第一項」ヲ「第五條ニ改メ、第七條ヲ第八條トシ、同條中「第三條第一項」ヲ「第五

條」ニ、「第五條」ヲ「第六條」ニ改メ、第八條ヲ第九條トシ、同條中「第三條第一項」ヲ「第五條」ニ改メ、第九條ヲ第十條第十條ヲ第十一條トスルコト、次ニ舊第九條ヲ第十條ニ修正シクルヲ又修正シテ、即チ「補償審査會ハ內閣總理大臣ノ監督ニ屬ス」トアルヲ「主務大臣」、又其ノ各項中ニ「內閣總理大臣」トアルヲ何レモ「主務大臣」ト改ムルコト。

言ふ、「修正ノ要旨ハ、之ヲ四點ニ分ツヲ得、第一ハ法案名稱ノ變更、第二ハ土地ノ所有者若ハ地主ノ組合カ此特別法ニ依テ土地區劃整理ヲ爲ス場合ヲ明ニシタルコト、第三ハ都市計畫法ニナキ借地法ニ依ル借地權者ノ同意ヲ土地區劃整理ノ組合ヲ設立スル場合ニ必要トスルコトヲ入レ、第四ニ補償審査會ハ內閣總理大臣ノ監督ノ下ニ屬セシヲ主務大臣ト改メタリ、而シテ本法ノ內容カ殆ト全部土地區劃整理ニ關スルモノニシテ、一般都市計畫法ノ特別規定タルヲ以テ法案ノ名稱ヲ變更セリ、共ノ結果第一二條ノ修正現ハレ、第三條ニ於テ行政廳又ハ公共團體カ施行スルト云フヲ除キタルハ、行政廳又ハ公共團體ノ外ニ土地所有者及地主組合ノ都市計畫法ニ依ツテ區劃整理ヲ爲ス場合ニ當ツテ、此特別法ニ依ツテ、土地區劃整理法ニ依ツテ、耕地整理法第四十三條ノ規定ニ制限セラレス、又換地處分ニ付テモ特別ナル場合ヲ適用スルノ途ヲ開キタルナリ、第四條ノ追加ハ都市計畫法制定當時ニ於テハ、借地法ノ發布ナキ爲借地權ヲ法律上認メ得サリシナリ、故ニ今回ノ如キ場合ニ於テハ、借地權者ノ權利ヲ重ンシ共ノ同意ヲ得セシムルヲ以テ適當ナリト考ヘタル爲ナリ、第五條ノ修正ハ、第三條修正ノ結果ナリ、又舊第七條修正後ノ第八條ハ、土地區劃整理ノ爲受益者ニ所有地ノ一割ヲ提供セシムルモノナルカ之ニ關シテハ一割五分ヲ提供セシム可シトノ說アリシモ、原案通リ一割ト定メタリ、蓋シ十二間以上ノ道路ヲ國ニ於テ、十二間以下ノ道路ヲ公共團體ニ於テ施行セシムルコト、修正サレタル結果、國カ土地區劃整理ヲナス處ト、共ノ以外ノ區劃整理ヲ爲ス處トヲ生シ、國ニ於テ區劃整理ヲ行フ箇所ニ一割五分ノ無償提供ヲ爲サシムルハ酷ナリトナシ、原案通リ一割トナシタリ、修正第十條ノ補償審査會ハ、復興院ノ廢止ノ爲之ニ代ル可キ關係ヲ有スル內務省ニ於テ復興計畫事業ノ遂行ニ要スル機關ヲ設置スレハ可ナリトノ意見アリ、之ヲ主務大臣監督ノ下ニ移セリ」と。

作間委員(耕逸)小橋委員との問答、關委員(直彥)の發言あり、協議會に移り、再び討議に入るや、作間委員原案を維持し、湯淺委員(凡平)亦修正案に反對し、上畠委員(益三郎)修正案贊成の意見を述ぶ、採決の結果、修正案多數を以て可決す。

二十日岩崎勳緊急動議を提出して議事日程を變更し、帝都復興計畫法案に關する特別委員の報告を求む、異議なく同法案第一讀會の續を開く。

二十日委員の報告あり。

報　告　書

一、帝都復興計畫法案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ表題ヲ「特別都市計畫法」ニ改メ、別紙ノ通修正スヘキモノト議決致候此段及報告候也。

大正十二年十二月二十日

帝都復興計畫委員長

高　橋　光　威

衆議院議長　粕谷義三殿

「別紙」

帝都復興計畫法案左の通修正ス。

第一條中及第二條中「復興計畫」ヲ「特別都市計畫」ニ改ム、第三

條中「行政廳又ハ公共團體カ施行スル」及「前項ノ」ヲ削ル。

第三條ノ次ハ左ノ如ク加フ。

第四條　土地區劃整理ヲ施行スル爲、土地區劃整理組合ヲ設立セムトスル場合ニ於テ、土地所有者同意ヲ爲スニ付テハ、勅令ノ定ムル所ニ依リ、借地法ニ謂フ借地權者ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス。

前項ノ借地權者ハ、登記ナキモ耕地整理法第二條ノ二ノ規定ニ依リ、前項ノ組合ノ組合員ト爲ルコトヲ得。

第四條ヲ第五條トシ、同條中「前條第一項ノ」ヲ「行政廳又ハ公共團體カ」ニ、「第七條」ヲ「第八條」ニ改ム、第五條ヲ第六條トシ、同條中「第三條第一項」ヲ「前條」ニ改ム。

第六條ヲ第七條トシ、同條中「第三條第一項」ヲ「第五條」ニ改ム。第七條ヲ第八條トシ、同條中「第三條第一項」ヲ第五條ニ、「第五條」ヲ「第六條」ニ改ム。

第八條ヲ第九條トシ、同條中「第三條第一項」ヲ「第五條」ニ改ム。

第九條中「內閣總理大臣」ヲ「主務大臣」ニ改ム。

第九條ヲ第十條トシ、第十條ヲ第十一條トス。

委員長高橋光威修正理由を說明し、議員作間耕逸、湯淺凡平の修正案反對、添田敬一郎の修正案贊成あり、修正案を可決し、直に三讀會を開きて確定す。

貴族院に於ては、二十一日議題と爲し、山本首相提案の理由を說明し、議員江木翼、水野錬太郎の質問、後藤國務大臣、松本政府委員の答辯あり、特別委員に附託せらる。內江木議員の質問は、帝都復興に關する豫算の計畫は、總て此の法案に依る計畫なりや、土地區劃整理に際し一割以內の地を無償を以て國有に編入するは、憲法擁護の土地所有權を侵害するものにはあらざるやと云ふに在り、松本政府委員（添治）は之に答へて、前者を然りとし、後者は帝國議會の協贊を經て施行しつゝある、都市計畫法の現に實行しつゝある者なりと爲す。

帝都復興計畫法案委員會は、十二月二十一日、二十二日を以て開かれ、衆議院の修正通り可決す。

帝都復興計畫法案委員會議事經過　左の如し。

二十二日午前質問を終り、午後討議に入る、委員長伯爵松木宗隆宣して、衆議院の修正案を議題とし、逐條審議を省略して、全部を議題とす、委員男爵斯波忠三郎衆議院の修正案に反對し、

第四條挿入の結果、帝都復興の桜子を沒却するの虞あり、今回の帝都復興は實に帝都百年の遠大なる計畫に關す、然るを行政廳主として之を行ふ點を沒却すれば、何の日か完全なる帝都の復興を望むを得べき、地方民或は帝都の復興を以て美觀を添ふるが爲めの計畫なるが如く誤解するものありと云ふ、是れ誤れるの甚しきものにして、帝都復興は、將來日本の帝都たるのみならず、五大國の一たるものの帝都を復興するに在りて、經濟的都市計畫を徹底的に行ふを眼目とす、從て此際行はざれば、將來爲し能はざるものゝ如き、速に斷行すべきものと考ふ、政府原案第三條の「行政廳又ハ公共團體」とあるを削減する如き、甚しき支障を起すものと考ふ、若槻、藤山、伊澤其他諸君の質問に對し、政府に於ても、組合に於て整然たる區劃整理を斷行するは、到底難しと考ふるが如し、然らば則ち本修正案は、帝都復興の桜子を沒却するものに非ずや、此の見地より衆議院の修正案に反對し、政府原案に復するを可とすと信ず。

と述べ、伊澤多喜男亦斯波說を贊して政府の原案に復することを望み、「帝都復興計畫法は、大體例外的法律にして、震災に當り已むを得ず非常法を設けたるものなり、其適用範圍は狹くするを當然とす、然るに衆議院の修正に據れば「行政廳又ハ公共團體」を削るの結果、土地整理組合の如きもの此第三條の規程中に挿入せらる、耕地整理法第四十三條に於て建物の存する宅地を除外したるは、元來建物ある宅地等を一私人の集りたる整理組合の決定に依て區域內に入るゝが如き重大事なりと考へたるが故なり、行政廳又は公共團體は相當の信用あるが故、これのみをして行はしめんとするものにして、整理組合等に斯る大なる權力を與ふべきものに非ず、本法は燒失を免れたる山手地方にも施行せらるべきものなるを以て、所謂三分の二の人々に依りて整理組合を作り、如何なる建物も普通の組合規約に依り組合の決議に從て施行せらるゝ危險を存す、此の如き修正案には斷然反對せざるを得ざるなり、尙第七條を削除すべき意見を有す、從來我國に於ては、土地區劃整理或は耕地整理を行ひたる結果、不用に供する土地ある場合には、全部之を無償にて國有に歸せしめつゝあり、今回の震災に依り、地主は比較的損害少なし、而して區劃整理後地價の騰貴は著しきものあるを考へ、第七條を削除するの意見を提出す」と主張す、和田彥次郎は、

政府原案の施行を望むと雖、既に此の修正案の意思に基き豫算にも影響し居れば、政府の原案を贊するとも之を行ふの豫算なかるべし、寧ろ不滿足ながらも衆議院の修正案を通過せしむるを、帝都復興事業に忠實なる所以と信ず。

とて修正案を贊し、永田秀次郎亦

先刻政府の言明したる所に據れば、本修正の爲め、行政廳又は公共團體の都市計畫を爲すことは決して不可能ならしめられたるものに非ず、何時にても之を行ひ得べく、殊に公共團體が之を爲すに際し、政府の之に補助を與ふることに關しても何等拘束を受くるものに非ずと云へり、果して然らば之を贊するも差支へなしと考ふ、會期切迫の際混雜を起すを虞れ修正案に贊成す。

と述べ、若槻禮次郎は斯波說を贊して、豫算と此の法律との關係なきを辯じ、藤山雷太は修正案を贊成す、採決するや、斯波氏の修正說否決せられ、原案即ち衆議院案多數を以て可決したり。

二十三日、貴族院の本會議に上るや、委員長松本伯委員會の經過結果を報告し、乃ち共の報告通り可決す。

三　復興經費議定

一、復興經費議定

大正十二年十二月十一日帝國議會開院即日、政府は復興法規と同じく、帝都復興豫算

(第一號)大正十二年度歲入歲出總豫算追加案

(追第一號)豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件

を衆議院に提出し、十二日更に

(第二號)大正十二年度歲入歲出總豫算追加案

(第三號)大正十二年度歲入歲出總豫算追加案

(特第一號)大正十二年度特別會計歲入歲出豫算追加案

(特第二號)大正十二年度特別會計歲入歲出豫算追加案

を提出す、第一號豫算追加案は即ち帝都復興豫算にして、第二號豫算追加案は帝國大學の對災施設豫算、第三號豫算は火災保險會社への貸付金豫算なり。

所謂帝都復舊豫算の概要左の如し。

帝都復興豫算概要

第一、總　敘

帝都復興ニ關シテハ、大震火災ノ損害ニ顧ミ、既往ノ成績ニ照シ、將來ノ發展ニ鑑ミ、特ニ財政ノ狀況ヲ勘案シ、最モ緊急適切ト認ム

ルモノヽミヲ撰擇シテ之カ實施ノ計ヲ定メ、又克ク事業ノ性質ヲ究メ、(一)國ニ於テ直接施行スヘキモノト、(二)地方公共團體ノ施設ニ俟ツヘキモノトニ分チ、兩々相俟テ十全ノ效果ヲ收ムルコト、セリ、而シテ國ニ於テ直接執行スルモノハ、何レモ帝都構成ノ基幹トナルヘキモノニシテ、今玆ニ其所要費額ヲ類別表示スレハ、

一、東京復興費　四〇二、七九三、〇〇〇円
二、横濱復興費　四五、七七七、〇〇〇

項目	總金額	十二年度	十三年度	十四年度	十五年度	十六年度	十七年度
東京復興費							
街路費	四〇二、七九三、〇〇〇円	七、九八一、〇〇〇円	一〇九、五八二、〇〇〇円	一四〇、八九八、八〇〇円	九七、七三五、八〇〇円	四二、三四〇、二〇〇円	
運河費	三一、八三五、〇〇〇	三八、五四〇、〇〇〇	八、九三五、〇〇〇	六五、九二四、〇〇〇	三五、四〇七、〇〇〇	四、八〇四、〇〇〇	
公園費	二八、五四〇、〇〇〇	五七七、〇〇〇	一、一二四、〇〇〇	六、〇八〇、〇〇〇	一、三四〇、〇〇〇	一、四一四、〇〇〇	
土地整理費	二一、九〇〇、〇〇〇	一、三五〇、〇〇〇	四、三五〇、〇〇〇	一四、三五〇、〇〇〇	一、三五〇、〇〇〇	一、三五〇、〇〇〇	
橫濱復興費	四五、七七七、〇〇〇	八六九、〇〇〇	一、七七七、〇〇〇	七、三四七、〇〇〇	六、六七七、〇〇〇	六、六七七、〇〇〇	
街路費	三一、七九八、〇〇〇	四九九、〇〇〇	一、一九八、〇〇〇	四、九八八、〇〇〇	三、一八九、〇〇〇	三、一八九、〇〇〇	
運河費	五、六三二、〇〇〇	五六、〇〇一	一一二、〇〇〇	一、一二四、〇〇〇	一、一二四、〇〇〇	一、一二四、〇〇〇	
公園費	一、九五六、〇〇〇	九、〇〇〇	八五、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	
土地整理費	八六九、〇〇〇	八六、九〇〇	一七三、八〇〇	四三四、五〇〇	一七三、八〇〇	一七三、八〇〇	
地方復興事業費貸付金	一二、三五三、三三六	一、二八五、三三六	一、〇六〇、〇〇〇	一、〇六〇、〇〇〇	一、〇六〇、〇〇〇	一、〇六〇、〇〇〇	
東京府貸付金	一一、五四九、八八八	一、〇四九、八八八	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	
神奈川縣貸付金	八〇三、四四八	二三五、四四八	六〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	
防火地區建築費補助	三〇、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	六、〇〇〇、〇〇〇	九、〇〇〇、〇〇〇	九、〇〇〇、〇〇〇	一二、〇〇〇、〇〇〇	
地方復興事業費補助	六九、三三五、九一七	三、八一九、八一七	一、三四四、九八三	一、三四四、九八三	一、三四四、九八三	一、三四四、九八三	
東京府補助	二一、五四九、八八八	一、〇四九、八八八	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	
神奈川縣補助	八〇三、四四八	二三五、四四八	六〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	
東京市補助	二一、〇五六、六六七	一、〇五六、六六七	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	
橫濱市補助	二、五七一、〇〇〇	二、五七一、〇〇〇					
合計	五七四、八一六、〇四九	二〇、〇〇〇、〇〇〇	六九、二二五、九一七	二一、六九四、七三〇	一五、三二五、四〇二	一〇、五〇一	

三、地方復興事業貸付金
四、防火地區建築費補助
五、地方復興事業費補助
六、地方復興事業債利子補助

合計

ニシテ、之ヲ大正十二年度以降六箇年度ノ繼續費トセリ、而シテ其ノ各費目別年度割金額ヲ示セハ、左ノ如シ。

年度割金額

地方復興事業債利子補給　東京市債利子補給　二、八八三、九六四、七三〇　三六、八一三
　　橫濱市債利子補給　一、七四〇、八〇七、二四四　八〇、三四三
合計　即チ總費額ノ各年度割金額ハ　二、八七四、〇四八、九七四　一一六、一五六

年度	金額	
大正十二年度	一三、九八八、九八五円	
大正十三年度	一四二、三三六、〇七九	
大正十四年度	一四二、七六九、三五七	
大正十五年度	一一二、三八四、六〇八	
大正十六年度	九四、七三三、八〇〇	
大正十七年度	六八、六〇三、二二〇	
合計	五七四、八一六、〇四九	

第二、東京復興費

東京復興ニ就テハ、單ニ之ヲ舊態ニ復スルニ止マラス、進テ將來ノ發展ニ備フヘキヤ論ヲ俟タス、從テ鑾劃經營スヘキ喫緊ノ事業固ヨリ一ニシテ足ラスト雖、緩急序アリ財源亦限アルヲ以テ、最モ急ヲ要スル燒失區域內ニ於ケル施設ヲ先ニスルノ方針ヲ採リ、愼重考査ノ上、其ノ計畫ヲ確立セリ、而シテ東京復興事業ハ、之ヲ大別シテ(一)街路、(二)運河、(三)公園、(四)土地整理ノ四トス、以下序ヲ逐ヒ項ヲ分チテ其ノ概要ヲ說述スヘシ。

一、街路　街路ノ構築ニ就テハ、特ニ交通幹線ノ配置ニ意ヲ用キ、主要街路ノ規格ハ幅員十二間乃至三十間トシ、配スルニ六間以上ノ補助道ヲ以テシ、又電氣軌道網ヲ構成スル路線ノ規格ハ十一間以上トシ、地域ノ情況ト交通ノ系統ニ稽ヘ、各路線ヲ配置按排セリ、而シテ右方針ニ基キ新設又ハ擴築スヘキ街路ノ延長ハ十三萬六千六百二十七間ニシテ、之カ施設ニ要スル費額ヲ各費目ニ分チ年度別ニ表示スレハ左ノ如シ。

街路費（東京）

費目	總費額	十二年度	十三年度	十四年度	十五年度	十六年度	十七年度
用地及補償費	一五四、六九四、〇〇〇円	四、五〇〇、〇〇〇円	七七、〇九六、〇〇〇円	四二、〇〇〇、〇〇〇円	一七、二一四、〇〇〇円	一七、二一四、〇〇〇円	一七、二一四、〇〇〇円
工事費	六七、三五六、〇〇〇	五四〇、〇〇〇	九、六五一、〇〇〇	一二、〇一〇、〇〇〇	一六、三四〇、〇〇〇	一六、〇三一、〇〇〇	一二、四六四、〇〇〇
橋梁費	三三、三七〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	三三、一一〇、〇〇〇	一四、二六一、〇〇〇	七、〇〇一、〇〇〇	二、八五〇、〇〇〇
共同溝費	一九、一五〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇	七、八五〇、〇〇〇	二、八五〇、〇〇〇	二、八五〇、〇〇〇	二、八五〇、〇〇〇

雜工雜費	一八、三五三、〇〇〇	一四、一〇五、〇〇〇	二、六五三、〇〇〇
計	三三、八三三、〇〇〇	三、九三三、〇〇〇	八〇、六四三、〇〇〇

而シテ街路ノ新設又ハ擴築ニ要スル土地ハ百九萬三千四百六十九坪ナルモ、土地ノ區劃整理ニ因リ無償ニテ收得スヘキ土地五十六萬坪ノ中ヨリ、土地整理地區內ニ於ケル街路ノ用地ニ充ツヘキ二十四萬坪ヲ控除シタル殘地積三十二萬坪ハ、之ヲ前揭街路ノ敷地ニ充當スルヲ以テ、

有償ニテ收得スヘキ街路用地ハ七十七萬三千四百七十坪ナリトス

參照　震災前ノ土地平均價格

(イ)東京市役所調	一八四圓
(ロ)農工銀行調	一八五圓
(ハ)勸業銀行調	二二二圓
平均	一九七圓

二、運河　東京市內ニ於ケル水陸交通ノ連絡ヲ便ニシ、貨物ノ運輸ニ資スル爲、在來ノ運河ヲ改修シ、且之ヲ聯繫スル運河ヲ新鑿スルコトトセリ、其ノ計畫ノ概要左ノ如シ。

甲、改修スルモノ

運河名	延長	現在幅員	計畫幅員	計畫深度	備考
小名木川	一、三五〇間	一七、五間	三〇間	七尺	深度ハ零點下ト
横十間川	二、〇二〇	一一、二	二二	六	ス以下皆同シ
大島川	一、一一〇	一四、六	二二	六	

運河費

年度割金額

費目	總費額	十二年度	十三年度	十四年度	十五年度	十六年度	十七年度
用地及補償費	八、三二六、三五三坪	三五、〇〇〇円	三五、〇〇〇円	三、三二九、〇〇〇円	九〇一、〇〇〇円	八〇五、〇〇〇円	二六五、六五〇円
工事費	一八、三四八、二四〇	三六、〇〇〇	三九、〇〇〇	三、三二九、〇〇〇	九〇一、〇〇〇	八〇五、〇〇〇	二六五、六五〇

乙、新鑿スルモノ

番號	延長	計畫幅員	計畫深度	
一	一三〇間	二二間	六尺	大島川曲線部ヲ直鑿
二	一六〇	二八	六	築地川ト亂川ヲ聯絡
計	二九〇	—	—	

即チ右計畫ニ依リ改修及新鑿スル運河ハ、

一　在來ノ運河ヲ改修スルモノ　延長　八、〇七〇間

二　新ニ運河ヲ開鑿スルモノ　同　二九〇間

ニシテ、之カ施行ニ要スル費額ヲ各費目ニ分チ年度別ニ表示スレハ左ノ如シ。

運河費（東京）

年度割金額

費目	總費額	十二年度	十三年度	十四年度	十五年度	十六年度	十七年度
用地及補償費	八、三二六、三五三坪	三五、〇〇〇円	三五、〇〇〇円	三、三二九、〇〇〇円	九〇一、〇〇〇円	八〇五、〇〇〇円	二六五、六五〇円
工事費	一八、三四八、二四〇	三六、〇〇〇	三九、〇〇〇	三、三二九、〇〇〇	九〇一、〇〇〇	八〇五、〇〇〇	二六五、六五〇

雜工雜費	一、三〇二、三三	二一、〇〇〇	三一、〇〇〇
計	二八、三三〇、〇〇〇	三七、三〇〇、〇〇〇	四〇、三〇〇、〇〇〇

三、公園　公園ハ、平時ニ在リテハ保健衛生享樂ノ機關トシテ、非常時ニ在リテハ防火避難又ハ救護ノ要所トシテ、近代都市ノ構成ニ必要缺クヘカラサル施設ノ一タルヤ論ヲ俟タス、則チ這次ノ災鵄ニ顧ミ、成ルヘク普遍的ニ之ヲ設クル方針ヲ採リ、國ニ於テ直接執行スルノ外、市ヲシテ適所ニ小公園約五十箇所ヲ施設セシムルコト、セリ、而シテ國ノ施設スル公園ノ計畫及其ノ費額ヲ示セハ、左ノ如シ。

公園費（東京）

年度割金額

費目	總費額	十二年度	十三年度	十四年度	十五年度	十六年度	十七年度
用地及補償費	一〇、一〇、〇〇〇	二八三、〇〇〇円	二八三、〇〇〇円	二、八三七、〇〇〇円	二、八三七、〇〇〇円	八九八、〇〇〇円	三五六、〇〇〇円
設備費	一、六〇〇、〇〇〇	—	一六〇、〇〇〇	一六〇、〇〇〇	一六〇、〇〇〇	一六〇、〇〇〇	一六〇、〇〇〇
計	二、六〇〇、〇〇〇	二八三、〇〇〇	四四三、〇〇〇	二、九九七、〇〇〇	二、九九七、〇〇〇	一、〇五八、〇〇〇	五一六、〇〇〇

四、土地整理　土地ノ區劃整理ニ付テハ、東京市ノ燒失面積千四十八萬七千四百七十坪ヲ基準トシ、約一千萬坪ニ付區劃測量ヲ實施シ、約七百萬坪ヲ區劃整理地域トシ、一地區ヲ三萬坪乃至五萬坪ニ分チ、各地況ヲ案シ適當ノ設計ヲ定メテ施業スルノ方針ニシテ、土地區劃整理ノ施行ニ因リ、道路廣場運河其ノ他ノ公共ノ用ニ供スヘキモノト爲リタル土地ハ、總テ之ヲ國ノ所有地ニ編入スルノ制ヲ樹テ、其ノ整理施行後ニ於ケル宅地ノ總面積カ、施行前ノ宅地ノ總面積ヨリ一割以上減縮スルニ至リタルトキハ、其ノ一割ヲ超ユル部分ニ對シ、勅令ノ定ムル所ニ依リ補償スルノ途ヲ啓キ、以テ所有者其ノ他ノ關係人ノ利益ヲ保障シ、亂雜ナル區劃ヲ整正シテ、土地ノ利用ヲ增進スルト共ニ、復興事業ノ施行ニ資スルコト、セリ、之ヲ約

費目ニ分チ年度別ニ表示スレハ、左ノ如シ。

費（東京）

年度割金額

費目	總費額	十二年度	十三年度	十四年度	十五年度	十六年度	十七年度
用地及補償費	一〇、四八七、四七〇坪	一〇、〇〇〇、〇〇〇坪	七、〇〇〇、〇〇〇坪	三〇、〇〇〇坪乃至五〇、〇〇〇坪	一二〇乃至一八〇		
設備費	一〇、〇〇〇、〇〇〇坪						
計	二〇、四八七、四七〇坪						

ニシテ、之カ施業ニ要スル費用ヲ類別表示スレハ、

區分	數量	單價	所要費額
土地測量費	一〇、〇〇〇、〇〇〇坪	三〇錢	三、〇〇〇、〇〇〇円
建物移轉費	一、〇〇〇、〇〇〇	二七、五〇〇	二七、五〇〇、〇〇〇
地下埋沒物整理費	六、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	六、〇〇〇、〇〇〇
道路下水工事費	五〇〇、〇〇〇	五〇〇	二、五〇〇、〇〇〇

障害物除却費	五、〇〇〇、〇〇〇	三〇〇	一、五〇〇、〇〇〇
計			四〇、五〇〇、〇〇〇

年度割金額

費目	總費額	十二年度	十三年度	十四年度	十五年度	十六年度
整理費	三、〇〇〇、〇〇〇円	一八五、〇〇〇円	一、三五〇、〇〇〇円	一、〇四〇、〇〇〇円	一八九、〇〇〇円	
補償費	三、九五〇、〇〇〇	九五〇、〇〇〇	二、三五〇、〇〇〇	三、二五〇、〇〇〇	三、九五〇、〇〇〇	
雜工雜費	四、〇〇〇、〇〇〇	二五、〇〇〇	一、九四〇、〇〇〇	一、三五〇、〇〇〇	八九、〇〇〇	
計	四〇、五〇〇、〇〇〇	一、二五〇、〇〇〇	一四、六五〇、〇〇〇	一四、六五〇、〇〇〇	四、一八五、〇〇〇	

參考　區劃整理ヲ行フ面積ハ七百萬坪ナルヲ以テ、其一割ハ七十萬坪ナルモ、整理地區內ニ於ケル道路敷濱地宅地ノ一割ニ當セサルモノアリ、又地區ノ情況ニ依リ、幹線道路敷地ヲ整理地區ニ編入シ難キモノアルヲ以テ、無償提供セシムヘキ用地ハ、之ヲ全整理地積ノ八分即チ五十六萬坪ト推算セリ。

事業モ、亦之ヲ分チテ(一)街路、(二)運河、(三)公園、(四)土地整理ノ四トス、以下項ヲ逐フテ其ノ大要ヲ說明セム。

第三、橫濱復興費

橫濱市ノ復興ニ關シテハ、其ノ國港タルノ地位ニ鑑ミ、特ニ帝都トノ交通關係ヲ考量シ、其ノ復興計畫ヲ確立セリ、而シテ橫濱ノ復興

街路費（橫濱）

年度割金額

費目	總費額	十二年度	十三年度	十四年度	十五年度	十六年度	十七年度
用地及補償費	一八、一〇七、〇〇〇円	六八〇、〇〇〇円	七、四九六、〇〇〇円	七、〇四四、〇〇〇円	一、四四九、〇〇〇円	一、三四二、〇〇〇円	
工事費	七、〇四一、〇〇〇	五九、〇〇〇	九四〇、〇〇〇	一、九三〇、〇〇〇	一、九三〇、〇〇〇	一、九三一、〇〇〇	
橋梁費	三、〇四三、〇〇〇	六八、〇〇〇	四七、〇〇〇	一、〇四九、〇〇〇	一、一四〇、〇〇〇	二八八、〇四三	
雜工雜費	一、四四七、〇〇〇	一二、〇〇〇	二三、〇〇〇	二三、〇〇〇	二四、〇〇〇	二〇九、〇〇〇	
計	三二、二九六、〇〇〇	四、二九八、〇〇〇	四、四四七、〇〇〇	九、二四六、〇〇〇	九、三七〇、〇〇〇	三、一九、六三五	

二、運河　橫濱市內ニ於ケル水運ヲ便ナラシムル爲、(イ)堀割川(ロ)中村川及堀川ノ二運河ヲ擇ヒ、之ヲ改修スルコト、セリ、本運河ハ橫濱市內ニ於ケル重要ナル幹線運河ノ一ニシテ、房總及三浦半島方面ヨリ橫濱港ニ通スル和船ノ大半ハ概ネ之ニ依ルヲ以テ、此ノ際之ヲ改修シ、在來ノ屈曲ヲ除キ、幅員ヲ擴築スルノ計畫ニシテ、其ノ概要左ノ如シ。

運河名	延長	現在幅員	計畫幅員	計畫深度	備考
堀割川	一、一七二間	一五間	一八間	五尺	深度ハ千潮面下トス
中村川及堀川	一、七二八	一五	一八	五	
計	二、九〇〇				

右計畫ノ實施ニ要スル費額ヲ各費目ニ分チ年度別ニ表示スレハ、左ノ如シ。

運河費（橫濱）

年度割金額

費目	總額	十二年度	十三年度	十四年度	十五年度	十六年度	十七年度
用地及補償費	九二、八〇〇円	一四、〇〇〇円	三四、〇〇〇円	七、〇〇三円	九、〇〇〇円	三四、七九七円	
工事費	四、〇六、一〇〇	三、〇〇〇	六〇、一〇〇	一、一一四、一〇〇	一、一一四、一〇〇	一、一四四、〇〇〇	
雜工雜費	九一、〇〇〇	一、〇〇〇	二、八〇〇	二、八〇〇	二、八〇〇	二、八〇〇	
計	四、八二、九〇〇	一八、〇〇〇	九四、九〇〇	一、一二四、九〇〇	一、一二四、九〇〇	一、一八九、〇〇〇	

公園費（橫濱）

年度割金額

費目	總費額	十二年度	十三年度	十四年度	十五年度	十六年度	十七年度
用地及補償費	三四四、〇〇〇円	一四〇、〇〇〇円	一四〇、〇〇〇円	二六、〇〇〇円	二六、〇〇〇円	三〇、〇〇〇円	一四、〇〇〇円
設備費	一、六一四、〇〇〇	三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	三九、〇〇〇	三九、〇〇〇	四〇、〇〇〇	九七、〇〇〇
計	一、九五八、〇〇〇	一七〇、〇〇〇	一七〇、〇〇〇	六五、〇〇〇	六五、〇〇〇	七〇、〇〇〇	一一一、〇〇〇

公園名	總費額	用地費	內訳 土工費	內訳 設備費
日ノ出公園	四、八〇〇坪	二四〇、〇〇〇円	—	六六、〇〇〇円
山下公園	二五、〇〇〇	九三、〇〇〇	二四〇、〇〇〇	二八三、〇〇〇
野毛山公園	一〇、〇〇〇	四五、〇〇〇	一〇五、〇〇〇	—
神奈川公園	六、〇〇〇	二八三、〇〇〇	九〇、〇〇〇	四、〇〇〇
計	五五、八〇〇	一、九九九、〇〇〇	四五、〇〇〇	四九八、〇〇〇

次ニ右費額ヲ各費目ニ分チ年度別ニ表示スレハ、左ノ如シ。

四、土地整理　橫濱ニ於ケル土地ノ區劃整理モ、亦大體ニ於テ東京ノ例ニ倣ヒ、燒失區域約三百萬坪ニ付區劃測量ヲ施行シ、約七十五

萬坪ヲ區劃整理地域トシ、土地ノ區劃整理ヲ執行スル計畫ニシテ、之カ施業ニ要スル費額ヲ各費目ニ分チ年度別ニ示セハ、左ノ如シ。

土地整理費（橫濱）

費目	總費額	年度割金額				
		十二年度	十三年度	十四年度	十五年度	十六年度
整理費	九〇〇、〇〇〇圓	三〇〇、〇〇〇圓	三〇〇、〇〇〇圓	三〇〇、〇〇〇圓	三〇〇、〇〇〇圓	三〇〇、〇〇〇圓
補償費	三、二三〇、〇〇〇	一、九六八、〇〇〇	契約ニ依ル	契約ニ依ル	契約ニ依ル	契約ニ依ル
雜工雜費	三三〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
計	四、四六〇、〇〇〇	二、四六八、〇〇〇	三二〇、〇〇〇	三二〇、〇〇〇	三二〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇

均等償還ノ方法ニ依リ之ヲ償還セシムルモノトス。

備考　府縣ニ於テ執行スル復興事業ニ關シテハ、別ニ添附スル所ノ府縣市復興事業一覽表ニ明カナルヲ以テ、之ヲ省ク。（上記一覽表ハ本書ニハ之ヲ省ク）

第四、地方復興事業費貸付金

東京府及神奈川縣ニ於テ執行スル復興事業ノ費用ハ、當該府縣ノ財政ノ現狀ニ鑑ミ、左ノ條件ノ下ニ數年ニ亘リ國庫ヨリ之ヲ貸付スルコトヽシ、豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ニ關スル要求ヲ爲スコトヽセリ。

一、貸付額　ハ左ノ年割ノ範圍內トス、但シ各年度ニ屬スル金額ハ之ヲ遞次繰越貸付ヲ爲スコトヲ得。

年度＼區分	東京府貸付額	神奈川縣貸付額	合計
	圓	圓	圓
大正十二年度	一、〇五〇、〇二三	二三三、三三三	一、二八三、三五六
大正十三年度	三、〇七三、一四六	八四二、三七一	三、九一五、五一七
大正十四年度	二、九二七、七七一	五〇〇、〇〇〇	三、四二七、七七一
大正十五年度	三、六九八、七五八	五〇〇、〇〇〇	四、一九八、七五八
大正十六年度	一、〇〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇
大正十七年度	一、〇〇〇、〇〇〇	—	一、〇〇〇、〇〇〇
計	一二、七四九、六九八	二、五七五、七〇四	一五、三二五、四〇二

二、利率　年五分、但シ据置期間ハ無利子トス。

三、据置期間　大正十八年三月三十一日。

四、償還期限及償還方法　大正十八年四月一日ヨリ起算シ、三十年間ニ元利

年度＼科目	防火地區建築費補助金
	圓
大正十三年度	二、〇〇〇、〇〇〇
大正十四年度	四、〇〇〇、〇〇〇
大正十五年度	五、〇〇〇、〇〇〇
大正十六年度	五、〇〇〇、〇〇〇
大正十七年度	四、〇〇〇、〇〇〇
合計	二〇、〇〇〇、〇〇〇

右防火地區建築費補助金算定ノ基礎、左ノ如シ。

區分	防火地區面積	豫定建築坪數	一坪當補助額	補助額	摘要
	坪	坪	圓	圓	
東京	一、四二〇、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇	三〇	一八、〇〇〇、〇〇〇	
橫濱	三一〇、〇〇〇	一〇六、〇〇〇	三〇	三、一八〇、〇〇〇	
計	一、七三〇、〇〇〇	七〇六、〇〇〇	—	二一、一八〇、〇〇〇	端數ヲ切捨二千萬圓トス

備考

一、豫定建築坪數ハ、建築數地面積ノ約六割ニシテ、大正十七年度迄ニ建築スルモノハ其二分ノ一、平均二階半建ト推定シ、補助ノ基本ト爲ルヘキ建築坪數（延）ヲ算定セリ。

二、補助額耐火建築物ノ建築費ヲ一坪平均三百圓、木造建築ヲ二百圓トシ、其ノ差額ノ約三分ノ一、即一坪當平均三十圓ヲ補助スルコトヽセリ。

第六、地方復興事業補助

東京府神奈川縣東京市及橫濱市ハ、震災ノ影響ニ因リ財力窮乏セルヲ以テ、其ノ執行スル復興事業ニ對シテハ、各其ノ事業ノ性質ニ稽ヘ、適當ノ率ヲ定メテ國庫ヨリ之カ費用ノ一部ヲ補助スルノ必要アリ、其補助率概ネ左ノ如シ。

事業ノ種類		補助率
道路	國道	二分ノ一
	環狀線放射線	三分ノ一
	其ノ他	十二分ノ五
橋梁	國道ニ架スル重要ナルモノ	三分ノ二
	其ノ他	道路ニ同シ
河川		三分ノ一
上水道		四分ノ一
下水道		二分ノ一
公園		三分ノ一
庫芥處分		四分ノ一
中央市場		四分ノ一
教育施設		四分ノ一
社會事業	職業紹介所	中等教育施設ヲ除ク
	其ノ他	二分ノ一
衞生施設	結核療養所	四分ノ一
	傳染病院	二分ノ一
	其ノ他	三分ノ一
		四分ノ一

前記補助率ニ依リ、東京府神奈川縣東京市及橫濱市ニ對シ補助金ヲ支給スル爲、豫算外國庫ノ負擔トナルノ契約ニ關スル要求ヲ爲スコトヽセリ、其ノ年割額左ノ如シ。

年度＼科目	東京府補助	神奈川縣補助	東京市補助	橫濱市補助	合計
	圓	圓	圓	圓	圓
大正十二年度	一、三七七、六二五	一六七、六七七	二、〇六七、六七七	三三五、〇〇〇	三、八一六、八一七
大正十三年度	一、九七七、六二五	二五七、六七七	一〇、四〇一、六六六	一、二七一、〇〇〇	一四、四四六、一〇五
大正十四年度	二、三五二、四三八	二九二、五六三	一〇、七七五、〇六三	一、三五二、〇〇〇	一四、六八八、一二四
大正十五年度	二、一八七、五三八	—	一〇、九三五、〇六三	二、一八七、五三八	一四、九二九、六八九
大正十六年度	八五〇、〇〇〇	—	八、四五〇、〇〇〇	一、九五〇、〇〇〇	一〇、二〇〇、八五〇
大正十七年度	八五〇、〇〇〇	—	七、八一四、六三二	一、三七一、四三〇	九、八三三、一三二
合計	七、九七三、四三八	四六〇、二四一	五〇、一三六、一九五	一〇、七四四、四三二	六九、一三四、九一七

備考　地方復興事業ノ內容及補助費ノ各事業別年度割等ハ、別ニ添付スル諸表ニ依リ明カナルヲ以テ之ヲ略ス。（上記諸表ハ、本書ニハ之ヲ省ク）

第七、地方復興事業債利子補給

東京市及橫濱市ニ於テ復興事業ノ費用ニ充ツル爲募債スルニ付、同

市財政ノ情況ニ稽ヘ、國庫ヨリ其ノ利子ヲ補助スルノ必要アリ、依テ豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ニ關スル要求ヲ爲スコト、セリ其ノ年割額左ノ如シ。

年度＼科目	東京市債利子補給	横濱市債利子補給	合計
大正十二年度	三〇、三三三	八、四七九	二八、八一二
大正十三年度	一、〇〇七、九二二	二三四、五三五	一、二四二、四五七
大正十四年度	二、三三〇、三二〇	五五三、一五二	二、八八三、四七二
大正十五年度	三、六四一、〇九八	八六六、八二九	四、五〇七、九二七
大正十六年度	四、七四一、四四一	一、一七五、三五九	五、九一六、八〇〇
大正十七年度	五、六五七、一〇六	一、四四八、一〇二	七、一〇五、二六二
合計	一七、四〇八、二七四	四、二八六、四五六	二一、六九四、七三〇

備考　東京及横濱市債ノ起債年度割及利子計算ノ基礎等ハ、別表ヲ以テ明カニシ、玆ニハ之ヲ省略ス。（上記別表ハ本書ニハ之ヲ省ク）

第八、補遺

帝都復興事業ハ、總叙ニ於テ述フルカ如ク、各其ノ事業ノ性質ニ依リ、或ハ國ニ於テ直接之ヲ執行シ、或ハ地方公共團體ノ執行ニ委ネ、兩々相倚リ相俟ツノ其效果ヲ收ムヘキモノナルコト論ヲ須キス、故ヲ以テ地方公共團體ニ於テ執行スル事業ニ對シテハ、政府ニ於テ其ノ元利ノ仕拂ヲ保證シテ資金ノ調達ヲ扶ケ、又ハ適當ノ補助ヲ與ヘテ之ヲ助成スルト共ニ、國ニ於テ直接執行スル事業ニ對シテハ、適當ノ率ヲ定メテ地方公共團體ニ之ヲ分擔セシメ、又其ノ事業ニ因リテ著シク利益ヲ享クル者ヲシテ、費用ノ一部ヲ負擔セシメサルヘカラス、其ノ地方公共團體ニシテ分擔セシムル割合左ノ如シ。

地方公共團體ノ分擔割合

區分	豫算額	地方分擔歩合	地方分擔額
東京復興事業費	四〇二、七九三、〇〇〇円	—	一三一、八三一、二一九円
東京市	五七、七三七、五〇〇圓		
横濱市	六、二九九、七五〇圓		

街路費 用地及補償費	二八四、三三〇、〇〇〇	二分ノ一	一四二、一六〇、〇〇〇
街路費 工事費			
街路費 橋梁費			
街路費 地下埋設物共同購費	三七、五〇三、〇〇〇	—	—
街路費 架工雜費			
運河費 用地及補償費	二六、八六四、八七五	四分ノ一	六、七一六、二一九
運河費 工事費			
運河費 雜工雜費	一、七〇五、一二五	—	—
公園費	一一、九〇〇、〇〇〇	四分ノ一	二、九七五、〇〇〇
土地整理費	四〇、五〇〇、〇〇〇	—	—
横濱復興事業費	四五、七七七、〇〇〇	—	一七、〇〇〇、二五〇
街路費 用地及補償費			
街路費 工事費	三〇、二六一、〇〇〇	二分ノ一	一五、一三〇、五〇〇
街路費 橋梁費			
街路費 雜工雜費	一、四六七、〇〇〇	—	—
運河費 用地及補償費	三、三三〇、〇〇〇	四分ノ一	一、三八〇、〇〇〇
運河費 工事費			
運河費 雜工雜費	九二、〇〇〇	—	—
公園費	一、九五九、〇〇〇	四分ノ一	四八九、七五〇
土地整理費	六、四六八、〇〇〇	—	—
合計	四四八、三五〇、〇〇〇	—	一六八、八三一、四六九

前表ニ掲クル地方公共團體ノ分擔金ハ、其財力ニ顧ミ、一時之ヲ納付セシメ難キヲ以テ、大正十八年三月三十一日迄据置、大正十八年度以降三十箇年度間ニ之ヲ分納セシムルコト、セリ、而シテ若シ其分納ヲ均等ノ額ニ依ルトセハ、兩市ノ一年ノ分納額ハ凡左ノ如シ。

東京市	五、〇六一、七〇七圓
横濱市	五六六、六七五圓

受益者負擔金ハ、前掲ノ地方公共團體分擔金ヲ限度トシ、分擔金算定ノ基本ト爲シタル復興事業費中ヨリ橋梁費ヲ控除シタル額ノ四分ノ一以内ヲ當該地方公共團體ヲシテ徴收セシムル見込ニシテ、其ノ限度凡左ノ如シ。

東京市	五七、七三七、五〇〇圓
横濱市	六、二九九、七五〇圓

而シテ土地區劃整理事業トシテ其整理地區内ニ造成シタル街路工事ニ付受益者負擔金ヲ徴スルヤ否ヤハ、一ニ之ヲ當該地方公共團體ノ決定ニ委スル見込ナリトス。

十三日衆議院に於て、山本首相井上藏相の演說あり、首相は、帝都の復興に關し、本年九月大詔を拜したるを以て、爾來帝都復興審議會並に帝都復興院を新設し、東京横濱兩市の災後を善處すると同時に、將來の發展を稽へ、計畫を定め、實質を主として外觀を從とし、專ら國民の實際生活に適合するを根幹とし、國力と民度とに顧み、其負擔し得る範圍を限度として、乃ち帝都復興計畫の規模を定め、健全にして秩序ある都府の建設を速進せんことを期し、斯に追加豫算及法律を提出したることを述べ、井上藏相は復興豫算に關して左の如く說明す。

九月一日の震災は、我國財政經濟に甚大の影響を與へ、歲入に於て、租稅の減免、徴集猶豫、一般經濟の打擊に由る減少、通信其他官業收入の減少のため減少し、歲出は救護警備等の臨時支出あり、之が爲め事業繰延、經常費節減等を以て大正十二年度の實行豫算を作る外なきに至り、成立豫算より八千三百餘萬圓を減じて歲入出十二億九千二百萬圓と爲したり、震災の結果、歲入の減少額二億一千四百萬圓なるも、一面歲入の自然增加一億五百餘萬圓あり、差引減收一億九百餘萬圓にして、前年度よりの繰越歲出に於ける一部打切及繰延を爲し、剩餘金二千五百萬圓を繰入れ、以て十二年度の辻褄を合せ、之を基準として十三年の總豫算を編成する事とし、極力節減の結果、歲入出十二億九千八百餘萬圓、即ち前年度より七千七百餘萬圓を減少す、精しく言へば、震災の結果に基く租稅の減少一億四千百萬圓、公債募集の見合せ四千三百萬圓にして、一方に既往の實情に徴して增加すべき金額並に既定計畫に基く當然の增減、前年度徴收を猶豫したるものゝ十三年に收入すべきもの等ありて、結局七千九百餘萬圓の減少と爲り、外に既定計畫に由り、政府の當然支出義務に屬するもの三千六百萬圓あるより、極力節約して、經常部臨時部を通じ約一億千二百餘萬圓を節約せるなり、尙前年度に比すれば剩餘金二百萬圓の增加を爲さゞるべからざるもの存ず、復興豫算は此の十二年度十三年度豫算に關係を有するものにして、大正十二年總豫算追加第一號に計上したる帝都復興費豫算は歲入出各千四百六十九萬千三百九十五圓なり、之を分ちて國家の手に執行する帝都復興事業費、東京府神奈川縣執行の復興事業費財源として貸付くる金額、復興事業の補助、東京横濱兩市の復興事業の財源たる市債の利子補給及復興事業に伴ふ帝都復興院の事務費とし、總額約五億九千七百餘萬圓、之を大正十二年乃至十七年の六箇年度に支出する事とし、財源は總て公債に求め、外に東京横濱兩市に於て外國に起債する場合は元利支拂の保證を爲す筈にして、これは國庫負擔となるべき契約を爲すの件として別途に提出しあり、又震災に由る家屋家財の燒失に對し、保險會社に於て任意に一定金額の出捐を爲す場合は、之が資金貸付の必要あるを以て、之が貸付金として一億八千萬圓の追加豫算を第三號に計上し、貸付事務費として農商務省所管に九千餘圓を要求す、其財源は剩餘金を以て支辨する計畫なり、而して一般會計の追加豫算第二號に掲げたる歲入出各百七十四萬九千九百三十六圓は、實に帝國大學の震災に對する應急施設費にして、財源は一

般會計の前年度剩餘金を以て之に充當するものなりとす、此外各省の國有諸營造物諸設備の復興改善費、震災地各府縣及公共團體への貸付或は補助費は、之を次の通常議會に要求する事としたり、而して歳入減額の恢復は相當の年限を要すべきに由り、此等巨費の財源は特別なる增收計畫を立てざる限り之を公債に求むるの外なく、政府は已むを得ず、右復興費乃至復興費の總てを公債支辨に據る事と爲し、今後數年に亘りて之を募集する計畫なり、而も公債の利拂、減債基金の繰入に要する金額は、一般歳計上の確定財源を以て支辨するの要あるを以て、緊縮繰延等を行ひ、以て歳入に殘餘を生ぜしめ、之が繰入を爲すことゝしたるのみ、尙政府は、同時に一般會計に計上する總ての公債募集を止め、十三年度以後も、公債財源に依るものは單に復興復舊費に限ることゝし、復興公債は、國力の許す限り內國債を以てすると雖、震災地の迅速恢復を圖る爲め、材料を外國に仰ぎ、之が代金の支拂に關し、國際金融の調節上、資源を外國市場に仰ぐの必要なきにしもあらず、故に政府は、復興公債の發行に際し、內外の市場を觀察して然るべく按排するの考へなり。

之に對して議員小川平吉、津原武、吉植庄一郎、鈴木富士彌、秦豐助の質問、國務大臣伯爵山本權兵衞、井上準之助、子爵後藤新平、男爵田健治郎、山之內一次、岡野敬次郎の答辯あり、十四日には議員山本悌二郎、井上孝哉、鈴木錠藏、田淵豐吉の質問、山本、井上、後藤各國務大臣の答辯、十五日には議員永井柳太郎、三輪市太郎、松本君平の質問、山本、伊集院(彦吉)、後藤、田各國務大臣の答辯あり。

豫算案は、十月十五日十六日十七日の委員會に於て質問を了し、十九日修正可決す。

委員會議事經過　左の如し。

山本委員長(悌二郎)復興豫算の討論に入るを宣し、島田委員(俊雄)

大要左の修正意見を述ぶ。

復興計畫ニ關スル豫算ノ內容ヲ見ルニ、之ヲ大別シテ事業費事務費トナス可ク、更ニ事業費ヲ大別シテ、土地整理ノ費用及街路ノ修築ニ關スル費用等種々ニ分タレ、其ノ他自治體ノ事業ニ對スル補助、或ハ貸付金等ノ項目ヲ含ム、而シテ玆ニ修正セントスルモノハ、事業費中ノ土地整理ノ費用及街路ノ費用並事務費ニ對スル三點ナリ。

政府ノ計上セラレタル所ヲ見ルニ、計畫中土地整理ニ關スル費用ハ、東京及橫濱ノ部分ヲ合算シテ四千五百數萬圓ナリ、此內東京ノ部ニ於テ三千百七十五萬圓、橫濱ノ部ニ於テ三百九十一萬七千圓、合計三千五百六十六萬七千圓ノ創減ヲナサントス、蓋シ政府原案ニヨレバ、地區ノ整理ハ總テ之ヲ政府ニ於テ實行セントスルモノナルモ、事實ニ於テ政府ノ說明ノ如ク簡單ニ之ヲ實行シ得ルモノニ非ズ、又質問應答ニ於テ現レタル地區ノ整理ニ付、受益者ヲシテ土地ノ一部分ヲ提供セシムルハ、所有權ノ關係ノ意味ニ於テ問題ノアル所ナリ、更ニ政府ニ於テハ外國ノ實例ヲ引用セラレ種々論ズルモ、我國ニ於テハ斯ノ如キ事業ノ經驗極メテ少ナシ、即チ都市計畫法ニヨリ、淺草其ノ他ノ燒跡ノ地ニ對シ、地主ノ任意ニヨル組合ノ意見ニ基キテ行ヘル當地區劃整理ノ實驗アルノミ、政府自ラ實行シ又法律ノ力ヲ利用シテ行ヘル實例ナシ、仍テ吾人ノ考フル所ニ於テハ、頗ル此事ハ困難ニシテ、簡單ニ實行シ難キ事ナリト信ズ、故ニ此點ニ於テ、吾人ハ實行可能ニシテ且疑問ノ少ナキ方法ヲ採用スルノ意味ニ於テ、地區ノ整理ニ關シテハ、大體現行法ノ趣旨ニ從ヒ、地主組合ヲシテ之ニ當ラシムル方針ヲ採用シ、唯政府ガ街路ヲ修築スル場合必要已ムヲ得ザル地區ノ整理、例ヘバ買上ゲタル土地ノ殘地處分等ニ依ル地區整理ハ之ヲ認ムルコト、セリ、即原則トシテハ、土地整理ハ之ヲ地主組合ノ任務トシ、地主組合ヲシテ之ヲ爲サシムル方針ノ下ニ、土地整理費中政府ガ其街路修築ヲナスニ關係上必要ナル部分ト認ムルモノヲ除キ、其ノ他ノ部分ハ之ヲ創減セント欲ス、要之吾人ノ土地區劃整理ニ對スル修正意見ハ、土地區劃整理ヲ否認スルモノニ非ズ、必要又實行可能ナル部分ハ政府ヲシテ爲サシメ、其ノ困難ナル部分、又短期間ニ於テ爲シ遂ゲ難キ部分ニ付テハ、地主組合ノ自治ニ任ズルヲ其ノ原則トスルモノナリ、此意味ニ於テ、東京ニ於テ、凡ソ百萬坪、橫濱ニ於テ凡ソ三十萬坪、合計百三十萬坪前後ハ、政府自ラ街路修築ニ伴ヒ必要已ム可カラザルモノトシテ之ヲ認メ、其以外ノモノハ之ヲ地主組合ヲシテ爲サシメントスルノ趣意ナリ、依テ前述ノ如ク三千五百六十六萬餘圓ヲ創減セント欲ス。

街路費ニ付テハ、其ノ幅員廣ク、政府既ニ調査シ其ノ費用ヲ計上シ得ルモノ、例ヘバ幅員十二間以上ノモノヽ如キハ、政府自ラ之ガ修復ニ任ズルヲ當然トスレドモ、概算ノミヲ政府ニ於テ示セル十二間以下ノ幅員ヲ有スル道路ニ付テハ、自治體ヲシテ之ニ當ラシムルヲ本則トス可キモノト考フ、蓋シ復興事業ノ必要ハ固ヨリ論ナキ處ナレドモ、之ガ爲ニ政府ガ悉クノ復興事業ヲ自己ノ手ニ於テ爲サヾル可カラズトナス結論ヲ生ミ出スモノニ非ズ、獨立セル自治體アル以上、其ノ權能ニ委シテ爲サシム可キ事ハ之ヲ能フ限リ爲サシメ、而シテ之ヲ援助スル方針ニ出ヅベキナリ、斯ル趣旨ニヨリ大體ニ於テ東京橫濱ヲ通ジ凡ソ二割ノ經費ヲ創減シ得ト信ズ、即チ此二割減ノ經費ニ依テ充分事業ヲ完成シ得ルノ確信ヲ有ス、固ヨリ其十二間以下ノ道路ノ修復ヲ自治體ガ爲スニ當ツテ、之ニ何等カノ援助ヲ爲スハ當然ナリ、二割ヲ創減セントスル結果、東京ニ於テ六千四百三十六萬四千六百圓、橫濱ニ於テ六百三十四萬五千六百圓、合計七千七十一萬二百圓ヲ創減セント欲ス。

此他事業費ノ部分ニ於テ、例ヘバ防火設備地域內ニ於ケル建築物ニ對スル補助ニ關シ、政府ハ二千萬圓ヲ計上スルモ、此金額ヲ以テ果シテ完全ニ其ノ補助ノ目的ヲ達シ得ルヤ否ヤ疑問アリ、其ノ他ニ付テモ疑點存スト雖暫ク之ヲ認容シ、主ナル二點即チ土地整理及街路費ニ付テ修正ヲ加ヘタルナリ、以上ノ創減額ヲ合計スレバ、即チ各年度ニ亘リ繼續シテ合計一億六百三十七萬七千二百圓トナルベシ。

次ニ復興ニ關スル事務費ニ付テ、政府ハ復興院費用トシテ各年度ニ亘リ合計二千三百九十三萬一千圓ヲ要ストナシ、大正十二年度ニ於テ七十萬二千四百十圓ヲ要求サル、吾人ハ此費用全部ヲ創除スルノ意見ヲ提出スルモノナリ、此ノ創除ハ一面玆ニ吾人ガ修正ヲ加ヘタル金額ニ屬スル事業ヲ遂行スルニ付テハ、復興院ノ如キ特別ノ機關ヲ設クル要ヲ認メズ、他面斯ノ如キ土木事業ニ對シテ堪能ナル官廳既ニ存ス、內務省ノ如キ土木建築ノ仕事ニ付キ充分經驗アル官吏ヲ有ス、故ニ內務省ノ一局トナシテ執行スルモ何等ノ支障ナキノミナラズ寧ロ適切ナル可シ。

近藤委員(達兒)大口委員(喜六)の質問、島田委員の之に對する「復興計畫案は修正を大體現行都市計畫法に基く精神なる事、街路は費用二割減を爲すの結果、政府は其範圍內にて幅員等を取捨すべしとの趣意なる事、道路及地域整理を自治體に行はしむる場合は、補助を爲すの要あるを認むる事」との答辯、田川委員(大吉郎)三木委員(武吉)森下委員(龜太郎)の質問、島田三郎(忠造)兩委員山本委員長の說明あり、守屋委員(松之助)は、修正案に對する修正意見即ち行政整理の意味に於て十二年度帝都復興院費中四萬四千二百六十一圓の創減。

帝都復興事業費中、土地區畫整理の爲め土地所有者より一割の無償提供を爲さしむる政府案を一割五分無償提供とし、此の五分に對し、豫算面より三百十一萬四百圓削除する事。

を述べ、下岡委員(忠治)は政府案を贊し、鳩山委員(一郎)質問する所あるや、宮尾政府委員(舜治)山本國務大臣の答辯、近藤委員の政府原案贊成、田川小川兩委員間に、削減に關する計數上の質問應答あり、採決の結果、多數を以て修正案を可決す。

是時島田委員左の決議案を提出す。

決議　政府ハ速ニ行政整理ヲ斷行シ、確實ナル財源ヲ得、以テ財政ノ基礎ヲ鞏固ニスルト共ニ、勤儉節約ノ範圍ヲ示シ、同時ニ經濟復興ニ關シ、更ニ進ンテ適當ノ施設ヲ爲スヘシ。

大口委員之を贊成し、山本委員長贊否を起立に問ふや、滿場一致を以て可決したり。

十九日衆議院は、議員岩崎勳の緊急動議に依り、議事日程を變更して、第一號大正十二年度歲入歲出總豫算追加案外三案を一括して議題と爲し、豫算委員長山本悌二郎の委員會に於ける經過結果に關する報告あり。

報　告　書

一、(第一號)大正十二年度歲入歲出總豫算追加案

右ハ本院ニ於テ別紙ノ通修正スヘキモノト議決致候、此段及報告候也

大正十二年十二月十九日　豫算委員長　山本悌二郎

衆議院議長　粕谷義三殿

別紙　豫算(小字及――ハ委員會修正)

第一條　大正十二年度歲入歲出追加額ヲ各千百四拾參萬七百八拾五圓千百六拾九萬千參百九拾五圓ト定ム、其ノ款項ノ金額ハ、別冊甲號歲入歲出豫算ニ據ルヘシ。

第二條　別冊乙號所揭ノ費途ハ、其ノ規畫スル所ニ隨ヒ、大正十二年度以降ノ繼續費ト爲ス。

第三條　大正十二年度歲出豫算追加中、別冊丙號所揭ノ費途ハ、年度末支出殘額ヲ翌大正十三年度ニ繰越使用スルコトヲ得。

甲號　歲入臨時部

第九款	公債金	
第三項	復興公債及繰替借入金	一二、四三〇、七八五圓 一四、六九一、三九五
	歲出臨時部	
	大藏省所管	
第十八款	帝都復興院	七〇二、四一〇
第一項	俸給	一六六、四四七
第二項	事務費	四六〇、五一八
第三項	調査及研究費	一一五、四四五
第十九款	帝都復興事業費	六、二九一、八〇〇 八、八五〇、〇〇〇
第一項	東京復興費	五、七〇五、六〇〇 七、九八一、〇〇〇
第二項	橫濱復興費	五八六、二〇〇 八六九、〇〇〇
第二十款	復興事業貸付金	一、二八三、三五六
第一項	地方復興事業費貸付金	一、二八三、三五六
第二十一款	復興事業費補助	三、八一六、八一七
第一項	地方復興事業費補助	三、八一六、八二七
第二十二款	復興事業債利子補給	三八、八一二
第一項	地方復興事業債利子補給	三八、八一二

	大藏省所管合計	一二、四三〇、七八五 一四、六九一、三九五
	大藏省所管	
	帝都復興事業費	
	總額	三四二、一九二、八〇〇圓 四四八、五七〇、〇〇〇
(款)	帝都復興事業費	三〇、六、六七八、四〇〇 四〇二、七九三、〇〇〇
(項)	東京復興費	三五、五、一四、四〇〇 四五、七七七、四〇〇
(項)	橫濱復興費	六、二九一、八〇〇 八、八五〇、〇〇〇
	年額	
	大正十二年度	五、七〇五、六〇〇 七、九八一、〇〇〇
	東京復興費	五八六、二〇〇 八六九、〇〇〇
	橫濱復興費	八、七、六〇七、〇〇〇 二一、九、七三二、〇〇〇
	大正十三年度	
	東京復興費	七一、九五五、四〇〇 一〇六、五八一、〇〇〇
	橫濱復興費	九、六五一、六〇〇 一三、一五一、〇〇〇
	大正十四年度	八、六、八五五、四〇〇 一一七、七九〇、〇〇〇
	東京復興費	七七、五三三、〇〇〇 一〇五、一八七、〇〇〇
	橫濱復興費	九、三二二、四〇〇 一二、六〇三、〇〇〇
	大正十五年度	六六、一九〇、八〇〇 八四、一二二、〇〇〇
	東京復興費	六〇、三四九、二〇〇 七六、八九八、〇〇〇
	橫濱復興費	五、八四一、六〇〇 七、一二三、〇〇〇
	大正十六年度	五、六、二三五、九三四 七一、四一一、一六七
	東京復興費	五〇、七九三、〇四一 六四、七七二、八〇〇
	橫濱復興費	五、四四二、八九四 六、六三七、三六七
	大正十七年度	三九、〇一一、八六六 四六、六六五、八三三
	東京復興費	三四、三四二、一六〇 四一、三七二、二〇〇
	橫濱復興費	四、六六九、七〇六 五、二九三、六三三
說明		臨時部第二十款復興事業費貸付金第一項
丙號		
	大藏省所管	
	地方復興事業費貸付金	

說明

右ハ東京府及神奈川縣ニ對シ復興事業ノ資金ニ充ツル爲貸付クルモノナルヲ以テ當該府縣ニ於ケル此業遂捗上ノ都合ニ依リ、年度內支出ヲ了スルヲ期シ難シ、依テ本年度ノ支出殘額ヲ翌年度ニ繰越使用スルヲ要ス。

報　告　書

一、(追第一號)豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候、此段及報告候也

大正十二年十二月十九日　豫算委員長　山本悌二郎

衆議院議長　粕谷義三殿

(第二號及第一號略)

山本豫算委員長は、豫算委員會に付託せられたる六案中、四案は復

興に關するもの、殘り二案は火災保險に關する豫算なるが、委員は復興に關する豫算案に付き質議討論し、本日午後一時四案の議決を見たりとて、其經過を述べ、委員の危ぶむ所は財源に在りたりとなし、豫算に計上したる所五億九千何百萬圓なれども、將來請求すべきものを合すれば十五億圓に達すべく、之が公債の元利を支拂ふ財源を經濟界の恢復に伴ふ日本人の增加に待たんとする政府の計畫は不安心なるのみならず、復興豫算の範圍內に於て計畫したる事業を遂行し得べきや否も氣遣はれざるに非ずとしたることを報じ、討議に入るや、政友會島田俊雄より、區劃整理の一部及幅十二間以下の街路を自治團に行はしむる事として復興事業費一億六百三十七萬七千二百圓を削減し、執行機關を內務省に移す目的を以て復興院事務所全部を削減すべしとの修正案を提出し、庚申俱樂部守屋松之助より、區劃整理の無償提供一割を一割五分とし、行政整理を爲して事務費を減じ、總額中より五千六百萬圓を削減すべしとの修正案出で、島田案大多數を以て可決せられ、同時に附帶決議亦可決せられたる旨を述ぶ、大口(喜六)委員長の報告を補ひ、委員長亦追加第一號外二案の全會一致を以て可決したることを補足報告す。

　共より議員湯淺凡平、政府は修正案を承認するや否やを問ひ、山本首相は共復興事業の實行に差支あるべきは之を豫想すと雖、東京市の現狀一日を緩ふすべきにあらざれば大局上忍ばざるを得ざる旨を答へ、三木武吉は修正案提出者若くは委員長に質問し、下岡忠治、橫山勝太郎の政府案贊成論、三土忠造、吉植庄一郎修正案贊成論、田川大吉郎森下龜太郎の修正案反對論あり、採決の結果、多數を以て修正案に決す。

　貴族院に於ては、十二月十九日衆議院より復興豫算の回附を受け、二十日議題と爲り、井上大藏大臣の演說あり、議員若槻禮次郎、阪谷芳郎、矢口長左衞門、山脇玄、志村源太郎、岡田良平、上山滿之進質問、山本後藤犬養(毅)山之內(一次)田(健次郎)井上各國務大臣の答辯あり、內阪谷男質問の要旨は、

衆議院は都市計畫豫算一億何千萬圓を削り、火災保險に關する二億圓を握り潰さんとす、即ち三億有餘圓を否決するものなり、知らず政府は三億圓の巨額を削減せられて猶差支なしとする乎、果して差支なしとせば、政府は杜撰なる計畫を以て議會に臨みたるの責を免るべからず、且夫れ今日の都市計畫は、專門の技術に屬す、震災は國家に取りて一大不幸なれども、都市計畫を實施する上には、千載一遇の機會なり、此の機會を捉へて、專門技術家が智嚢を搾つて立案したる計畫を、數日の間に深き研究をも爲さずして修正す、此の修正にして實行せられ、旋く瞞を他日に貽すことなきを得る乎、現時商工業は保險制度信用基礎上に組織せらる、信用制度の破壞を救濟するは緊要事たり、政府は之を如何にせんとする乎。

と云ふに在りたり。

　二十一日二十二日豫算委員會に於て審議し、衆議院の修正通り可決す。

豫算委員會議事經過　左の如し。

委員長伯爵林博太郎宣して討議に移り、委員子爵八條隆正衆議院の修正案を贊す。

衆議院に於て修正したる案に贊成す、然れども之を完全なりと考ふるには非ざるなり、衆議院の修正案は、土地整理費街路費事務費に削減を加へたるものにして、國に於て總てを執行する原案を地主組合自治體にも爲さしめんとするの結果に外ならず、思ふに土地區劃整理を地主組合に行はしめんとするは容易の事に非ず、又十二間以下の街路を市に於て行はしめんとするは、今日の市の財政狀態を以てしては亦頗る難事なり、此等の修正に依りて一億

數十萬圓を削減すと雖、此の削減は、重要なる土地整理街路等が地主組合自治體に於て完成し得たる時は、勢國家に於て其經費を補助せざるべからざるに至るべく、自治體に對する利子の補給等を加ふれば、或は削減の半額位は國家より支出せざるべからざる事と爲り、結局一億餘萬圓を削減したる事とはならざるなり、故に衆議院の修正は決して改善せられたるものと爲すを得ず、然れども政府の復興豫算も頗る遺憾とする點あり、何となれば此の大なる復興事業が果して國家の財政上調和を保ち得るか得ざるかを知る能はざればなり、震災に伴ふ復興事業費、各省に於ける復興費、產業復興、其他有ゆる事業に對する計畫全部を示さざるを以て、十五億見當の公債を以て復興復舊若くは產業の資金に按排せんとするの適否を判斷すること能はざるなり、故に政府の原案も同じく完全なりと謂ふべからず、從て吾人は十分に調査審議を要すと雖、會期切迫、餘日なく、一面に市民は復興計畫の速に實行せられんことを熱望するを以て、已むを得ず修正案を通過せしめたき考へなり。

と、阪本彥之助、政府は原案の復活を欲するや否やを問ひ、山本首相、衆議院の案の如く協議成らず、政府は之に向て異りたる意見を有せずと答ふ、男爵阪谷芳郎、衆議院の同意せざらんことを恐れて不滿足なる修正案に贊成するの要なしとし、十二間未滿の道路を自治體に行はしむるが如き、所謂半身不隨案なりとて、政府原案の復活を主張し、子爵渡邊千冬、阪谷男の說の如く衆議院に送付するも原案復活は不可能なるべしとて、修正案を贊し、阪本委員の阪谷說贊成、服部委員(一三)の修正案贊成、岡田委員(良平)の阪谷說贊成あり、謂ふ、復興院は詔勅の趣旨に基きて設けられたるもの、機關走大ならば、縮小して可なり、全部削減して之を內務省の一局

とすべしとなすが如き、大權を犯すの恐れなからずやと、大谷委員(嘉兵衞)亦政府原案を贊成す、江木委員(千之)討論終結の動議を出す、委員長贊否を起立に問ふ、衆議院修正案多數にて可決す。

二十三日議場に委員長林博太郎豫算委員會の經過結果を報告す。

議長公爵德川家達宣して、男爵阪谷芳郎提出の修正案(政府案)を議題に供す、阪谷男說明の大要に云ふ。

本員は豫算委員會の決議に反對なるを以て、已むを得ず玆に定規の贊成を得て、豫算修正の動議を提出す、帝都復興計畫法案已に通過したる今日、本員の主張は困難なる如きも、幸に本員の主張にして議場の容るゝ所とならんか、帝都復興計畫法案は、他日の議會に相當の修正を加ふべきものとす、而して政府の原案を復活するが如き決して本員の滿足する所に非ずと雖、憲法の慣例として議院より豫算增加の提案は爲し得ざるを以て、姑く原案復活を主張するのみ、別に帝都復興の計畫を完全ならしむるため、決議案を提出し置きたり、同決議案にして幸に通過を見れば、政府も更に其完全を改むるの提案を爲すに至るべしと信ず、今期の臨時議會は非常の場合なり、二度までも詔勅を下し賜はるまでに、容易ならざる場合なり、然るに上下兩院の爲す所何事ぞ、後世の史家、筆を把て如何なる批評を下すべきかを知らず、剩す所二十四時間の會期も、貴族院は之を善用して、稍ゝ完全なる復興計畫を貽さざるべからず、衆議院の修正に對して、政府は曰ふ、已むを得ず同意すと、貴族院は曰ふ、泣く泣く同意す、所謂衆議院の修正なるもの知るべきのみ、惟ふに衆議院の修正は、殆ど實行不可能なり、例へば土地整理を八百萬圓を以て行ふと云ふが如き、果して可能なりや否や、政府の原案は、一帶の燒失地を整理し、其中より道路の敷地を作り、而して此の道路に面したる住民には、其權利を保存すと云ふ立前にして、全部を通

じて土地を整理し、其の一割を以て行ふ案なるを、其中より唯大なる道路のみの所を土地整理し、餘は市民の任意に任ずる如き案とならば、其の部分の土地より整理し得たるものが、同値を以て買收するを得ず、非常なる高價なるものとなるが故に、政府が出來得と假に說明し居る十二間以上の道幅の工事費すら、余は對數的に信頼し得ざるなり、强て之を爲さんか、非常なる負擔を地主に負はしめざるべからず、故に此の何十萬間若くは何百萬間の道路に付て吾人に決議を望まると雖、其は不可能なり、況や十二間未滿の裏店路次等を整理せずして、現在の儘にて之を行ふとせば、火災の場合、依然消防に不便なるべく、又貴重なる金錢を費して、而も土地を不經濟に使用することゝならんとす、以前の日本橋は、大通は立派なりしも、一たび路次に入れば其錯雜せる住居驚くべきものありたり、此の機會に之を一掃して、眞に商工業中心地と爲し、火災には直にポンプを運び得、飛行機襲來の日は之を防ぐべき大砲を自由に運用し得る樣なさざるべからず、是れ衆議院の修正にて爲し得る所にあらず、此の千載一遇時に於て、財政の困難を忍び、相當の設備を爲すは、決して不急の土木と謂ふべからず、貴族院の爲し得る範圍、即ち政府の原案に復活し、後世子孫に幾分なりとも申譯ある成績を殘さんことを希望す、是れ修正案を提議する所以なり。

子爵八條隆正阪谷男の修正案に反對し、大谷嘉兵衛阪谷男の修正案を贊す。

採決するに及び、衆議院の修正案過半數を以て可決す。

引續き侯爵蜂須賀正韶外五名提出する所の決議案を議す。

帝都復興に關する決議案

右提出候也

大正十二年十二月二十五日

發議者	侯爵 蜂須賀正韶	侯爵	佐々木行忠
	子爵 前田利實		江木千之
	河村彌三郎	男爵	阪谷芳郎
賛成者	侯爵 細川護立	侯爵	大隈信常
	伯爵 奥平昌恭	伯爵	松平頼壽
	服部一三	子爵	青木信光
	子爵 牧野忠篤	子爵	酒井忠亮
	子爵 榎本武憲	子爵	水野直
	子爵 伊東祐弘	子爵	大河內正敏
	子爵 八條隆正	子爵	渡邊千冬
	淺田德則		北里柴三郎
	大塚勝太郎		石原健三
	男爵 宇佐川一正		木場貞長
	水野錬太郎		荒川義太郎
	和田彦次郎		石塚英藏
	小松謙次郎		岡田良平
	中村是公		上山滿之進
	男爵 斯波忠三郎	男爵	毛利五郎
	男爵 船越光之丞	男爵	北大路實信
	男爵 坪井九八郎	男爵	土屋光金
	男爵 福原俊丸	男爵	黑田長和
	男爵 藤村義朗	男爵	鄕誠之助
	男爵 東鄕安	男爵	池田長康
	石渡敏一		木內重四郎
	阪本釤之助		若槻禮次郎
	福永吉之助		中村純九郎

南弘	鎌田榮吉
安樂兼道	菅原通敬
西久保弘道	小池靖一
大谷嘉兵衛	片岡直輝
三田義正	鎌田勝太郎
犬上慶五郎	勝田銀次郎
横山章	

貴族院議長侯爵德川家達殿

帝都復興ニ關スル決議

帝興復興ノ計畫ハ、須ラク帝都百年ノ計ヲ根基ト爲シ、而シテ其ノ遂行ハ、國家財政ノ實狀ニ鑑ミ、緩急其ノ宜シキニ從フヲ要ス、今次ノ復興計畫ハ、數々變改ヲ重ネテ、尙未タ盡サヽルノ憾アリ、政府ハ克ク慮ヲ遠キニ致シ、補正以テ其ノ大成ヲ期スヘキモノト認ム。

右決議ス

子爵前田利定提出ノ趣旨ヲ述ブ。

山本伯內閣ヲ組織スルヤ、由リテ以テ大災善後ノ策立チ、禍ヲ轉ジテ福トナスノ德政ヲ見ンコトヲ望メリ、然ルニ政府今次ノ復興計畫ヲ見レバ、內容貧弱不徹底ニシテ、到底現代ニ於ケル大都市ノ趨勢ニ副ハズ、現代大都市ノ特徵ハ、無限ノ膨脹ヲナスニ在リ、都市經營ノ策亦之ニ備フル所ナカルベカラズ、歐米ニ於テハ、其文明力ヲ以テ企劃設備シ、猶其及バザルヲ虞ル、今日ノ如キ機會ニ於テ將來ノ天災ニ備フル爲メ、之ガ大計ヲ爲スハ、正シク爲政者ノ責務ナルニ拘ラズ、政府ノ都市計畫案タル、僅ニ燒失地區ニ限局シテ、全市ニ及バス、又產業復興、經濟復興ノ企畫ニ及ブナシ、以テ現代都市ノ趨勢ニ副フモノト謂フベカラズ、政府タルモノ宜シク大帝都百年ノ將來ヲ慮リ、之ニ順應スル基礎案ヲ樹立スベキナリ。

男爵中川良長、決議文中「今後の復興計畫は、數々變改を重ねて、尙未だ盡さゞるの憾あり」とある文句を削るべしと述べ、審議會等に於ける訂正變更は政府原案決定前の訂正變更なれは、之を明記するに及ばざるべしと曰ひ、前田子之に答へ、男爵藤村義朗は、「今次の政府計畫は固陋偏狹時代を解せざる審議會閣外委員一部の人々により變更せられたる案なり、衆議院の修正案は、此重大なる復興計畫を政爭の具に供して修正したるものなり、而して貴族院は遂に衆議院の修正案を可決す、眞に悲むべきなり、余は此の決議案に依りて現計畫の姑息不備不完全又不滿足なりとする貴族院の意見を表白し、以て政府を督勵し得ば、國家の爲に欣喜措く能はず」と說き、子爵大河內正敏は、審議會の修正に由り、京濱運河東京築港を復興計畫より除きたるを難じ、是れ實に復興計畫の根本議を轉覆したるものと論じ、貴族院の意見を內外に表明する此決議を贊すと述ぶ、西久保弘道亦贊成を表し、山本首相は、

政府は上程中の決議案に依り、諸君の帝都復興に心慮を勞せらるゝを承知し、深く敬意を表する者なり、復興豫算の執行に際し、政府は帝都百年の大計を案じ、萬一にも累を將來に貽すが如きことなきを期し、必ず適當なる機會に於て、之を補正するの餘地を存する事となすべし。

と聲明したり、採決に及び、過半數を以て可決す、要するに政府は、衆議院の修正に同意せざれば、之を解散するの外なく、法定の手續を經て總選擧を行はんには半歲の日子を空過し、一日を緩ふすべからざる復興事業を遲延して、更に市民を苦しむるに至らんことを恐れ、遂に衆議院の修正に同意したるなり。

此くの如くにして、復興豫算は事務費金額及東京橫濱復興費中街路費及土地整理費を議會に於て修正削減せらる、左に事業費の修正內容を原案に比照す。

項目節	原案修正	總金額	年度割金額 十二年度	十三年度	十四年度	十五年度	十六年度	十七年度
東京復興費	原案	四三、七二七、〇〇〇円	七、九八一、〇〇〇円	一〇、七八一、〇〇〇円	一〇、七九一、〇〇〇円	九、六四一、八〇〇円	四、七三一、八〇〇円	一、一〇〇、〇〇〇円
	修正	四三、六九七、〇〇〇	七、九五三、〇三〇	一〇、七八一、〇〇〇	一〇、七九一、〇〇〇	九、六四一、八〇〇	四、七三一、八〇〇	一、一〇〇、〇〇〇
街路費	原案	三〇、六九七、〇三〇	五、九八一、〇〇〇	八、七八一、〇〇〇	八、七九一、〇〇〇	六、六四一、八〇〇	二、七三一、八〇〇	一、一〇〇、〇〇〇
	修正	三〇、六九七、〇三〇	五、九五三、〇三〇	八、七八一、〇〇〇	八、七九一、〇〇〇	六、六四一、八〇〇	二、七三一、八〇〇	一、一〇〇、〇〇〇
用地及補償費	同	一三、四六一、〇〇〇	一、七二一、〇〇〇	二、七八一、〇〇〇	三、一一〇、〇〇〇	二、七四一、〇〇〇	一、九八〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇
工事費	同	九、六三五、〇三〇	四、二五三、〇三〇	五、九八一、〇〇〇	一、四八〇、〇〇〇	一、四〇一、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇
橋梁費	同	三三、五〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇	七、〇〇〇、〇〇〇	六、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇
共同溝費	同	一、九、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
雜工雜費	同	一、七、五〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
計	同	三三、七三三、〇三〇	一、九八一、〇〇〇	三、七八一、〇〇〇	四、一一〇、〇〇〇	三、七四一、〇〇〇	二、九八〇、〇〇〇	二、一〇〇、〇〇〇
土地整理費	同	四、〇一〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇一〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
整理費	同	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
補償費	同	三、〇一〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇一〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
雜工雜費	同	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
計	同	四、〇一〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇一〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
橫濱復興費	原案	一、二五〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	一八〇、〇〇〇	四二〇、〇〇〇	四二〇、〇〇〇	一八〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
	修正	一、二五〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	一八〇、〇〇〇	四二〇、〇〇〇	四二〇、〇〇〇	一八〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
街路費	同	一、一四〇、〇〇〇	三六、〇〇〇	一六二、〇〇〇	三八二、〇〇〇	三八二、〇〇〇	一六二、〇〇〇	九、〇〇〇
用地及補償費	同	一、一〇四、〇〇〇	三五、〇〇〇	一五七、〇〇〇	三七一、〇〇〇	三七一、〇〇〇	一五七、〇〇〇	九、〇〇〇
工事費	同	四二、〇〇〇	一、〇〇〇	五、〇〇〇	一一、〇〇〇	一一、〇〇〇	五、〇〇〇	九、〇〇〇
橋梁費	同	三、四〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇	八〇〇、〇〇〇	八〇〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇
雜工雜費	同	一、四〇〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	一六〇、〇〇〇	三二〇、〇〇〇	三二〇、〇〇〇	一六〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇
計	同	五、四四六、〇〇〇	一七六、〇〇〇	七二七、〇〇〇	一、五一三、〇〇〇	一、五一三、〇〇〇	七二七、〇〇〇	一九、〇〇〇
土地整理費	同	一、二〇〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	一八〇、〇〇〇	四二〇、〇〇〇	四二〇、〇〇〇	一八〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
整理費	同	四〇〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	一八〇、〇〇〇	四二〇、〇〇〇	四二〇、〇〇〇	一八〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
補償費	同	三、〇〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇	八〇〇、〇〇〇	八〇〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇
雜工雜費	同	一、四〇〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	一六〇、〇〇〇	三二〇、〇〇〇	三二〇、〇〇〇	一六〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇
計	同	五、四四六、〇〇〇	一七六、〇〇〇	七二七、〇〇〇	一、五一三、〇〇〇	一、五一三、〇〇〇	七二七、〇〇〇	一九、〇〇〇

以上修正の結果、地方公共團體の分擔割合、左の如く修正せらる。

區分		原案修正	豫算額	地方分擔歩合	地方分擔割合
東京復興事業費		原案	四〇、九五五、〇〇〇円		一三、八五一、二九九円
		修正	五六、六八一、四〇〇		一三、二四四、九八二
街路	用地及補償費	同	六四、三五〇、〇〇〇	二分ノ一	一四、一八〇、〇〇〇
	工事費	同	三四、〇四七、五四二		一三、四三四、九二一
	橋梁費	同	五七、三〇四、〇〇〇		
	地下埋設物共同溝費	原案	一六、四二〇、八六六		
	雜工費	修正	四〇、三〇〇、〇〇〇		
土地整理費		同	八、七八〇、〇〇〇		
橫濱復興事業費		原案	四五、七七九、〇〇〇		一九、〇〇〇、二五〇
		修正	五五、三一四、四〇〇		一四、〇〇八、六二五
街路	用地及補償費	同	五〇、三六一、〇〇〇	二分ノ一	一三、一四〇、三五〇
	工事費	同	二四、五七四、八八七		二、二八八、九四三
	橋梁費	同	一、四四九、〇〇〇		
	雜工費	同	一、一〇四、五二三		
土地整理費		同	六、四四八、〇〇〇		
			二、五六二、〇〇〇		

口、復興財源議定

政府は復興豫算を編成するに當り、財源計畫を定めて之を公債に求め、支拂の一部を國債證券に依らんとし、第四十七議會に復興事業の施行に伴ひ支拂ふべき金額を國債證券を以て交付する等に關する法律案及震災善後公債法案を提出す。

一、震災善後公債法案　大正十二年十二月十二日政府は之を衆議院に提出す。

震災善後公債法案

震災善後公債法

第一條　震災ニ伴フ復興事業ニ關スル經費支辨ノ爲、政府ハ五億九千八百萬圓ヲ限リ、公債ヲ發行シ、又之カ繰替支辨ノ爲、借入金ヲ爲スコトヲ得。

第二條　前條ノ規定ニ依ル公債ノ發行價格差減額ヲ補塡スル爲必要アル場合ニ於テハ、前條制限以外ニ公債ヲ發行シ、又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得。

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス。

衆議院は十二月十四日第一讀會を開き、國務大臣井上準之助提出の理由を說明す。

震災に基く復興事業經費は、頗る巨額に上り、現在の財政狀態に於ては、普通財源に依り之を支拂に堪へず、乃ち財源を公債に求め、總額五億九千八百萬圓の起債に關する法律案を提出す、蓋緊急已むべからざるものあればなり。

と、案は直ちに帝都復興計畫法案付託の委員に付託せらる、議員高橋光威外二十八名之が委員たり、委員は十二月二十日審議の結果を報告して、

報告書

一、震災善後公債法案（政府提出）

右ハ、本院ニ於テ別紙ノ通修正スヘキモノト議定致候、此段及報告候也

震災善後公債法案委員長

大正十二年十二月二十日　　高橋光威

衆議院議長　柏谷義三殿

「別紙」

震災善後公債法案中左ノ通リ修正ス。

第一條中「五億九千八百萬圓」ヲ「四億六千八百五十萬圓」ニ改ム。

と云ひ、委員長高橋光威議場に說明して、同法案の修正が豫算修正の結果に基くを逃ぶ、是日二讀會三讀會を開き、委員の修正を可決す。

貴族院は、十二月二十日衆議院の送付を受け、二十一日第一讀會を開き、井上國務大臣の說明あり、政府は衆議院の修正に同意したる旨を述ぶ、伯爵松木宗隆外十四名の帝都復興計畫法案特別委員に併せ付託し、即日委員より報告あり。

震災善後公債法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ、依テ及報告候也

右特別委員長

大正十二年十二月二十二日　　伯爵　松木宗隆

貴族院議長　公爵　德川家達殿

松木委員長委員會の經過結果を報告し、委員長報告通り可決す。

二、復興事業ノ施行ニ伴ヒ支拂フヘキ金額ヲ國債證券ヲ以テ交付スル等ニ關スル法律案　大正十二年十二月十二日政府ハ之ヲ衆議院ニ提出ス。

復興事業ノ施行ニ伴ヒ支拂フヘキ金額ヲ國債證券ヲ以テ交付スル等ニ關スル法律案

第一條　政府ハ勅定ノ定ムル所ニ依リ、復興事業ノ施行ニ伴ヒ、土地所有者其ノ他ノ利害關係人ニ支拂フヘキ補償金其ノ他ノ金額ヲ、五分利付國債證券ヲ以テ交付スルコトヲ得

第二條　政府ハ前條ノ規定ニ依リ交付スル爲必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行スルコトヲ得、但シ、其ノ總額ハ、震災善後公債法ニ依リ發行スル公債、又ハ借入金ト通シテ、同法ノ規定スル制限額ヲ超ユルコトヲ得ス。

震災善後公債法第二條ノ規定ハ、前項ノ規定ニ依ル公債ノ發行ニ付之ヲ準用ス。

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

直に震災善後公債法案同一の委員に付託せられ、十二月二十日審査の結果報告せらる。

報告書

一、復興事業ノ施行ニ伴ヒ支拂フヘキ金額ヲ國債證券ヲ以テ交付スル等ニ關スル法律案（政府提出）

右ハ、本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候、此段及報告候也

復興事業ニ伴ヒ支拂フヘキ金額ヲ國債證券ヲ以テ交付スル等ニ關スル法律案ノ委員長

大正十二年十一月二十日　　高橋光威

衆議院議長　柏谷義三殿

高橋委員長委員會の經過結果を報告し、全會一致可決したるを告げ、且言ふ、燒跡の土地所有者一萬四千餘人、借地權者十五萬人、此等に時價を以て公債を渡すものにして、借家人及バラックにも相當の補償を爲すべく、其額平均一人七千圓許、之が半を現金にて、半を公債にて渡さんとするものに係ると、異議なく委員長の報告通り可決す。

貴族院は、十二月二十日衆議院の送付を受け、即日第一總會を開き、井上國務大臣の說明あり、直に前者と同じく松木伯等の委員に付託し、二十二日報告せらる。

復興事業ノ施行ニ伴ヒ支拂フヘキ金額ヲ國債證券ヲ以テ交付スル等ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ、依テ及報告候也

右特別委員長

大正十二年十二月二十二日　　伯爵　松木宗隆

松木委員長の報告後、議員若槻禮次郎質問し、亦異議なく、報告通り可決す。

附

豫算外支出

帝都復興院費	五五四、九〇三円
帝都復興院廳舍新營費	六七五、一七四

（外回答）

本年九月一日關東地方ニ於ケル震災ハ、其被害甚大ニシテ、急速之カ救護其他應急費ノ支出ヲ要シタルト、外十一件ニ於テ豫算外支出ヲ要シタル處、大正十二年度第二豫備金豫算拂切リトナリタルニ付、前記金額國庫剩餘金ヨリ支出ノ儀、勅裁ヲ經タリ。

大正十二年十二月八日　大藏大臣　井上準之助

臨時物資供給特別會計大正十二年度豫算外支出

臨時物資供給費　四八、〇二七、九〇〇円

本年九月勅令第四百二十一號ヲ以テ臨時物資供給特別會計設置セラレ、同會計ニ於テ、物資購入費及之ニ伴フ事業費豫算外支出ヲ要シ、前記金額同特別會計ノ歲入ヲ以テ支出ノ儀、勅裁ヲ經タリ。

大正十二年十二月八日　大藏大臣　井上準之助

復興局經費　三八四、七八五円

（外回答）

大正十二年九月ノ震災ニ因リ、震災應急費ノ支出ヲ要シタルト、外十三件ニ於テ豫算外支出ヲ要シタル處、大正十二年度第二豫備金豫算拂切リトナリタルニ付、國庫剩餘金ヨリ前記金額支出ノ儀、勅裁ヲ經タリ。

大正十三年五月二十日　大藏大臣　勝田主計

下本記

第一機關

一　內閣更迭

大正十二年十二月二十七日攝政宮殿下帝國議會開院式に臨ませらる、途上虎ノ門に於て大不敬を爲したる者あり、大正十三年一月七日山本內閣總辭職し、樞密院議長子爵清浦奎吾以下閣員の任命あり、復興院總裁亦更迭す。

大正十三年一月七日

樞密院議長正二位勳一等子爵	清浦奎吾
任內閣總理大臣	
特命全權大使正三位勳一等男爵	松井慶四郎
任外務大臣	
任內務大臣	正三位勳一等 水野錬太郎
任大藏大臣	正四位勳一等 勝田主計
陸軍次官陸軍中將正四位勳二等功四級	宇垣一成
任陸軍大臣	
任海軍大臣	海軍大將正三位勳一等功三級 村上格一
任司法大臣	檢事從三位勳一等 鈴木喜三郎
任文部大臣	從三位勳一等 江木千之
陸軍步兵中尉從三位勳二等子爵	前田利定
任農商務大臣	
任遞信大臣	從三位勳二等 藤村義朗
任鐵道大臣	從三位勳二等 小松謙次郎
兼任帝都復興院總裁	內務大臣正三位勳一等 水野錬太郎
任內閣書記官長敘高等官一等	從三位勳二等 小橋一太

（各　遷）

內閣總理大臣伯爵	山本權兵衛
外務大臣男爵	伊集院彥吉

依願免本官

內務大臣兼帝都復興院總裁子爵　後藤新平

依願免本官並兼官

（各　遷）

大藏大臣	井上準之助
陸軍大臣男爵	田中義一
海軍大臣	財部彪
司法大臣	平沼騏一郎

依願免本官

文部大臣兼農商務大臣　岡野敬次郎

依願免本官並兼官

（各　遷）

遞信大臣	犬養毅
鐵道大臣	山之內一次

依願免本官

內閣書記官長　樺山資英

十三年六月十一日に至り、內閣は再び交迭す。

大正十三年六月十一日

任內閣總理大臣	從二位勳一等子爵 加藤高明
任外務大臣	特命全權大使從三位勳一等男爵 幣原喜重郎
任內務大臣	正四位勳一等 若槻禮次郎
任大藏大臣	從四位勳二等 濱口雄幸
任海軍大臣	海軍大將正三位勳一等功三級 財部彪
任司法大臣	從四位勳二等 橫田千之助
任外務大臣	從三位勳一等 岡田良平
任農商務大臣	同 高橋是清
任遞信大臣	正三位勳一等 犬養毅
任鐵道大臣	從四位勳一等 仙石貢
任內閣書記官長敘高等官一等	從四位勳二等 江木翼
任法制局長官敘高等官一等	從四位勳二等 塚本清治

（各　遷）

內閣總理大臣子爵	清浦奎吾
外務大臣男爵	松井慶四郎
內務大臣	水野錬太郎
大藏大臣	勝田主計
海軍大臣	村上格一
司法大臣	鈴木喜三郎
文部大臣	江木千之
農商務大臣子爵	前田利定
遞信大臣男爵	藤村義朗
鐵道大臣	小松謙次郎

依願免本官

內閣書記官長　小橋一太

法制局長官　佐竹三吾

依願免本官

二　計畫機關

大災後の帝都を復興するため帝都復興院及帝都復興審議會を特置し以て之に當りたりしも、復興院制帝國議會の協賛を得る能はず、是に於て帝都復興院理事者は、大正十二年十二月二十五日相會して、先づ之が計畫機關たるべき特別都市計畫委員會官制に關する協議を爲し、大正十三年一月七日內閣更迭の當日、亦同樣の協議あり、一月十四日には、內務省參事官會議に於て特別都市計畫委員會官制立案に關して協議したり。

大正十三年二月一日勅令第十四號を以て特別都市計畫委員會官制公布せらる、即ち左の如し。

朕特別都市計畫委員會官制ヲ裁可シ、玆ニ之ヲ公布セシム。

御名　御璽

攝政宮

大正十三年二月一日　內閣總理大臣子爵　清浦　奎吾

內務大臣　水野錬太郎

勅令第十四號

特別都市計畫委員會官制

第一條　東京及橫濱ニ於ケル都市計畫ニ關シテハ、特別都市計畫委員會ヲ以テ都市計畫委員會トス、

特別都市計畫委員會ハ、內務大臣ノ監督ニ屬シ、法律勅令ニ依リ、其ノ權限ニ屬セシメタル事項、其ノ他東京及橫濱ニ於ケル都市計畫上必要ナル事項ヲ調査審議ス。

第二條　特別都市計畫委員會ハ、都市計畫ニ關スル事項ニ付、關係各大臣ノ諮問ニ應シ、又ハ關係各大臣ニ建議スルコトヲ得。

第三條　東京及橫濱ニ於ケル都市計畫ニ關シ、都市計劃委員會ノ議決ヲ經ヘキ事項ハ、內務大臣之ヲ特別都市計畫委員會ノ議ニ付ス。

內務大臣ハ、特別都市計畫委員會ノ議決ヲ經タル事項ニ付、必要アリト認ムルトキハ、之ヲ再議ニ付スルコトヲ得。

第四條　委員會ハ、會長一人委員六十人以內ヲ以テ之ヲ組織ス。

第五條　會長ハ內務大臣ヲ以テ之ニ充ツ。

委員ハ左ニ揭クル者ヲ以テ之ニ充ツ。

一、關係各廳高等官

二、警視總監、東京府知事及神奈川縣知事

三、東京市長及橫濱市長

四、東京府會議員、神奈川縣會議員、東京市會議員及橫濱市會議員

五、貴族院議員及衆議院議員

六、學識經驗アル者

前項ノ委員ハ、第二號及第三號ニ揭クル者ヲ除クノ外、內務大臣ノ奏請ニ依リ、內閣ニ於テ之ヲ命ス。

第二項第二號乃至第四號ニ揭クル者ハ、關係府縣市ニ關セサル事項ニ付議事ニ參與スルコトヲ得ス、但シ會長ニ於テ必要ト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス。

第二項第一號乃至第三號ニ揭クル者事故アルトキハ、其ノ職務ヲ代理スル者議事ニ參與シ、決議ノ數ニ加ハルコトヲ得。

第二項ノ規定ニ依リ命セラルル者ノ外、臨時必要アルトキハ、臨時委員ヲ置クコトヲ得、臨時委員ハ內務大臣ノ奏請ニ依リ、內閣ニ於テ之ヲ命ス。

第四項ノ規定ハ、前項ノ臨時委員ニ之ヲ準用ス。

第六條　會長ハ會務ヲ總理ス。

會長事故アルトキハ、內務大臣ノ指名シタル委員其ノ職ヲ代理ス。

第七條　委員會ハ、東京及橫濱ニ於ケル都市計畫ニ關シ必要アルトキハ、期間ヲ指定シ、關係府縣市町村ヲシテ特定ノ事項ニ付調査ヲ爲サシメ、又ハ必要ナル圖書類ヲ提出セシムルコトヲ得。

委員會ハ、委員又ハ臨時委員ヲ派遣シテ、東京及橫濱ニ於ケル都市計畫事業執行ノ狀況ヲ檢査セシムルコトヲ得。

第八條　委員會ハ、會長之ヲ招集ス。

會長ハ、委員會開會ノ日ヨリ少クトモ三日前ニ招集及會議ノ事項ヲ委員及臨時委員ニ通知スヘシ、但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス。

第九條　委員會ハ、委員及臨時委員半數以上出席スルニ非サレハ、會議ヲ開クコトヲ得ス。

第十條　會長ハ會議ノ議長ト爲ル。

委員會ノ議事ハ、出席ノ委員及臨時委員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス、可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル。

第十一條　委員會ニ常務委員會ヲ置ク、委員會ノ委任ヲ受ケ、其ノ權限ニ屬スル事項ニシテ輕易ナルモノヲ處理ス。

常務委員會ハ、會長ノ指名シタル委員若干人ヲ以テ之ヲ組織ス。

委員會ノ會長ハ、常務委員會ヲシテ委員會ノ會議事項ヲ豫メ審査セシムルコトヲ得。

第五條第四項第五項、第八條第一項、第九條及前條ノ規定ハ、常務委員會ニ之ヲ準用ス。

第十二條　委員會ニ幹事若干人ヲ置ク、內務大臣ノ奏請ニ依リ、內閣ニ於テ之ヲ命ス。

幹事ハ、會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス。

第十三條　委員會ニ書記若干人ヲ置ク、內務大臣之ヲ命ス。

書記ハ、上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス。

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令中內務大臣トアルハ、當分ノ內第五條第一項ノ規定ヲ除クノ外內閣總理大臣トス。

〔附　記〕　特別都市計畫委員會官制改正

朕特別都市計畫委員會官制中改正ノ件ヲ裁可シ、玆ニ之ヲ公布セシム。

御名　御璽

攝政名

大正十二年三月十二日　內閣總理大臣子爵　清浦　奎吾

內務大臣　水野錬太郎

勅令第四十八號

特別都市計畫委員會官制中、左ノ通改正ス。

附則第二項ヲ削ル。

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ施行ス。

（參　照）

大正十三年二月二日公布　勅令第十四號特別都市計畫委員會官制抄錄

第五條第一項

會長ハ內務大臣ヲ以テ之ニ充ツ。

附則第二項

本令中內務大臣トアルハ、當分ノ內第五條第一項ノ規定ヲ除クノ外、內閣總理大臣トス。

之が委員以下の任命は、

大正十三年二月二日

内閣書記官長　小橋一太
法制局長官　佐竹三吾
（各　兼）
宮内次官　關谷貞三郎
内務次官　井上孝哉
大藏次官　西野元
陸軍次官　津野一輔
海軍次官　岡田啓介
司法次官　林頼三郎
文部次官　松浦鎭次郎
農商務次官　鶴見左吉雄
遞信次官　米田奈良吉
鐵道次官　岡野昇
東京府會議員　堀江正二郎
同　木内傳之助
同　花井源兵衛
神奈川縣會議員　上部清助
同　加藤銀藏
東京市會議員伯爵　柳澤保惠
東京市會議員　龍田又一
同　磯部甫
同　小坂梅吉
同　小島七郎
同　近藤達兒
横濱市會議員　平沼亮三
同　池田勝次郎

貴族院議員　上山滿之進
同　橋本圭三郎
同　伊澤多喜男
同　澤柳政太郎
貴族院議員子爵　井上匡四郎
同　八條隆正
從三位勳二等男爵　斯波忠三郎
正四位勳三等子爵　大河內正敏
正五位勳三等　今村明恒
從五位　渡邊錢藏
正四位勳三等男爵　中島久萬吉
正四位勳二等　吉植庄一郎
從四位勳三等　泰豐助
從五位勳三等　原富太郎
正六位　藤山雷太
勳四等　鳩山一郎
正六位勳四等　若尾幾造
從七位勳四等　秋田清
從五位　大橋新太郎
勳六等　井坂孝
正七位　矢野恒太
若尾璋八
片岡安
三木武吉

特別都市計畫委員會委員被仰付

内務省地方局長　潮惠之輔
内務省土木局長　長岡隆一郎
内務省都市計畫局長　堀切善次郎
遞信省通信局長　田邊治通
鐵道省工務局長　後藤佐彥
正三位勳二等　長尾半平
從三位勳三等　丹羽鋤孝
正五位勳六等　藤宮惟一

特別都市計畫委員會臨時委員被仰付

從五位勳五等　金井清
（各　兼）
正六位　長谷川赳夫
從六位　西村鼎一

特別都市計畫委員會幹事被仰付（内閣）

三　執行機關

帝都復興事業の執行機關は、内務省の別局と爲す事と爲り、大正十三年一月八日の閣議に於て、復興局官制制定及帝都復興院官制廢止、帝都復興審議會官制廢止の議を決し、二月二十三日勅令第二十四號二十五號を以て帝都復興審議會官制帝都復興院官制の廢止を見ると同時に、勅令第二十六號を以て、復興局官制公布せらる。

朕帝都復興審議會官制廢止ノ件ヲ裁可シ、玆ニ之ヲ公布セシム。

御名　御璽

攝政名

大正十三年二月二十三日

内閣總理大臣子爵　清浦奎吾

勅令第二十四號

帝都復興審議會官制ヘ之ヲ廢止ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス。

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ、帝都復興院官制廢止ノ件ヲ裁可シ、玆ニ之ヲ公布セシム。

御名　御璽

攝政名

大正十三年二月二十三日

内閣總理大臣子爵　清浦奎吾

勅令第二十五號

帝都復興官制ハ之ヲ廢止ス。

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス。

朕復興局官制ヲ裁可シ、玆ニ之ヲ公布セシム。

御名　御璽

攝政名

大正十三年二月二十三日

内閣總理大臣子爵　清浦奎吾
内務大臣　水野錬太郎

勅令第二十六號

復興局官制

第一條　復興局ハ、内務大臣ノ管理ニ屬シ、東京及橫濱ニ於ケル都市計畫、都市計畫事業ノ執行、市街地建築物法ノ施行及郡市計畫上建築改善ニ關スル事務ヲ掌ル。

第二條　復興局ニ左ノ職員ヲ置ク。

長官　勅任
技監　一人　勅任
部長　四人　勅任
書記官　專任十人　奏任
事務官　專任二十人　奏任

技　師　專任百二十七人　奏　任　內七人ヲ勅任トスルコトヲ得
屬　專任二百廿五人　判　任
技　手　專任六百六十人　判　任

第三條　復興局ニ長官官房及左ノ四部ヲ置ク。

整地部
土木部
建築部
經理部

第四條　長官官房ニ於テハ、人事、文書、郡市計畫（技術ニ屬スルモノヲ除ク）、都市計畫事業ノ監理及各部ノ主掌ニ屬セサル事務ヲ掌ル。

整地部ニ於テハ、都市計畫上、土地ノ區劃整理其ノ他土地ノ整理ニ關スル事務ヲ掌ル。

土木部ニ於テハ、郡市計畫事業ノ執行及都市計畫上土木技術ニ關スル事務ヲ掌ル。

建築部ニ於テハ、市街地建築物法ノ施行並都市計畫上建築技術、建築改善及公園ニ關スル事務ヲ掌ル。

經理部ニ於テハ、豫算、決算及諸會計ニ關スル事務ヲ掌ル。

第五條　長官ハ、內務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ、局務ヲ統理シ、部下ノ職員ヲ指揮監督シ、判任官以下ノ進退ヲ專行ス。

第六條　技監ハ技術ヲ統理ス。

第七條　部長ハ、長官ノ命ヲ承ケ、部務ヲ掌理ス。

第八條　書記官及事務官ハ、上官ノ命ヲ承ケ、局務ヲ分掌ス。

第九條　技師ハ、上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル。

第十條　屬ハ、上官ノ指揮ヲ承ケ、庶務ニ從事ス。

第十一條　技手ハ、上官ノ指揮ヲ承ケ、技術ニ從事ス。

第十二條　內務大臣ハ、必要ニ應シ、復興局ノ出張所及技術試驗所ヲ置キ、復興局ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得。

出張所及技術試驗所ニ所長ヲ置ク、出張所ノ所長ハ、書記官、事務官又ハ技師ヲ以テ、技術試驗所ノ所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ。

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス。

本令施行ノ際、現ニ帝都復興院ノ書記官、事務官、技師、屬又ハ技手ノ職ニ在ル者ハ、別ニ辭令ヲ交付セラレサルトキハ、各同官等俸給ヲ以テ復興局ノ書記官、事務官、技師、屬又ハ技手ニ任セラレタルモノトス。

復興局ニ於テハ、第一條ニ規定スルモノノ外、臨時物資供給令施行ニ關スル殘務ヲ掌ル經理部ヲシテ主掌セシム。

御名　御璽
攝政名
大正十三年九月十七日　內閣總理大臣子爵　加藤　高明
內務大臣　若槻禮次郎

〔附　記〕　復興局官制改正

勅令第二百十二號

復興局官制中、左ノ通改正ス。

第二條中「事務官專任二十人」ヲ「事務官專任二十五人」ニ改ム。

廢復興局官制中改正ノ件ヲ裁可シ、玆ニ之ヲ公布セシム。

御名　御璽
攝政名
大正十三年十二月二十日　內閣總理大臣子爵　加藤　高明
內務大臣　若槻禮次郎

勅令第三百十八號

復興局官制中、左ノ通改正ス。

第二條中「技監一人勅任」ヲ削リ、「書記官專任十人」ヲ「書記官專任九人」ニ、「事務官專任二十五人」ヲ「事務官專任二十二人」ニ、「技師專任百二十七人」ヲ「技師專任百二十二人」ニ、「技手專任六百五十人」ヲ「技手專任六百十人」ニ改ム。

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス。

同時ニ、之ニ關する諸勅令公布せられ、爾で內務省訓令の發布を見たり。

廢高等官官等俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ、玆ニ之ヲ公布セシム。

御名　御璽
攝政名
大正十三年二月二十三日　內閣總理大臣子爵　清浦　奎吾

勅令第二十七號

高等官官等俸給令中、左ノ通改正ス。

第七條中「帝都復興院總裁」ヲ削ル。

第八條中「各省次官」ノ次ニ「復興局長官」ヲ、「內務技監」ノ次ニ「復興局技監」ヲ、「內務監察官」ノ次ニ「復興部長」ヲ加ヘ、「帝都復興院副總裁」「帝都復興院技監」及「帝都復興院理事」ヲ削ル、第十四條中「防疫官」ノ次ニ「復興局書記官」ヲ加ヘ、「帝都復興院書記官」ヲ削ル。

附　則

本令ハ、公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス。

〔參　照〕
大正二年八月一日公布勅令第二百六十一號文官任用令抄錄
第三條ノ二　左ニ揭ケル勅任文官ハ、前二條ノ規定ニ依ル資格ヲ有セサルモ

各其ノ職務ニ必要ナル學識、技能及經驗ヲ有スル者ヨリ、高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得。

帝都復興院副總裁

　製鐵所長官

　海外駐劄財務官

　帝都復興院理事（計畫局長、土地整理局長、建築局長、土木局長又ハ物資供給局長タルモノ）

勅任ノ參與顧問ノ諮詢ヲ經テ、奏任文官特別任用令中改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム。

御名　御璽

　　攝政名

　大正十三年二月二十三日　內閣總理大臣子爵　清浦　奎吾

勅令第二十九號

奏任文官特別任用令中、左ノ通改正ス。

「土木事務官」ノ次ニ「復興局事務官」ヲ加ヘ「帝都復興院事務官」ヲ削ル。

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス。

【附　記】會計事務取扱規程改正

內務省訓令第三號

內務大臣官房會計課、復興局社會局、職業紹介事務局寮　兵　院　廳、府　縣土木出張所、土木試驗所衛生試驗所、警察講習所武藏野學院、營繕研究所

大正十一年四月內務省訓令第二號會計事務取扱規程中左ノ通改正シ、大正十三年二月二十五日ヨリ之ヲ適用ス。

　大正十三年三月三日　內務大臣　水野錬太郎

第二條中「本省大臣官房會計課長」ノ次ニ「復興局長官」ヲ加フ。

第四條中「內務大臣官房會計課長」ノ次ニ「復興局長官」ヲ加フ。

第十三條ノ二中「內務大臣官房會計課」ノ次ニ「復興局」ヲ加フ。

第二十一條中「內務省土木出張所」ヲ「復興局內務省土木出張所」ニ改ム。

第二十三條中「警視廳」ヲ「復興局警視廳」ニ改ム。

而して之が擔官は、左の如く任命せらる。

　大正十三年二月二十五日

任復興局長官兼復興局技監　正五位　直木倫太郎

叙高等官一等

（各　局）

復興局技師兼鐵道技師、陸軍工兵少尉　正五位勲四等　稻葉健之助

復興局書記官、兼鐵道書記官　従五位勲六等　太田圓三

　十河信二

任復興局部長

叙高等官二等

是日復興局分課規程を定め、三月十一日に至り出張所の分掌事務及區域を定む。

　復興局分課規程

第一條　長官官房ニ左ノ三課ヲ置ク。

　文書課

　計畫課

　監理課

第二條　文書課ニ於テハ、左ノ事務ヲ掌ル。

一、機密ニ屬スル事項。

二、人事ニ關スル事項。

三、長官ノ官印及局印ノ保守ニ關スル事項。

四、公文書ノ接受及發送ニ關スル事項。

五、成案文書ノ審査及進達ニ關スル事項。

六、公文書類ノ編纂及保守ニ關スル事項。

七、統計及報告ノ調製ニ關スル事項。

八、他ノ部課ノ主管ニ屬セサル事項。

第三條　計畫課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル。

一、都市計畫ノ制度ニ關スル事項。

二、都市計畫ノ行政ニ關スル事項。

三、都市計畫委員會ニ關スル事項。

四、都市計畫ノ調査ニ關スル事項。

第四條　監理課ニ於テハ、左ノ事務ヲ掌ル。

一、公共團體ニ對スル貸付金ニ關スル事項。

二、公共團體ニ對スル補助ニ關スル事項。

三、公共團體ノ借入金ノ元利保證及利子補給ニ關スル事項。

四、公共團體ノ納付金ニ關スル事項。

第五條　整地部ニ左ノ四課ヲ置ク。

　庶　務　課

　地　籍　課

　施　業　課

　技　術　課

第六條　庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル。

一、部ノ庶務ニ屬スル事項。

二、土地ノ收用、買收及交換ニ關スル事項。

三、補償金ノ決定ニ關スル事項。

四、補償審査會ニ關スル事項。

五、他課ノ主管ニ屬セサル事項。

第七條　地籍課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル。

一、地籍ノ調査ニ關スル事項。

二、土地及工作物ノ權利ノ調査ニ關スル事項。

三、土地ノ評價ニ關スル事項。

四、地價ノ配當ニ關スル事項。

五、登記ニ關スル事項。

第八條　施業課ニ於テハ、左ノ事務ヲ掌ル。

一、換地處分及清算金ニ關スル事項。

二、土地區劃整理委員會ニ關スル事項。

三、土地區劃整理ニ伴フ工作物ノ移轉處分ニ關スル事項。

四、地番整理ニ關スル事項。

第九條　技術課ニ於テハ、左ノ事務ヲ掌ル。

一、土地ノ測量ニ關スル事項。

二、換地ノ設計ニ關スル事項。

第十條　土木部ニ左ノ五課ヲ置ク。

　庶　務　課

　工　務　課

　道　路　課

　橋　梁　課

　河　港　課

第十一條　庶務課ニ於テハ、左ノ事務ヲ掌ル。

一、部ノ庶務ニ屬スル事項。

二、土木工事ノ契約ニ關スル事項。
三、他課ノ主管ニ屬セサル事項。

第十二條　工務課ニ於テハ、左ノ事務ヲ掌ル。
一、交通運輸ノ計畫ニ關スル事項。
二、上水道、下水道及地下埋設物整理ノ計畫ニ關スル事項。

第十三條　道路課ニ於テハ、左ノ事務ヲ掌ル。
一、道路ノ設計ニ關スル事項。
二、道路ノ工事ニ關スル事項。

第十四條　橋梁課ニ於テハ、左ノ事務ヲ掌ル。
一、橋梁ノ設計ニ關スル事項。
二、橋梁ノ工事ニ關スル事項。

第十五條　河港課ニ於テハ、左ノ事務ヲ掌ル。
一、運河、河川及港灣ノ設計ニ關スル事項。
二、運河、河川及港灣ノ工事ニ關スル事項。

第十六條　建築部ニ左ノ三課ヲ置ク。
庶務課
技術課
公園課

第十七條　庶務課ニ於テハ、左ノ事務ヲ掌ル。
一、部ノ庶務ニ關スル事項。
二、市街地建築物法ノ施行ニ關スル事項。
三、建築ノ補導、改善及助成ニ關スル事項。
四、防火地區ノ建築補助ニ關スル事項。
五、地質調査ニ關スル事項。
六、區劃及建築課ノ計畫ニ關スル事項。
七、土地區劃整理ニ伴フ工作物ノ移轉ノ技術ニ關スル事項。

第十九條　公園課ニ於テハ、左ノ事務ヲ掌ル。
一、公園ノ調査ニ關スル事項。
二、公園ノ設計ニ關スル事項。
三、公園ノ造營ニ關スル事項。

第二十條　經理部ニ左ノ五課ヲ置ク。
主計課
會計課
購買課
倉庫課
供給課

第二十一條　主計課ニ於テハ、左ノ事務ヲ掌ル。
一、部ノ庶務ニ屬スル事項。
二、豫算ニ關スル事項。
三、決算ニ關スル事項。
四、他課ノ主管ニ屬セサル事項。

第二十二條　會計課ニ於テハ、左ノ事務ヲ掌ル。
一、經費及諸收入ノ出納ニ關スル事項。
二、會計ノ監査ニ關スル事項。
三、官有財産ノ管理ニ關スル事項。
四、廳中用品ニ關スル事項。
五、廳中取締ニ關スル事項。

第二十三條　購買課ニ於テハ、左ノ事務ヲ掌ル。
一、機械器具及材料ノ購入ニ關スル事項。

第二十四條　倉庫課ニ於テハ、左ノ事務ヲ掌ル。
一、購入物品ノ檢收ニ關スル事項。
二、物品ノ出納及保管ニ關スル事項。

三、倉庫事務及倉庫設備ニ關スル事項。
四、物品ノ亡失毀損ノ處分ニ關スル事項。
五、物品ノ賣却處分ニ關スル事項。

第二十五條　供給課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル。
一、物資供給令施行ノ殘務ニ關スル事項。

第二十六條　復興局ニ技術試驗所ヲ置ク。
技術試驗所ニ於テハ、左ノ事務ヲ掌ル。
一、各種工事材料ノ試驗ニ關スル事項。

第二十七條　復興局ニ左ノ出張所ヲ置ク。

東京第一出張所	下谷區淺草區（神田川ヲ除ク）本郷區神田區ノ一部（神田川以北）東京府北豐島郡南千住町ノ一部三河島町ノ一部日暮里町ノ一部
東京第二出張所	本所區深川區東京府南葛飾郡寺島村ノ一部龜戸町ノ一部大島町ノ一部砂町ノ一部
東京第三出張所	橫濱市神奈川縣久良岐郡大岡川村ノ一部同縣橘樹郡保土ヶ谷町ノ一部
東京第四出張所	
橫濱出張所	

內務省告示第二百二十三號

大正十三年三月內務省告示第百十八號復興局出張所分掌區域中、第一、第二出張所分掌區域ノ一部ヲ、左ノ通リ改ム。

大正十三年五月十四日　內務大臣　水野錬太郎

一、東京第一出張所分掌區域中「自半藏門四谷見附線ノ以南」トアルヲ「自三宅坂至赤坂見附線ノ以南」ト改ム。
一、東京第二出張所分掌區域中「自半藏門至四谷見附線ノ以北」トアルヲ「自三宅坂至赤坂見附線ノ以北」ト改ム。

內務省告示第百十八號

復興局出張所ノ分掌區域ヲ左ノ通定ム。

大正十三年三月十一日　內務大臣　水野錬太郎

復興局出張所ノ分掌區域

出張所名	分掌區域
東京第一出張所	京橋區芝區赤坂區麹町區ノ一部（自吳服橋至大手門線ノ以南並自半藏門至四谷見附線ノ以南）
東京第二出張所	日本橋區神田區（神田川以北ヲ除ク）麹町區ノ一部（自吳服橋至大手門線ノ以北並自半藏門至四谷見附線ノ以北）

〔附　記〕　復興局分課改正

大正十三年十二月二十日左ノ如ク改正ス。

復興局分課規程

第一條　長官官房ニ、左ノ二課ヲ置ク。
文書課
計畫課

第二條　文書課ニ於テハ、左ノ事務ヲ掌ル。
一、機密ニ屬スル事項。
二、人事ニ關スル事項。
三、長官ノ官印及局印ノ管守ニ關スル事項。

四、公文書ノ接受及發送ニ關スル事項。
五、成案文書ノ進達ニ關スル事項
六、公文書類ノ編纂及保存ニ關スル事項。
七、統計及報告ノ調製ニ關スル事項。
八、公共團體ニ對スル補助及貸付金ニ關スル事項。
九、公共團體ノ借入金ノ元利保證及利子補給ニ關スル事項。
十、公共團體ノ納付金ニ關スル事項。
十一、補償審査會ニ關スル事項。
十二、他ノ部課ノ主管ニ屬セサル事項。

第三條　計畫課ニ於テハ、左ノ事務ヲ掌ル。
一、都市計畫ノ制度ニ關スル事項。
二、都市計畫ノ行政ニ關スル事項。
三、都市計畫委員會ニ關スル事項。
四、都市計畫ノ調査ニ關スル事項。

第四條　整地部ニ、左ノ四課ヲ置ク。
庶務課
用地課
施業課
技術課

第五條　庶務課ニ於テハ、左ノ事務ヲ掌ル。
一、部ノ庶務ニ屬スル事項。
二、土地區劃整理委員會ニ關スル事項。
三、町名及地番整理ニ關スル事項。
四、他課ノ主管ニ屬セサル事項。

第六條　用地課ニ於テハ、左ノ事務ヲ掌ル。
一、土地ノ收用買收及交換ニ關スル事項。

第七條　施業課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル。
一、換地處分及精算金ニ關スル事項。
二、特別都市計劃法第八條ニ依ル補償金ノ決定ニ關スル事項。
三、地價ノ配當ニ關スル事項。
四、換地ノ登記ニ關スル事項。
五、地籍及土地ノ權利調査ニ關スル事項。

第八條　技術課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル。
一、土地ノ測量ニ關スル事項。
二、換地ノ設計ニ關スル事項。
三、土地區劃整理路線ノ計畫ニ關スル事項。

第九條　土木部ニ、左ノ四課ヲ置ク。
庶務課
工務課
道路課
橋梁課

第十條　庶務課ニ於テハ、左ノ事務ヲ掌ル。
一、部ノ庶務ニ屬スル事項。
二、土木工事ノ契約ニ關スル事項
三、他課ノ主管ニ屬セサル事項。

第十一條　工務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル。
一、交通運輸ノ計畫ニ關スル事項。
二、上水道及下水道ノ計畫ニ關スル事項。
三、運河、河川、港灣ノ設計及工事ニ關スル事項。
四、地下埋設物及之ニ準スル工作物ノ整理ニ關スル事項。

第十二條　道路課ニ於テハ、左ノ事務ヲ掌ル。
一、道路ノ設計ニ關スル事項。
二、道路ノ工事ニ關スル事項。

第十三條　橋梁課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル。
一、橋梁ノ設計ニ關スル事項。
二、橋梁ノ工事ニ關スル事項。

第十四條　建築部ニ左ノ三課ヲ置ク。
庶務課
技術課
公園課

第十五條　庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル。
一、部ノ庶務ニ屬スル事項。
二、豫算ニ關スル事項。
三、決算ニ關スル事項。
四、經費及諸收入ノ出納ニ關スル事項。
五、國有材產ノ管理ニ關スル事項。
六、賣買貸借請負其ノ他ノ契約ノ統一ニ關スル事項。
七、會計ノ監督ニ關スル事項。
八、廳中取締ニ關スル事項。
九、他課ノ主管ニ屬セサル事項。

第十六條　技術課ニ於テハ、左ノ事務ヲ掌ル。
一、市街地建築物法施行上技術ニ關スル事項。
二、地域地區ノ計畫ニ關スル事項。
三、建築ノ補導及改善上技術ニ關スル事項。
四、防火地區建築補助上技術ニ關スル事項。
五、地質調査ニ關スル事項。
六、區劃線及建築線ノ計畫ニ關スル事項。
七、土地區劃整理ニ伴フ工作物（地下埋設物及之ニ準スル工作物ヲ除ク）ノ移轉ノ技術ニ關スル事項。

第十七條　公園課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル。
一、公園ノ調査ニ關スル事項。
二、公園ノ設計ニ關スル事項。
三、公園ノ造營ニ關スル事項。

第十八條　經理部ニ、左ノ三課ヲ置ク。
會計課
購買課
倉庫課

第十九條　會計課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル。
一、部ノ庶務ニ屬スル事項。
二、豫算ニ關スル事項。
三、決算ニ關スル事項。
四、經費及諸收入ノ出納ニ關スル事項。
五、國有材產ノ管理ニ關スル事項。
六、賣買貸借請負其ノ他ノ契約ノ統一ニ關スル事項。
七、會計ノ監督ニ關スル事項。
八、廳中取締ニ關スル事項。
九、他課ノ主管ニ屬セサル事項。

第二十條　購買課ニ於テハ左ノ事項ヲ掌ル。
一、市街地建築物法施行上技術ニ關スル事項。
二、地域地區ノ計畫ニ關スル事項。
三、建築ノ補導及改善上技術ニ關スル事項。
四、防火地區建築補助上技術ニ關スル事項。
五、地質調査ニ關スル事項。
六、區劃線及建築線ノ計畫ニ關スル事項。
七、土地區劃整理ニ伴フ工作物（地下埋設物及之ニ準スル工作物ヲ除ク）ノ移轉ノ技術ニ關スル事項。

第二十一條　倉庫課ニ於テハ、左ノ事務ヲ掌ル。
一、購入物品ノ檢收ニ關スル事項。
二、物品ノ出納及保管ニ關スル事項。
三、倉庫事務及倉庫設備ニ關スル事項。
四、物品ノ亡失毀損ノ處分ニ關スル事項。
五、物品ノ賣却處分ニ關スル事項。

六、物資供給令施行ノ殘務ニ關スル事項。

第二十二條、復興局ニ技術試驗所ヲ置ク。

技術試驗所ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル。

一、各種工事材料ノ試驗ニ關スル事項、

第二十三條復興局ニ、左ノ出張所ヲ置ク。

東京第一出張所
東京第二出張所
東京第三出張所
東京第四出張所
橫濱出張所

各出張所ノ分掌事務及分掌區域ハ、別ニ之ヲ定ム。

第二活動

一　復興法規

1　根本法規

政府は初め復興事業遂行の根本法規として、帝都復興計畫法を設定せんとせしも、第四十七議會は、從來の都市計畫法に準據し、之を特殊場合に適應せしむるを以て足れりとし、乃ち特別市計畫法を議定す。大正十二年十二月二十四日即ち帝國議會議決の翌日を以て公布せられたるもの是なり、之が施行令は、大正十三年三月十五日公布せらる。

脫帝國議會ノ協賛ヲ經タル特別都市計畫法ヲ裁可シ、玆ニ之ヲ公布セシム。

御名　御璽

攝政名

大正十二年十二月二十四日　內閣總理大臣　山本權兵衛
內務大臣子爵　後藤　新平

法律第五十三號

特別都市計畫法

第一條　本法ニ於テ特別都市計畫ト稱スルハ、東京及橫濱ニ於ケル都市計畫ヲ謂フ。

第二條　行政官廳特別都市計畫事業ヲ執行スル場合ニ於テハ、勅令ノ定ムル所ニ依リ、關係公共團體ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得。

第三條　土地區劃整理ニ付テハ、耕地整理法第四十三條ノ規定ニ拘ラス、建物アル宅地ヲ土地區劃整理施行地區ニ編入スルコトヲ得。土地區劃整理ニ付テハ、耕地整理法第三十一條ノ規定ニ拘ラス、換地處分ヲ爲スコトヲ得。

第四條　土地區劃整理ヲ施行スル爲、土地區劃整理組合ヲ設立セムトスル場合ニ於テ、土地所有者同意ヲ爲スニ付テハ、勅令ノ定ムル所ニ依リ借地法ニ謂フ借地權者ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス。

前項ノ借地權者ハ、登記ナキモ耕地整理法第二條ノ二ノ規定ニ依リ前項ノ組合ノ組合員ト爲ルコトヲ得。

第五條　行政廳又ハ公共團體カ土地區劃整理ヲ施行スル場合ニ於テハ、設計、換地處分及第八條第一項ノ補償金ノ配當ニ關スル事項ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ、土地所有者及借地法ニ謂フ借地權者ヲ以テ組織スル土地區劃整理委員會ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ム。

第六條　前條ノ土地區劃整理施行ノ爲必要アルトキハ、換地豫定地ヲ指定シテ、土地區劃整理施行地區內ニ存スル建物其ノ他ノ工作物ノ所有者ニ對シ其ノ移轉ヲ命スルコトヲ得、此ノ場合ニ於テハ、少クトモ三月前ニ所有者及占有者ニ其ノ旨ヲ豫告スヘシ。

所有者又ハ占有者カ前項ノ移轉ニ因リテ損害ヲ受ケタルトキハ、其ノ通常受クヘキ損害ニ限リ之ヲ補償スヘシ。

前項ノ規定ニ依ル補償金ハ補償審查會之ヲ決定ス。

耕地整理法第二十五條並土地收用法第八十二號第一項及第二項ノ規定ハ、第二項ノ規定ニ依ル補償金ニ關シ之ヲ準用ス。

第七條　第五條ノ土地區劃整理ノ施行ニ因リ、道路、廣場、運河其ノ他ノ公共ノ用ニ供スヘキモノト爲リタル土地ハ、其ノ施行ニ要スル費用ヲ負擔スル國又ハ公共團體ノ所有地ニ編入ス。

前項ニ規定スル土地ハ、勅令ノ定ムル所ニ依ル、其ノ編入ニ關シテモ亦同シ。

第八條　第五條ノ土地區劃整理ノ施行ニ因リ、土地區劃整理施行地區內ニ於ケル施行後ノ宅地ノ總面積カ施行前ノ宅地ノ總面積ヨリ一割以上ヲ減少スルニ至リタルトキハ、其ノ一割ヲ超ユル部分ニ對シ、勅令ノ定ムル所ニ依リ補償金ヲ交付スルコトヲ要ス。

前項ノ宅地トハ、勅令ニ依リ公共ノ用ニ供スル土地ト定ムルモノ以外ノ土地ヲ謂フ。

第六條　第三項及第四項ノ規定ハ、第一項ノ補償金ニ關シ之ヲ準用ス。

第九條　都市計畫法第十三條第二項ノ規定ハ、第五條ノ土地區劃整理ニ之ヲ準用ス。

第十條　補償審查會ハ主務大臣ノ監督ニ屬ス。

補償審查會ハ會長一人及委員十四人ヲ以テ之ヲ組織ス。

會長ハ、關係各廳高等官又ハ學識經驗アル者ノ中ヨリ主務大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

委員ハ左ニ掲クル者ヲ以テ之ニ充ツ、主務大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス。

一、關係各廳高等官　三人
二、關係府縣高等官　二人
三、關係府縣市參事會員　六人
四、學識經驗アル者　三人

前項第二號及第三號ノ規定ニ依ル委員ハ、關係府縣市ニ關セサル事項ニ付議事ニ參與スルコトヲ得ス。

補償審查會ニ關スル費用ハ、國庫ノ負擔トス。

第十一條　都市計畫法第二十三條乃至第二十六條ノ規定ハ、本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ之ヲ準用ス。

附　則

本法ハ、公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス。

〔參照〕

明治四十二年四月十三日布告　法律第三十號耕地整理法抄錄

第二條ノ二　登記シタル地上權、永小作權、土地賃借權ヲ有スル者又ハ國有林野法若ハ官有地取扱規則ニ依ル契約開墾者ハ、土地ノ所有者及賃貸人ノ同意ヲ得タルトキハ、其ノ土地ニ付第三條ノ規定ニ依ル整理施行者又ハ耕地整理組合ノ組合員ト爲ルコトヲ得。

前項ノ場合ニ於テハ、土地ノ所有者及賃貸人ハ、其ノ土地ニ付テハ整理施行者又ハ組合員タルコトヲ得ス。

第二十五條　整理施行地又ハ之ニ存スル建物ニシテ、先取特權、賃權又ハ抵當權ノ目的タル場合ニ於テ、第二十七條、第二十八號、第三十條第一項、第二項又ハ第四十四條第二項ノ規定ニ依リ、拂渡スヘキ金錢アルトキハ、整理施行者ハ其ノ金額ヲ供託スヘシ、但シ關係人ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス。

前項ノ規定ハ、整理施行地又ハ之ニ存スル建物カ訴訟ノ目的タル爲、訴訟當事者ヨリ請求アリタル場合ニ之ヲ準用ス。

先取特權者、質權者、抵當權者又ハ訴訟當事者ハ、前二項ノ規定ニ依リ供託シタル金錢ニ對シテモ其ノ權利ヲ行フコトヲ得。

第三十一條　前條ノ規定ニ依ル處分ハ、整理施行地ノ全部ニ付工事完了シタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス、但シ規約ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス。

第四十三條　左ニ揭ケル土地ハ、之ヲ耕地整理組合ノ地區ニ編入スルコトヲ得ス、但シ第一號乃至第三號ノ土地ニ付テハ、主務官廳又ハ公共團體ノ認許第四號乃至第八號ノ土地ニ付テハ土地所有者、關係人及總物ニ付登記シタル權利ヲ有スル者ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス。

一、御料地、國有地。

二、官ノ用ニ供スル土地。

三、府縣、郡、市町村、其ノ他勅令ヲ以テ指定スル公共團體ノ公用又ハ公共ノ用ニ供スル土地。

四、名勝地、舊跡地。

五、古墳墓地、墳墓地。

六、社寺境內地。

七、鐵道用地、軌道用地。

八、總物アル宅地。

登記シタル地上權又ハ永小作權ノ目的タル御料地又ハ國有地ニ付主務官廳ノ認許ヲ得タルトキハ、其ノ地上權者又ハ永小作權者ヲ組合員トシ、其ノ土地ヲ組合ノ地區ニ編入スルコトヲ得、但シ地上權又ハ永小作權ノ殘存期間カ耕地整理組合設立ノ認可申請ノ日ヨリ二十年未滿ナルモノニ付テハ此限ニ在ラス。

第二條ノ二第二項及第五條第二項ノ規定ハ、前項ノ規定ニ依リ、地上權者又ハ永小作權者カ組合員トナリタル場合ニ之ヲ準用ス。

明治三十三年三月七日公布法律第二十九號土地收用法抄錄

第八十二條　收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シテ不服アル者ハ、通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得、但シ裁決書謄本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三ケ月ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス。

前項ノ訴訟ハ、收用審査會ニ對シテ之ヲ提起スルコトヲ得ス。

大正八年四月五日公布法律第三十六號都市計畫法抄錄

第十三條　都市計畫トシテ內閣ノ認可ヲ受ケタル土地區劃整理ハ、認可後一年內ニ其ノ施行ニ着手スル者ノナキ場合ニ於テハ、公共團體ヲシテ都市計畫事業トシテ之ヲ施行セシム。

前項ノ規定ニ依リ公共團體ノ施行スル土地區劃整理ニ付耕地整理法ヲ準用シ難キ事項ニ關シテハ、勅令ヲ以テ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得。

第二十三條　行政執行法第五條及第六條ノ規定並之ニ基キテ發スル命令ハ、本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ依リ行フヘキ作爲又ハ不作爲ヲ行政廳カ強制スル場合ニ之ヲ準用ス。

第二十四條　本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ依リ私人ノ義務ニ屬スル負擔金其ノ他ノ費用ハ、行政廳國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得。

前項ノ規定ニ依ル徵收金ノ先取特權ノ順位並其ノ追徵還付及時效ニ付テハ、行政廳ノ統轄スル公共團體ノ徵收金ノ例ニ依ル。

第二十五條　本位又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政廳ノ爲シタル處分ニ不服アル者ハ訴願スルコトヲ得。

本法ニ依リ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ル場合ニ於テハ、主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス。

第二十六條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付、行政廳ノ爲シタル違法處分ニ因リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ、行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得。

勅令第四十九號

特別都市計畫法施行令

御名　御璽

樺政名

大正十三年三月十五日　內閣總理大臣子爵　清浦奎吾

內務大臣　水野錬太郎

勅令第四十九號

特別都市計畫法施行令

第一條　行政官廳ノ執行スル特別都市計畫事業ニ付、關係公共團體ニ負擔セシムル費用ハ、左ノ各號ニ依ル。

一、道路（道路ノ附屬物及廣場ヲ含ム）費　二分ノ一以內

二、運河費　四分ノ一以內

三、公園費　四分ノ一以內

前項ノ規定ニ依ル負擔金ノ額及其ノ納付時期等ハ、內務大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム。

第二條　特別都市計畫又ハ特別都市計畫事業トシテ內閣ノ認可ヲ受ケタルトキハ、直ニ其ノ要領ヲ告示スヘシ。

第三條　本令ニ於テ借地權ト稱スルハ、借地法ニ謂フ借地權ヲ謂フ。

第四條　土地所有者特別都市計畫法第四條第一項ノ規定ニ依リ借地權者ノ同意ヲ得ル場合ニ於テ、其ノ所有地ニ數人ノ借地權者アルトキハ、其ノ總數ノ二分ノ一以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス。

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ、共同シテ借地權ヲ有スル者ハ之ヲ一人ト看做シ、總數ノ二分ノ一以上ノ同意アリタルトキハ、其ノ同意アリタルモノト看做ス。

同一ノ土地ニ付借地權者數人アル場合ニ於テハ、現ニ土地ヲ使用スル權利ヲ有スル者ヲ以テ、第一項ノ借地權者ト看做ス。

第五條　行政廳又ハ公共團體カ特別都市計畫法第五條ノ規定ニ依リ土地區劃整理ヲ施行スル場合ニ於テハ、其ノ整理施行地區ヲ告示スヘシ。

第六條　土地區劃整理委員會ハ、整理施行地區每ニ之ヲ設ク。

整理委員會ハ、整理施行地區內ノ土地所有者及借地權者カ各別ニ選舉スル整理委員ヲ以テ之ヲ組織ス。

整理委員ノ定數ハ、土地所有者ノ選舉スル者及借地權者ノ選舉スル者ニ付各同數トシ、整理施行者之ヲ定ム。

整理委員ノ定數ハ、選舉期日ヨリ起算シ少クトモ二十日前ニ之ヲ告示スヘシ。

第七條　土地所有者又ハ借地權者整理委員ヲ選舉スル場合ニ於テハ之ト同數ノ補闕委員ヲ選舉スヘシ。

第八條　整理委員及補闕委員ハ、整理施行地區內ニ於テ土地所有者ニ在リテハ土地所有者ヨリ、借地權者ニ在リテハ借地權者ヨリ之ヲ選舉ス。

前項ノ規定ハ、耕地整理法第十一條第一項ノ土地ニ關シ之ヲ適用セス。

第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ、土地ノ共有者又ハ共同シテ借地權ヲ有スル者ハ各之ヲ一人ト看做シ、其ノ者ノ中ヨリ定メタル代表者ヲ以テ第一項ノ土地所有者又ハ借地權者ト看做ス。

第四條第三項ノ規定ハ、第一項ノ借地權者ニ之ヲ準用ス。

第九條　選舉期日ハ整理施行者之ヲ定メ、其ノ日ヨリ起算シ少クトモ二十日前ニ之ヲ告示スヘシ。

第十條　第八條ノ土地所有者及借地權者ハ、前條ノ告示アリタル日ヨリ起算シ、七日以內ニ住所氏名幷權利ノ種別及其ノ目的タル土地ノ所在ヲ具シ整理施行者ニ申告スヘシ。

前項ノ場合ニ於テ、登記ナキ借地權者ハ其ノ權利ヲ證スヘキ書類ヲ添附スルコトヲ要ス。

第一項ノ場合ニ於テ、整理施行者ハ土地所有者又ハ登記アル借地權者ニ對シ其ノ權利ヲ證スヘキ書類ノ提出ヲ命スルコトヲ得。

第十一條　整理施行者ハ、前項ノ申告ニ基キ選舉人名簿ヲ調製シ、選舉期日ヨリ起算シ七日前ヨリ三日間之ヲ縱覽ニ供スヘシ。

第十二條　選擧人名簿ニ異議アル者ハ、縱覽期限內ニ證憑書類ヲ添附シ整理施行者ニ之ヲ申出ツヘシ。

第十條第一項ノ申告ヲ取得シタル者ニ付亦同シ。

第十三條　整理施行者前條ノ異議ノ申立ヲ受ケタルトキハ、之ヲ受ケタル日ヨリ起算シ三日以內ニ之ヲ決定スヘシ、其ノ申立ヲ正當ナリト決定シタルトキハ直ニ選擧人名簿ヲ修正シ、其ノ旨申立人及關係人ニ通知スルト共ニ、之ヲ告示スヘシ、其ノ申立ヲ正當ナラスト決定シタルトキハ、其ノ旨申立人ニ通知スヘシ。

第十四條　整理施行者ハ、投票所及投票時間ヲ定メ、選擧期日ヨリ起算シ少クトモ七日前ニ之ヲ告示スヘシ。

第十五條　選擧ハ無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ。

投票ハ整理委員及補闕委員ニ付一人一票トス。

投票用紙ハ、整理施行者選擧ノ當日投票所ニ於テ之ヲ選擧人ニ交付ス。

選擧人ハ、選擧ノ當日投票所ニ於テ整理委員及補闕委員ニ付被選擧人各一人ノ氏名ヲ各別ノ投票用紙ニ記載シ投票スヘシ。

投票ハ代人ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得、此ノ場合ニ於テハ代人ハ本人ノ委任狀ヲ選擧長ニ提出スヘシ。

第十六條　選擧人名簿ニ登錄セラレサル者ハ投票スルコトヲ得ス。

第十七條　整理施行者ハ、所屬ノ官吏又ハ吏員ノ中ヨリ選擧長ヲ命スヘシ。

選擧長ハ投票開票其ノ他ノ選擧ニ關スル事務ヲ統轄ス。

整理施行者ハ整理施行地區內ニ於テ選擧資格ヲ有スル者ノ中ヨリ二人ノ立會人ヲ選任シ、投票及開票ニ立合ハシムヘシ。

第十八條　有效投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス、得票數同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム。

整理委員トシテ當選シタル者、同時ニ補闕委員トシテ當選スルモ補闕委員タルコトヲ得ス。

土地所有者ヨリ選擧セラレ當選シタル者、同時ニ借地權者ヨリ選擧セラレ當選スルモ、借地權者ヨリ選擧セラレ當選シタル者ニ非スト看做ス、但シ前項ノ規定ノ適用ヲ妨ケス。

第十九條　當選人決定シタルトキハ、整理施行者ハ其ノ旨當選人ニ通知シ、其ノ氏名ヲ告示スヘシ。

當選人前項ノ告示アリタル日ヨリ起算シ五日以內ニ不承諾ノ通知ヲ爲サヽルトキハ、當選ヲ承諾シタルモノト看做ス。

第二十條　當該選擧ニ於テ定數ノ整理委員ヲ得サルトキハ、其ノ不足ノ員數ニ對シ更ニ選擧ヲ行フ。

前項ノ選擧ヲ行フ場合ニ於テハ、當該選擧ニ關スル選擧人名簿ニ依リ之ヲ行ヒ、選擧スヘキ員數及選擧期日ハ選擧期日ヨリ起算シ少クトモ七日前ニ之ヲ告示スヘシ。

第二十一條　整理委員又ハ補闕委員第八條ノ被選擧要件ヲ缺クニ至リタルトキハ、其ノ資格ヲ失フ。

第二十二條　整理委員ニ闕員ヲ生シタルトキハ、得票數多キ補闕委員ヨリ順次之ヲ補充ス、得票數同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム。

整理委員ニ闕員ヲ生シ之ヲ補充スヘキ補闕委員ナキトキハ、整理委員及補闕委員ノ補闕選擧ヲ行フ。

第二十三條　整理委員會整理施行者ノ指定スル期間內ニ意見ヲ提出セサルトキハ、直ニ特別都市計畫法第五條ノ事項ヲ決定スルコトヲ得。

第二十四條　本令ニ定ムルモノヽ外、整理委員會ニ關シ必要ナル事項ハ內務大臣之ヲ定ム。

第二十五條　特別都市計畫法第七條第一項ノ公共ノ用ニ供スヘキモノト爲リタル土地ト、特別都市計畫法第五條ノ土地區劃整理ノ施行ニ因リ、新設又ハ擴築シタル道路廣場堤塘運河河川公園又ハ公共物揚場ノ用ニ供スヘキモノト爲リタル土地ヲ謂フ。

第二十六條　前條ノ土地ハ、國ニ於テ土地區劃整理施行ニ要スル費用ヲ負擔スル場合ニ在リテハ國ノ所有地、公共團體ニ於テ其ノ費用ヲ負擔スル場合（特別都市計畫法第二條ノ規定ニ依リ費用ノ一部ヲ負擔スル場合ヲ除ク）ニ在リテハ其ノ公共團體ノ所有地ニ編入ス。

第二十七條　特別都市計畫法第八條第二項ノ公共ノ用ニスル土地ト、地目ノ如何ニ拘ラス道路廣場溝渠運河河川公園又ハ公共物揚場ノ用ニ供セラルヽ土地ヲ謂フ。

第二十八條　特別都市計畫法第八條第一項ノ補償金ハ、整理施行地ニ付第三十三項ノ告示ノ日ニ於テ所有權地上權永小作權又ハ賃借權ヲ有スル者及國有財產法第二十四條ノ規定ニ依リ土地ノ貸付ヲ受クル者ニ對シ之ヲ交付ス。

前項ニ規定スル者ハ、整理施行者ノ指定スル期間內ニ住所氏名並權利ノ種別及其ノ目的タル土地ノ所在ヲ具シ整理施行者ニ申告スヘシ。

第十條第二項及第三項ノ規定ハ、前項ノ申告ニ之ヲ準用ス。

登記ナキ權利ニ付第二項ノ期間內ニ申告ヲ爲サヽル者ニ對シテハ、補償金ヲ交付セス。

第二十九條　特別都市計畫法第八條第一項ノ補償金ハ、國又ハ公共團體ニ之ヲ交付セス。

第三十條　特別都市計畫法第八條第一項ノ補償金ノ總額ハ、整理施行前ニ於ケル其ノ地區內ノ宅地ノ平均價格ニ同項ノ規定ニ依ル一割ヲ超ユル部分ノ面積ヲ乘シタル額トス、但シ前條ノ規定ナシトセハ國又ハ公共團體ニ交付スヘキ額ハ之ヲ控除ス。

第三十一條　特別都市計畫法第八條第一項ノ補償金ハ同法第五條ノ規定ニ依リ定メタル配當割合ニ基キ補償審査會之ヲ定ム。

第三十二條　公共團體ヲ統轄スル行政廳又ハ公共團體カ特別都市計畫法第五條ノ土地區劃整理ヲ施行スル場合ニ於テ、同法第五條ノ規定ニ依ル決定ヲ爲スニ付テハ、內務大臣ノ認可ヲ受クヘシ、此場合ニ於テハ耕地整理法第三條第一項及第三十條第三項ノ規定ニ依ル地方長官ノ認可ヲ要セス。

第三十三條　特別都市計畫法第五條ノ土地區劃整理ヲ施行スル場合ニ於テ、行政官廳第三十七條若ハ耕地整理法第三十項第一項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シ又ハ內務大臣之ニ關シ前條ノ認可ヲ與ヘタルトキハ、遲滯ナク之ヲ告示シ、且行政官廳處分ヲ爲シタル場合ニ在リテハ、既登記ノ土地及建物ニ付登記ヲ囑託シ、內務大臣認可ヲ與ヘタル場合ニ在リテハ、其ノ旨管轄登記所ニ通知スヘシ。

第三十四條　特別都市計畫法第五條ノ土地區劃整理ヲ施行スル場合ニ於ケル耕地整理法ノ準用ニ付テハ、同法第二十九條ノ告示ハ第五條ノ告示、同法第三十條第三項ノ認可ハ第三十二條ノ認可、同法第三十條第四項ノ告示ハ前條ノ告示同法第四十二條ノ二、第四十七條及第四十八條ノ組合ハ整理施行者タル行政廳又ハ公共團體、同法第四十三條第一項及第四十四條ノ耕地整理組合ノ地區ハ整理施行地區トス。

第三十五條　特別都市計畫法第五條ノ土地區劃整理ノ施行ニ付テノ耕地整理法ノ準用ニ關シテハ、整理施行地ニ付所有權以外ノ權利ヲ有スル者ハ之ヲ關係人ト看做ス。

第三十六條　耕地整理法第三十三條ノ規定ハ、從前ノ土地ノ全部又ハ一部ニ付未登記ノ所有權以外ノ權利アル土地ニ對スル換地ノ交付ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス、但シ特別都市計畫法第五條ノ土地區劃整

理ニ付テハ、第五條ノ告示都市計畫法第十三條第一項ノ規定ニ依リ公共團體ノ施行スル土地區劃整理ニ付テハ都市計畫法施行令第十七條第一項ノ告示其ノ他ノ土地區劃整理ニ付テハ、整理施行ノ認可若ハ整理施行地區變更ノ認可又ハ整理組合ノ設立若ハ組合地區變更ノ認可ノ告示アリタル日ヨリ起算シ、十日以内ニ權利者權利ヲ證スヘキ書類ヲ添附シ、整理施行者ニ權利ノ特別及其ノ目的タル土地ノ所在ヲ屆出テサル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス。

第三十七條　特別都市計畫法第五條ノ土地區劃整理ヲ施行スル場合ニ於テ、特別ノ事情ノ爲耕地整理法第三十條第一項ノ規定ニ依ルコト能ハサルモノノ處分ニ關シテハ、行政廳又ハ公共團體整理委員會ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ムルコトヲ得。

第三十八條　特別都市計畫法第五條ノ土地區劃整理施行ノ土地ノ地價ニ關シ、都市計畫法施行令第二十條ノ規定ニ依ル耕地整理法第十三條ノ規定ノ準用ニ付テハ、同法中第十一條第二項ニ依リ國有地ヲ編入シタル土地ノ面積トアルハ、特別都市計畫法第七條第一項ノ規定ニ依リ國又ハ公共團體ノ所有地ニ編入シタル土地ノ面積トス。

第三十九條　特別都市計畫法第五條ノ土地區劃整理ヲ施行スル場合ニ於テ、第三十七條又ハ耕地整理法第三十條第一項但書ノ規定ニ依リ支拂フヘキ金錢ヲ滯納スルトキハ、整理施行者ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スルコトヲ得。

前項ノ規定ニ依ル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ、行政官廳ニ於テ徵收スル場合ニ在リテハ國ノ徵收金ニ公共團體ヲ統轄スル行政廳又ハ公共團體ニ於テ徵收スル場合ニ在リテハ其ノ公共團體ノ徵收金ニ次ク。

附　則

本令ハ、公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス。

2　附屬法規

一、市街地建築物法除外　大正十二年九月十五日震災被害地に於ける假建築には、市街地建築物法を適用せざる事となり、十三年二月及八月更に假建物建築期限を延期す。

脫東京府及神奈川縣ノ市街地建築物法適用區域內ニ於ケル假設建築物等ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム。

御名　御璽

攝政名

大正十二年九月五日　內閣總理大臣伯爵　山本權兵衞

內務大臣子爵　後藤　新平

勅令第四百十四號

東京府及神奈川縣ノ市街地建築物法適用區域內ニ於ケル大正十二年九月ノ震災ニ因リ火災ニ罹リタル地區ニ於テ、大正十三年二月末日迄ニ建築ニ着手シ、大正十七年八月末日ニ除却スル假設建設物ニ對シテハ、市街地建築物法第二條乃至第十一條及第十三條乃至第十五條ノ規定ヲ適用セス。

東京府及神奈川縣ノ市街地建築物法適用區域內ニ於ケル前項ノ地區外ノ地區ニ於テ、大正十三年二月末日迄ニ除却スル建築物ニシテ、救護其ノ他應急的施設ノ爲ニスルモノニ付、亦前項ニ同シ。

第一項ノ地區ノ範圍、同項ノ假設建築物構造、並前項ノ建築物ノ種類、及構造ハ內務大臣之ヲ定ム。

附　則

本令ハ、公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス。

蓋大正八年四月ノ　法律第三十七號　市街地建築物法第二十五條ニ、

「本法ノ全部、又ハ一部ノ適用ヲ必要トセサル建築物ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム」トアルニ依リテ、本令アルナリ。

內務省令第三十三號

東京府及神奈川縣ノ市街地建築物法適用區域ニ於ケル假設建築物等ニ關スル件、左ノ通定ム。

大正十二年九月十七日　內務大臣子爵　後藤　新平

第一條　大正十二年九月十六日勅令第四百十四號第一項ノ地區ハ、左記ノ區域內ニ於テ火災ニ罹リタル地區トス。

東京市　日本橋區、麹町區、京橋區、芝區、神田區、下谷區、本鄕區、小石川區、淺草區、四谷區、麻布區、赤坂區、本所區、深川區。

南葛飾郡　吾嬬町

同　龜戶町

同　砂町

北豐島郡　三河島町

同　日暮里町

豐多摩郡　淀橋町

橫濱市

第二條　大正十二年九月十六日勅令第四百十四號第二項ノ建築物ハ左記各號ノ一ニ該當スル種類ノモノニ限ル。

一、罹災民救護又ハ避難ノ爲メニ建築スル應急的建築物。

二、震災善後ノ爲メニ要スル食糧品衞生材料建築材料運搬用具等ヲ、一時貯藏スル爲メノ建築物。

第三條　大正十二年九月十六日勅令第四百十四號第二項ノ假設建築物及同第二項ノ建築物ハ、階數二ヲ超ユルコトヲ得ス。

大正十二年九月十六日勅令第四百十四號第一項ノ假設建築物及同第二項ノ建築物ニハ、市街地建築物法施行規則第一條乃至第百四十七條ノ規定ヲ適用セス。

地方長官ハ、大正十二年九月十六日勅令第四百十四號第一項ノ假設建築物及同第二項ノ建築物ノ構造、設備又ハ敷地ニ關シ、衞生上又ハ保安上必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得。

附　則

本令中地方長官トアルハ、東京府ニ於テハ、警視總監トス。

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス。

內務省令第三十六號

大正十二年內務省令第三十三號東京府及神奈川縣ノ市街地建築物適用區域ニ於ケル假設建築物等ニ關スル件中、左ノ通改正ス。

大正十二年九月二十九日　內務大臣子爵　後藤　新平

第一條中「北豐島郡日暮里町」ノ次ニ「南千住町」ヲ加フ。

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス。

延期。

脫大正十二年勅令第四百十四號東京府及神奈川縣ノ市街地建築物法適用區域內ニ於ケル假設建築物等ニ關スル件中改正ノ件ヲ裁可シ、玆ニ之ヲ公布セシム。

御名　御璽

攝政名

大正十三年二月十六日　內閣總理大臣子爵　淸浦　奎吾

內務大臣　水野錬太郎

勅令第十九號

大正十二年勅令第四百十四號中左ノ通改正ス。

第一項中「大正十三年二月末日」ヲ「大正十三年八月末日」ニ改ム。

附　則

本令ハ、公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス。

勅　令

朕大正十二年勅令第四百十四號第一項ノ規定ニ依ル建築着手期限ノ延期ニ關スル件ヲ裁可シ、玆ニ之ヲ公布セシム。

御名　御璽

攝政名

大正十三年八月二十二日　内閣總理大臣子爵　加藤　高明

内務大臣　若槻禮次郎

勅令第百九十八號

大正十二年勅令四百十四號第一項ニ規定スル大正十三年八月末日ノ期限ハ、都市計畫事業トシテ土地區劃整理ヲ施行スル地區ニ限リ、當該地區ニ關スル特別都市計畫法施行令第三十三條ノ規定ニ依ル換地處分又ハ換地處分認可ノ告示ノ日迄之ヲ延期ス。

附　則

本令ハ、公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス。

【參照】大正十二年九月十六日勅令第四百十四號東京府及神奈川縣ノ市街地建築物法適用區域内ニ於ケル假設建築物等ニ關スル件抄錄

第一項

東京府及神奈川縣ノ市街地建築物法適用區域内ニ於ケル大正十二年九月ノ震災ニ因リ火災ニ罹リタル地區ニ於テ、大正十三年八月末日迄ニ建築ニ着手シ、大正十七年八月末日迄ニ除却スル假設建築物ニ付テハ、市街地建築物法第二條乃至第十一條及第十三條乃至第十五條ノ規定ヲ適用セス。

【參照】大正十三年三月十七日勅令第四十九號特別都市計畫施行令抄錄

第三十三條　特別都市計畫法第五條ノ土地區劃整理ヲ施行スル場合ニ於テ行政官廳第三十七條若ハ耕地整理法第三十條第一項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シ、又ハ内務大臣之ニ關シ前條ノ認可ヲ與ヘタルトキハ、遲滯ナク之ヲ告示シ、且行政官廳處分ヲ爲シタル場合ニ在リテハ、既登記ノ土地及建物ニ付登記ヲ囑託シ、内務大臣認可ヲ與ヘタル場合ニ在リテハ、其ノ旨管轄登記所ニ通知スヘシ。

二、土地區劃整理委員會規程　大正十三年四月二日内務省令を以て之を定む。

内務省令第十二號

特別都市計畫法施行令第二十四條ノ規定ニ依リ、土地區劃整理委員會ニ關スル件、左ノ通定ム。

大正十三年四月二日　内務大臣　水野錬太郎

第一條　土地區劃整理委員會ハ、整理委員中ヨリ議長及副議長ヲ選擧スヘシ。

前項ノ規定ニ依ル選擧ニ付テハ、出席委員中ノ年長者議長ノ職務ヲ行フ、年齡同シトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム。

特別都市計畫法施行令第十八條第一項ノ規定ハ、第一項ノ規定ニ依ル選擧ニ之ヲ準用ス。

第二條　議長ハ、其ノ日ノ會議ヲ開閉シ、議事ヲ整理ス。

議長故障アルトキハ副議長之ニ代リ、議長及副議長共ニ故障アルトキハ、出席委員中ノ年長者議長ノ職務ヲ代理ス、年齡同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム、

第三條　整理委員會ハ、整理施行者之ヲ招集ス。

招集ノ通知ハ、開會ノ日ヨリ起算シ、少クトモ三日前ニ之ヲ爲スヘシ、但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス。

整理委員會ハ、整理施行者之ヲ開閉ス。

第四條　整理委員會ハ、委員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス。

議事ハ出席委員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス、可否同數ナルトキハ議長

ノ決スル所ニ依ル。

第五條　關係官吏又ハ吏員ハ、整理委員會ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得。

附　則

本令ハ、公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス。

三、道路新設改築受益者負擔　に關する省令左の如く改正せらる。

内務省令第十六號

大正十二年一月内務省令第四號東京都市計畫土地區劃整理事業ニ伴フ道路新設擴築受益者負擔ニ關スル件中、左ノ通改正ス。

大正十三年七月七日　内務大臣　若槻禮次郎

第七條中「工事着手」ヲ「負擔金告知」ニ改ム。

附　則

本令ハ、公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス。

【參照】大正十二年十一月三日内務省令第四號抄錄

第七條　負擔金ハ、事業着手ノ日ノ現在ニ依リ受益者ヨリ納付セシム、但シ工事着手ノ日ヨリ二年内ニ分納セシムルコトヲ得。

四、防火地區建築補助規則　大正十三年八月五日内務省令を以て之を定む。

内務省令第十九號

防火地區建築補助規則、左ノ通定ム。

大正十三年八月五日　内務大臣　若槻禮次郎

防火地區建築補助規則

第一條　東京府及神奈川縣ノ市街地建築物法適用區域内ニ於ケル大正十二年九月ノ震災ニ因リ火災ニ罹リタル地區ノ中、甲種防火地區内ニ於テ、市街地建築物法施行規則第百四十三條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケ、建物ノ新築又ハ增築ヲ爲ス建築主ニ對シ、毎年度豫算ノ範

圍内ニ於テ、本令ニヨリ補助金ヲ交付ス。

前項ノ火災ニ罹リタル地區トハ、大正十二年内務省令第三十三號第一條ニ定ムル地區ヲ謂フ。

第二條　補助金額ハ、左ノ區分ニ依リ復興局長官之ヲ定ム。

一　建築（第三號ニ揭クル建物ヲ除ク）ノ外、敷床及柱ヲ耐火構造トスルトキ。

床面積一坪ニ付　金五拾圓以内

二　建物（第三號ニ揭クル建物ヲ除ク）ノ外、敷ヲ耐火構造トスルトキ。

床面積一坪ニ付　金四拾圓以内

三　市街地建築物法第十四條ノ規定ニ依ル特種建築物耐火構造規則第一條及第二條ニ揭クル建物ニ對スル補助金額ハ、左ノ區分ニ依ル。

イ　第一條ニ揭クル建物

床面積一坪ニ付　金貳拾圓以内

ロ　第二條ニ揭クル建物

建物ノ外壁、床及柱ヲ耐火構造トスルトキ。

床面積一坪ニ付　金參拾圓以内

建物ノ外壁ヲ耐火構造トスルトキ。

床面積一坪ニ付　金貳拾圓以内

市街地建築物法第十四條ノ規定ニ依ル特殊建築物耐火構造規則第四條ノ規定ニ依リ、同規則第一條及第二條ノ規定ヲ準用スル建物ノ部分ニ對シテハ、前項第三條ノ規定ヲ準用ス。

第一項ノ床面積トハ、建物各階ノ建築面積中、床ヲ有スル部分（階段室、昇降機室等ニ付テハ床ヲ有スルモノト看做ス）ヲ謂フ、但シ地階及屋階ノ床面積ヲ除ク。

補助金額ノ算定ニ付テハ、一ノ建物ノ床面積ニ一坪未滿ノ端數アルトキハ之ヲ切捨ツ。

建物ノ構造特ニ簡易ナル部分ニ付テハ、第一項ノ補助金額ヲ減スルコトヲ得。

第三條　市街地建築物法施行規則第四十三條ノ規定ヲ適用スル建物ノ床面積中、床面カ地盤面上四十五尺ヲ超ユルモノハ、前條第一項ノ床面積ニ算入セス。

第四條　府縣市區及準區ニ對シテハ、補助金ヲ交付セス。

第五條　補助金ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ、市街地建築物法施行規則第百四十三條ノ規定ニ依リ、認可ヲ受ケタル日ヨリ別記樣式ニ依ル願書ヲ復興局長官ニ提出シ認可ヲ受クヘシ、建物ノ設計又ハ用途ノ變更アリタルニ因リ補助金額ニ增減ヲ生スルトキ亦同シ。

前項ノ願書ニハ、市街地建築物法施行規則第百四十三條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル申請書ノ副本ヲ添付スヘシ。

同一ノ建物ニ付キ建築主數人アル場合ニ於テハ、代表者一人ヲ定メ其ノ正當ナルコトヲ證スル書面ヲ願書ト共ニ提出スヘシ。

第六條　建築主ニ變更アリタル時ハ、其ノ事實ノ生シタル日ヨリ二十日以內ニ復興局長官ニ補助金交付認可書ヲ提出シ、其ノ名義變更ヲ請求スヘシ、但シ其變更カ補助金交付ノ認可前ナルトキハ、復興局長官ニ補助金交付願ノ名義變更ヲ屆出ツヘシ。

第七條　補助金交付ノ認可ヲ受ケタル者ハ、建物使用認可證ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ復興局長官ニ補助金ヲ請求スヘシ。

第八條　復興局長官前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ、建物檢查ノ上補助金ヲ支拂フヘシ。

第九條　建物ノ新築又ハ增築ニ關スル地方長官ノ認可效力ヲ失セ又ハ取消サレタルトキハ、補助金交附ノ認可ハ其ノ效力ヲ失フ。

第十條　市街地建築物法施行規則第百三十二條又ハ第百三十三條ノ規定ニ依リ、甲種防火地區內ノ建物ニ關スル規定ヲ適用セル建物ニ付テハ、本令ヲ準用ス、但シ甲種防火地區ノ境界線ヨリ六間ヲ超ユル區域ニ在ル建物ノ部分ニ付テハ此限ニ在ラス。

第十一條　本令ニヨリ復興局長官ニ提出スヘキ書類ハ、東京府ニ於テハ警視總監、神奈川縣ニ於テハ神奈川縣知事ヲ經由スヘシ。

附　則

本令ハ、公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス、但シ神奈川縣ニ付テハ別ニ施行期日ヲ定ム。

本令施行前、市街地建築物法施行規則第百四十三條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル者本令ニ依ル補助金ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ、本令施行ノ日ヨリ六十日以內ニ、第五條ノ規定ニ依ル願書ヲ提出スヘシ、本令施行ノ際又ハ防火地區變更ノ際、第一條ノ甲種防火地區內ニ於テ新築又ハ工事中ノ建物ニ付テハ本令ヲ準用ス。

（別記）

補助金交付願樣式

防火地區建築補助金交付願

防火地區建築補助規則ニ依リ、補助金交付認可相成度、左記書類添付、及出願候也。

大正　年　月　日　　住所
　　建築主　氏　　名㊞

復興局長官　殿

建築坪數計算

建築敷地ノ地名　市　區　町　番地

階別	用途	構造	坪數（床面積）	備考
第一階			坪合	
第二階				
第三階				
第四階				
第五階				
計				

添附書類

一、市街地建築物法施行規則第百四十三條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル申請書ノ副本

補助金額變更願樣式

防火地區建築補助金額變更願

大正　年　月　日　號ヲ以テ補助金交付認可相受候處、今般建物設計用途ノ變更アリタルニ因リ、補助金額變更ノ義認可相受度、左記書類添付及出願候也

大正　年　月　日　　住所
　　建築主　氏　　名㊞

復興局長官　殿

補助金額變更計算

建築敷地ノ地名　市　區　町　番地

階別	用途	構造	坪數（床面積）	備考
第一階（現在／變更）			坪合	
第二階（現在／變更）				
第三階（現在／變更）				
第四階（現在／變更）				
第五階（現在／變更）				
計（現在／變更）				

添附書類

一、設計用途變更ニ關シ市街地建築物法第百四十三條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル申請書ノ副本

（參照）大正八年四月五日公布法律第三十七號市街地建築物法抄錄

第十四條　主務大臣ハ學校、集會場、劇場、旅館、工場、倉庫、病院、市場、屠場、火葬場其他命令ヲ以テ指定スル特殊建築物ノ位置、構造、設備又ハ敷地ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得。

大正九年十一月內務省令第三十七號市街地建築物法施行規則抄錄

第四十三條　高六十五尺ヲ超過スル建築物ハ、其ノ壁體、床、柱、屋根、階段等主要構造部ヲ耐火構造トナスヘシ。

第百三十二條　建築防火地區ノ境界線外ニ亘ル場合ニ於テハ、其ノ全部ニ對シ防火地區內ノ建物ニ關スル規定ヲ適用ス、但シ其建物ノ部分ヲ成ス防火壁ニシテ防火地區外ニ在ルトキハ、其ノ防火壁外ノ部分ニ付テハ此ノ限

ニ在ラス。

第百三十三條　建物甲種防火地區及乙種防火地區ニ亘ル場合ニアリテハ、其ノ全部ニ對シ甲種防火地區內ノ建物ニ關スル規定ヲ適用ス、但シ其ノ建物ノ部分ヲ成ス防火壁ニシテ甲種防火地區外ニ在ルトキハ、其ノ防火壁外ノ部分ニ付テハ此ノ限ニ在ラス。

第百三十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル建築物ノ新築、增築、改築、移轉、大修繕又ハ大變更ヲ爲サムトスルトキハ、地方長官ノ認可ヲ受クヘシ。

一、市街地建築物法第十四條ノ建築物

二、防火地區及美觀地區內ノ建築物

三、其他地方長官ノ指定スル建築物

建築物ノ用途ヲ變更シテ前項一號又ハ第三號ニ充テムトスルモノ亦同シ。

大正十二年六月內務省令第十五號市街地建築物法第十四條ノ規定ニ依ル特殊建築物耐火構造規則抄錄

第一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル建物ヲ建築スルトキハ、其ノ壁體、床、柱、屋根、階段等主要構造部ヲ耐火構造ト爲スヘシ。

一、劇場、活動寫眞館、演藝場、觀物場及之ニ類スル建物ニシテ、製客定員七百五十人以上ノモノ。

二、集會場、公會堂及之ニ類スル建物ニシテ收容定員千人以上ノモノ。

三、旅館、下宿屋、寄宿舍、貸座敷、常設展覽會場、百貨店、勸工場及之ニ類スル建物ニシテ階數三ノモノ。

四、揮發石油ヲ使用スル自動車ノ車庫ニシテ其室面積十五坪以上ノモノ

五、倉庫ニシテ階數二且建築面積百坪以上ノモノ、但シ地方長官用途ニ依リ支障ナシト認ムルモノハ此限ニ在ラス。

前項ノ建物ニ付テハ、市街地建築物法施行規則第百二十條及第百二十一條ヲ準用ス。

第三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル建物ヲ建築スルトキハ、其ノ外壁ヲ耐火構造又ハ準耐火構造ト爲スヘシ。

一、劇場、活動寫眞館、演藝場、觀物場及之ニ類スル建物ニシテ、製客

定員二百五十人以上ノモノ。

二、集會場、公會堂及之ニ類スル建物ニシテ、收容定員五百人以上ノモノ。

三、揮發石油ヲ使用スル自動車ノ車庫ニシテ其室面積五坪以上ノモノ。

前項ノ建物ニ付テハ、市街地建築物法施行規則第百二十八條及第百二十九條ヲ準用ス。

第四條　建物ニシテ其ノ一部ヲ第一條乃至第三條ノ建物ト同種ノ用途ニ供スルモノニ付テハ、其ノ部分ニ對シ、第一條乃至第三條ノ規定ヲ準用ス、但シ地方長官必要ト認ムルトキハ、其ノ他ノ部分ニ對シ防火上相當ナル構造設備ヲ命スルコトヲ得。

大正十二年九月十日內務省令第三十三號東京府及神奈川縣ノ市街地建築物法適用區域ニ於ケル假設建築物等ニ關スル件抄錄

第一條　大正十二年九月十日勅令第四百十四號第一項ノ地區ハ、左記ノ區域內ニ於テ火災ニ罹リタル地區トス。

東京市　日本橋區　京橋區　麹町區　芝　區　牌田區

下谷區　本鄉區　小石川區　淺草區　四谷區

麻布區　赤坂區　本所區　深川區

南葛飾郡　吾嬬町

同　龜戶町

同　大島町

同　砂　町

北豐島郡　三河島町

同　日暮里町

豐多摩郡　淀橋町

同　南千住町

橫濱市

五、府縣震災土木費國庫補助規程　大正十三年八月二十九日、左の勅令公布せらる。

罹災ニ因ル府縣災害土木費國庫補助規程ヲ裁可シ、玆ニ之ヲ公布セシム。

御名　御璽

攝政名

大正十三年八月二十九日　內閣總理大臣子爵　加藤　高明

內務大臣　若槻禮次郎

大藏大臣　濱口　雄幸

勅令第二百三號

震災ニ依ル府縣災害土木費國庫補助規程

大正十二年九月ノ震災ニ因ル東京府、神奈川縣、千葉縣、埼玉縣、靜岡縣及山梨縣ノ災害土木費ニ付テハ、國庫ハ災害土木費國庫補助規程ニ依ラス左ノ區分ニ從ヒ補助スルコトヲ得。

京京府ニ對シテハ、府工事費ノ八割以內、及下級公共團體ニ對スル府補助費ノ十割以內。

神奈川縣ニ對シテハ、縣工事費ノ八割五分以內、及下級公共團體ニ對スル縣補助費ノ十割以內。

千葉縣、埼玉縣、靜岡縣及山梨縣ニ對シテハ、縣工事費ノ七割五分以內、及下級公共團體ニ對スル縣補助費ノ十割以內。

前項ノ規程ニ依ル府縣補助費ニ對スル補助ノ割合ハ、下級公共團體ノ災害土木費ニ對シ、東京府ニ在リテハ其ノ八割、神奈川縣ニ在リテハ其ノ八割五分、千葉縣、埼玉縣、靜岡縣及山梨縣ニ在リテハ其ノ七割五分ヲ超ユルコトヲ得ス。

前二項ノ規程ニ依リ補助スヘキ災害土木費ノ範圍及補助額ハ、內務大臣之ヲ定ム。

本令ニ依ラスシテ補助金ヲ受ケタル災害土木費ニ付テハ、本令ニ依ル補助金ハ之ヲ交付セス。

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス。

九月八日　內務省令を以て災害土木費の國庫補助規程細則中を改正す。

內務省令第二十一號

災害土木費國庫補助規程施行細則中、左ノ通改正ス。

大正十三年九月八日　內務大臣　若槻禮次郎

第十二條中第三項ヲ削ル。

第十三條第二項ニ、左ノ但書ヲ加フ。

但シ、災害土木費ニ剩餘ヲ生スル見込アルトキハ、其ノ處分ノ急ヲ要スル場合ニ限リ、本項ニ依ル成行認定申請前ト雖、其ノ處分ニ付內務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ得。

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス。

〔參照〕明治四十四年八月十九日內務省令第十二號災害土木費國庫補助規定施行細則抄錄

第十二條　府縣ノ檢查ヲ受ケタル災害工事ノ設計ヲ變更シ又ハ施行箇所ノ變更ヲナスコトヲ得、此場合ニ於テモ亦前項ニ同シ。

前項ノ變更ニシテ河川法其ノ他ノ規定ニ依リ認可ヲ受クヘキモノハ、其ノ手續ヲ經ルコトヲ要ス。

府縣ハ災害工事ノ實施ニ際シ必要アリト認ムルトキハ、檢查ヲ受ケタル工事ノ設計ヲ變更シ又ハ施行箇所ノ變更ヲ爲スコトヲ得、此ノ場合ニ於テモ亦前項ニ同シ。

前項ノ變更ニシテ河川法其ノ他ノ規定ニ依リ認可ヲ受クルコトヲ要セサルモノハ、其ノ都度內務大臣ニ報告スヘシ。

第十三條　府縣ニ於テ國庫ノ補助ヲ受ケタル災害工事ヲ施行シタルトキハ內務大臣ニ其ノ工事成功ノ認定ヲ申請スヘシ。

國庫ノ補助ヲ受ケタル災害工事ヲ完了シ、前項ニ依リ其ノ認定ヲ申請スル場合ニ於テ、災害土木費ニ剰餘ヲ生シタルトキハ、府縣ハ其ノ處分方法ヲ定メ內務大臣ノ認可ヲ受クヘシ。

六、建物移轉補償金前拂令　大正十三年十二月一日勅令を以て左の如く定めらる。

茲特別都市計畫事業ニ伴フ建物其ノ他ノ工作物ノ移轉ニ因リ支拂フヘキ補償金等ヲ前金拂ト爲スノ件ヲ裁可シ、玆ニ之ヲ公布セシム。

御名　御璽

攝政名

大正十三年十二月一日　內閣總理大臣子爵　加藤　高明
內務大臣　若槻禮次郎
大藏大臣　濱口　雄幸

勅令第三百二號

特別都市計劃事業ノ爲、土地區劃整理地區內ニ存スル建物其ノ他ノ工作物ノ移轉ヲ要スル場合ニ於テ、其ノ所有者又ハ占有者ニ支拂フヘキ補償金又ハ移轉料ニ付テハ、前金拂ヲ爲スコトヲ得。

附　則

本令ハ、公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス。

七、市街地建築物法施行規則改正　大正十三年十二月十七日內務省令を以て左の如く定む。

內務省令第三十號

大正九年十一月內務省令第三十七號市街建地築物法施行規則中、左ノ通改正ス。

第百四十九條ノ二、第六條乃至第二十六條、第二十七條第三項、第二十八條乃至第百十七條、第百三十六條乃至第百四十二條及第百四十四條ノ規定ハ、市街地建築物法施行令第三十一條ノ規定ニ依リ、內務大臣ノ指定スル區域ニ之ヲ適用セス。

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス。

大正十三年十二月十七日　內務大臣　若槻　禮次郎

〔參　考〕市街建築法施行規則

內務省令第三十七號

市街地建築物法施行規則左ノ通定ム。

大正九年十一月九日　內務大臣　床次竹二郎

市街地建築物法施行規則

第一章　通　則

第一條　本則ニ於ケル用語ハ左ノ例ニ依ル。

一、居室トハ、居住ノ用ニ供スル室ヲ謂フ。

玄關廳下階段室外妾室便所手洗所浴室物置納戸暗室ノ類ハ居室ト看做サス。

二、地階トハ其ノ床面地盤面下ニ在ル階ヲ謂フ、但シ其ノ床面地盤面ヲ下ルコト一尺未滿ノモノハ之ヲ第一階ト看做ス。

三、屋階トハ屋根裏ニ設ケタル階ヲ謂フ。

四、床高トハ床面ヨリ其ノ直下地面迄ノ距離ヲ謂フ。

五、階高トハ其ノ階ノ床面ヨリ其ノ直上階ノ床面迄ノ高ヲ謂フ但シ最上階ニ在リテハ其ノ天井ノ高ヲ謂フ。

六、天井高トハ室ノ床面ヨリ天井迄ノ高ヲ謂フ。

一室ニシテ天井高異ル部分アルトキハ其ノ室ノ床面積ヲ以テ容積ヲ除シタルモノヲ謂フ。

七、外壁トハ建築物ノ外側ヲ構成スル壁體ヲ謂フ。

八、間壁トハ建築物ノ內部ノ區劃スル壁體ヲ謂フ。

九、界壁トハ接續建築物ヲ區劃スル壁體ヲ謂フ。

十、不燃材料トハ煉瓦石人造石「コンクリート」石綿盤瓦金屬陶磁器硝子「モルタル」漆喰ノ類ヲ謂フ。

十一、耐水材料トハ煉瓦石人造石「コンクリート」鉛「アスファルト」陶磁器ノ類ヲ謂フ。

十二、石造トハ石造人造石造及「コンクリート」造ヲ謂フ。

十三、壁體ノ耐火構造トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ謂フ。

イ、厚一尺以上ノ煉瓦造又ハ石造。

ロ、厚四寸以上ノ鐵筋「コンクリート」造。

鐵骨造ノ場合ト雖壁體ノ厚ハ本號イ又ハロノ規定ニ依ル。

十四、床又ハ屋根ノ耐火構造トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ謂フ。

イ、鐵筋「コンクリート」造。

ロ、鐵骨ヲ有スル鐵筋「コンクリート」造煉瓦造又ハ石造。

ハ、煉瓦造又ハ石造。

ニ、最下階ノ床ニ在リテハ土間叩石敷ノ類。

十五、柱ノ耐火構造トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ謂フ。

イ、煉瓦造又ハ「コンクリート」造。

ロ、鐵筋「コンクリート」造。

ハ、鐵柱ニシテ耐火的ニ有效ナル被覆ヲ爲シタルモノ。

ニ、石造ニシテ地方長官ノ承認セルモノ。

十六、階段ノ耐火構造トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ謂フ。

イ、鐵筋「コンクリート」造煉瓦造又ハ石造。

ロ、鐵骨ヲ有スル鐵筋「コンクリート」造煉瓦造又ハ石造。

ハ、鐵造。

十七、甲種防火戸トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ謂フ。

イ、鐵製ニシテ鐵板ノ厚五厘以上ノモノ。

ロ、鐵骨「コンクリート」造又ハ鐵筋「コンクリート」造ニシテ厚一寸二分以上ノモノ。

ハ、厚五寸以上ノ土藏扉。

地方長官ハ防火戸ノ構造ノ種類ニ依リ適當ト認ムルモノニ對シ、前各號ノ規定ニ拘ラス別段ノ定ヲ爲スコトヲ得。

十八、乙種防火戸トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ謂フ。

イ、鐵製ニシテ鐵板ノ厚五厘未滿ノモノ。

ロ、鐵骨「コンクリート」造又ハ鐵筋「コンクリート」造ニシテ厚一寸二分未滿ノモノ。

ハ、木造又ハ鐵造ニシテ屋外ニ面スル部分ヲ厚一寸以上ノ「モルタル」漆喰又ハ適當ナル厚ノ石綿盤ノ類ヲ以テ被覆シタルモノ。

地方長官ハ防火戸ノ構造ノ種類ニ依リ適當ト認ムルモノニ對シ、前各號ノ規定ニ拘ラス、別段ノ定ヲ爲スコトヲ得。

十九、建築物ノ大修繕トハ壁體柱小屋若ハ基礎ノ過半ノ修繕又ハ之ニ準スル構造上主要ナル部分ノ修繕ヲ謂フ。

二十、大變更トハ壁體柱床小屋基礎等構造上主要ナル部分ノ變更ヲ謂フ。

第二條　本則ノ適用ニ關シ、土地又ハ建築物ニ關スル測算方法呼稱等ニ付疑義ヲ生シタルトキハ地方長官之ヲ決定ス。

第三條　本則ニ規定セル建築物ノ採光換氣避雷清潔强度ニ關スル構造設備ハ常ニ有效ニ保持スヘシ。

第二章　建築物ノ突出部

第四條　市街地建築物法第九條但書ノ建築物ノ前面突出部ハ左ノ範圍內ニ於テ建築線ヨリ突出セシムルコトヲ得、但シ特ニ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ノ外前面建築線間ノ距離ノ二十分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス。

一、蛇腹軒小塔出窓櫨旗櫨燈招牌其ノ他之ニ類スルモノハ、路面上十尺以上ニ在ル場合ニ限リ三尺迄。

二、出入口ノ階段四度ノ手摺地覆腰石根石其ノ他之ニ類スルモノハ一尺迄

第五條　市街地建築物法第九條但書ノ建築物ノ基礎ハ地方長官特ニ指定スル場合ヲ除クノ外道路幅ノ境界線ヲ超エサル範圍內ニ於テ建築線ヨリ突出セシムルコトヲ得。

第六條　裝飾塔物見塔屋窓昇降機塔水槽等建築物ノ屋上突出部ニ付テハ市街地建築物法施行令第四條乃至第八條ノ高ノ最高限ノ五分一迄ハ建築物ノ高ニ之ヲ算入セス、但シ其ノ算入セサル部分ノ最大幅ハ建築物ノ高ノ五分ノ一ヲ、

其ノ床面積ノ合計ハ建築面積ノ十分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ズ。

第三章　建築物ノ構造制限

第一節　一般構造制限

第七條　建築物ノ敷地ハ其ノ接スル公衆用ノ道路ニ対シ衛生上又ハ防火上支障ノ無キ様適当ノ空地ヲ存シ又ハ建築物ノ用途ニ依リ其ノ敷地内ニ通路ヲ設ケ又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ其ノ建築物ノ使用ニ支障ノ無キ様ニスルコトヲ得。

第八條　建築物ノ敷地ハ地盤ノ軟弱ナル場合又ハ地盤ニ異常ノ凹凸アル場合ニ於テハ地盤ノ改良又ハ擁壁ノ設置ノ為メ必要ナル制限ヲ設クルコトヲ得。

第九條　建築物ノ敷地ニハ其ノ衛生ニ害アル物質ヲ発散スル虞アル場合ニ於テハ地盤ノ改良又ハ擁壁ノ設置ノ為メ必要ナル制限ヲ設クルコトヲ得。

第十條　下水法下水条例ノ施行セラルル地域ニ於テハ建築物ノ敷地ハ排水ニ関シ下水ニ関スル規定ニ適合スル様ニスルコトヲ得。

第十一條　屎尿汲取ノ為メ必要アル場合ニ於テハ建築物ニ屎尿汲取口ヲ設ケシムルコトヲ得。

第十二條　屎尿汲取口ハ道路ニ面シテ設ケ其ノ位置ハ汲取ニ便ナル様ニスルコトヲ得。

第十三條　屎尿汲取口ハ左ノ規定ニ依ル。

一、汲取口ハ汲取ニ便ナル様ニ設ケ且ハ汲取ニ際シ悪臭ノ漏洩ヲ防ギ得

又ハ鐵骨造ト爲スヘシ。

第三十三條　壁附煖爐ノ構造ハ左ノ規定ニ依ルヘシ。

一、煙筒ハ堅牢ナル基礎ノ上ニ築造シ木造建物ニ在リテハ上部ヲ瓦出シト爲サヽルコト。

二、薪炭ヲ使用スル壁附煖爐ニ在リテハ焚口下及其ノ前方一尺以上左右各五寸以上ノ部分ノ床ヲ其ノ他ノ壁附煖爐ニ在リテハ焚口下ノ部分ノ床ヲ不燃材料ニテ構造シ其ノ下方八寸以内ニハ燃質材料ヲ取付ケサルコト。

三、壁附煖爐ノ煙突ニシテ屋内ニ在ル部分ハ鐵筋「コンクリート」石煉瓦ノ類ヲ以テ構造シ外壁ノ厚ハ鐵筋「コンクリート」ニ在リテハ五寸以上其ノ他ニ在リテハ七寸以上ト爲シ煙道ハ土管ヲ挿入シ又ハ「セメントモルタル」ヲ以テ塗ルコト。

四、煙道ノ屈曲百二十度以内ナルトキハ其ノ屈曲部ニ掃除口ヲ設クルコト。

第三十四條　三階建ノ木造又ハ木骨造建物ノ壁附煖爐ハ其ノ煙筒ヲ鐵筋「コンクリート」造又ハ鐵骨造ト爲スヘシ。

第三十五條　煖爐竈鳳呂竈ノ類ノ煙突ノ屋上突出部ハ其ノ最短部ニ於テ二尺以上ト爲スヘシ、但煉瓦造又ハ石造ノ部分ハ補强ヲ爲サヽル限リ三尺以上ト爲スヘカラス。

第三十六條　煙突ノ直上部ニ軒アルトキハ其ノ軒ヨリ裏ニ二尺以上突出セシムヘシ、煙突上方軒先トノ水平距離三尺未滿ナルトキ亦同シ。

第三十七條　金屬製煙突ニシテ小屋裏床裏等露出セサル位置ニ在ル部分ハ金屬以外ノ不燃材料ヲ以テ被覆スヘシ。

第三十八條　金屬製煙突ハ木材其ノ他ノ燃質材料ト五寸以上ノ間隔ヲ有スヘシ、但シ厚三寸以上ヲ有スル金屬以外ノ不燃材料ヲ以テ被覆スルトキハ此ノ限ニ在ラス。

第三十九條　地方長官ハ煙突ニシテ近接建築物ニ危害ヲ及ホス虞アリト認ムルトキハ、請求條ノ外必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得。

第四十條　汽罐竈業用鳳呂竈其ノ他多量ノ燃料ヲ使用スル設備ニ附屬スル烟

窄ノ高ニ付テハ其ノ燃料ノ種類量及土地ノ狀況ニ依リ地方長官之ヲ定ム。

第四十一條　汽罐鳳呂竈ノ類ノ焚場及灰捨場ニ對シ地方長官防火上必要ナル構造設備ヲ命スルコトヲ得。

第四十二條　高六十五尺ヲ超過スル建物ニハ適當ナル避雷設備ヲ爲スヘシ。

第四十三條　高六十五尺軒高五十尺ヲ超過スル建築物ハ其ノ壁體床柱屋根階段等主要構造部ヲ耐火構造ト爲スヘシ。

第二節　構造强度

第一款　通則

第四十四條　「コンクリート」及「モルタル」ノ原料ト爲スヘキ「セメント」ハ農商務省告示「ポルトランド、セメント」試驗方法ノ規定ニ依リ、合格シタルモノナルコトヲ要ス。

第四十五條　建築物ノ基礎ニ使用スル木材ハ常水面下ニ在ルコトヲ要ス、但シ規模小ナル建築物又ハ短期間使用ノ建築物ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス。

第四十六條　主要ナル構造用木材ニシテ石煉瓦「コンクリート」土ノ類ニ嵌込ム部分又ハ之ニ接スル部分ニハ防腐方法ヲ施スヘシ、但シ木造建築物ノ眞壁ニ接スル水部ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス。

第四十七條　地方長官ハ建築物ノ構造强度ニ關シ、土地ノ狀況ニ依リ本節ニ定ムルモノヽ外必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得。

第二款　木構造及木骨構造

第四十八條　柱梁其ノ他之ニ類スル構材ノ繼手及仕口ニシテ主要ナルモノハボールト締其ノ他適當ナル方法ニ依リ緊着スヘシ。

第四十九條　建物ノ主要ナル柱ハ獨立ト爲スヘカラス、但シ適當ナル防腐方法ヲ施シタルモノハ此ノ限ニ在ラス。

第五十條　獨立ニ非サル柱ノ下部ニハ土臺又ハ敷圍ヲ使用スヘシ、但シ柱ヲ其ノ基礎ニ緊着シタルトキハ此ノ限ニ在ラス。

第五十一條　石煉瓦其ノ他ノ壓積ヲ有スル建物ハ之ヲ土臺敷構造ト爲シ土臺ハ壓積ニ緊結スヘシ。

石煉瓦「コンクリート」ノ類ノ東ヲ以テ前項ノ壓積ニ代フルモノハ其ノ構造

ニ付特ニ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ。

第五十二條　總物ノ土臺及敷桁ノ隅角ニハ燃材ヲ使用スヘシ。

第五十三條　柱ノ小徑ハ土臺脚固胴差梁桁其ノ他ノ主要構架材間ノ距離ニ對シ三階建ノ第三階ニ階建ノ第二階又ハ平家建ニ在リテハ其ノ三十五分ノ一ヲ三階建ノ第二階又ハ二階建ノ第一階ニ在リテハ其ノ三十分ノ一ヲ三階建ノ第一階ニ在リテハ其ノ二十六分ノ一ヲ下ルヘカラス、但シ庇ノ支柱其ノ他輕微ナル荷重ヲ承クルモノハ此ノ限ニ在ラス。

木骨石造木骨煉瓦造及土藏造ニ在リテハ前項ノ適用ニ關シ三十五分ノ一ヲ三十分ノ一ヲ二十五分ノ一二十六分ノ一ヲ二十三分ノ一トス。

第五十四條　柱ニシテ其ノ必要ナル斷面積ノ三分一以上ノ缺取ル場合ニハ其ノ部分ヲ補强スヘシ。

第五十五條　三階建木造建物又ハ平家建ニ非サル木骨石造若ハ木骨煉瓦造建物ノ壁體ニハ適當ナル筋違ヲ使用スヘシ。

第五十六條　木骨石造又ハ木骨煉瓦造ニ於ケル貼付ノ石煉瓦類ノ厚ハ二階以上ニ於テハ之ヲ七十五分以下ト爲シ適當ナル方法ヲ以テ軸部ニ緊結スヘシ。

第五十七條　建築物ノ敷地ノ地盤堅牢ナルトキニハ規模小ナル建築物ニハ地方長官ノ許可ヲ受ケ第五十條及第五十二條ノ規定ヲ適用セサルコトヲ得。

第三款　石構造煉瓦構造及「コンクリート」構造

第五十八條　石煉瓦其ノ他之ニ類スル材料ヲ以テ築造スル建築物ノ部分ハ「セメント」入「モルタル」ヲ用キテ組積スヘシ、但シ高九尺以下ノ塀壁其ノ他構造ノ輕微ナルモノハ此ノ限ニ在ラス。

第五十九條　建物ノ壁體石造又ハ煉瓦造ナルトキハ其ノ壁厚ハ其ノ上階ノ壁厚ヨリ小ナルヘカラス。

第六十條　石造又ハ煉瓦造壁體ノ壁厚ハ之ヲ一尺未滿ト爲スヘカラス。

第六十一條　建物ノ壁體石造又ハ煉瓦造ニシテ高十五尺以上ノモノハ、其ノ壁長三十六尺ヲ超過スヘカラス、但シ地盤堅牢ナル場合又ハ適當ナル補强方法ヲ施シタルモノハ地方長官ノ許可ヲ受ケ之ヲ四十八尺迄ト爲スコトヲ得。

壁厚特ニ大ナルモノハ地方長官ノ許可ヲ受ケ前項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得。

壁長ハ其ノ壁體ニ接着スル對郷壁ノ接着部分ノ中心距離ヲ以テ之ヲ度ル。

地方長官ハ適當ト認ムル補强方法ヲ施シタル控壁ハ前項ノ適用ニ關シ之ヲ對郷壁ト看做ス。

壁高ハ其ノ壁體ノ接着スル地盤面ヨリ之ヲ度ル。

第六十二條　建物ノ壁體「コンクリート」造以外ノ石造ニシテ其高十五尺未滿ノモノヽ壁厚ハ其ノ高ノ十二分ノ一未滿ト爲スヘカラス。

第六十三條　建物ノ外壁煉瓦造ニシテ其ノ高十五尺以上長二十四尺以下ノモノヽ壁厚ハ左ノ規定ニ依ルヘシ。

一、高二十五尺以下ノモノニ在リテハ一尺以上ト爲スコト。

二、高二十五尺ヲ超過シ四十尺以下ノモノニ在リテハ、第一階ハ一尺四寸以上第二階以上ハ一尺以上ト爲スコト。

三、高四十尺ヲ超過シ五十尺以下ノモノニ在リテハ、第一階及第二階ハ一尺四寸以上第三階以上ハ一尺以上ト爲スコト。

長二十四尺ヲ超過シ三十六尺以下ノモノヽ壁厚ハ前項規定ノ厚ニ三寸ヲ加フヘシ。

長三十六尺ヲ超過シ四十八尺以下ノモノヽ壁厚ハ第一項規定ノ厚ニ七寸ヲ加フヘシ。

地階ノ壁厚ハ第一階ノ壁厚ニ三寸以上ヲ加フヘシ。

第六十四條　煉瓦造間壁ノ厚ハ前條規定ノ厚ヨリ三寸ヲ減スルコトヲ得。

第六十五條　建物ノ壁體煉瓦造ナルトキハ減ル階ニ於ケル出入口窓其ノ他ノ開口ノ幅ノ總和力壁長ノ二分ノ一ヲ超過スルトキハ其ノ壁厚ハ前三條ノ規定ノ厚ニ三寸ヲ加フヘシ、但シ其ノ壁體ニ幅三尺以上ノ柱形（控壁ヲ含ム以下同シ）ヲ有スル場合ニ於テ其ノ柱形間及之ト對郷壁トノ中心距離十五尺以下ナルトキハ此ノ限ニアラス。

第六十六條　建物ノ壁體煉瓦造ニシテ左記各號ノ一ニ該當スル場合ニハ、各階ノ壁厚ハ第六十三條及第六十四條ノ規定ノ厚ヨリ三寸ヲ減スルコトヲ得。

一、其ノ階ノ床及其ノ階ノ直上階ノ床又ハ屋根鐵筋「コンクリート」造ナル

トキ。

二、地方長官ノ認ムル鉄壁鐵骨又ハ鐵筋「コンクリート」ノ臥梁其ノ他ノ補強方法アルトキ。

第六十七條　建物ノ壁體煉瓦造ナルトキ其ノ壁厚ハ第六十三條乃至第六十六條ノ規定ニ拘ラス其ノ階高ノ十五分ノ一未滿ト爲スヘカラス。

第六十八條　建物ノ壁體煉瓦造ナルトキ其ノ階高ノ四分ノ三以上ノ高ヲ通シテ壁體ニ堅壁溝ヲ設クル場合ニハ其ノ壁溝部ノ壁厚ハ第六十條第六十三條乃至第六十七條ノ規定ノ厚ノ三分ノ二未滿ト爲スヘカラス。

横壁溝ハ深三寸長九尺ヲ超過スヘカラス。

第六十九條　高十五尺以上ノ煉瓦壁體ニ於ケル出入口及窓相互間直上垂直距離及之ト壁頂間ノ垂直距離ハ二尺以上ト爲スヘシ、但シ鐵又ハ鐵筋「コンクリート」ノ臥梁ヲ以テ適當ナル補強ヲ爲シタルモノハ此ノ限ニ在ラス。

第七十條　煉瓦造二重壁ニ於テハ其ノ一方ノ壁ハ第五十九條乃至第六十一條及第六十三條乃至第六十九條ノ規定ニ依ルヘシ。

第七十一條　建物ノ壁體「コンクリート」造ナルトキハ第六十三條乃至第七十條ノ適用ニ關シ之ヲ煉瓦造ト看做ス。

第七十二條　建物ノ壁體「コンクリート」造以外ノ石造ナルトキ其ノ厚ハ第六十三條乃至第六十五條ノ厚ニ其ノ十分ノ二ヲ加フヘシ。

第六十六條乃至第七十條ノ規定ハ之ヲ前項ノ壁體ニ準用ス。

第七十三條　貼石貼瓦ノ類ハ之ヲ壁厚ニ算入セス。

第七十四條　鐵骨造又ハ鐵筋「コンクリート」等ノ張壁ニハ、第五十九條第六十條第六十二條乃至第七十二條ノ規定ヲ適用セス。

第五十五條　高十二尺未滿ノ間壁其ノ他構造上輕微ナル壁體ニ對シテハ、第六十條乃至第七十二條ノ規定ヲ適用セス。

第七十六條　石造又ハ煉瓦造ノ塔壁ハ特殊ノ補強方法ヲ施シタル場合ノ外左ノ規定ニ依ルヘシ。

一、煉瓦造又ハ「コンクリート」造ニ在リテハ其ノ厚ヲ其ノ部分ニ於ケル壁頂迄ノ垂直距離ノ十五分ノ一以上ト爲スコト。

二、「コンクリート」造以外ノ石造ニ在リテハ其ノ厚ヲ其ノ部分ニ於ケル壁頂迄ノ垂直距離ノ十二分ノ一以上ト爲スコト。

三、長二間未滿ノ適當ナル塔壁ヲ設クルコト、但シ其ノ壁厚前二號ノ規定ノ最少限ノ一倍半以上ナルトキハ此ノ限ニ在ラス。

第七十七條　同一建築物ノ壁體二種以上ノ構造ニ因リ成ルトキハ其ノ壁長及壁厚ニ付テハ地方長官之ヲ定ム。

第七十八條　切妻壁體ハ之ニ接スル構材ニ緊結スヘシ、地盤面上五十尺以上ニ在ル切妻壁體ノ部分ニ對シテハ適當ナル補強ヲ爲スヘシ。

第七十九條　張間五尺以上ノ開口上ニ架スル石造又ハ煉瓦造ノ迫持ハ其迫高ヲ張間ノ十分ノ一以上ト爲スヘシ、但シ適當ナル補強ヲ爲シタルモノハ此ノ限ニ在ラス。

第八十條　壁體ノ隅角竝竇窓出入口脇其ノ他之ニ類スル部分ニ使用スル石人造石ノ類ハ適當ナル方法ヲ以テ之ヲ其ノ接スル壁體ノ部分ニ緊結スヘシ。

第八十一條　石造又ハ煉瓦造ノ拮出窓拮出縁等ハ壁面ヨリ三尺以上突出セシムヘカラス、但シ鐵骨又ハ鐵筋「コンクリート」ヲ以テ適當ナル補強ヲ爲シタルモノハ此ノ限ニ在ラス。

第四　鐵構造及鐵骨構造

第八十二條　建物ノ構造ニ使用スル鋼材ノ品質ハ應張强度一平方粍ニ付三千六百瓩以上伸度試驗片小徑ノ八倍以上ニ付百分ノ二十以上ノモノナルコトヲ要ス。

第八十三條　建物ノ構造ニ使用スル鋼又ハ鍊鐵ノ主要ナル構材ノ接合ニハ已ムヲ得サル場合ノ外「サベット」ヲ使用スヘシ。

接合用「リベット」又ハ「ボールト」ノ中心距離ハ其ノ直徑ノ二倍半未滿ト其ノ中心ト材端トノ距離ハ其ノ直徑ノ一倍半未滿ト爲スヘカラス。

第八十四條　建物ノ構造ニ使用スル鐵柱ハ其ノ斷面ノ最小二次率半徑ヲ其ノ主要ナル支點間距離ニ對シ鋼又ハ鍊鐵ニ在リテハ百五十分ノ一以上鑄鐵ニ在リテハ七十五分ノ一以上ト爲スヘシ。

柱以外ノ應壓鋼材又ハ應壓鍊鋼鐵材ニ在リテハ前項ノ百五十分ノ一ヲ二百分ノ一トス。

第八十五條　鋼柱又ハ鍊鐵柱ノ接合ニハ其ノ小ナル柱ト同等以上ノ强ヲ有スル添鈑ヲ用ヰ柱ノ全應力ヲ傳フルニ足ルヘキ數ノ「ラベット」ヲ使用スヘシ。

第八十六條　鐵骨造建物ノ鐵壁ハ之ヲ其ノ構造ニ於ケル主要ナル柱ハ之ヲ其ノ基礎ニ緊結スヘシ。

第八十七條　鐵骨造建物ノ鐵壁ハ之ヲ鐵骨ニ連結スヘシ。

第五　鐵筋「コンクリート」構造

第八十八條　鐵筋「コンクリート」構造ニ使用スル「コンクリート」ハ左ノ規定ニ依ルヘシ。

一、砂ハ泥土塵分等ヲ含マサルモノナルコト。

二、砂利又ハ碎石ハ硬質ニシテ二種二分ノ一目篩ヲ通過シ且鐵筋相互間及鐵筋ト假構トノ間ヲ自由ニ通過スルモノナルコト。

三、煉瓦屑石炭燼ノ類ハ之ヲ使用セサルコト。

四、「コンクリート」ノ調合割合ハ「セメント」ノ容積一ニ對シ砂ト砂利又ハ碎石トノ容積ノ和六ヲ超過セサルコト但シ「セメント」ハ千四百瓩ヲ以テ一立方米トス。

鐵筋「コンクリート」構造ニ使用スル鐵筋ノ品質ハ第八十二條ノ規定ニ依ルヘシ。

第八十九條　鐵筋「コンクリート」構造ニ於テハ鐵筋ノ兩端ヲ他ノ構造部ニ緊結スルカ又ハ之ヲ曲ケテ適當ニ「コンクリート」中ニ定着スヘシ。

第九十條　鐵筋「コンクリート」ノ梁版等ニ生スル應剪力度「コンクリート」ノ許容應剪力度ヲ超過スルトキハ其ノ部分ニ左記ノ規定ニ依リ繫筋ヲ配置スヘシ。

一、繫筋ハ應剪力ノ分布ニ從ヒ適當ニ之ヲ配置シ其ノ間隔ハ梁版等ノ厚ノ三分ノ二ヲ超過セサルコト。

二、繫筋ハ應張鐵筋下端ヨリ應壓力中心迄達スルコト。

主筋ヲ適當ニ曲ケタルモノハ其ノ部分ヲ繫筋ト看做ス。

第九十一條　鐵筋「コンクリート」柱ノ構造ハ左ノ規定ニ依ルヘシ。

一、主筋ハ四本以上タルコト。

二、繫筋ノ中心距離ハ一尺以下トシ且主筋直徑ノ十五倍ヲ超過セサルコト

三、柱ノ小徑ハ其ノ主要支點間距離ノ二十分ノ一以上ナルコト。

第九十二條　鐵筋「コンクリート」構造ニ於テ主筋ニ續ス「コンクリート」被覆厚ハ版ニ在リテハ二糎未滿梁及柱ニ在リテハ三糎未滿ト基礎ニ在リテハ五糎未滿ト爲スヘカラス。

第九十三條　鐵筋「コンクリート」ノ床版根其ノ他ノ橫架材ノ上ニ假構ヲ設クルトキハ、其ノ假構ヲ除去スルニ先チ其ノ下階ノ主要假構ヲ除去スヘカラス但シ「コンクリート」施工後二月ヲ經過セルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラス。

第九十四條　高十二尺未滿ノ塔壁其ノ他建築上輕微ナルモノニ在リテハ地方長官ノ認可ヲ受ケ第八十八條乃至第九十二條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得。

第六　獨立煙突

第九十五條　高五十尺ヲ超過スル自立煙突ニシテ鐵造又ハ鐵筋「コンクリート」造ニ非サルモノハ鐵材ヲ以テ之ニ適當ナル補强ヲ爲スヘシ。

高百尺以上ノ煙突ハ之ヲ鐵造又ハ鐵筋コンクリート造ト爲スヘシ。

第九十六條　鐵造煙突ニシテ高五十尺ヲ超過スルモノハ鐵板ノ厚ヲ四粍以上ト爲スヘシ。

第九十七條　煙突ノ構造上必要ナル支線ト地盤ト接着ハ鐵筋「コンクリート」造其ノ他腐朽ノ虞ナキ控杭ニ緊着スヘシ、但シ高七十五尺未滿ノ煙突ノ控杭ハ適當ナル防腐方法ヲ施シタル木材ト爲スコトヲ得。

第九十八條　土管煙突ハ高三十尺ヲ超過スヘカラス、但シ堅固ナル鐵製支枠ヲ有スルモノハ地方長官ノ許可ヲ受ケ高五十尺迄ト爲スコトヲ得。

第九十九條　土管煙突ハ其ノ接合部ニ「モルタル」ヲ用ヰ支枠ニ緊結スヘシ。

第百條　前四條ノ適用ニ關シテハ煙突ノ高ハ之ニ接着スル地盤面ヨリ之ヲ度ル。

第七　强度計算

第百一條　强度計算ニ適用スル各種材料ノ重量ノ最少限左ノ如シ。

材料	重量（瓲）
煉瓦積	一立法米ニ付　一、九〇〇・〇
花崗岩及安山岩砂利又ハ碎石ヲ凝元體トセル「コンクリート」及鐵筋「コンクリート」	一立法米ニ付　二、五〇〇・〇 一立法米ニ付　二、三〇〇・〇
松	一立法米ニ付　五七〇・〇
杉檜樅「オレゴンパイン」北海道松ノ類	一立法米ニ付　四六〇・〇

材料	應壓力度（一平方粍ニ付瓲）
檜	九〇・〇
松	七五・〇
樅	六五・〇
オレゴンパイン	五〇・〇
杉北海道松之類	一一〇・〇
花崗岩	八〇・〇
硬質安山岩	二二・〇
煉瓦	
「コンクリート」砂利又ハ碎石	一二・〇
「セメント」コンクリート」砂利又ハ碎石	四五・〇 一三・〇
軟鋼	一、一五〇・〇
鍊鐵	八五〇・〇
鑄鐵	八五〇・〇

前表ニ於ケル「コンクリート」ノ調合割合ハ容積ヲ以テシ「セメント」八千四百瓲ヲ以テ一立方米トス品質特ニ秀等ナリト認ムルモノニ對シテハ地方長官ハ第一項ノ限度ヲ低下セシムルコトヲ得。

第百三條　鐵筋「コンクリート」構造ノ强度計算ニ於テハ鐵ト「コンクリート」トノ彈率比ヲ十五トス。

	百立法粍ニ付　〇・七八五
鋼	一平方米ニ付　六、〇〇〇
瓦葺（葺上ヲ除ク）	一立方米ニ付　一、六〇〇・〇
葺土壁及漆喰	

第百二條　强度計算ニ於テ建築物ノ各部分ニ生ズヘキ應力度ハ、各種材料ニ付左ノ限度ヲ超過スヘカラス。

材料	應張力度（一平方粍ニ付瓲）	應剪力度（一平方粍ニ付瓲）	應曲力度（一平方粍ニ付瓲）
檜	九〇・〇	九・〇	九〇・〇
松	七五・〇	七・五	七五・〇
樅	六五・〇	六・五	六五・〇
杉	五〇・〇	五・〇	五〇・〇
煉瓦			一五・〇
硬質安山岩			九・〇
「コンクリート」砂利又ハ碎石		鐵筋コンクリート構造ニ於テ主筋ヲ橫斷スル面ニ對シテハ　四・五	四・五
「セメント」コンクリート」砂利又ハ碎石	三・〇	三・〇	三・〇
軟鋼	一、一五〇・〇	七五〇・〇	一、一五〇・〇
鍊鐵	八五〇・〇	五五〇・〇	八五〇・〇
鑄鐵	二〇〇・〇	二〇〇・〇	三〇〇・〇

第百四條　鐵筋「コンクリート」構造ノ强度計算ニ於ケル應滑力度ハ一平方粍ニ付七瓲ヲ超過スヘカラス、但シ異形鐵筋ヲ使用スル場合ニ在リテハ其ノ形狀ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケ之ヲ十瓲迄ト爲スコトヲ得。

第百五條　强度計算ニ適用スル各種床動荷重ノ最少限左ノ如シ。

床ノ種類	動荷重（一平方米ニ付瓲）
住家	二五〇
事務室病院ノ類	三七〇
學校	四二〇
集會所劇場寄席ノ類	五〇〇
商品陳列室陳列前ノ類	五五〇

倉庫書庫作業場等ニ付テハ其ノ實況ニ應シ適當ナル動荷重ニ依ルヘシ。

本條動荷重ハ其ノ實況ニ應シ小梁ニ對シテハ其ノ十分ノ一以内ヲ大梁ニ對シテハ其ノ十分ノ二以内ヲ柱ニ對シテハ其ノ十分ノ三以内ヲ減スルコトヲ得但シ倉庫書庫集會室劇場機數陳列室等ニ對シテハ本項動荷重ノ輕減ヲ爲スコトヲ得ス。

第百六條　杭打基礎ニ於ケル杭ニ對スル荷重ハ墜錘ヲ使用スル場合ニ在リテハ左式ニ依リテ算定セルモノヲ超過スヘカラス。

$$P=\frac{WH}{5D+0.1}$$

P　荷重
W　錘ノ重量
H　錘ノ落高（米）
D　杭ノ最終沈下（米）

「コンクリート」杭ニシテ其ノ完全ニ凝結セサルモノニ對シテ前項ノ算式ヲ適用セス。

前項ノ場合及汽錘ヲ使用シタル場合ニ在リテハ地方長官ハ荷重試驗ノ施行ヲ命スルコトヲ得。

第百七條　應壓鐵材ニ對スル荷重ハ左式ニ於テ算定セルモノヲ超過スヘカラス。

$$P=f_c\left(I-C\frac{I}{r}\right)$$

P　荷重
A　斷面積
f　第百二條ノ木材ニ對スル應壓力度
I　主要ナル支點間ノ距離
r　斷面最小徑

第百八條　應壓木材ニ對スル荷重ハ左式ニ依リテ算定セルモノヲ超過スヘカラス。

$$P=Af_c\left(1-0.02\frac{I}{d}\right)$$

P　荷重
A　斷面積
f_c　第百二條ノ「コンクリート」ニ對スル應壓力度
I　主要ナル支點間ノ距離
d　斷面最小徑

第九條　應壓鐵筋「コンクリート」ニ對スル荷重ハ左式ニ依テ算定セルモノヲ超過スヘカラス。

$$P=f_c\left(A_c+15A_s\right)$$

P　荷重
f_c　第百二條ノ「コンクリート」ニ對スル應壓力度
A_c　「コンクリート」ノ有效斷面積
A_s　主筋ノ斷面積

前項有效斷面積ハ其ノ主筋ノ外側線内ノ面積トス

適當ナル卷筋ヲ有スル應壓「コンクリート」材ニ在リテハ第一項ノ「コンクリート」ニ對スル應壓力度ヲ一平方粍ニ付五十五瓲迄增加スルコトヲ得但シ

此ノ場合ニ於ケル卷筋ノ中心距離ハ八糎ヲ超過スヘカラス。

應壓鐵筋「コンクリート」材ニシテ其ノ主要ナル支點間ノ距離其ノ最小徑ノ十五倍ヲ超過スルモノニ在リテハ別ニ適當ナル算式ニ依リ之ヲ算定スヘシ。

第百十條　應曲材ニ對スル曲能率ハ左式ニ依リテ算定セルモノヲ超過スヘカラス。

$$M = f_b s$$

M　曲能率
f_b　第百二條ノ應曲力度
s　斷面率

第百十一條　鐵筋「コンクリート」ノ單筋矩形梁又ハ版内ニ中軸ヲ有スル單筋丁梁ニ對スル曲能率ハ左ノ各式ニ依リ算定セルモノヲ超過スヘカラス。

M　曲能率

$$M = \frac{n_1(3-n_1)}{6} f_c b d_2$$

$$M = \frac{3n_1}{3m} f_t b d_2$$

n_1　中軸比（梁ノ應壓端ヨリ中軸迄ノ距離ト梁ノ有效ノ丈トノ比）
f_c　第百二條ノ「コンクリート」ニ對スル應壓力度
f_t　第百二條ノ鐵筋ニ對スル應張力度
m　對筋比
b　梁ノ幅
d　梁ノ有效丈

前項ノ中軸比ハ左式ニ依ル。

$$r_1 = \frac{15}{m}\left(\sqrt{1 + \frac{2m}{15} I} - 1\right)$$

第百十二條　應壓力ト曲能率トヲ併有スル構材ノ合成應力度ハ左式ニ依リ算定セルモノヲ下ルヘカラス。

f_c　合成應壓力度
M　曲能率
S　應壓側ニ對スル斷面率
P　應壓力
A　斷面積
I　主要ナル支點間ノ距離
r　曲能率ニ依ル斷面ノ中軸ニ對スル二次率半徑但シ木材ニ在リテハ曲能率ニ依ル斷面ノ中軸ニ直角ナル徑
C　第百七條ニ定數但シ木材ニ在リテハ之ヲ〇・〇二トス

$$f_c = \frac{M}{S} + \frac{P}{A} \times \frac{1}{1 - C\frac{I}{r}}$$

前項ノ合成應壓力度ヲ超過スヘカラス。

第百十三條　鐵筋「コンクリート」構造ニ於ケル梁又ハ版ノ張間ハ其ノ支承物間ノ中心距離ヲ以テ之ヲ度ルモノトス、但シ支承物間ノ內法距離ニ梁ノ丈又ハ版ノ厚ヲ加ヘタルモノヲ以テ之ニ代フルコトヲ得。

梁又ハ版ノ支端ニ持送アル場合ニ於ケル張間ハ持送ノ厚力梁ノ丈又ハ版ノ厚ノ一・三倍ニ達スル部分ヨリ之ヲ起算ス。

第百十四條　鐵筋「コンクリート」構造ニ於テ梁ト版トヲ適當ニ連結シタル場合ニ在リテハ之ヲ丁梁ト看做スコトヲ得、但シ此ノ場合ニ於ケル丁梁ハ其ノ張間ノ四分ノ一以內版ノ厚ノ十二倍以內ノ幅ヲ有スルモノトシテ之ヲ算定スヘシ。

第百十五條　鐵筋「コンクリート」構造ニ於テ縱横ニ鐵筋ヲ有スル長方形版四邊ヲ通シテ支承物ヲ有スル場合ニテ、其ノ荷重ヲ兩張間ニ分賦スルコトヲ得

$$W_b = \frac{l^4}{l^4 + b^4} W$$

$$W_l = \frac{b^4}{l^4 + b^4} W$$

W　等布荷重
I　一方ノ張間
b　1ニ直角ナル張間
W_l　Iヲ張間トスルモノニ分賦スル等布荷重
W_b　bヲ張間トスルモノニ分賦スル等布荷重

第百十六條　鐵筋「コンクリート」構造ニ於テ三箇以上ノ等張間ヲ有スル連梁又ハ連版等布荷重又ハ一樣ナル對稱集中荷重ヲ受クル場合ノ强度計算ニ適用スヘキ正負曲能率ハ左ノ規定ニ依ルモノヲ下ルヘカラス。

一、兩端以外ノ張間ニ於ケル正曲能率ハ各張間ニ付單梁ト假定シテ得ヘキ曲能率ニ於テ其ノ支點ニ於ケル負曲能率カ單梁トシテノ最大正曲能率ノ三分ノ二ニ達スル迄其線ヲ平行ニ移動シタル場合ニ付テ之ヲ度ルコト。

二、兩端以外ノ張間ニ於ケル負曲能率ハ各張間ニ付單梁ト假定シテ得ヘキ曲能率圖ニ於テ其ノ支點ニ於ケル負曲能率カ單梁トシテノ最大正曲能率ノ三分ノ二ニ達スル迄其線ヲ平行ニ移動シタル場合ニ付テ之ヲ度ルコト。

三、最終支點單ニ支持セラレタル場合ニ在リテハ鉄端張間ニ於ケル最大正曲能率ハ第一號ノ規定ニ依リテ定メタル最大正曲能率ニ其ノ十分ノ二ヲ加ヘタル負曲能率ニ其ノ十分ノ五ヲ加フルコト。

荷重張間又ハ支承ノ狀態前項以外ノ場合ニ於テハ前項ノ主旨ニ基キ適當ニ其ノ正負曲能率ヲ定ムヘシ。

第百十七條　構造ノ狀況ニ依リ大ナル曲能率ヲ生スヘキ柱ハ其ノ曲能率ニ依ル應力度ヲ加算シテ其ノ大サヲ定ムヘシ。

第四章　防火地區

第百十八條　防火地區ハ甲種防火地區及乙種防火地區ノ二種トス。

第百十九條　甲種防火地區内ニ在ル建物ハ其ノ外壁ヲ耐火構造ト爲スヘシ。

第百二十條　甲種防火地區内ニ在ル建物ノ軒蛇腹屋窓装飾塔ノ類ハ不燃材料ヲ以テ構成スヘシ。

第百二十一條　甲種防火地區内ニ在ル建物ノ窓及出入口ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ甲種防火戸ヲ設クヘシ、但シ鐵骨網入硝子竝ニシテ其ノ面積三十平方尺以內ノ窓又ハ屋根床柱及階段耐火構造ナル建物ノ窓ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス。

一、其ノ面スル道路ノ對側境界線ヨリ六間未滿ノ距離ニ在ルトキ但シ建築線道路境界線ト一致セサル場合ニ在リテハ建築線ヲ以テ道路境界線ト看做ス。

二、郡地境界線又ハ郡接建物ニ面シ其ノ水平距離六間未滿ナルトキ。

三、郡地境界線又ハ郡接建物ヨリノ水平距離六間未滿ノ位置ニ在ルトキ但シ窓ノ枠及組子鐵造又ハ金屬板ヲ以テ被覆セルモノハ此ノ限ニ在ラス。

公園廣場河海等ノ空地ニ面スル窓ニ付テハ前項ノ規定ノ適用ニ於テ其ノ空地ノ道路ト看做ス。

第百二十二條　甲種防火地區内ニ在ル建物ノ屋根ハ耐火構造ト爲スヘシ但シ厚一寸五分以上ノ不燃材料ヲ以テ構成シタル野地ヲ有スルトキハ此ノ限ニ在ラス。

第百二十三條　甲種防火地區内ニ在ル建物ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ其ノ床柱及階段ヲ耐火構造ト爲スヘシ。

一、建築面積二百坪以上ニシテ階數二以上ノモノ。

二、建築面積百坪以上ニシテ階數三以上ノモノ。

三、階數四以上ノモノ。

第百二十四條　甲種防火地區内ニ在ル建物ニシテ道路ニ面セサルモノハ其ノ高十八尺ヲ軒高十二尺ヲ建築面積十二坪ヲ超過セサル場合ニ限リ乙種防火地區内ニ在ル建物ニ關スル規定ニ依ルコトヲ得、但シ地方長官建物ノ用途ニ依リ火災殊防上危險ノ度アリト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス。

第百二十五條　甲種防火地區内ニ在ル壁ハ不燃材料ヲ以テ構成スヘシ。

第百二十六條　乙種防火地區内ニ在ル建物ハ其ノ外壁ヲ耐火構造又ハ準耐火構造ト爲スヘシ。

第百二十七條　前條ノ準耐火構造トハ左ノ番號ノ一ニ該當ル構造ヲ謂フ。

一、鐵骨造ニシテ外部ヲ生子板張ト爲シタルモノ。

二、鐵骨造又ハ木造ニシテ外部ニ左ノ各號ノ一ニ該當スル被覆ヲ爲シタルモノ。

イ、外面ニ石煉瓦又ハ人造石ノ類ヲ用ヰ其ノ厚三寸以上ノモノ。

ロ、瓦貼ノ上ニ「セメントモルタル」塗トシ厚合計一寸二分以上ノモノ

ハ、厚一寸二分以上ノ「セメント、モルタル」塗又ハ「コンクリート」塗。

ニ、「セメント、モルタル」塗ノ上ニ化粧煉瓦貼トシテ厚合計一寸二分以上ノモノ。

ホ、本件土藏造ニシテ塗土漆喰等ノ厚合計三寸以上ノモノ。

三、其ノ他地方長官之ニ準スト認メタルモノ。

第百二十八條　乙種防火地區內ニ在ル建築物ニシテ環境ノ風致ヲ害シ又ハ街衢ノ體裁ヲ損スト認ムルトキハ其ノ除却改修其ノ他ノ必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得。

第百二十九條　乙種防火地區內ニ在ル建物ノ窓及出入口ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ、甲種防火戸又ハ乙種防火戸ヲ設クヘシ、但シ鐵骨網入硝子造ニシテ其ノ面積四十平方尺以內ノ窓又ハ其ノ屋根床柱及階段耐火構造ナル建物ノ窓ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス。

一、其ノ面スル道路ノ對側境界線ヨリ三間未滿ノ距離ニ在ルトキ、但シ建築線道路境界線ト一致セサル場合ニ在リテハ建築線ヲ以テ道路境界線ト看做ス。

二、鄰地境界線又ハ鄰接建物ニ面シ其ノ水平距離三間未滿ナルトキ。

三、鄰地境界線又ハ鄰接建物ヨリノ水平距離三間未滿ノ位置ニ在ルトキ但シ窓ノ枠及組子鐵道及金屬板ヲ以テ被覆セルモノハ此ノ限ニ在ラス。

第百三十條　甲種防火地區內ニ在ル建物ノ屋根ヲ金屬板ヲ以テ被覆スルトキハ其ノ野地ヲ厚一寸以上ノ不燃材料ヲ以テ構成スヘシ。

第百三十一條　防火地區內ニ在ル建物ノ界壁ハ防火壁ト爲スヘシ。

第百三十二條　建物防火地區ノ境界外ニ亘ル場合ニ於テハ其ノ全部ニ對シ防火地區內ノ建物ニ關スル規定ヲ適用ス但シ其ノ建物ノ部分ヲ成ス防火壁ニシテ防火地區外ニ在ルトキハ其ノ防火壁外ノ部分ニ付テハ此ノ限ニ在ラス。

第百三十三條　建物甲種防火地區及乙種防火地區ニ亘ル場合ニ在リテハ其ノ全部ニ對シ甲種防火地區內ノ建物ニ關スル規定ヲ適用ス但シ其ノ建物ノ部分ヲ成ス防火壁外ノ部分ニ付テハ此ノ限ニ在ラス。

第六章　工事執行

第百四十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル建築物ノ新築增築改築移轉大修繕又ハ大變更ヲ爲サムトスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ。

一、市街地建築物法第十四條ノ建築物。

二、防火地區及美觀地區內ノ建築物。

第百三十四條　前三條ノ防火壁ニ付テハ第三十條ノ規定ヲ準用ス。

第百三十五條　地方長官ハ防火地區內ニ在ル建築物ニ關シ本令ノ規定ノ外火災豫防上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得。

第五章　美觀地區

第百三十六條　地方長官ハ美觀地區內ニ在ル建築物ニシテ環境ノ風致ヲ害シ又ハ街衢ノ體裁ヲ損スト認ムルトキハ其ノ除却改修其ノ他ノ必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得。

第百三十七條　地方長官ハ美觀地區內ニ建築スル建築物ノ意匠ニ關スル設計ニシテ環境ノ風致ヲ害シ又ハ街衢ノ體裁ヲ損スト認ムルトキハ其ノ設計ノ變更ヲ命スルコトヲ得。

第百三十八條　地方長官美觀上必要アリト認ムルトキハ美觀地區內ニ一定ノ區域ヲ指定シ其ノ區域內ノ建築物ノ高軒高又ハ外壁ノ材料及主色ヲ指定スルコトヲ得。

第百三十九條　地方長官前三條ノ措置又ハ指定ニシテ重要ナリト認ムル事項ニ關シテハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ。

第百四十條　美觀地區內ニ在ル建築物ノ外部汚損セルトキハ速ニ之ヲ修理スヘシ。

第百四十一條　美觀地區內ニ在ル建築物ノ排水管排氣管煙突瓦斯管及煙突ノ類ハ特ニ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外、之ヲ道路廣場又ハ公園ニ面スル壁面ニ露出セシムルコトヲ得ス。

第百四十二條　美觀地區內ニ在ル建築敷地ニシテ未タ建築物ナキモノ又ハ建築工事着手中ノモノハ、板塀ノ類ヲ以テ體裁ヨク之ヲ圍繞スヘシ但シ適當ナル整理ヲ爲シ特ニ地方長官ノ許可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス。

第六章　工事執行

第百四十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル建築物ノ新築增築改築移轉大修繕又ハ大變更ヲ爲サムトスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ。

一、市街地建築物法第十四條ノ建築物。

二、防火地區及美觀地區內ノ建築物。

三、其ノ他地方長官ノ指定スル建築物。

建築物ノ用途ヲ變更シテ前項第一號又ハ第三號ニ充テントスルモノ亦同シ。

第百四十四條　前條ニ該當セサル建築物ノ新築增築改築移轉大修繕又ハ大變更ヲ爲サムトスルトキハ地方長官ニ屆出ツヘシ。

地方長官ハ命令ノ規定ニ依リ輕微ナルモノニ付前項ノ屆出ヲ爲サシメサルコトヲ得。

第百四十五條　地方長官第百四十三條ノ認可申請ニ付支障ナシト認ムルトキハ建築認可證ヲ交付スヘシ。

第百四十六條　第百四十三條及第百四十四條ノ建築工事竣功シタルトキ及地方長官ノ特ニ指定シタル工程ニ達シタルトキハ地方長官ニ屆出ツヘシ。

第百四十七條　地方長官第百四十三條ノ建築物竣工ノ屆出ヲ受ケ支障ナシト認メタルトキハ、遲滯ナク建築物使用認可證ヲ交付スヘシ、但シ申請者ノ請求ニ依リ建築物ノ竣工セル部分ニ對シ使用認可證ヲ交付スルコトヲ得。

前項ノ使用認可證ヲ受ケタル後ニ非サレハ建築物ヲ使用スルコトヲ得ス。

第百四十八條　地方長官ハ吏員ヲ派シ建築物及建築工事ヲ臨檢セシムルコトヲ得。

前項ノ場合ニ於テ建築主建築工事請負人建築工事管理者又ハ建築物ノ所有者若ハ占有者檢査ニ必要ナル準備ヲ命セラレタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス。

前項準備ノ費用ハ建築主又ハ建築物所有者ノ負擔トス。

第百四十九條　地方長官ハ建築工事ノ認可申請屆出又ハ其ノ變更ノ手續其ノ他建築工事ノ取締ニ關シ本則ニ定ムルモノヽ外必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得。

附　則

第百五十條　本則中地方長官トアルハ東京府ニ於テハ警視總監トス。

第百五十一條　本則ハ市街地建築物法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス。

內務省令第三十一號

大正十二年六月內務省令第十五號市街地建築物法第十四條ノ規定ニ依ル特殊建築物耐火構造規則中、左ノ通改正ス。

第二篇　善後措置　第二章　各紀

第七條　本則ハ市街地建築物法施行令第三十一條ノ規定ニ依リ、內務大臣ノ指定スル區域ニ對シテハ、特ニ內務大臣ノ指定スルモノヲ除キ、之ヲ適用セス。

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス。

大正十三年十二月十七日　內務大臣　若槻禮次郎

〔參　考〕大正十二年內務省令第十五號左ノ如シ。

內務省令第十五號

市街地建築物法第十四號ノ規定ニ依ル特殊建築物耐火構造規則左ノ通定ム。

大正十二年六月一日　內務大臣　水野錬太郎

市街地建築物法第十四條ノ規定ニ依ル特殊建築物耐火構造規則

第一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル建物ヲ建築スルトキハ其ノ壁體床柱屋根階段等主要構造部ヲ耐火構造ト爲スヘシ。

一、劇場活動寫眞館演藝場觀物場及之ニ類スル建築ニシテ觀客定員七百五十人以上ノモノ。

二、集會場公會堂及之ニ類スル建物ニシテ收容定員千人以上ノモノ。

三、旅館下宿寄宿舍貸座敷常設展覽會場百貨店勸工場及之ニ類スル建物ニシテ階數四以上ノモノ。

四、揮發石油ヲ使用スル自動車ノ車庫ニシテ其ノ室面積三十坪以上ノモノ

五、倉庫ニシテ階數三以上ノモノ。

六、市街建築法施行令第三條第二號(ロ)又ハ(ホ)ノ物品ノ製造貯藏又ハ處理ニ供スル建物。

前項第一號及第二號ノ建物內ニ設タル無窓ノ床及屋根竝第四號及第六號ノ建物ノ屋根ハ地方長官ノ許可ヲ受ケ之ヲ耐火構造ト爲サヽルコトヲ得。

第一項第六號ノ建物ニ付テハ地方長官物品ノ數量及周圍ノ狀況ニ依リ制限ヲ輕減シ又ハ免除スルコトヲ得。

第二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル建物ヲ建築スルトキハ其ノ外壁ヲ耐火構造

ト爲スヘシ。

一、劇場活動寫眞館演藝場觀物場及之ニ類スル建物ニシテ觀客定員五百人以上ノモノ。

二、集會場公會堂及之ニ類スル建物ニシテ收容定員七百五十人以上ノモノ

三、旅館下宿屋寄宿舍貸座敷常設展覽會場百貨店勸工場及之ニ類スル建物ニシテ階數三ノモノ。

四、揮發石油ヲ使用スル自動車ノ車庫ニシテ其ノ室面積十五坪以上ノモノ

五、倉庫ニシテ階數二且建築面積百坪以上ノモノヽ、但シ地方長官用途ニ依リ支障ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス。

前項ノ建物ニ付テハ市街地建築物法施行規則第百二十條及第百二十一條ヲ準用ス。

第三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル建物ヲ建築スルトキハ其ノ外壁ヲ耐火構造又ハ準耐火構造ト爲スヘシ。

一、劇場活動寫眞館演藝場觀物場及之ニ類スル建物ニシテ觀客定員二百五十人以上ノモノ。

二、集會場公會堂及之ニ類スル建物ニシテ收容定員五百人以上ノモノ。

三、揮發石油ヲ使用スル自動車ノ車庫ニシテ其ノ室面積五坪以上ノモノ。

前項ノ建物ニ付テハ市街地建築物法施行規則第百二十八條及第百二十九條ヲ準用ス。

第四條　建物ニシテ其ノ一部ヲ第一條乃至第三條ノ建物ト同種ノ用途ニ供スルモノニ付テハ其ノ部分ニ對シ第一條乃至第三條ノ規定ヲ準用ス、但シ地方長官必要ト認ムルトキハ其ノ他ノ部分ニ對シ防火上相當ナル構造設備ヲ命スルコトヲ得。

第五條ハ假設的ノ建物ニ付テハ地方長官支障ナシト認ムルトキハ期限ヲ付シ本則ノ規定ヲ適用セサルコトヲ得。

第六條　本則ノ規定ノ適用ニ付テハ新ニ建物ノ用途ヲ定メ又ハ建物ノ用途ニ供スルトキハ其ノ用途ニ供スル建物ヲ建築スルモノト看做ス。

附　則

本則中地方長官トアルハ東京府ニ於テハ警視總監トス。

本則ハ大正十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス。

〔參　照〕

大正八年四月三日公布法律第三十七號市街地建築物法抄錄

第十四條　主務大臣ハ學校集會場劇場旅館工場倉庫病院市場屠場火葬場其ノ他命令ヲ以テ指定スル特殊建築物ノ位置構造設備又ハ敷地ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得。

大正九年九月三十日公布勅令第四百三十八號市街地建築物法施行令抄錄

第三條　建築物左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ工業地域内ニ非サレハ之ヲ建築スルコトヲ得ス。

二、左ニ揭クル事業ヲ營ム工場。但シ行政官廳衛生上有害ノ又ハ保安上危險ノ度ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス。

ロ、鹽素酸鹽類過鹽素鹽類「ピクリン」酸鹽類黃燐赤燐硫化燐「カリウム」「ナトリウム」「マグネシウム」過酸化水素過酸化「カリウム」過酸化「ナトリウム」「バリウム」「硫化炭素」「エーテル」「コロヂウム」「アルコホール」「木精」「アセトン」「ベンゾール」「キシロール」「トルオール」「テレビン」油硝化纖維素「セルロイド」石油類其ノ他之ニ類スル引火性又ハ發火性物品ノ製造。

ハ、燐寸ノ製造。

大正九年十一月九日　内務省令第三十七號市街地建築物法施行規則抄錄

第百二十號　甲種防火地區内ニ在ル建物ノ軒軒蛇腹扉窓飾塔ノ類ハ不燃材料ヲ以テ葺成スヘシ。

第二百二十一號　甲種防火地區内ニ在ル建物ノ窓及出入口ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ甲種防火戸ヲ設クヘシ、但シ鐵骨網入硝子造ニシテ其ノ面積三十平方尺以内ノ窓又ハ屋根床柱及階段耐火構造ナル建物ノ窓ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス。

一、其ノ面スル道路ノ對側境界線ヨリ六間未滿ノ距離ニ在ルトキ、但シ建築線道路境界ト一致セサル場合ニ在リテハ建築線ヲ以テ道路境界線ト看做ス。

二、鄰地境界線又ハ鄰接建物ニ面シ其ノ水平距離六間未滿ナルトキ。

三、鄰地境界線又ハ鄰接建物ヨリ水平距離六間未滿ノ位置ニ在ルトキ、但シ窓ノ枠及組子鐵造又ハ金屬板ヲ以テ被覆セルモノハ此ノ限ニ在ラス。

公園廣場河海等ノ空地又ハ道路ト看做ス。

第百二十八條　乙種防火地區内ニ在ル建物ノ軒軒蛇腹扉窓飾塔ノ類ハ不燃材料ヲ以テ構成シ又ハ被覆スヘシ。

第百二十九條　乙種防火地區内ニ在ル建物ノ窓及出入口ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ、甲種防火戸又ハ乙種防火戸ヲ設クヘシ、但シ鐵骨網入硝子造ニシテ其ノ面積四十平方尺内ノ窓又ハ其屋根床柱及階段耐火構造ナル建物ノ窓ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス。

一、其ノ面スル道路ノ對側境界線ヨリ三間未滿ノ距離ニ在ルトキ、但シ建築線道路境界ト一致セサル場合ニ在リテハ建築線ヲ以テ道路境界線ト看做ス。

二、鄰地境界線又ハ鄰接建物ニ面シ其ノ水平距離三間未滿ナルトキ。

三、鄰地境界線又ハ鄰接建物ヨリ水平距離三間未滿ノ位置ニ在ルトキ、但シ窓ノ枠及組子鐵造又ハ金屬板ヲ以テ被覆セルモノハ此ノ限ニ在ラス。

公園廣場河海等ノ空地ニ面スル窓ニ付テハ前項ノ適用ニ於テ其ノ空地ヲ道路ト看做ス。

二　復興經費

1　第四十七議會決定豫算

復興經費豫算は、大正十二年十二月二十三日帝國議會の議決となり、至二十四日左の如く公布せらる。

脫帝國議會ノ協贊ヲ經タル大正十二年度歲入歲出總豫算追加ヲ裁可シ、玆ニ之ヲ公布セシム。

御名　御璽

攝政名

大正十二年十二月二十四日

内閣總理大臣伯爵　山本權兵衛

大藏大臣　井上準之助

豫算

第一條　大正十二年度歲入歲出追加額ヲ各千百四十三萬七百八十五圓ト定ム其ノ款項ノ金額ハ別冊甲號歲入歲出豫算ニ據ルヘシ。

第二條　別冊乙號所揭ノ費途ハ、共ノ規畫スル所ニ隨ヒ、大正十二年度以降ノ繼續費ト爲ス。

第三條　大正十二年度歲出豫算追加中、別冊丙號所揭ノ費途ハ、年度米支出殘額ヲ翌大正十三年度ニ繰越使用スルコトヲ得。

（別　冊）

甲號

歲入臨時部

第九款　公　債　金		一一、四三〇、七八五圓
第三項　復興公債及繰替借入金		一一、四三〇、七八五
歲出臨時部		
大藏省所管		
第十八款　帝都復興事業費		六、二九一、八〇〇圓
第一項　東京復興費		五、七〇五、六〇〇
第二項　橫濱復興費		五八六、二〇〇
第十九款　復興事業費貸付金		一、二八三、三五六
第一項　地方復興事業費貸付金		一、二八三、三五六

第二十款　復興事業費補助　三、八一六、八一七・
第一項　地方復興事業費補助　三、八一六、八一七
第二十一款　復興事業債利子補給　三八、八一二
第一項　地方復興事業債利子補給　三八、八一二
大藏省所管合計　一一、四三〇、七八五
（別冊）

乙號

大藏省所管

帝都復興事業費

總額

（款）帝都復興事業費　三四二、一九二、八〇〇円
（項）東京復興費　三〇六、六七八、四〇〇
（項）橫濱復興費　三五、五一四、四〇〇

年割額

大正十二年度　六、二九一、八〇〇円
東京復興費　五、七〇五、六〇〇
橫濱復興費　五八六、二〇〇
大正十三年度　八七、六〇七、〇〇〇
東京復興費　七七、九五五、四〇〇
橫濱復興費　九、六五一、六〇〇
大正十四年度　八六、八五一、四〇〇
東京復興費　七七、五三三、〇〇〇
橫濱復興費　九、三二二、四〇〇
大正十五年度　六七、一九〇、八〇〇
東京復興費　六〇、三四九、二〇〇
橫濱復興費　五、八四一、六〇〇
大正十六年度　五六、二三五、九三四

東京復興費　五〇、七九三、〇四〇
橫濱復興費　五、四四二、八九四
大正十七年度　三九、〇一一、八六六
東京復興費　三四、三四二、一六〇
橫濱復興費　四、六六九、七〇六

（別冊）

丙號

大藏省所管

地方復興事業費貸付金　歲出臨時部第十九款復興事業費貸付金第一項。

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件ヲ裁可シ、玆ニ之ニ公布セシム。

御名　御璽

攝政名

大正十二年十二月二十四日

內閣總理大臣伯爵　山本權兵衛
大藏大臣　井上準之助

豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件

一般會計

大藏省所管

東京市復興事業債元利保證

橫濱市復興事業債元利保證

政府ハ復興事業ノ費用ニ充ツル爲、東京市及橫濱市カ外國ニ於テ募集スル市債ニ對シ、左ノ條件ニ依リ其ノ元利支拂ニ付保證ヲ爲スコトヲ得。

一、政府ニ於テ保證スヘキ市債ハ、東京市ノ分ハ額面一億圓、橫濱市ノ分ハ額面四千萬圓ヲ限度トスルコト。

二、市債ノ償還期限ハ起債ノ年ヨリ三十六ケ年以內ナルコト。

東京府復興事業費貸付金

神奈川縣復興事業費貸付金

政府ハ東京府及神奈川縣ニ對シ、其ノ施行スル復興事業ノ資金ニ充ツル爲、左ノ條件ニ依リ、東京府ニハ總額千二百七十四萬九千六百九十八圓、神奈川縣ニハ總額二百五十七萬五千七百四圓ヲ限リ、貸付スルノ契約ヲ結フコトヲ得。

一、貸付金額ハ左ノ年割ノ範圍內トス、但シ各年度ニ屬スル金額ハ、之ヲ後年度ニ繰下クルヲ妨ケサルコト。

東京府復興事業費貸付金

大正十二年度　一、〇五〇、〇二三円
大正十三年度　三、〇七三、一四六
大正十四年度　二、九二七、七七一
大正十五年度　三、六九八、七五八
大正十六年度　一、〇〇〇、〇〇〇
大正十七年度　一、〇〇〇、〇〇〇
計　一二、七四九、六九八

神奈川縣復興事業費貸付金

大正十二年度　二三三、三三三円
大正十三年度　八四二、三七一
大正十四年度　五〇〇、〇〇〇
大正十五年度　五〇〇、〇〇〇
大正十六年度　五〇〇、〇〇〇
計　二、五七五、七〇四

二、利率ハ年五分トス、但シ据置期間中ハ無利子トス。

三、據置期間ハ大正十八年三月三十一日限トス。

四、償還期限及償還方法ハ、大正十八年四月一日ヨリ起算シ、三十箇年間ニ元利均等償還ノ方法ニ依リ之ヲ償還セシムルモノトス

防火地區建築費補助

防火地區建築費補助トシテ、總額二千萬圓ヲ限リ、左ノ年割ノ範圍內ニ於テ支出スルノ契約ヲ結フコトヲ得。

大正十三年度　二、〇〇〇、〇〇〇円
大正十四年度　四、〇〇〇、〇〇〇
大正十五年度　五、〇〇〇、〇〇〇
大正十六年度　五、〇〇〇、〇〇〇
大正十七年度　四、〇〇〇、〇〇〇
計　二〇、〇〇〇、〇〇〇

東京府復興事業費補助

東京府復興事業費補助トシテ、總額七百五十八萬三千五百六圓ヲ限リ、左ノ年額ノ範圍內ニ於テ支出スルノ契約ヲ結フコトヲ得。

大正十二年度　一、二五七、九八三円
大正十三年度　一、五九七、七三五
大正十四年度　一、五三九、〇三一
大正十五年度　二、一八八、七五七
大正十六年度　五〇〇、〇〇〇
大正十七年度　五〇〇、〇〇〇
計　七、五八三、五〇六

神奈川縣復興事業費補助

神奈川縣復興事業費補助トシテ、總額七十四萬二千三百七十一圓ヲ限リ、左ノ年額ノ範圍內ニ於テ支出スルノ契約ヲ結フコトヲ得。

大正十二年度　一六、六六七円
大正十三年度　五七五、七〇四
計　七四二、三七一

東京市復興事業費補助

東京市復興事業費補助トシテ、總額五千十五萬六千七百七圓ヲ限リ、左ノ年額ノ範圍內ニ於テ支出スルノ契約ヲ結フコトヲ得。

大正十二年度	二、〇六六、六六七	円
大正十三年度	一〇、九〇一、六六六	
大正十四年度	一〇、七三七、〇八三	
大正十五年度	一〇、一八〇、八三三	
大正十六年度	八、四五五、八三三	
大正十七年度	七、八一四、六二四	
計	五〇、一五六、七〇七	

橫濱市復興事業費補助

橫濱市復興事業費補助トシテ、總額千七十四萬三千三百三十三圓ヲ限リ、左ノ年割ノ範圍內ニ於テ支出スルノ契約ヲ結フコトヲ得。

大正十二年度	三二五、五〇〇	円
大正十三年度	二、三七一、〇〇〇	
大正十四年度	二、三九二、〇〇〇	
大正十五年度	二、一八七、三三三	
大正十六年度	一、九五〇、〇〇〇	
大正十七年度	一、五一七、五〇〇	
計	一〇、七四三、三三三	

東京市復興事業債利子補給

東京市復興事業債利子補給トシテ、總額千七百四十萬八千二百七十四圓ヲ限リ、左ノ年割ノ範圍內ニ於テ支出スルノ契約ヲ結フコトヲ得。

大正十二年度	三〇、三三三	円
大正十三年度	一、〇〇七、九二二	
大正十四年度	二、三三〇、三二〇	
大正十五年度	三、六四一、〇九八	
大正十六年度	四、七四一、四四一	
大正十七年度	五、六五七、一六〇	
計	一七、四〇八、二七四	

橫濱市復興事業債利子補給

橫濱市復興事業債利子補給トシテ、總額四百二十八萬六千四百五十六圓ヲ限リ、左ノ年割ノ範圍內ニ於テ支出スルノ契約ヲ結フコトヲ得。

大正十二年度	八、四七九	円
大正十三年度	二三四、五三五	
大正十四年度	五五三、一五二	
大正十五年度	八六六、八二九	
大正十六年度	一、一七五、三五九	
大正十七年度	一、四四八、一〇二	
計	四、二八六、四五六	

而して第四十七議會に決定したる豫算の年度割は、

第四十七議會決定豫算年度割

區分	總額	十二年度	十三年度	十四年度	十五年度	十六年度	十七年度
帝都復興事業費	三三一、一二五、八〇〇 円	六、三九一、八〇〇 円	八七、六四七、〇〇〇 円	八六、八五五、四〇〇 円	六六、一八〇、〇〇〇 円	五九、三五六、九〇〇 円	五九、〇一二、八〇〇 円
東京復興事業費	三〇五、九七八、四〇〇	六、三九一、八〇〇	八七、六四七、〇〇〇	八六、八五五、四〇〇	六六、一八〇、〇〇〇	五九、三五六、九〇〇	五九、〇一二、八〇〇
街路費	三三七、四八八、四〇〇	一、四四八、四〇〇	五、八四八、〇〇〇	一〇、八五五、四〇〇	一〇、一八〇、〇〇〇	一〇、三五六、九〇〇	一〇、〇一二、八〇〇
用地及補償費	一四、四八八、四〇〇	一、四四八、四〇〇	五、八四八、〇〇〇	一〇、八五五、四〇〇	一〇、一八〇、〇〇〇	一〇、三五六、九〇〇	一〇、〇一二、八〇〇
工事費	三二三、〇〇〇、〇〇〇	—	—	—	五〇、〇〇〇、〇〇〇	四九、〇〇〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇、〇〇〇
橋梁費	三〇、〇〇〇、〇〇〇	—	—	—	—	一、〇〇〇、〇〇〇	二九、〇〇〇、〇〇〇
地下埋設物共同溝費	七〇、八九二、四八〇	—	—	—	—	—	七〇、八九二、四八〇
雜工費	九、三二一、〇八六	—	—	—	—	—	九、三二一、〇八六
運河費	二八、三四〇、〇〇〇	—	—	—	—	—	二八、三四〇、〇〇〇
用地及補償費	八、三二六、八六八	—	—	—	—	—	八、三二六、八六八
工事費	一八、三四八、一三二	—	—	—	—	—	一八、三四八、一三二
雜工費	一、四〇三、一三二	—	—	—	—	—	一、四〇三、一三二
公園費	二一、八〇〇、〇〇〇	—	—	—	—	—	二一、八〇〇、〇〇〇
用地及補償費	一〇、一〇〇、〇〇〇	—	—	—	—	—	一〇、一〇〇、〇〇〇
設備費	一、八〇〇、〇〇〇	—	—	—	—	—	一、八〇〇、〇〇〇
土地整理費	八、九四〇、〇〇〇	—	—	—	—	—	八、九四〇、〇〇〇
整理費	三、〇〇〇、〇〇〇	—	—	—	—	—	三、〇〇〇、〇〇〇
補償費	五、〇〇〇、〇〇〇	—	—	—	—	—	五、〇〇〇、〇〇〇
雜工費	九四〇、〇〇〇	—	—	—	—	—	九四〇、〇〇〇
橫濱復興費	三三、四二四、四〇〇	—	—	—	—	—	三三、四二四、四〇〇
街路費	二三、九二一、四〇〇	—	—	—	—	—	二三、九二一、四〇〇
用地及補償費	七、三四八、四〇〇	—	—	—	—	—	七、三四八、四〇〇
工事費	一六、五七三、〇〇〇	—	—	—	—	—	一六、五七三、〇〇〇
橋梁費	二、〇〇〇、〇〇〇	—	—	—	—	—	二、〇〇〇、〇〇〇
雜工費	一、〇〇〇、〇〇〇	—	—	—	—	—	一、〇〇〇、〇〇〇
運河費	一、五〇二、〇〇〇	—	—	—	—	—	一、五〇二、〇〇〇
用地及補償費	一、〇〇二、〇〇〇	—	—	—	—	—	一、〇〇二、〇〇〇
工事費	五〇〇、〇〇〇	—	—	—	—	—	五〇〇、〇〇〇
雜工費	一、〇〇〇	—	—	—	—	—	一、〇〇〇

公園費	一、四五六、〇〇〇	九、〇〇〇				
用地及補償費	一、四五六、〇〇〇	九、〇〇〇				
設備費	一、六一四、〇〇〇	—				
土地整理費	二、六六一、〇〇〇	一、四四、〇〇〇				
整理費	四〇〇、〇〇〇	三四、〇〇〇				
補償費	一、二六四、〇〇〇	六七、〇〇〇				
雜工費	三五三、〇〇〇	三五、〇〇〇				
復興事業費貸付金	一、三五三、三〇三	一、三八四、三五六				
地方復興事業費貸付金	一、三五三、三〇三	一、三八四、三五六				
東京府復興事業費貸付金	一、三五三、三〇三	一、三八四、三五六				
神奈川縣復興事業費貸付金	八九、三三五、九一七	三五、八一六、八一七				
復興事業費補助	二、七四五、六八〇	一、三五四、三五六				
地方復興事業費補助	八九、三三五、九一七	三五、八一六、八一七				
東京府復興事業費補助	六七、三三五、九一七	二六、八一六、八一七				
神奈川縣復興事業費補助	二二、四〇二、九一七	九、〇〇〇、〇〇〇				
東京市復興事業費補助	四四、九三五、〇〇〇	一七、九四〇、〇〇〇				
橫濱市復興事業費補助	二二、四〇二、九一七	九、〇〇〇、〇〇〇				
防火地區建築費補助	二〇、〇〇〇、〇〇〇	—				
防火地區建築補助	二〇、〇〇〇、〇〇〇	—				
復興事業債利子補給	二一、六九四、四八〇	五八、八一三				
地方復興事業債利子補給	二一、六九四、四八〇	五八、八一三				
東京市復興事業債利子補給	一七、四〇八、二七一	三四、三五三				
橫濱市復興事業債利子補給	四、二八六、二〇九	八、四六九				
合計	四六、四五八、八四九	二〇、四四〇、九六三				

內府縣市の執行すべき復興事業費年度割を擧ぐれば左の如し。

第四十七　議會決定

府縣市執行復興事業費年度割

府縣市別	總費額	十二年度	十三年度	十四年度	十五年度	十六年度	十七年度
東京府	二〇、三三五、一〇五	二、六八八、〇〇六	四、六八〇、八〇一	四、六八〇、八〇一	四、八四二、四八一	一、四〇〇、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇
內國	七、九八五、三〇六	一、五七七、九五二	一、五七七、九五二	一、五七七、九五二	一、八二八、七四三	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇
東京市	一二、三四九、八二九	一、一四六、〇五三	二、四〇三、〇〇〇	二、四〇三、〇〇〇	二、八六六、七三八	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
內國	一二、三四九、八二九	一、一四六、〇五三	二、四〇三、〇〇〇	二、四〇三、〇〇〇	二、八六六、七三八	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
神奈川縣	三、三八六、〇四二	一、四三二、九四二	一、四三二、九四二	一、四三二、九四二	一、四三二、九四二	一、四三二、九四二	一、四三二、九四二
內國	一、四三二、九四二	一、四三二、九四二	一、四三二、九四二	一、四三二、九四二	一、四三二、九四二	一、四三二、九四二	一、四三二、九四二
橫濱市	一、四八二、〇九九	一、四八二、〇九九	一、四八二、〇九九	一、四八二、〇九九	一、四八二、〇九九	一、四八二、〇九九	一、四八二、〇九九
內國	一、四八二、〇九九	一、四八二、〇九九	一、四八二、〇九九	一、四八二、〇九九	一、四八二、〇九九	一、四八二、〇九九	一、四八二、〇九九
合計	三五、六四一、〇四〇	五、九八〇、〇〇六	七、九八〇、八〇一	七、九八〇、八〇一	七、九八〇、八〇一	三、四〇〇、〇〇〇	三、四〇〇、〇〇〇
內國	一四、二九五、三四二	二、七五二、九四二	三、七五二、九四二	三、七五二、九四二	三、七五二、九四二	一、四〇〇、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇
地方	二一、三四六、六九八	三、二二七、〇六四	四、二二七、〇六四	四、二二七、〇六四	四、二二七、〇六四	二、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇

「國」は國庫補助額、「府」、「縣」、「市」は、府縣市負擔。

附

豫算外支出

第四十七議會に於て豫算額削減の結果、帝都復興事業は、執行方法を變ずるに非ざれば、到底遂行し能はざるものと爲りたり、是に於て復興院理事者は即日會議して、復興事業の中樞たる土地區劃整理は議會の修正に由り、殆ど遂行不可能と爲りたりと雖、之を遂行せざれば、復興計畫竟には無意義に歸すべきを以て、飽くまでも之を遂行するに決し、議會に在りても土地區劃整理其者を非としたるに非ず、單に輕費の負擔を自治體及地主組合に分つべしとするに過ぎざれば、削減せられたる一億六千萬圓を自治體に負擔せしめ、國に於て其半額を補助し、殘り半額に對しては、利子の補給をなし、十二間未滿の道路も、國に於て代りて執行し、乃ち街路十二間以上は國、六間以上十二間未滿は自治體、六間未滿は地主組合の負擔として執行するを可とするの議あり。

十三年一月十九日の理事會に於て、政府は市に補助金を交付するか、又は市に資金を貸付くるを必要とし、事業は市より國に委託し、國に於て一手に實施するを可とし、議會にして解散となる場合

は、政府をして責任支出を以て補助又は貸付をなさしむる事、の申合を爲し、起債其他の諸問題に關して打合はする所あり、二月二日の理事會に於ては、區劃整理施行に關し、國市各共豫算に基き施行區域を定め、道路幅員の如何を問はず執行し、國は市の執行せる十二間以上の分を實費買收の形式を以て取得し、國の執行に係る十二間未滿の分は市をして共費用を分擔せしむべしとの意見ありしも、十河經理局長明治三十年の法律第三十七號に依るべきを主張し、說者の如き方法に依れば、復興豫算の變更を要し、豫算の形式上、市の納付金を歲入とし、更に之に相當する金を區劃整理事業費に計上する事とせざるべからず、寧ろ橫濱市と同じく東京市よりも法律第三十七號に依り執行せられたき旨請願を爲さしめ、これに由り國に於て執行する事とせば、議會の決議と正面衝突を爲すことなく、自治團體の發意に依り國が代りて執行するものなるべし、斯くして現在有する國の豫算を以て出來るだけを執行し、不足は責任支出を爲す樣政府に於て決意せられたしと述べ、大體之を承認す。

是より先橫濱市長は、大正十二年三月二十七日市會の決議を以て

東京	貸付	補助	計	橫濱	貸付	補助	計
街路	三、九二一、四二〇円	三、五二一、四二〇円	六、七四二、八四〇円	街路	三、三二一、四二〇円	六、七四二、八四〇円	七、〇六三、二六〇円
土地區劃整理	一、六四一、六六六	三二、六五二、三三四	三四、二九四、〇〇〇	土地區劃整理	一、四三六、二三三	三四、二九四、〇〇〇	三五、七三〇、二三三
計	五、五六二、〇八六	三七、一七四、七五四	四一、〇三七、四六〇	計	五、七五七、六五三	四一、〇三七、四六〇	四六、七九五、一六〇

東京	貸付	補助	計	橫濱	貸付	補助	計
街路	三〇、四三六、〇〇〇円	三〇、四三六、〇〇〇円	六〇、八四二、〇〇〇円	街路	三、〇〇六、〇〇〇円	六〇、八四二、〇〇〇円	六三、八四八、〇〇〇円
土地區劃整理	一二、三一七、〇〇〇	三三、六五二、〇〇〇	四五、九六九、〇〇〇	土地區劃整理	一、三九五、〇〇〇	四五、九六九、〇〇〇	四七、三六四、〇〇〇
計	四三、七五三、〇〇〇	三四、〇八四、〇〇〇	七七、八一一、〇〇〇	計	四、四〇一、〇〇〇	七七、八一一、〇〇〇	八二、二一二、〇〇〇

を得、一月三十日修正決定す、然るに翌三十一日衆議院解散を命ぜられ、之が議會提出を見るに至らず。

而して衆議院解散の結果、豫算外支出の必要を見、二月一日左の如く要求す。

年度	區分	年額	豫算外支出要求額
十二年度	復興局費	円	四四一、九七七円
〃	復興事業貸付金及補助（街路及土地區劃整理追加分）	—	二、三五〇、〇〇〇
小計		—	二、六〇一、九七七
十三年度	復興局費	四、〇五七、一四一	一、三五〇、七四一
〃	復興事業貸付金補助及利子補給	三、六四四、〇九九	二、四五〇、〇五〇
〃	復興事業貸付金及補助（街路及土地區劃整理追加分）	三〇、二七八、〇〇〇	一〇、〇五三、〇〇三
〃	臨時物資供給殘務取扱費	一、六六九、八八八	六八二、三四八
小計		三五、六〇四、〇八八	一四、八二六、三九八
合計		—	一七、六二八、三八九

大藏省は內十三年度分を後日に讓り、十二年度復興局費一箇月半分を一箇月分に査定し、四七、四六八圓を減じ、三九四、五〇九圓を剩餘金支出の手續を爲し、十二年復興事業費貸付金及補助金一一、三六〇、〇〇〇圓は財源を借入金に求むる事とし、財政上緊急處分に依り三月七日勅裁を經たり。

2　第四十九議會決定豫算

イ　第四十九議會

第四十九回帝國議會は大正十三年六月二十八日開院式を擧ぐ、復興事業の一部及復舊事業に協贊するは之が使命なりしなり。

朕帝國憲法第七條及議院法第五條ニ依リ、六月二十八日ヲ以テ帝國議會ノ開會ヲ命ス。

御名　御璽

攝政　名

大正十三年六月二十七日　內閣總理大臣子爵　加藤　高明

農商務大臣　高橋　是清
遞信大臣　犬養　毅
陸軍大臣　宇垣　一成
海軍大臣　財部　彪
外務大臣男爵　幣原喜重郎
內務大臣　若槻禮次郎
文部大臣　岡田　良平
遞信大臣　仙石　貢
大藏大臣　濱口　雄幸

司法大臣　横田千之助

攝政殿下二十八日午前十時三十五分東宮假御所御出門、貴族院へ行啓在らせられ、帝國議會開院式を擧げさせらる。

開院式勅語

朕玆ニ帝國議會開院ノ式ヲ行ヒ、貴族院又衆議院ノ各員ニ告ク。

朕ハ國務大臣ニ命シテ緊急ナル追加豫算及法律案ヲ帝國議會ニ提出セシム、爾等克ク朕カ意ヲ體シ、和衷審議以テ協賛ノ任ヲ竭サムコトヲ望ム。

七月十九日閉院式。

ロ　第四十九議會議決

復興豫算は、第四十七議會に於て、國家經營の豫定なりし土地區劃整理の大部分及補助道路の新設開修事業を自治體の經營に移す事とし、一億六百餘萬圓を削減し、爾て執行機關を內務省の一局たらしむる目的を以て、復興院費全部を削りたるより、之が執行を自治體に移すに要する補助及貸付金を要求せざる能はず、而して第四十八議會は衆議院の解散と爲りたるを以て、政府は之が經費一億五百萬圓中、大正十二年度に豫算外支出を爲したる二百三十六萬圓を除き、一億二百萬圓を大正十三年度の復興豫算と共に、大正十三年六月第四十九特別議會に要求したり、即ち第一號議案を以て大正十三年度の復興關係追加豫算四千四十萬四千七十三圓を要求し、追第一號豫算外國庫負擔として帝都復興費追加豫算を要求せり、帝都復興費追加豫算は、

第一表

區分	總計	大正十三年度	大正十四年度	大正十五年度	大正十六年度	大正十七年度
地方復興事業貸付金	圓 八、三五五、〇〇〇	圓 四、三三三、〇〇〇	圓 七、九六五、〇〇〇	圓 七、九六五、〇〇〇	圓 四、三三三、〇〇〇	圓 三、九三八、〇〇〇
東京市貸付金	七、三一九、〇〇〇	三、九三八、〇〇〇	三、九三八、〇〇〇			
橫濱市貸付金	八、四六、〇〇〇	四、三三三、〇〇〇	四、三三三、〇〇〇			
地方事業費補助	二、一〇五、〇〇〇	一、〇五二、〇〇〇	一、〇五二、〇〇〇			
東京市補助	一、七五九、〇〇〇	八七九、〇〇〇	八七九、〇〇〇			
橫濱市補助	三四五、〇〇〇	一七三、〇〇〇	一七二、〇〇〇			
合計	一〇、三六〇、〇〇〇	五、一八〇、〇〇〇	五、一八〇、〇〇〇			

又之ヲ事業ノ種別ニ依リ、國ト地方團體トノ負擔及年度區分ヲ示セハ左ノ如シ。

第一表

事業種別	總費額	負擔區分	負擔歩合	大正十三年度	大正十四年度	大正十五年度	大正十六年度	大正十七年度
街路修築	圓 二九、八一、〇〇〇	國	1/2	圓 二九、八一、〇〇〇	圓 八、六五、〇〇〇	圓 八、六五、〇〇〇	圓 四、三三三、〇〇〇	圓 三、九三八、〇〇〇
	二九、八一、〇〇〇	市	1/2	二九、八一、〇〇〇	七、三一九、〇〇〇	七、九六五、〇〇〇	四、三三三、〇〇〇	三、九三八、〇〇〇
	五九、三六二、〇〇〇	計		五九、三六二、〇〇〇	一五、九八四、〇〇〇	一六、九三〇、〇〇〇	八、六六六、〇〇〇	七、八七六、〇〇〇
土地區劃整理	三、〇六八、〇〇〇	國	2/3	三、〇六八、〇〇〇	一、七五八、〇〇〇	一、三一〇、〇〇〇		
	一、〇三五、〇〇〇	市	1/3	一、〇三五、〇〇〇	八七九、〇〇〇	六五五、〇〇〇		
	四、一〇三、〇〇〇	計		四、一〇三、〇〇〇	二、三五八、〇〇〇	一、九六五、〇〇〇		
合計	三四、〇二四、〇〇〇			一八、三二五、〇〇〇	一七、三四二、〇〇〇	一八、九〇五、〇〇〇	八、六六六、〇〇〇	七、八七六、〇〇〇

乙　橫濱市執行ノ分

事業種別	總費額	負擔區分	負擔歩合	大正十三年度	大正十四年度	大正十五年度	大正十六年度	大正十七年度
街路修築	圓 九、四五、〇〇〇	國	1/2	圓 四、九五、〇〇〇	圓 二、三五、〇〇〇	圓 二、三五、〇〇〇	圓 一、一七五、〇〇〇	圓 一、〇五八、〇〇〇
	九、四五、〇〇〇	市	1/2	四、九五、〇〇〇	二、三五、〇〇〇	二、三五、〇〇〇	一、一七五、〇〇〇	一、〇五八、〇〇〇
	一八、九〇、〇〇〇	計		九、九〇、〇〇〇	四、七〇、〇〇〇	四、七〇、〇〇〇	二、三五〇、〇〇〇	二、一一六、〇〇〇
土地區劃整理	七、一四〇、〇〇〇	國	2/3	三、五七〇、〇〇〇	一、七八五、〇〇〇	一、七八五、〇〇〇		
	三、五七〇、〇〇〇	市	1/3	一、七八五、〇〇〇	八九二、五〇〇	八九二、五〇〇		
	一〇、七一〇、〇〇〇	計		五、三五五、〇〇〇	二、六七五、〇〇〇	二、六七五、〇〇〇		
合計	二八、六二五、〇〇〇			一四、二五五、〇〇〇	七、一四〇、〇〇〇	七、一四〇、〇〇〇	二、三五〇、〇〇〇	二、一一六、〇〇〇

右追加要求額ハ、曩ニ第四十七帝國議會ニ於テ修正削減セラレタル要求シタルモノノ外、大正十二年度ニ於テ豫算外支出ニ係ルモノ二十二箇所未滿ノ街路修築及土地區劃整理ニ要スル經費ニ該當シ、今回百三十六萬圓ヲ加ヘ、總額一億五百萬圓トス。（第三表、第四表）

第三表

區別	大正十二年度	大正十三年度以降	計
地方復興事業費貸付金	一、〇一二、〇〇〇円	四五、一三二、〇〇〇円	四六、一四四、〇〇〇円
東京市貸付金	九二八、〇〇〇	四〇、八二四、〇三〇	四一、七五二、〇三〇
橫濱市貸付金	九四、〇〇〇	四、四四〇、〇〇〇	四、五三四、〇〇〇
地方復興事業費補助	一、三七、〇〇〇	五七、五二八、〇〇〇	五八、八四五、〇〇〇
東京市補助	一、三一一、〇〇〇	五一、六四九、〇〇〇	五三、〇六〇、〇〇〇
橫濱市補助	三六、〇〇〇	五、六四九、〇〇〇	五、六八五、〇〇〇
合計	二、三五〇、〇〇〇	一〇一、四四〇、〇〇〇	一〇三、七九〇、〇〇〇

第四表

甲東京市ノ分

事業種別	負擔區分		大正十二年度	大正十三年度以降	計
街路修築	國	1/2	六四五、〇〇〇円	三九、七八一、〇〇〇円	四〇、四二六、〇〇〇円
	市	1/2	六四五、〇〇〇	三九、七八一、〇〇〇	四〇、四二六、〇〇〇
	計		一、二九〇、〇〇〇	七九、五六二、〇〇〇	八〇、八五二、〇〇〇

第五表

甲東京市ノ分

費目	總額	大正十二年度	大正十三年度	大正十四年度	大正十五年度	大正十六年度	大正十七年度
街路費 事務費	二、三五六、六六八円	五〇、六六六円	一、三五四、三三六	三六九、九九二	六〇、三三四	三二、七四四	
用地及補償費	二、一五四、三三三	五〇、〇〇〇	一、三五四、三三三	三六九、九九二	六〇、〇〇〇	三二、七四四	
工事費	三二、六七、八三	六、六六六	一、九三、三三	一、九三、三三	一、九三、三三	一、九三、三三	
橋梁費	一、八四〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	
雜工雜費	三六、〇八五、〇〇〇	八四四、〇〇〇	一、〇八四、〇〇〇	一、〇八四、〇〇〇	一、〇八四、〇〇〇	一、〇八四、〇〇〇	
土地區劃整理費 事務費	一、二五〇、〇〇〇	三五、六五八	一、〇三、〇三五	二六、一〇三	六、〇八三	三、四四四	
補償費	二、一〇三、〇三五	六、六六六	一、九三、三三	一、九三、三三	一、九三、三三	一、九三、三三	
雜工雜費	三三、九三一、〇〇〇	四一、六六六	一、九三、三三	一、九三、三三	一、九三、三三	一、九三、三三	
計	八四、九四一、〇〇〇	一、二五〇、〇〇〇	一〇、〇六八、〇〇〇	七、九二六、〇〇〇			

東京市ノ執行スル補助街路ニ要スル土地ハ四十一萬二千百十坪ニシテ、內三十二萬坪ハ土地ノ區劃整理ニ依リ、無償收得シ得ルモノニシテ、買收又ハ補償スヘキ土地ハ九萬二千百十坪此代價千七百五十萬九百圓（單價百九十圓トス）ナリ。

土地區劃整理ヲ施行スヘキ宅地ノ面積ハ約七百萬坪ニシテ、國ノ施行スル地區ヲ除キ、市ノ施行スヘキ地區內宅地ノ面積ハ五百五十六萬九千坪ナリ。

乙橫濱市ノ分

費目	總額	大正十二年度	大正十三年度	大正十四年度	大正十五年度	大正十六年度	大正十七年度
街路費 事務費	二三九、〇一〇円	五、〇三三円	一七、二五四、〇〇〇	一〇、〇六八、〇〇〇			
用地及補償費	九八、八五〇	六、六六六	五二、六七、六二六	二三八、一三六			
工事費	一〇、一一四	一、〇三、三三	九、九二七、〇六六	一、〇六、三三			
橋梁費	一二、九四〇	一、〇〇〇	一、〇六、三三	一、〇六、三三			
雜工雜費	九八、〇〇〇	九四、〇〇〇	一、四四、〇〇〇	一、〇七〇、〇〇〇			
土地區劃整理費 事務費	六六、七六八	三四八、七六八	一、五六一、九七八	一、九一〇			
補償費	九二、九一〇	九二、七六一	一、四八、四二三				
雜工雜費	一、〇四一、〇〇〇	一、五九、〇〇〇	九八四、〇〇〇				

權濱市ニ於テ施行スル補助街路ニ要スル土地ハ三萬八千八百九十四坪ニシテ、內九千坪ハ土地ノ區劃整理ニ依リ無償收得シ得ルモノニシテ、買收又ハ補償スヘキ土地ハ二萬九千八百九十四坪、此ノ代價二百六十九萬四百六十圓（單價九十圓トス）ナリ。

土地區劃整理ヲ施行スヘキ宅地ノ面積ハ約七十五萬坪ニシテ、國ノ施行スル地區ヲ除キ市ノ施行スヘキ地區內宅地ノ面積ハ四十五萬坪ナリ。

東京市及橫濱市ノ執行スル街路及土地區劃整理ニ對スル貸付金ハ、五年据置、三十ケ年ニ年五分ノ利子ヲ附シテ均等償還セシムルモノニシテ、右償還額ヲ既定ノ復興事業債償還額ト併セ之ヲ示セハ左ノ

尙之ヲ各費目ニ細分シ其年度割ヲ示セバ、左ノ如シ。

表

事業種別	負擔區分		大正十二年度	大正十三年度	大正十四年度	大正十五年度	大正十六年度	大正十七年度
街路修築	國	1/2	六四五、〇〇〇円	三九、七八一、〇〇〇円	三九、九九二、〇〇〇円	六〇、三三四、〇〇〇円	三二、七四四、〇〇〇円	
	市	1/2	六四五、〇〇〇	三九、七八一、〇〇〇	三九、九九二、〇〇〇	六〇、三三四、〇〇〇	三二、七四四、〇〇〇	
	計		一、二九〇、〇〇〇	七九、五六二、〇〇〇	七九、九八四、〇〇〇	一二〇、六六八、〇〇〇	六五、四八八、〇〇〇	
土地區劃整理	國	2/3	五六、〇〇〇	三三、〇六八、〇〇〇	三三、九二四、〇〇〇	二三、九四四、〇〇〇	一二、三七、〇〇〇	
	市	1/3	二八三、〇〇〇	二一、〇二四、〇三〇	二一、三〇七、〇三〇	三五、九二一、〇〇〇	三五、〇四三、〇〇〇	
	計		八四九、〇〇〇	五四、〇八四、〇三〇	五四、九二四、〇三〇	五九、八六五、〇〇〇	四七、〇八〇、〇〇〇	
	國	1/2	六四五、〇〇〇	三九、七八一、〇〇〇	三九、九九二、〇〇〇	六〇、三三四、〇〇〇	三二、七四四、〇〇〇	
	市	1/2	六四五、〇〇〇	三九、七八一、〇〇〇	三九、九九二、〇〇〇	六〇、三三四、〇〇〇	三二、七四四、〇〇〇	
	計		一、二九〇、〇〇〇	七九、五六二、〇〇〇	七九、九八四、〇〇〇	一二〇、六六八、〇〇〇	六五、四八八、〇〇〇	

乙橫濱市ノ分

事業種別	負擔區分		大正十二年度	大正十三年度以降	計
街路修築	國	1/2	二、九四四、〇〇〇円	三、〇六八、〇〇〇円	
	市	1/2	二、九四四、〇〇〇	三、〇〇八、〇〇〇	
	計		五、八八八、〇〇〇	六、〇七六、〇〇〇	
土地區劃整理	國	2/3	一、三五六、〇〇〇	一、九五二、〇〇〇	
	市	1/3	六七八、〇〇〇	九七六、〇〇〇	
	計		二、〇三四、〇〇〇	二、九二八、〇〇〇	
	國	1/2	二、九四四、〇〇〇	三、〇六八、〇〇〇	
	市	1/2	二、九四四、〇〇〇	三、〇〇八、〇〇〇	
	計		五、八八八、〇〇〇	六、〇七六、〇〇〇	

如シ。

復興事業債償還

自治體	起債額 円	每年度償還額 円	記事
東京市	一二、七四九、六九八	八二九、五八六	起債額ハ事業費貸付金ニ相當ス
神奈川縣	二、五七五、七〇四	一六七、五五三	〃
東京市	八四、九八五、五九五	六、八四六、五〇六	起債額ハ利子補給元金ニ相當ス
横濱市	二一、八九八、六六七	一、七七四、七五五	〃
東京市(追加ノ分)	四一、七四五、〇〇〇	二、七一五、四四二	起債額ハ事業費貸付金ニ相當ス
横濱市(追加ノ分)	四、四〇二、〇〇〇	二八六、五五六	〃
計 東京市	一二、七四九、六九八	八二九、五八六	
計 神奈川縣	二、五七五、七〇四	一六七、五五三	
計 東京市	一二六、七二六、五九五	九、五六五、九四八	
計 横濱市	二六、五〇〇、六六七	二、〇五一、〇九一	
計	一六八、五三二、四六二	一二、六一一、九九八	

備考

一、東京府及神奈川縣起債ハ、年五分三十ケ年均等償還トス。

二、東京市及横濱市起債ハ、電氣、瓦斯、水道事業ニ關スルモノヲ控除シタルモノトシテ、年七分三十ケ年均等償還トス。

三、同上追加ノ分ハ十二間未滿ノ街路改修及土地區劃整理ニ要スルモノトシテ、年五分三十ケ年均等償還トス。

案は大正十三年七月一日震災復興豫算と共に衆議院に提出し、同日大藏大臣濱口雄幸財政計畫を說明す。

大體前內閣編成の豫算を踏襲したるものにして、大正十三年度歲入歲出總豫算追加第一號は、帝都復興關係の經費に係り、追加額四千四十萬餘圓、內新規の追加二千二十餘萬圓、復興局經費二百六十餘萬圓なり、第四十七議會に於て成立したる帝都復興關係經費總額四億六千八百四十餘萬圓にして、修正の結果、新に東京横濱兩市に於て施行すべき街路費及土地區劃整理費は、國の補助若くは貸付を要するより、之が爲め總額一億五百萬圓を追加するの必要あり、然るに其內既に豫算外支出を了したるものありて、將來の所要は一億二百六十餘萬圓と爲り、之を大正十七年度に至る五箇年に亘り支出する事とし、內二千二十餘萬圓を大正十三年度追加豫算として要求したるものとす、右の結果復興局經費を除きたる帝都復興經費總額五億七千三百四十餘萬圓と爲れるを見る。

大正十三年度歲入歲出總豫算追加第二號は震災復舊に要する經費なり、主として政府所有の建築物物件の復舊費及地方公共團體の損害救濟費たり、總額七億五百九十餘萬圓、內一部は豫算外支出を了したれば、將來の所要額は六億六千四百五十餘萬圓なり、大正二十二年度まで十箇年に亘り支出せんとするものにして、內一億二千二百三十餘萬圓を大正十三年度追加豫算として要求したるものとす。

大正十三年度歲入歲出總豫算追加一億二百九十餘萬圓は震災に關係なき普通豫算なり。

以上計上したる大正十三年度追加要求額は、總計二億六千五百七十餘萬圓にして、之に對する歲入は、歲出の追加に伴ふ收入七百四十餘萬圓、租稅收入五千四十餘萬圓、公債金一億五千七百萬圓、前年度剩餘金繰入五千五十餘萬圓、計二億六千五百七十餘萬圓なるが、內租稅收入は、增稅の計畫に依るものに非ず、歲入豫算は、震災の影響を考慮して相當の減收を見積りたり、而も災後半歲の實蹟は多少見積を變更するの適當なるを認めしむ、公債計畫は、大正十三年度所要經費に充つるが爲め新に募集の要あるもの、一般會計所屬に於て、帝都復興諸費一億三千四十餘萬圓、震災復舊諸費一億一千九百四十餘萬圓、計二億四千四百九十餘萬圓、特別會計所屬に於て、朝鮮總督府事業費一千萬圓、帝國鐵道復舊總費三千五百萬圓、計四千五百萬圓、合計二億九千四百九十餘萬圓なり、政府は經濟界の現狀に鑑み、斯る巨額を一般市場に募集するの不可なるを認め、曩に英米市場に募集したる外債の內一億五百餘萬圓を之に充當し、又預金本部をして其資金の餘力を利用して一億五千四百八十餘萬圓を引受けしめ、殘額三千五百萬圓は郵便局賣出の方法に依りて之を調達し、結局本年度は一般市場に於ける新規公債の募集は、一切之を爲さゞる事としたり、尙大正十四年度以降も、緊急已むを得ざるものの外成るべく公債募集を差控へ、殊に一般市場に於ける公募は、出來得る限り之を減少する方針なり。

顧みるに我が財界は、大正九年の反動以來四年、未だ整理安定を見ざるに昨秋の變災あり、之が爲め內帝都復興、各般復舊に依り、數年に亘りて、多大の負擔を加へ、民間各方面亦復興のため資金を要すること多く、外復興必須の物資を輸入し、左なきだに戰後累年輸入超過を爲したる外國貨をして益々逆調に陷らしめ、昨年の入超額朝鮮臺灣を合せて六億二千二百餘萬圓に上り、本年五月末までに早くも六億七千二百餘萬圓の入超を告げ、爲替相場は先例になき低落を見るに至りたり、震災直後の一時的現象に係るもの多きに居るべしと雖、內外の狀況に照し、國際貸借の趨勢決して樂觀を許さず。

此の難局を打開し、財界の整理安定を圖り、更に進んで一般經濟の振興を期せんには、幾多の施設を要すべく、中最も重要なるは、消費に對する政府及國民の一大節制を斷行するに在りと信ず、中央地方の財政を整理緊縮し、以て民間經濟に對する壓迫を緩和すると同時に、國民亦戰時好況時代に馴致せられたる輕佻奢侈の氣分を一掃し、政府の政策と呼應して、克己節約の美風を涵養し、勤儉力行、以て資本の蓄積を圖り、將來に於ける經濟的發展の基礎を確立するを努めざるべからず、是れ軈て我國刻下の難局問題たる物價、產業及國際貸借諸問題を解決すべき關鍵たり、去れば今後復興事業のため撒布する巨額の資金は、あらゆる方法を以て之を吸收し、徒に民間消費の增加となるを防ぎ、吸收したる資金は、再び之を震災地の復興並に地方產業の振興に使用せんと欲す。

案は豫算委員會に於て審議の結果、七月八日左の如く報告す。

報告書

一、(第一號)大正十三年度歲入歲出總豫算追加案

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候、此段及報告候也。

大年十八年七月八日　豫算委員長　片岡直溫

衆議院議長　粕屋義三殿

報告書

一、(追第一號)豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件

右ハ、本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也。

大正十八年七月八日　豫算委員長　片岡直溫

衆議院議長　粕屋義三殿

豫算委員長片岡直溫委員會の經過結果を報告し、大正十三年度豫算は嚮に淸浦內閣十四億四千七百萬圓の豫算を組みて、協贊を求めしも、第四十八議會の衆議院解散に依り、實行豫算十三億四千七百餘萬圓を組み、之に今回の追加豫算二億六千七百萬圓餘を加ふれば、十三年度豫算は實に十六億一千萬圓餘の厖大豫算なりとて、之に對する審議の次第を述べ、第三號追加豫算中政務次官設置經費三萬九千七百七十八圓及特第二號鐵道に關する經費四千三百三十三圓削減の說ありしも少數にて否決し、原案に決したるを報ず、其より政務次官設置費等に關して議論ありしも、復興費に關する異論なく、多數を以て原案を可決す。

貴族院に在りては、七月九日衆議院より案の送付を受け、十日の會

議に之が審査期限を定む。

（第一號）大正十三年度歲入歲出總豫算追加案

右本院ニ於テ可決セリ、因テ議院法第五十四條ニ依リ、及送付候也。

大正十三年七月九日　衆議院議長　粕谷義三

貴族院議長　公爵　徳川家達殿

（追第一號）豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件（追第一號）

右衆議院ヨリ送付シタル各案ヲ審査シ、總テ衆議院議決案ノ通可決スヘキモノナリト議決セリ、依テ及報告候也。

大正十三年七月十六日　豫算委員長伯爵　林博太郎

貴族院議長　公爵　徳川家達殿

林委員長報告して、豫算委員會は、十一日十三日十四日の總會、十五日十六日の分科會、十六日午後の總會に於て、滿場一致を以て原案を可決したるを述べ、質問討論の大要を報す。質義討論の末異議なく可決す。

議員矢口長右衛門、藤本開作の質問、國務大臣濱口雄幸若槻禮次郎の答辯あり、伯爵林博太郎發議し、審査期限を定めず、審査終了次第議場に報告するに決し、十六日報告せらる。

一、大正十三年度歲入歲出總豫算追加案（第一號）

一、豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件（追第一號）

右衆議院ヨリ送付シタル各案ヲ審査シ、總テ衆議院議決案ノ通可決スヘキモノナリト議決セリ、依テ及報告候也。

大正十三年七月十六日　豫算委員長伯爵　林博太郎

貴族院議長　公爵　徳川家達殿

（追第一號）豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件

右本院ニ於テ可決セリ、因テ議院法第五十四條ニ依リ、及送付候也。

大正十三年七月九日　衆議院議長　粕谷義三

貴族院議長　公爵　徳川家達殿

國務大臣濱口雄幸說明の略に云ふ。

大正十三年度歲入歲出總豫算ノ追加第一號ハ、帝都復興關係經費デアリマシテ、其ノ内、新規ノ追加ガ二千二十餘萬圓、復興局ノ經費ガ二百六十餘萬圓、既定年割額ノ增加ガ千七百四十餘萬圓デアリマス、第四十七議會ニ於テ修正成立ヲ致シマシタ所ノ帝國復興關係經費ノ總額ハ四億六千八百四十餘萬圓デアリマシテ、右ノ修正ノ結果、新ニ東京横濱ノ兩市ニ於テ施行スベキ街路費及土地區劃整理費ハ、國ニ於テ補助若クハ貸付ヲ爲スヲ要シマスルカラ、是ガタメ總額一億五百萬圓ヲ追加スルノ必要ガアルノデアリマス、然ルニ右金額ノ内、一部ハ既ニ豫算外ノ支出ヲ了シタルモノガアリマスルカラ、將來ノ所要ハ一億二百六十餘萬圓デアリマシテ、大正十七年度マデ五箇年度ニ亘ツテ支出ヲ要スルモノデアリマス、其内二千二十餘萬圓ヲ大正十三年度追加豫算トシテ要求イタシマシタノデアリマス、右ノ結果ト致シマシテ復興局ノ經費ヲ除キマシタル所ノ帝國復興關係ノ經費總額ハ五億七千三百四十餘萬圓トナリマシタ。

八　第四十九議會決定豫算

第四十七議會に於て復興事業の一部を公共團體に移さんとして創除したる豫算金額は、公共團體への貸付金補助金として第四十九議會の議決する所と爲り、大正十三年七月二十二日を以て公命せらる。

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル大正十三年度歲入歲出總豫算追加ヲ裁可シ、玆ニ之ヲ公布セシム。

御名　御璽

摂政名

大正十三年七月二十二日　内閣總理大臣子爵　加藤高明

内務大臣　若槻禮次郎

大藏大臣　濱口雄幸

豫算

第一條　大正十三年度歲入歲出追加額ヲ各四千四十萬四千七十三圓ト定ム、其歲項ノ金額ハ、別冊甲號歲入歲出豫算ニ據ルヘシ。

第二條　大正十三年度歲入歲出豫算追加中、別冊丙號所揭ノ費途ハ、年度末支出殘額ヲ翌大正十四年度ニ繰越使用スルコトヲ得。

（別冊）

甲號

歲入臨時部

第九款　公債金		
第三項　復興公債及繰替借入金		三七、七四四、〇九四（円）
第十款　前年度剰餘金繰入		三七、七四四、〇九四
第一項　前年度剰餘金繰入		二、六五九、九七九
歲入臨時部合計		二、六五九、九七九
歲出臨時部		四〇、四〇四、〇七三
内務省所管		
第三十一款　復興局		二、六五九、九七九
第一項　俸給		九五九、四六七
第二項　事務費		一、三七一、八七九
第三項　調査及研究費		三二八、六三三
（元大藏省所管）		
第十九款　復興事業費貸付金		
第一項　地方復興事業費貸付金		一一、二〇五、一六一
第二十款　復興事業費補助		一一、二〇五、一六一
第一項　地方復興事業費補助		二五、三三五、二八八
第二項　防火地區建築費補助		二三、三三五、二八八
第二十一款　復興事業債利子補給		二、〇〇〇、〇〇〇
第一項　地方復興事業債利子補給		一、二〇三、六四五
内務省所管合計		四〇、四〇四、〇七三

（別冊）

丙號

内務省所管	
事務費	歲出臨時部第三十一款復興局第二項
防火地區建築費補助	歲出臨時部元大藏省所管第二十款復興事業費補助第二項

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件ヲ裁可シ、玆ニ之ヲ公布セシム。

御名　御璽

摂政名

大正十三年七月二十二日　内閣總理大臣子爵　加藤高明

内務大臣　若槻禮次郎

大藏大臣　濱口雄幸

豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件。

一般會計

内務省所管

地方復興事業費貸付金

東京市及横濱市ニ對シ、復興事業ノ資金ニ充ツル爲、左ノ條件ニ依リ、東京市ニハ總額四千八十一萬五千圓、横濱市ニハ總額四百三十萬七千圓ヲ限リ、貸付スルノ契約ヲ結フコトヲ得。

一、貸付金額ハ、左ノ年割ノ範圍内トス、但シ各年度ニ繰下クルヲ妨ケサルコト。

東京市復興事業費貸付金

大正十三年度	七、七二七、〇〇〇（円）

大正十四年度	一一、二八五、〇〇〇
大正十五年度	一一、四一八、〇〇〇
大正十六年度	六、四二七、〇〇〇
大正十七年度	三、九五八、〇〇〇
計	四〇、八一五、〇〇〇

横濱市復興事業費貸付金

大正十三年度	八四六、〇〇〇
大正十四年度	一、二四五、〇〇〇
大正十五年度	一、一八六、〇〇〇
大正十六年度	六三九、〇〇〇
大正十七年度	三九一、〇〇〇
計	四、三〇七、〇〇〇

二、利率ハ年五分、但シ据置期間中ハ無利子トス。

三、据置期間ハ、大正十八年三月三十一日限トス。

四、償還期限及償還方法ハ、大正十八年四月一日ヨリ起算シ、三十箇年間ニ元利均等償還ノ方法ニ依リ、之ヲ償還セシムルモノトス。

東京市復興事業費補助

東京市復興事業費補助トシテ、總額五千百八十四萬九千圓ヲ限リ左ノ年割ノ範圍內ニ於テ支出スルノ契約ヲ結フコトヲ得。

第四十九議會決定　追加豫算

區分	總額	年度割 十二年度	十三年度	十四年度	十五年度	十六年度	十七年度
復興事業費貸付金	一、〇二三、〇〇〇圓	一、〇二三、〇〇〇圓					
地方復興事業費補助	一、〇二三、〇〇〇	一、〇二三、〇〇〇					
東京市復興事業費補助	九六、〇〇〇	九六、〇〇〇					

此外大正十二年度に豫算外支出を爲したる地方復興事業費補助一、三三七、〇〇〇圓、計二、三六〇、〇〇〇圓を合すれば、第四十九議會決定の追加豫算年度割は、實に左の如きものたるなり。

區分	豫算支出合計	豫算外	年度割 十二年度	十三年度	十四年度	十五年度	十六年度	十七年度
復興事業費貸付金	一、〇二三、〇〇〇圓	一、〇二三、〇〇〇圓						
地方復興事業費補助	一、三三七、〇〇〇	一、三三七、〇〇〇						
東京市復興事業費補助	九六、〇〇〇	九六、〇〇〇						
横濱市復興事業費貸付金	八四六、〇〇〇	八四六、〇〇〇						
復興事業費補助	一、二四五、〇〇〇	一、二四五、〇〇〇						
地方復興事業費補助	一、一八六、〇〇〇	一、一八六、〇〇〇						
東京市復興事業費補助	六三九、〇〇〇	六三九、〇〇〇						
横濱市復興事業費補助	三九一、〇〇〇	三九一、〇〇〇						
合計	四、三〇七、〇〇〇	四、三〇七、〇〇〇						

第四十九議會決定　追加豫算費目別年度割

市別	費目別	總額	十二年度	十三年度	十四年度	十五年度	十六年度	十七年度
東京市	街路費 事務費	九五、〇〇〇円	五〇、八〇〇円	四五、八〇〇				
	街路費 用地及補償費	二、三五六、六六八	四五六、〇〇〇	八九五、〇〇〇	四五六、〇〇〇	四五六、〇〇〇	四五六、〇〇〇	三二、七四八
	街路費 工事費	二、三五九、八三三	四五六、八〇〇	八九五、八〇〇	四五六、八〇〇	四五六、八〇〇	四五六、八〇〇	三二、七四八
	街路費 橋梁費	一、八一〇、〇〇〇	三五〇、六五六	一、〇九八、〇九〇	三五〇、六五六	三五〇、六五六	三五〇、六五六	二五、一二八
	街路費 雜工雜費	二、八〇三、二八	五四、二八	一六九、二八	五四、二八	五四、二八	五四、二八	三、九二〇
	小計	九、〇八三、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇	二、七二〇、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇
	土地區劃整理 事務費	二、〇一三、〇三三	三二、五六五	九八、〇九一	三二、五六五	三二、五六五	三二、五六五	二、二七六
	土地區劃整理 補償費	二、九〇四、六七七	九、三八二	二八、一四六	九、三八二	九、三八二	九、三八二	六五八、四二一
	土地區劃整理 雜工雜費	一、〇八四、二八三	一、〇九八、〇九〇	三、二九四、二七二	一、〇九八、〇九〇	一、〇九八、〇九〇	一、〇九八、〇九〇	七六、八四八
	小計	六、〇〇二、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇	四、二〇〇、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇
横濱市	土地區劃整理 事務費	二、三五六、三三三	三二、五六五	九八、〇九一	三二、五六五	三二、五六五	三二、五六五	二、二七六
	土地區劃整理 補償費	二、九〇四、六七七	九、三八二	二八、一四六	九、三八二	九、三八二	九、三八二	六五八、四二一
	小計	五、二六一、〇〇〇	四一、八四八	一二五、五四四	四一、八四八	四一、八四八	四一、八四八	二、九二八
	計	一一、三四四、〇〇〇	一、四四一、八四八	四、三二五、五四四	一、四四一、八四八	一、四四一、八四八	一、四四一、八四八	一〇二、九二八

大正十三年度	一〇、五〇三、〇〇〇円
大正十四年度	一五、三六九、〇〇〇
大正十五年度	一四、一九九、〇〇〇
大正十六年度	七、八二〇、〇〇〇
大正十七年度	三、九五八、〇〇〇
計	五一、八四九、〇〇〇

横濱市復興事業費補助

横濱市復興事業費補助トシテ、總額五百六十六萬九千圓ヲ限リ、左ノ年割ノ範圍內ニ於テ支出スルノ契約ヲ結フコトヲ得。

大正十三年度	一、二〇三、〇〇〇円
大正十四年度	一、七七八、〇〇〇
大正十五年度	一、五一七、〇〇〇
大正十六年度	七八〇、〇〇〇
大正十七年度	三九一、〇〇〇
計	五、六六九、〇〇〇

此外大正十二年度に豫算外支出を爲したる地方復興事業費補助一、三三七、〇〇〇圓、計二、三六〇、〇〇〇圓を合すれば、第四十九議會決定の追加豫算年度割は、實に左の如きものたるなり。

區分	豫算支出合計	豫算外	年度割 十二年度	十三年度	十四年度	十五年度	十六年度	十七年度
復興事業費貸付金	一、〇二三、〇〇〇圓	一、〇二三、〇〇〇圓						
地方復興事業費補助	一、三三七、〇〇〇	一、三三七、〇〇〇						
東京市復興事業費補助	九六、〇〇〇	九六、〇〇〇						
横濱市復興事業費貸付金	八四六、〇〇〇	八四六、〇〇〇						
復興事業費補助	一、二四五、〇〇〇	一、二四五、〇〇〇						
地方復興事業費補助	一、一八六、〇〇〇	一、一八六、〇〇〇						
東京市復興事業費補助	六三九、〇〇〇	六三九、〇〇〇						
横濱市復興事業費補助	三九一、〇〇〇	三九一、〇〇〇						
合計	四、三〇七、〇〇〇	四、三〇七、〇〇〇						

第四十九議會決定　追加豫算

市別	費目別	總額	十二年度	十三年度	十四年度	十五年度	十六年度	十七年度
東京市	街路費 事務費	九五、〇〇〇円	五〇、八〇〇円	四五、八〇〇				
	街路費 用地及補償費	二、三五六、六六八	四五六、〇〇〇	八九五、〇〇〇	四五六、〇〇〇	四五六、〇〇〇	四五六、〇〇〇	三二、七四八
	街路費 工事費	二、三五九、八三三	四五六、八〇〇	八九五、八〇〇	四五六、八〇〇	四五六、八〇〇	四五六、八〇〇	三二、七四八
	街路費 橋梁費	一、八一〇、〇〇〇	三五〇、六五六	一、〇九八、〇九〇	三五〇、六五六	三五〇、六五六	三五〇、六五六	二五、一二八
	街路費 雜工雜費	二、八〇三、二八	五四、二八	一六九、二八	五四、二八	五四、二八	五四、二八	三、九二〇
	小計	九、〇八三、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇	二、七二〇、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇
	土地區劃整理 事務費	二、〇一三、〇三三	三二、五六五	九八、〇九一	三二、五六五	三二、五六五	三二、五六五	二、二七六
	土地區劃整理 補償費	二、九〇四、六七七	九、三八二	二八、一四六	九、三八二	九、三八二	九、三八二	六五八、四二一
	土地區劃整理 雜工雜費	一、〇八四、二八三	一、〇九八、〇九〇	三、二九四、二七二	一、〇九八、〇九〇	一、〇九八、〇九〇	一、〇九八、〇九〇	七六、八四八
	小計	六、〇〇二、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇	四、二〇〇、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇
横濱市	土地區劃整理 事務費	二、三五六、三三三	三二、五六五	九八、〇九一	三二、五六五	三二、五六五	三二、五六五	二、二七六
	土地區劃整理 補償費	二、九〇四、六七七	九、三八二	二八、一四六	九、三八二	九、三八二	九、三八二	六五八、四二一
	小計	五、二六一、〇〇〇	四一、八四八	一二五、五四四	四一、八四八	四一、八四八	四一、八四八	二、九二八
	計	一一、三四四、〇〇〇	一、四四一、八四八	四、三二五、五四四	一、四四一、八四八	一、四四一、八四八	一、四四一、八四八	一〇二、九二八

費	雜工雜費			五三、〇三八	八、〇七
	小計			四、一四九、〇〇〇	九四、〇〇〇
	計			一〇、一四九、〇〇〇	三二、〇〇〇
	事務費			二、五四五、八八八	三五、八八八
	用地及補償費			三四、一八〇、六三三	三三五、一〇
	工事費			三、九三二、三〇三	四八五、九八
	橋梁費			一四、一八〇、三五〇	二九九、五六六
	雜工雜費			二、〇一三、八九八	六五、九一八
	合計			六四、八四〇、〇〇〇	一、四一八、〇〇〇
	事務費			二、五四〇、七五〇	五八、三三
	補償費			三一、〇六九、八〇三	七六九、一〇七
	雜工雜費			四、九〇一、四八	二八、五四〇
	計			三八、一八〇、〇〇〇	九四二、〇〇〇
	合計			一〇五、〇〇〇、〇〇〇	二、五五〇、〇〇〇

內府縣市執行の復興事業費年度は、

第四十九議會決定　府縣市執行復興事業費年度割

市別	總費額	十二年度	十三年度	十四年度	十五年度	十六年度	十七年度
東京市	九四、八〇五、〇〇〇円	二、二五九、〇〇〇円	一八、二八〇、〇〇〇円	三五、六二七、〇〇〇円	二四、三七九、〇〇〇円	七、九二七、〇〇〇円	一、三三五、〇〇〇円
內一國	三五、〇六〇、〇〇〇	一、三一一、〇〇〇	一〇、四〇〇、〇〇〇	一四、一九九、〇〇〇	七、八一〇、〇〇〇	一、三九八、〇〇〇	一、三九八、〇〇〇
內一市	四一、一四四、〇〇〇	九三八、〇〇〇	七、三七三、〇〇〇	一一、二八八、〇〇〇	六、四三七、〇〇〇	一、四一八、〇〇〇	一、四一八、〇〇〇
橫濱市	一〇、一四九、〇〇〇	三一、〇〇〇	二、四四九、〇〇〇	二、四四九、〇〇〇	二、四四九、〇〇〇	一、四一八、〇〇〇	一、四一八、〇〇〇
內一國	五、七四五、〇〇〇	二五七、〇〇〇	一、三五九、〇〇〇	一、三五九、〇〇〇	一、三五九、〇〇〇	一、四一八、〇〇〇	一、四一八、〇〇〇
內一市	四、四〇三、〇〇〇	九五、〇〇〇	八六五、〇〇〇	一、八六五、〇〇〇	一、八六五、〇〇〇	一、四一八、〇〇〇	一、四一八、〇〇〇
合計	一〇五、〇〇〇、〇〇〇	二、五五〇、〇〇〇	一二、四〇〇、〇〇〇	一六、一九九、〇〇〇	一二、三〇〇、〇〇〇	一二、三〇〇、〇〇〇	一二、三〇〇、〇〇〇
內一國	三八、八三五、〇〇〇	一、三五七、〇〇〇	一、三五七、〇〇〇	一、三五七、〇〇〇	一、三五七、〇〇〇	一、四一八、〇〇〇	一、四一八、〇〇〇
內一市	四六、一四五、〇〇〇	一、一四九、〇〇〇	一、一四九、〇〇〇	一、一四九、〇〇〇	一、一四九、〇〇〇	一、四一八、〇〇〇	一、四一八、〇〇〇

3　復興經費豫算

復興事業費豫算は、第四十七第四十九兩議會の議決を經て決定したるもの、合計五億七千三百四十三萬八千八百四十九圓なり、而して之が年度割は、

第四十七、第四十九兩議會決定　復興事業費年度割

區分	總額	大正十二年度	十三年度	十四年度	十五年度	十六年度	十七年度
帝都復興事業費	三四二、二三一、八〇〇円	六、五九八、八〇〇円	八七、八〇五、〇〇〇円	六九、一八〇、八〇〇円	五四、三五五、九三四	三、九〇一、八八六	三、九〇一、八八六
東京復興事業費	三〇六、六九六、四〇〇	五、四五五、四〇〇	七九、七三七、〇〇〇	六〇、四三〇、〇〇〇	四三、四八八、〇〇〇	三、四八八、〇〇〇	三、四八八、〇〇〇
街路費	二三七、四四五、六〇〇	三、五四三、六〇〇	六二、三〇〇、〇〇〇	四七、〇〇〇、〇〇〇	三四、〇〇〇、〇〇〇	二、七二〇、〇〇〇	二、七二〇、〇〇〇
用地及補償費	二三七、四四五、六〇〇	三、五四三、六〇〇	六二、三〇〇、〇〇〇	四七、〇〇〇、〇〇〇	三四、〇〇〇、〇〇〇	二、七二〇、〇〇〇	二、七二〇、〇〇〇
工事費	三二、〇〇〇、〇〇〇	—	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
橋梁費	七、〇四六、六〇〇	九、三一二、六〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
地下埋設物共同溝費	七、〇四六、六〇〇	九、三一二、六〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
雜工雜費	三一、三五〇、〇〇〇	—	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
運河費	三八、三五〇、〇〇〇	七、〇四六、六〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
用地及補償費	三八、三五〇、〇〇〇	七、〇四六、六〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
工事費	一、〇〇〇、〇〇〇	—	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
雜工雜費	一、〇〇〇、〇〇〇	—	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
公園費	二、二〇七、〇〇〇	二、二〇七、〇〇〇	—	—	—	—	—
用地及補償費	一〇、一〇〇、〇〇〇	一〇、一〇〇、〇〇〇	—	—	—	—	—
設備費	一、二〇〇、〇〇〇	一、二〇〇、〇〇〇	—	—	—	—	—
土地整理費	八、七四〇、〇〇〇	八、七四〇、〇〇〇	—	—	—	—	—
整理費	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	—	—	—	—	—
補償費	五、七四〇、〇〇〇	五、七四〇、〇〇〇	—	—	—	—	—
雜工雜費	二、四九七、〇〇〇	二、四九七、〇〇〇	—	—	—	—	—
橫濱復興費	九、九四二、〇〇〇	九、九四二、〇〇〇	—	—	—	—	—
街路費	九、九四二、〇〇〇	九、九四二、〇〇〇	—	—	—	—	—
用地及補償費	七、七四八、〇〇〇	七、七四八、〇〇〇	—	—	—	—	—
工事費	二、一九四、〇〇〇	二、一九四、〇〇〇	—	—	—	—	—

工事費	五、六三一、四〇〇	三一、八〇	三〇、三八	一、三七九、〇三五	一、三七九、〇三五
橋梁費	三、一五五、〇〇〇	二八、〇〇〇	六八、六七三	一、四七、二四四	一、四七、二四四
雜工費	八五五、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一四、九二	三六、四四五	三六、四四五
河川費	五、六三三、〇〇〇	五、六〇〇	一、三三三、〇〇〇	九六、〇〇〇	九六、〇〇〇
用地及補償費	九二四、四〇〇	三〇、〇〇〇	一、一二四、四〇〇	三五、〇〇〇	三五、〇〇〇
工事費	四、六〇五、一五〇	三一、八〇〇	一、一二五、一五〇	三一、八〇〇	三一、八〇〇
雜工費	九、〇三〇	一、〇〇〇	一、〇三〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
公園費	一、九五九、〇〇〇	九、〇〇〇	一、九五九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇
用地及補償費	三四四、〇〇〇	一八〇、〇〇〇	三四四、〇〇〇	一八〇、〇〇〇	一八〇、〇〇〇
設備費	一、六二四、〇〇〇	—	一、六二四、〇〇〇	—	—
土地整理費	二、三六一、〇〇〇	一、二〇〇、〇〇〇	二、三六一、〇〇〇	一、二〇〇、〇〇〇	一、二〇〇、〇〇〇
整理費	九〇〇、〇〇〇	四五〇、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇	四五〇、〇〇〇	四五〇、〇〇〇
補償費	一、三七九、三〇〇	六九〇、〇〇〇	一、三七九、三〇〇	六九〇、〇〇〇	六九〇、〇〇〇
雜工費	五四五、三〇〇	二七五、〇〇〇	五四五、三〇〇	二七五、〇〇〇	二七五、〇〇〇
復興事業貸付金	六一、四六〇、三三五	三〇、五六五、〇〇〇	六一、四六〇、三三五	三〇、五六五、〇〇〇	三〇、五六五、〇〇〇
地方復興事業貸付金	二、四〇四、四三五	一、〇四〇、〇三五	二、四〇四、四三五	一、〇四〇、〇三五	一、〇四〇、〇三五
東京府復興事業貸付金	二、五四、六六八	三三五、三三五	二、五四、六六八	三三五、三三五	三三五、三三五
神奈川縣復興事業貸付金	四一、四四五、三四	八九六、〇〇〇	四一、四四五、三四	八九六、〇〇〇	八九六、〇〇〇
東京市復興事業貸付金	四一、四四五、三四	八九六、〇〇〇	四一、四四五、三四	八九六、〇〇〇	八九六、〇〇〇
橫濱市復興事業貸付金	一四、〇〇〇、〇〇〇	四、五〇〇、〇〇〇	一四、〇〇〇、〇〇〇	四、五〇〇、〇〇〇	四、五〇〇、〇〇〇
復興事業貸付金	一四、〇〇〇、〇〇〇	四、五〇〇、〇〇〇	一四、〇〇〇、〇〇〇	四、五〇〇、〇〇〇	四、五〇〇、〇〇〇
地方復興事業貸付金	一四、〇〇〇、〇〇〇	四、五〇〇、〇〇〇	一四、〇〇〇、〇〇〇	四、五〇〇、〇〇〇	四、五〇〇、〇〇〇
東京府復興事業貸付金	一四、〇〇〇、〇〇〇	四、五〇〇、〇〇〇	一四、〇〇〇、〇〇〇	四、五〇〇、〇〇〇	四、五〇〇、〇〇〇
神奈川縣復興事業貸付金	一四、〇〇〇、〇〇〇	四、五〇〇、〇〇〇	一四、〇〇〇、〇〇〇	四、五〇〇、〇〇〇	四、五〇〇、〇〇〇
東京市復興事業貸付金	一四、〇〇〇、〇〇〇	四、五〇〇、〇〇〇	一四、〇〇〇、〇〇〇	四、五〇〇、〇〇〇	四、五〇〇

府縣市執行復興事業費年度割

「國」ハ國庫補助、「府」「縣」「市」ハ府縣市負擔

府縣市別		總費額	十二年度	十三年度	十四年度	十五年度	十六年度	十七年度
東京府	國	円 二〇、三三三、二〇四	円 二、三五〇、〇〇〇	円 七、五八三、五〇六	円 一、二二九、七四九、六九八	円 三、二五〇、〇〇〇	円 一、三〇〇、〇〇〇	円 八〇〇、〇〇〇
	內國庫補助額	一、三五九、八三一	一、三五九、八三一					
	內府負擔額	二、一四九、六九八	一、〇四〇、〇一三	六二、九八八	二、四七四、〇四二	三、六八二、三四五	一、〇四〇、〇〇〇	六四〇、〇〇〇
東京市	內國庫補助額	二七、四四二、一〇〇	一四、六九二、八三三	六、〇四〇、〇四二	二、四四二、一〇〇	三、四四二、一〇〇	一、〇四〇、〇〇〇	六四〇、〇〇〇
	內市負擔額	二九、三四二、四〇〇	一四、六九二、八三三	六、〇四〇、〇四二	二、四四二、一〇〇	三、四四二、一〇〇	一、〇四〇、〇〇〇	六四〇、〇〇〇
神奈川縣	國	四、三一八、〇三四	一、三五九、八三一	一、〇四〇、〇一三	四四二、一〇〇	四四二、一〇〇	四四〇、〇〇〇	二七六、〇〇〇
	內縣負擔額	四、三一八、〇三四	一、三五九、八三一	一、〇四〇、〇一三	四四二、一〇〇	四四二、一〇〇	四四〇、〇〇〇	二七六、〇〇〇
橫濱市	內國庫補助額	一二、五九二、〇〇〇	五、〇四〇、〇四二	二、四四二、一〇〇	一、〇四〇、〇〇〇	一、〇四〇、〇〇〇	四四〇、〇〇〇	一七六、〇〇〇
	內市負擔額	一二、五九二、〇〇〇	五、〇四〇、〇四二	二、四四二、一〇〇	一、〇四〇、〇〇〇	一、〇四〇、〇〇〇	四四〇、〇〇〇	一七六、〇〇〇
總計	國	三五、二五〇、〇〇〇	一四、六九二、八三三	六、〇四〇、〇四二	二、四四二、一〇〇	三、四四二、一〇〇	一、〇四〇、〇〇〇	六四〇、〇〇〇
	內國庫補助額	一四、六九二、八三三	六、〇四〇、〇四二	二、四四二、一〇〇	一、〇四〇、〇〇〇	一、〇四〇、〇〇〇	四四〇、〇〇〇	一七六、〇〇〇
	內府負擔額	二〇、三三三、二〇四	八、二八二、三四五	三、四四二、一〇〇	一、四四〇、〇〇〇	一、四四〇、〇〇〇	六一六、〇〇〇	二四六、〇〇〇
	內市負擔額	二〇、三三三、二〇四	八、二八二、三四五	三、四四二、一〇〇	一、四四〇、〇〇〇	一、四四〇、〇〇〇	六一六、〇〇〇	二四六、〇〇〇
	內國庫補助額	一四、六九二、八三三	六、〇四〇、〇四二	二、四四二、一〇〇	一、〇四〇、〇〇〇	一、〇四〇、〇〇〇	四四〇、〇〇〇	一七六、〇〇〇
地方	內國庫補助額	三九、九一五、八八九	一七、一六七、六一七	五八三、八〇九	—	—	—	—
	內府負擔額	三九、九一五、八八九	一七、一六七、六一七	五八三、八〇九	—	—	—	—

東京府執行復興事業費一覽

事業種別

事業種別	總費額	國庫補助額	府負擔額	市負擔額	補助歩合	摘要
道路橋梁	円 七、八三一、七七八	円 三、九一五、八八九	円 三、九一五、八八九		二分ノ一	東海道、陸羽街道、千葉街道及中仙道改修費支出殘額
同	一、七五一、四二六	一、一六七、六一七	五八三、八〇九		三分ノ二	六鄕橋、千住大橋及千住新橋梁橋費支出殘額
道路 環狀線 放射線	七、五〇〇、〇〇〇	二、五〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇		三分ノ一	既定都市計畫事業ノ內 環狀線 四、五四四間 放射線 三、一五二間 工費殘額
街路（追加）	六〇、八五二、〇〇〇	三〇、四二六、〇〇〇	三〇、四二六、〇〇〇		二分ノ一	街路補助線新設擴張同事務費 五八、四五五、三二四
土地區劃整理（追加）	三三、九五一、〇〇〇	一一、三一七、〇〇〇	二二、六三四、〇〇〇		三分ノ二	同事務費 三一、八四八、九六八四
上水道	一〇、〇〇〇、〇〇〇	四分ノ一	二、一〇二、〇三二四			土地區劃整理事業費 二、一〇二、〇三二四
下水道	四三、五〇〇、〇〇〇	二分ノ一	二一、七五〇、〇〇〇			復舊工事費 五、三〇〇、〇〇〇四
公園	一〇、〇〇〇、〇〇〇	三分ノ一	六、六六六、六六八			擴張工事費 四、七〇〇、〇〇〇四
墓苑	一、八五〇、〇〇〇	四分ノ一	一、三八七、五〇〇			既設下水道復舊工事費殘額 三九、〇〇〇、〇〇〇四
中央市場	一五、〇〇〇、〇〇〇	四分ノ一	四六二、五〇〇			第一期工事費殘額 二五、〇〇〇、〇〇〇四
衞生施設	三、一〇〇、〇〇〇	四分ノ一	二、三二五、〇〇〇			第二期工事費殘額 一六、一〇〇、〇〇〇四
教育施設	三八、六一〇、〇〇〇	四分ノ一	二八、九五七、五〇〇			第三期工事ノ一部 七、七六〇、〇〇〇四
社會事業	四、五二五、〇〇〇	職業紹介所 二分ノ一 其ノ他 四分ノ一	一、二四三、七五〇	三、二八一、二五〇		小公園五〇ケ所 一ケ所 一、〇〇〇坪 一坪平均二〇〇圓
計	三、二五〇、〇〇〇	—	七、五八三、五〇六	一二、七四九、六九八		廉芥處分設備費
合計	二〇、三三三、二〇四	—	—	—		

東京市執行復興事業費一覽

事業種別

事業種別	總費額	國庫補助額	府負擔額	市負擔額	補助歩合	摘要
道路橋梁	一六、〇五五、一〇〇円	六、六八九、六二五円	九、三六五、四七五円		十二分ノ五	路面鋪裝復舊費 二八〇、〇〇〇円
街路（追加）	六〇、八五二、〇〇〇	三〇、四二六、〇〇〇	三〇、四二六、〇〇〇		二分ノ一	橋梁復舊改築費 一五、七五五、一〇〇〇円
土地區劃整理（追加）	三三、九五一、〇〇〇	一一、三一七、〇〇〇	二二、六三四、〇〇〇		三分ノ二	街路補助線新設擴張同事務費 五八、四五五、三二四
上水道	一〇、〇〇〇、〇〇〇	四分ノ一	二、五〇〇、〇〇〇	七、五〇〇、〇〇〇		同事務費 二、三九六、六六八四
下水道	四三、五〇〇、〇〇〇	二分ノ一	二一、七五〇、〇〇〇			土地區劃整理事業費 三一、八四八、九六八四
公園	一〇、〇〇〇、〇〇〇	三分ノ一	六、六六六、六六八			復舊工事費 二、一〇二、〇三二四
墓苑	一、八五〇、〇〇〇	四分ノ一	一、三八七、五〇〇			擴張工事費 五、三〇〇、〇〇〇四
中央市場	一五、〇〇〇、〇〇〇	四分ノ一	四六二、五〇〇			既設下水道復舊工事費殘額 四、七〇〇、〇〇〇四
衞生施設	三、一〇〇、〇〇〇	四分ノ一	二、三二五、〇〇〇			第一期工事費殘額 三九、〇〇〇、〇〇〇四
教育施設	三八、六一〇、〇〇〇	四分ノ一	二八、九五七、五〇〇			第二期工事費殘額 二五、〇〇〇、〇〇〇四
社會事業	四、五二五、〇〇〇	職業紹介所 二分ノ一 其ノ他 四分ノ一	一、二四三、七五〇	三、二八一、二五〇		第三期工事ノ一部 一六、一〇〇、〇〇〇四 七、七六〇、〇〇〇四
計	三、二五〇、〇〇〇	—	七、五八三、五〇六	一二、七四九、六九八		小公園五〇ケ所 一ケ所 一、〇〇〇坪 一坪平均二〇〇圓
合計	二〇、三三三、二〇四	—	—	—		廉芥處分設備費

中等學校新營五校

	實費診療所	一五ケ所	四五〇、〇〇〇円
	施療病院	一ケ所	二、五〇〇、〇〇〇円
小學校	一一ケ所	新營一校	一、一〇〇坪
一坪	三〇〇圓		

	職業紹介所	一五ケ所	四五〇、〇〇〇円
	兒童健康相談所	一〇ケ所	三〇〇、〇〇〇円
	婦人授產場	五ケ所	一五〇、〇〇〇円
	託兒所	一〇ケ所	三〇〇、〇〇〇円
	公衆食堂	一〇ケ所	一五〇、〇〇〇円
	簡易宿泊所	一〇ケ所	一五〇、〇〇〇円
	貨物自動車運送場	一ケ所	一七〇、〇〇〇円

電氣事業	四〇、〇〇〇、〇〇〇		—
計	一八二、六四〇、一〇〇		五〇、一五六、七〇七
（追加）	九四、八〇三、〇〇〇		五三、〇六〇、〇〇〇
合計	二七七、四四三、一〇〇		一〇三、二一六、七〇七

神奈川縣執行復興事業費一覽

事業種別	總費額	補助歩合	內譯 國庫補助額	縣負擔額	市負擔額
道路橋梁	八一八、〇七五円	二分ノ一	四〇九、〇三八円	四〇九、〇三八円	三、一〇〇、八三三円
國道（道路橋梁）	五〇〇、〇〇〇	三分ノ二	三三三、三三三	一六六、六六七	
教育施設	二、〇〇〇、〇〇〇	—	—	二、〇〇〇、〇〇〇	—
合計	三、三一八、〇七五	—	七四二、三七一	二、五七五、七〇四	三、一〇〇、八三三

橫濱市執行復興事業費一覽

事業種別	總費額	補助歩合	內譯 國庫補助額	市負擔額
道路橋梁	七、四四二、〇〇〇円	十二分ノ五	四、三四一、一六七円	三、〇〇九、〇〇〇
街路（追加）	六、〇一八、〇〇〇	二分ノ一	三、〇〇九、〇〇〇	三、〇〇九、〇〇〇
土地區劃整理（追加）	四、一七九、〇〇〇	三分ノ二	一、三九三、〇〇〇	二、七八六、〇〇〇
河川	六、〇〇〇、〇〇〇	三分ノ一	四、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇
上水道	三、〇〇〇、〇〇〇	四分ノ一	二、二五〇、〇〇〇	七五〇、〇〇〇
下水道	一、二五〇、〇〇〇	二分ノ一	六二五、〇〇〇	六二五、〇〇〇
衛生施設	一、五〇〇、〇〇〇	—	一、〇〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇
內譯 十全病院	七〇〇、〇〇〇	四分ノ一	—	一七五、〇〇〇
傳染病院	四五〇、〇〇〇	三分ノ一	—	一五〇、〇〇〇
結核療養所	三五〇、〇〇〇	二分ノ一	—	一七五、〇〇〇
教育施設	一〇、二三〇、〇〇〇	四分ノ一	—	二、五五七、五〇〇
教育施設	七、二〇〇、〇〇〇	—	—	七二〇、〇〇〇
教育施設	七五〇、〇〇〇	其ノ他 四分ノ一	—	五二五、〇〇〇
電氣事業	八、五〇〇、〇〇〇	—	—	三〇〇、〇〇〇
瓦斯事業	三、〇〇〇、〇〇〇	—	—	一七五、〇〇〇
中央市場	四、〇〇〇、〇〇〇	—	—	二、七八六、〇〇〇
計	四六、三九二、〇〇〇	四分ノ一	一〇、七四三、三三三	一、〇〇〇、〇〇〇
（追加）	一〇、一九七、〇〇〇	—	五、七九五、〇〇〇	三、〇〇九、〇〇〇
合計	五六、五八九、〇〇〇	—	一六、五三八、三三三	四〇、〇五〇、六六七

摘要			
軌道事業費	三七、六〇〇、〇〇〇圓		
電氣供給事業費	二、四〇〇、〇〇〇圓		
東海道改修費支出殘額			
六鄕橋			
中等學校新營修築二校	三校	一、六七一、〇〇〇圓	三二九、〇〇〇圓
摘要			
道路橋梁費	四、七二九、四四一圓		
街路新設擴張事業費	二、七一二、五五九圓		
同事務費	五、七八〇、九八〇圓		
土地區劃事業費整理同事務費	二三七、〇二〇圓		
	三、九八〇、二六二圓		
	二五八、七三八圓		
護岸修築延長一七、七五〇間、一間平均約三三八圓			
道路改良、配水其ノ他復舊			
延長五〇、〇〇〇間、一間平均	二五圓		

教育施設	七五〇、〇〇〇	其ノ他 四分ノ一	—
電氣事業	八、五〇〇、〇〇〇	—	—
瓦斯事業	三、〇〇〇、〇〇〇	—	—
中央市場	四、〇〇〇、〇〇〇	—	—
計	一、〇〇〇、〇〇〇	—	—
（追加）	三五、六四八、六六七	四分ノ一	一〇、七四三、三三三
合計	四、四〇二、〇〇〇	—	五、七九五、〇〇〇
	四〇、〇五〇、六六七	—	一六、五三八、三三三

4　復興財源

イ　復興財源

復興財源は一に公債に依ること、爲り、帝國議會の協贊を經たる震災善後公債法及復興事業費國庫證券交付の法律は、大正十二年十二月二十四日を以て公布せらる。

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル震災善後公債法ヲ裁可シ、玆ニ之ヲ公布セシム。

御名　御璽

攝政名

大正十二年十二月廿四日

內閣總理大臣伯爵　山本權兵衞

大藏大臣　井上準之助

法律第五十六號

震災善後公債法

第一條　震災ニ伴フ復興事業ニ關スル經費支辨ノ爲、政府ハ四億六

千八百五十萬圓ヲ限リ公債ヲ發行シ、又ハ之カ繰替支辨ノ爲借入金ヲ爲スコトヲ得。

第二條　前條ノ規定ニ依ル公債ノ發行價格差減額ヲ補塡スル爲必要アル場合ニ於テハ、前條ノ制限以外ニ公債ヲ發行シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得。

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス。

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル復興事業ノ施行ニ伴ヒ支拂フヘキ金額ヲ國債證券ヲ以テ交付スル爲ニ關スル法律ヲ裁可シ、玆ニ之ヲ公布セシム。

御名　御璽

攝政名

大正十二年十二月廿四日　內閣總理大臣伯爵　山本權兵衞

大藏大臣　井上準之助

法律第五十五號

第一條　政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ、復興事業ノ施行ニ伴ヒ、土地所有者共ノ他ノ利害關係人ニ支拂フヘキ補償金其ノ他ノ金額ヲ、五分利附國債證券ヲ以テ交付スルコトヲ得。

第二條　政府ハ前條ノ規定ニ依リ交付スル爲必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行スルコトヲ得、但シ其ノ總額ハ震災善後公債法ニ依リ發行スル公債又ハ借入金ト通シテ、同法ノ規定スル制限額ヲ超ユルコトヲ得ス。

震災善後公債法第二條ノ規定ハ、前項ノ規定ニ依ル公債ノ發行ニ付之ヲ準用ス。

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス。

乃ち外債を米英二國に募り、六分半利付米貨公債一億五千萬弗、六分利付英貨公債二千五百萬磅を發行す。

朕米貨公債及英貨公債ノ發行ニ關スル件ヲ裁可シ、玆ニ之ヲ公布セシム。

御名　御璽

攝政名

大正十三年二月十三日　內閣總理大臣子爵　清浦奎吾

大藏大臣　勝田主計

勅令第十七號

第一條　政府ハ震災善後公債法第一條及國債整理基金特別會計法第五條ノ規定ニ依リ、北米合衆國紐育ニ於テ、米貨公債一億五千萬弗及英國倫敦ニ於テ英貨公債二千五百萬磅ヲ發行ス。

第二條　前條ノ公債ノ元利金ノ償還及支拂ハ、將來特殊ノ歲入又ハ資產ヲ擔保トスル公債ヲ發行スル場合ニ於テハ、該歲入又ハ資產ヲ以テ之ト同順位ニ擔保セラルヽモノトス。

第三條　第一條ノ公債ノ發行ニ付テハ、本令ニ定ムルモノヲ除クノ外、必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム。

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス。

大藏省令第三號

六分半利付米貨公債發行規定、左ノ通定ム。

大正十三年二月十三日　大藏大臣　勝田主計

六分半利付米貨公債發行規程

第一條　大正十三年勅令第十七號ニ依リ、北米合衆國紐育ニ於テ發行スル公債ハ、之ヲ六分半利付米貨公債ト稱ス。

第二條　本公債ノ利率ハ、一箇年百分ノ六トス。

第三條　本公債ノ元金ハ、大正四十八年七月十日ニ於テ額面金額ヲ以テ之ヲ償還ス、但シ大正二十八年二月十三日以後ハ、政府ノ都合ニ依リ、何時ニテモ九十日前ニ新聞紙ヲ以テ廣告シ、其ノ全部又ハ一部ヲ償還スルコトヲ得。

前項但書ニ依ル一部償還ノ場合ハ橫濱正金銀行倫敦支店ニ於テ、慣例ニ從ヒ抽籤ヲ執行シ、當籤シタル國債證券ノ番號ハ、元金支拂ノ期日ヨリ一箇月前ニ新聞紙ヲ以テ廣告スヘシ。

第四條　本公債ノ利子ハ、每年一月十日及七月十日ニ於テ、各前六ケ月分ヲ支拂フ、但シ大正十三年七月十日支拂ノ利子ハ額面百磅ニ付一磅十志トス。

第五條　本公債ノ證券ハ、無記名利札附トシ、二十磅、二十五磅、五十磅、百磅及二百磅ノ五種トス。

第六條　本公債ノ發行價格ハ、額面百磅ニ付八十七磅十志トス。

第七條　本公債ノ應募者ハ額面百磅ニ付、左ノ區分ニ依リ拂込ヲ爲スヘシ。

第一項ノ金額ハ、每月分割シテ之ヲ支出シ、其ノ支出金額ニ使用殘額アルトキハ、遞次之ヲ爾後ノ月割支出額ニ充當ス。

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス。

大藏省令第四號

六分利付英貨公債發行規程、左ノ通定ム。

大正十三年二月十三日　大藏大臣　勝田主計

六分利付英貨公債發行規程

第一條　大正十三年勅令第十七號ニ依リ英國倫敦ニ於テ發行スル公債ハ、之ヲ六分利付英貨公債ト稱ス。

第二條　本公債ノ利率ハ、一箇年百分ノ六トス。

第三條　本公債ノ元金ハ、大正四十八年七月十日ニ於テ額面金額ヲ以テ之ヲ償還ス、但シ大正二十八年二月十三日以後ハ、政府ノ都合ニ依リ、何時ニテモ九十日前ニ新聞紙ヲ以テ廣告シ、其ノ全部又ハ一部ヲ償還スルコトヲ得。

前項但書ニ依ル一部償還ノ場合ハ橫濱正金銀行倫敦支店ニ於テ、慣例ニ從ヒ抽籤ヲ執行シ、當籤シタル國債證券ノ番號ハ、元金支拂ノ期日ヨリ一箇月前ニ新聞紙ヲ以テ廣告スヘシ。

第四條　本公債ノ利子ハ、每年一月十日及七月十日ニ於テ、各前六ケ月分ヲ支拂フ、但シ大正十三年七月十日支拂ノ利子ハ額面百磅ニ付一磅十志トス。

第五條　本公債ノ證券ハ、無記名利札附トシ、二十磅、二十五磅、五十磅、百磅及二百磅ノ五種トス。

第六條　本公債ノ發行價格ハ、額面百磅ニ付八十七磅十志トス。

第七條　本公債ノ應募者ハ額面百磅ニ付、左ノ區分ニ依リ拂込ヲ爲スヘシ。

一、應募申込ノ際　五　磅
二、募入決定ノ際　二十　磅
三、大正十三年三月十七日　二十五磅
四、大正十三年四月十四日　二十　磅
五、大正十三年五月十二日　十七磅十志

第八條ノ規定ニ依リ代用拂込ヲ爲ス場合ニ於テハ、大正十三年二月二十日迄ニ其ノ拂込ヲ爲スヘシ。

第八條　四分半利付英貨公債ハ、額面百磅ニ付左ノ價格ヲ以テ前條ノ拂込金ニ代用スルコトヲ得。

第一回四分半利付英貨公債　百十三磅九志十片。
第二回四分半利付英貨公債　百十三磅十九志九片。

第九條　政府ハ大正十八年七月ヨリ本公債ノ償還期日ニ至ル迄六箇月毎ニ九十萬三千三百二十四磅ヲ支出シ、本公債元利金ノ支拂ニ充ツヘシ。

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス。

等で內國債二千四百二十萬圓を起す。

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ、樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ、帝國憲法第七十號第一項ニ依リ、震災善後ニ關スル經費支辨ノ爲、公債發行ニ關スル件ヲ裁可シ、之ヲ公布セシム。

御名　御璽

摂政名

大正十三年二月十九日　內閣總理大臣子爵　清浦　奎吾
內務大臣　水野錬太郎
農商務大臣子爵　前田　利定
文部大臣　江木　千之

海軍大臣　村上　格一
外務大臣男爵　松井慶四郎
司法大臣　鈴木喜三郎
大藏大臣　勝田　主計
陸軍大臣　宇垣　一成
鐵道大臣　小松謙次郎
遞信大臣男爵　藤村　義朗

勅令第四十六號

震災善後ニ關シ必要ナル經費支辨ノ爲、政府ハ二千四百二十萬圓ヲ限リ公債ヲ發行シ、又ハ之カ繰替支辨ノ爲借入金ヲ爲スコトヲ得。

前項ノ規定ニ依ル公債ノ發行價格差減額ヲ補塡スル爲必要アル場合ニ於テハ、前項ノ制限以外ニ公債ヲ發行シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得。

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス。

（參　照）

明治二十二年二月十日公布大日本帝國憲法抄錄

第七十條第一項

公共ノ安全ヲ保持スル爲緊急ノ需用アル場合ニ於テ、內外ノ情形ニ因リ、政府ハ帝國議會ヲ召集スルコト能ハサルトキハ、勅令ニ依リ財政上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得。

二　復興財源更定

乾　第四十九議會議決

子、震災善後公債法改正　大正十三年七月一日政府は第四十九議會衆

議院に左の議案を提出す。

震災善後公債法中改正法律案

震災善後公債法中左ノ通改正ス。

第一條中、「震災ニ伴フ復興事業ニ關スル經費支辨ノ爲」ヲ震災ニ伴フ復興事業其ノ他震災善後ノ爲ニ要スル經費支辨ノ爲」ニ、「四億六千八百五十萬圓」ヲ「十億七千五百萬圓」ニ改ム。

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス。

二日第一讀會を開き、國務大臣濱口雄幸說明す、「現行震災善後公債法規定の公債發行限度は四億六千八百五十萬圓にして、帝都復興豫算額四億六千八百四十三萬八千八百四十九圓を切上げたるものに外ならず、然るに帝都復興費追加一億五百萬圓及震災に因る各種の復舊事業費中の五億二千三百三十一萬圓五千八百四十四圓亦債源を公債に求むることゝし、總額十億九千六百七十四萬四千六百九十三圓と爲る、內二千四百十八萬二千五百圓は、既に財政上の緊急處分として大正十三年勅令第四十六號に依り起債して、殘額端數を切上げ、十億七千三百萬圓、之を震災善後公債法規定公債の發行限度とする必要あり、乃ち本法律案を提出す」と、議員高木益太郎の質問、直木政府委員（倫太郎）の答辯あり、委員付託と爲る。

震災善後公債法中改正法律案

額母木桂吉、小野重行、八並武治、土屋興、志村清右衛門、矢野鉦吉、若尾幾造、本田義成、植原悅次郎。

七月八日委員の報告あり。

報　告　書

一、震災善後公債法中改正法律案（政府提出）

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候、此段及報告候也。

大正十三年七月八日　衆議院議長　粕谷義三殿

委員長額母木桂吉九日の議場に委員會の經過結果を報告し、委員會中區劃整理に關して種々の議論ありたるを報じ、直に第二讀會第三讀會を開きて確定す。

貴族院は七月九日衆議院の送付を受け、十日の議事に上程す。

震災善後公債法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ、及送付候也。

大正十三年七月九日　貴族院議長　公爵　徳川家達殿　衆議院議長　粕谷義三

震災善後公債法中改正法律案

（法文略）

國務大臣濱口雄幸述ぶ。

現在ノ震災善後公債法ノ規定ニ依リマスレバ、其公債ノ發行限度ハ四億六千八百五十萬圓デアリマシテ、後ノ金額ハ、帝都復興費豫算額四億六千八百四十三萬八千八百四十九圓ヲ切上ゲタノデアリマスルガ、右ノ外帝都復興費ノ追加一億五百萬圓及ビ震災ニ依ル各種ノ復興事業ノ爲ニスル費額ノ中、五億二千三百三十萬六千八百四十四圓、是モ亦其財源ヲ公債ニ求ムルコトニ致シタノデ、總額十億九千六百七十四萬五千六百九十三圓トナリマスルガ、右ノ中二千四百十八萬千五十圓ハ、既ニ財政上ノ緊急處分トシテ、大正十三年勅令第四十六號ニ依リ起債ヲ濟マセマシタノデ、之ヲ除キマシタル殘額ニ對シ端數ヲ切上ゲマシテ、十億七千六百萬圓トシテ、震災善後公債法ニ規定スル公債ノ發行ヲ企圖スル必要ヲ認メタノデアリマス、仍テ玆ニ同法中改正法律案ヲ提出シタ次第デアリマス。

議長は直に左の特別委員を指名したり。

子爵　本多　忠鋒　　子爵　八條　隆正　　中村　是公
男爵　鄉　誠之助　　男爵　小畑大太郎　　山之內一次
永田秀次郎　　大谷嘉兵衛　　横山　章

十六日審査結果の報告あり。

震災善後公債法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ、依テ及報告候也。

大正十三年七月十六日

特別委員長　子爵　八條　隆正

貴族院議長　公爵　徳川家達殿

八條子爵報告すらく、政府は復興事業のため四億六千八百五十萬圓の公債を發行する事となしたりしも、更に目的範圍を擴張して、各般の震災復舊事業及追加復興事業費を、同じく公債に依る事となしたるがため、公債の發行限度を十億七千三百萬圓と爲さんとするものに係り、帝都復興費追加として、東京横濱兩市執行の街路及土地整理資金四千六百十四萬五千圓を貸付け、同事業費五千八百八十五萬五千圓を補助し、合せて一億五百萬圓、更に復舊經費五億二千五百三十萬餘圓、以て電信、電話、諸官衙、要塞、諸學校其他を復舊せんとし、總額十億九千六百七十四萬五千六百九十三圓中、大正十三年勅令第四十六號の緊急財政處分に依り、公債二千四百十八萬一千五十一圓を發行したるを以て、今後殘額十億七千三百萬圓の公債を發行せんとするの案なり、質問中鐵道復舊に要する資源に及び、政府は鐵道の復舊復興費一億二千萬圓も同じく公債に依る外なけれども、鐵道特別會計に屬するより、之を一般會計の震災善後公債に區別したりと答へ、討論に入りて何等の議論もなく、直に全會一致を以て原案を可決したりと、異議なく引續二讀會三讀會を開きて之を可決す。

丑、公債發行事後承諾　大正十三年勅令第四十六號（震災善後に關する公債發行の件）の承諾を求むる件は、同く七月一日第四十九議會衆議院に提出せられ、三日第一讀會を開き、政府委員小野義一の說明あり。

震災復舊事業經費の內、東京外五縣及此等府縣內の市町村應急施設費並に歲入缺陷補塡貸付金二千萬圓、及一府五縣東京横濱兩市の大藏省預金部より借入れたる借入金利子補給三十二萬千五十一圓、東京横濱兩市の改良修築及區劃整理に對する貸付百二萬三千圓、之に對する補助百三十三萬圓七千圓、私立學校復舊費貸付百五十萬圓、計二千四百十八萬一千五十一圓は、大正十二年度經費にして財源を公債に求めたるもの、十二年度の起債を要したれども、衆議院解散のため協賛を得る能はず、財政上の緊急處分を行ひたるなり、眞に已むを得ざるに出で、玆に承諾を求む。

と、直に震災善後公債法中改正法律案の委員に付託す、八日報告あり。

報告書

一、大正十三年勅令第四十六號（震災善後ニ關スル公債發行ノ件）（承諾ヲ求ムル件）

右ハ本院に於て承諾スヘキモノト議決致候此段及報告候也。

大正十三年七月八日

大正十三年勅令第四十六號（震災善後ニ關スル公債發行ノ件）委員長　賴母木桂吉

衆議院議長　粕谷義三殿

九日の議場に賴母木委員長の報告あり、異議なく可決す。

貴族院に在りては、七月九日衆議院の送付を受く。

大正十三年勅令第四十六號（震災善後ニ關スル公債發行ノ件）（承諾ヲ求ムル件）

右本院ニ於テ承諾スヘキモノト議決セリ、因テ議院法第五十四條ニ依リ、及送付候也。

大正十三年七月九日

貴族院議長　公爵　徳川家達殿

衆議院議長　粕谷義三

（勅令略）

七月十日の議事に上るや、國務大臣濱口雄幸說明す。

過般ノ震災ニ基ク諸般ノ復舊事業ニ要スル經費ノ中、東京神奈川埼玉千葉靜岡山梨ノ一府五縣、並ニ是等ノ府縣內ノ市町村ノ應急施設費及歲入缺陷ヲ補塡スル爲ノ貸付金二千萬圓、右一府五縣及東京横濱兩市ノ大藏省ノ預金部カラ貸付ヲ受ケマシタ前ノ借入金ノ利子補給三十二萬千五十一圓、東京横濱兩市ノ執行スル復興事業中、街路修築及土地區劃整理ニ關スル貸付金百二萬三千圓、之ニ對スル補助費百三十三萬七千圓及私立學校ノ復舊ノ爲ニスル貸付金百五十萬圓、合計二千四百十八萬千五十一圓ハ、何レモ大正十二年度ノ經費デアリマシテ、而モ之ガ財源ヲ公債ニ求メマシタノデ、大正十二年度內ニ是非共起債ノ必要ガアリマシタ、然ルニ時恰モ衆議院解散後デアリマシテ、遺憾ナガラ帝國議會ノ協賛ヲ得ルノ途ガアリマセヌノデ、已ムコトヲ得ズ、帝國憲法第七十條ニ依リマシテ、財政上ノ緊急處分トシテ、大正十三年勅令第四十六號ヲ公布イタシマシタノデアリマス、而シテ之ガ實行トシテハ、預金部引受ノ方法ニ依リ、五分利國庫債券額面二千四百十八萬一千五十圓ヲ發行イタシマシタ、右ハ實ニ緊急已ムコトヲ得ズ、政府ノ行ヒマシタ處分デアリマスノデ、何卒御審議ノ上、承諾ヲ與ヘラレムコトヲ希望スル次第デアリマス。

直に震災善後公債法中改正法律案の特別委員に付託す、十六日左の報告出づ。

大正十三年勅令第四十六號

右承諾スヘキモノナリト議決セリ、依テ及報告候也。

大正十三年七月十六日

右特別委員長　子爵　八條　隆正

貴族院議長　公爵　徳川家達殿

十七日の議場に八條委員長より報告あり、異議なく承諾を與ふるに決したり。

寅、復興貯蓄債券法　大正十三年七月五日政府は之を衆議院に提出す

復興貯蓄債券法案

復興貯蓄債券法

第一條　政府ハ、日本勸業銀行ヲシテ復興貯蓄債券ヲ發行セシムルコトヲ得。

第二條　復興貯蓄債券ハ、無記名トシテ、券面金額ハ五圓又ハ十圓トス。

第三條　復興貯蓄債券ハ、割引又ハ利子据置ノ方法ニ依リ之ヲ賣出スモノトス。

割引金額及利子歩合ハ、主務大臣之ヲ定ム。

第四條　復興貯蓄債券ハ、發行ノ翌年ヨリ二十年以內ニ每年二回以上抽籤ヲ以テ之ヲ償還スヘシ。

復興貯蓄債券ヲ償還スル場合ニハ、割增金ヲ附與スルコトヲ得、其ノ方法及金額ハ主務大臣之ヲ定ム。

第五條　復興貯蓄債券ニハ、商法第百九十九條乃至二百條ノ二ノ規定ヲ適用セス。

第六條　復興貯蓄債券ニハ印紙稅ヲ、復興貯蓄債券ノ發行ニ依ル社債ノ登記ニハ登錄稅ヲ、復興貯蓄債券ノ利子ニハ所得稅ヲ課セス。

第七條　日本勸業銀行ハ、復興貯蓄債券ノ發行ニ依ル收入金ヲ大藏省預金部ニ預入ルヘシ。

前項ノ預入ニ依ル資金ハ、震災地ノ復興及地方産業ノ振興ノ爲必要ナル用途ニ之ヲ融通ス。

第八條　復興貯蓄債券ノ模造ニ關シテハ、通貨及證券模造取締法ヲ準用ス。

第九條　復興貯蓄債券ニハ、日本勸業銀行法第三十五條ノ二、第三十五條ノ三、第四十條及第四十二條ノ規定ヲ準用ス。

第十條　復興貯蓄債券ハ、其ノ發行ニ依ル收入金二億圓ニ達シタルトキ、又ハ本法施行ノ日ヨリ五年ヲ經過シタルトキハ、之ヲ發行セス。

附　則

本法ハ、公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス。

衆議院は、七月八日之を議題とし、國務大臣濱口雄幸提出の理由を說明して言ふ、我國經濟界の現狀を觀れば、震災地經濟復興及地方產業の振興を圖るため多額の資金を要するの一面、一般國民の貯蓄を奬勵し、其消費を節約せしむるは、刻下の急務なり、政府は玆に見る所あり、民間零細の資金、殊に今後數年に亘りて帝都復興震災復舊のため民間に撒布すべき資金を吸收し、再び之を震災地復興並に地方產業振興の資金に融通せんとし、乃ち小額面の復興貯蓄債券を發行する計畫を樹つ、發行期間五箇年、發行に因る收入金二億圓を限度とし、日本勸業銀行をして、之を發行せしむる事としたりと、議員武藤山治の質問、濱口國務大臣の答辯あり、特別委員の審査に付す。

復興貯蓄債券法案

清水留三郎　淺賀長兵衛　加藤　嗣一　紺野九右衛門
川崎　克　小田　又司　米原於寬男　浦野　謙朗
八木逸一郎　井出繁三郎　東　幸治　木暮　正一
藤澤萬九郎　佐々木長治　竹內友治郎　岡田　忠彥

杉　宣陳　高木　正年

十一日委員の報告あり。

報　告　書

一、復興貯蓄債券法（政府提出）

右ハ、本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候、此段及報告候也。

復興貯蓄債券法案委員長

大正十三年七月十一日　竹內友治郎

衆議院議長　粕谷義三殿

委員長竹內友次郎十二日の議場に報告して條件付可決をなしたるを言ひ、左の二條件を朗讀す。

一、復興貯蓄債券ノ募集ニ當ツテハ、農村金融ヲ阻害セザルヤウ細心ノ注意ヲ加フルト共ニ、地方產業振興ノ爲メ、其資金ノ內ヨリ必ズ半額ヲ融通セラレム事ヲ望ム。

二、政府ハ本案ノ實施ニ當リ、速カニ預金部制度ノ改正ヲ行フベシ。

議員東武の質問、濱口國務大臣の答辯後、八木逸郎、藤澤代本案に反對し、川崎克、高木正年贊成の意味を述べ、多數を以て第二讀會を開き、異議なく第三讀會を省略して之を可決す。

貴族院は、七月十二日衆議院の送付を受く。

復興貯蓄債券法案

右政府提出案、本院ニ於テ可決セリ、因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也。

大正十三年七月十二日　衆議院議長　粕谷義三

貴族院議長　公爵　德川家達殿

復興貯蓄債券法案略。

十三日の議場に於て國務大臣濱口雄幸の說明あり、我邦經濟界の現狀たる震災地經濟を復興し、地方產業を振興するため、相當巨額の資金を要すると同時に、一面には廣く國民の貯蓄を奬勵し、消費を節制せしむべき方策を講ずるを急務とし、政府は民間撒布の零細資金、殊に復興復舊事業に依りて撒布する資金を吸收し、再び之を復興費及地方產業振興費に融通せんとし、乃ち小額面復興貯蓄債券發行の計畫を立てたり、即ち發行期間を五箇年とし、收入金二億圓を限度と爲し、日本勸業銀行をして之を發行せしめ、額面金額を五圓十圓の二種とし、割引又は利子据置の方法を取り、二十年以內に償還し、償還の場合は增劃金を附與することを得せしめ、尙此の債券には印紙稅を免じ、登記に登錄稅を除き、債券の利子には所得稅を課せざる事としたりと述ぶ、案は震災に因る喪失無記名國債證券に關する法律案の特別委員に付託せらる、委員左の如し。

子爵　前田　利定　　武富　時敏　男爵　阪谷　芳郎
神野勝之助　男爵　池田　長康　　藤田　四郎
高田　早苗　　花井　卓藏　　安田善三郎

委員は七月十四日を以て審査の結果を報告して云ふ。

復興貯蓄債券法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ、依テ及報告候也。

右委員長

大正十三年十月十四日　子爵　前田　利定

貴族院議長　公爵　德川家達殿

十七日委員長委員會の經過結果を議場に報告し、議員土方寧藤本開作の質問、小野政府委員（後一）濱口國務大臣の答辯後、討議に入るや、土方議員藤本議員反對意見を述べ、其方法たる國民の貯蓄を奬勵する所以に非ざるのみならず、却て射利心僥倖心を挑發する恐れあり、或は眞に國民の貯蓄を奬勵せんとするか、宜く郵便貯金の利率を引上ぐるの勝るに如かずと爲す、採決するに及び、過半數を以て二讀會を開くに決し、直に二三讀會を開きて之を可決す。

坤　復興財源更定

子、震災善後公債法改正　大正十二年法律第五十六號を以て、震災善後公債四億六千八百五十萬圓發行を規定したりしを改め、大正十二年法律第十二號を以て追加復興費及復興費を加へたる額相當の十億七千三百萬圓に改む。

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル震災善後公債法中改正法律ヲ裁可シ、玆ニ之ヲ公布セシム。

御名　御璽

勅　政　名

大正十三年七月二十二日　內閣總理大臣子爵　加藤　高明
大藏大臣　濱口　雄幸

法律第十三號

震災善後公債法中、左ノ通改正ス。

第一條中「震災ニ伴フ復興事業ニ關スル經費支辨ノ爲」ヲ震災ニ伴フ復興事業其ノ他震災善後ノ爲ニ要スル經費支辨ノ爲」ニ「四億六千八百五十萬圓」ヲ「十億七千三百萬圓」ニ改ム。

附　則

本法ハ、公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス。

（參照）

大正十二年十二月二十日公布　法律第五十六號震災善後公債抄錄

第一條　震災ニ伴フ復興事業ニ關スル經費支辨ノタメ、政府ハ、四億六千五十萬圓ヲ限リ、公債ヲ發行シ、又ハ之カ繰替支辨ノ

爲借入金ヲ爲スコトヲ得。

丑、復興貯蓄債券法　大正十三年七月二十三日法律第十五號を以て復興貯蓄債券法を定む。

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル復興貯蓄債券法ヲ裁可シ、玆ニ之ヲ公布セシム。

御名　御璽

攝政名

大正十三年七月二十三日　內閣總理大臣子爵　加藤　高明

大藏大臣　濱口　雄幸

法律第十五號

復興貯蓄債券法

第一條　政府ハ、日本勸業銀行ヲシテ復興貯蓄債券ヲ發行セシムルコトヲ得。

第二條　復興貯蓄債券ハ、無記名トシテ、券面金額ハ五圓又ハ十圓トス。

第三條　復興貯蓄債券ハ、割引又ハ利子據置ノ方法ニ依リ之ヲ賣出スモノトス。

割引金額及利子步合ハ、主務大臣之ヲ定ム。

第四條　復興貯蓄債券ハ、發行ノ翌年ヨリ二十年以內ニ、每年二回以上抽籤ヲ以テ之ヲ償還スヘシ、復興貯蓄債券ヲ償還スル場合ニハ割增金ヲ附與スルコトヲ得、其ノ方法及金額ハ主務大臣之ヲ定ム。

第五條　復興貯蓄債券ニハ、商法第百九十九條乃至第二百條ノ二ノ規定ヲ適用セス。

第六條　復興貯蓄債券ニハ印紙稅ヲ、復興貯蓄債券ノ發行ニ依ル社債ノ登記ニハ登錄稅ヲ、復興貯蓄債券ノ利子ニハ所得稅ヲ課セス。

第七條　日本勸業銀行ハ、復興貯蓄債券ノ發行ニ依ル收入金ヲ大藏省預金部ニ預入ルヘシ。

前項ノ預入ニ依ル資金ハ、震災ノ復興及地方產業ノ振興ノ爲必要ナル用途ニ之ヲ融通ス。

第八條　復興貯蓄債券ノ模造ニ關シテハ、通貨及證券模造取締法ヲ準用ス。

第九條　復興貯蓄債券ニハ、日本勸業銀行法第三十五條ノ二、第三十五條ノ三、第四十條及第四十二條ノ規定ヲ準用ス。

第十條　復興貯蓄債券ハ、其ノ發行ニ依ル收入二億圓ニ達シタルトキ、又ハ本法施行ノ日ヨリ五年ヲ經過シタルトキハ之ヲ發行セス。

附　則

本法ハ、公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス。

【參照】

明治三十二年三月九日公布　法律第四十八號商法抄錄

第百九十九條　社債ハ第二百九條ニ定メタル決議ニ依ルニ非サレハ之ヲ募集スルコトヲ得ス。

第二百條　社債ノ總額ハ、拂込ミタル株金額ヲ超ユルコトヲ得ス。

最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財產カ前項ノ金額ニ滿タサルトキハ、社債ノ總額ハ其財產ノ額ニ超ユルコトヲ得ス。

第二百條ノ二　會社ハ前ニ募集シタル社債總額ノ拂込ヲ爲サシメタル後ニ非サレハ、更ニ社債ヲ募集スルコトヲ得ス。

明治二十九年四月二十日公布　法律第八十二號日本勸業銀行法抄錄

第三十五條ノ二　日本勸業銀行ハ、券面金額二十圓以下ノ勸業債券ヲ發行スル場合ニ於テハ賣出ノ方法ニ依ルコトヲ得、此ノ場合ニ於テハ賣出期間ヲ定ムルコトヲ要ス。

前項ノ場合ニ於テハ社債申込證ヲ作ルコトヲ要セス。

第一項ノ規定ニ依リ發行スル勸業債券ニハ、商號及商法第百七十三條第二號、第四號乃至第六號ニ揭ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス、商法第二百四條ノ三第一項ノ期間ハ、勸業債券ノ賣出期間滿了ノ日ヨリ之ヲ起算シ、其ノ登記スヘキ事項ハ、賣出期間內ニ於ケル勸業債券ノ賣上總額及商法第百七十三條第四號乃至第六號ニ揭ケタル事項トス。

賣出ノ方法ニ依リ、勸業債券ヲ發行シタル場合ニ於ケル社債ノ登記ノ申請書ニハ、賣出期間內ニ於ケル勸業債券ノ賣上總額ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス。

第三十五條ノ三　日本勸業銀行ハ、賣出ノ方法ニ依リ勸業債券ヲ發行セムトスルトキハ、賣出期間及商法第二百三條第二項第一號乃至第三號ニ揭ケタル事項ヲ公告スヘシ。

第四十條　勸業債券ノ所有者、其ノ元金又ハ利子ヲ要求セサルトキハ、元金ハ十五箇年、利子ハ五箇年ニシテ、其ノ要求ノ權ヲ失フモノトス。

第四十二條　割增金附無記名勸業債券又ハ其ノ利札ヲ喪失シタル者ハ、擔保ヲ提供シ、又ハ確實ナル保證金ヲ立テ、其ノ元金、割增金、又ハ利子ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得。

寅、復興交付公債　復興事業の進捗に伴ひ、大正十六年十二月法律五十五條に依る公債の發行交付を要するに至り、十三年五月勅令を以て國債證券交付の場合を定め、六月大藏省令を以て公債の發行交付に關する規程を定む。

朕復興事業ノ施行ニ伴ヒ交付スヘキ國債證券ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム。

御名　御璽

攝政名

大正十三年五月三十一日　內閣總理大臣子爵　清浦　奎吾

內務大臣　水野錬太郎

大藏大臣　勝田　主計

勅令第百三十七號

第一條　復興事業ノ施行ニ伴ヒ、政府カ土地所有者其他ノ利害關係人ニ對シ支拂フヘキ補償金其他ノ左ニ揭クル場合ニ於テハ、五分利附國債證券ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得、但シ國債ノ最小額面ノ交付價格ニ滿タサル額ニ付テハ、此ノ限ニ在ラス。

一、特別都市計畫法第八條第一項規定ニ依リ交付スヘキ補償金ヲ支拂フトキ。

三、直接自己ノ用ニ供セサル土地又ハ建物其他ノ工作物ヲ收用又ハ買收シタル場合ニ於テ、其ノ所有者ニ補償金又ハ對價ヲ支拂フトキ。

三、直接自己ノ用ニ供セサル借地又ハ其ノ上ニ存スル借地權ヲ收容又ハ買收シタル場合ニ於テ、其借地權者ニ補償金又ハ對價ヲ支拂フトキ。

四、收用又ハ買收シタル土地ノ殘地ヲ從來用ヰタル目的ニ供シ得ル場合ニ於テ、當該土地ノ所有者又ハ借地權者ニ對シ、補償金又ハ對價ヲ支拂フトキ。

五、現金ヲ以テ補償金又ハ對價ヲ交付スヘキ場合ト雖モ之ヲ受クヘキ者カ同意シタルトキ。

第二條　左ニ揭クル場合ニ於テ支拂フヘキ補償金又ハ對價ハ之ヲ受クヘキ者ノ請求ニ因リ現金ヲ以テ之ヲ交付ス。

一、前條第一號ノ場合ニ於テ直接自己ノ用ニ供スル土地ニ付、其ノ所有者又ハ借地權者ノ換地ノ交付ヲ受ケサリシトキ、又ハ換地ノ交付ヲ受ケ若ハ換地ノ交付ト共ニ、借地權ニ付換地ノ指定ヲ受ケタルモ、之ヲ從來用ヰタル目的ニ供スルコト能ハサルトキ。

二、前條第二號乃至第四號ノ場合ニ於テ、對價ノ目的タル土地又ハ借地權カ對價ヲ受クヘキ者ノ債務ノ擔保タルトキ、但シ當該債

務ノ元利支拂ニ要スル金額ヲ限度トス。

第三條　第一條第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ、支拂フヘキ補償金又ハ對價ハ、前條ノ規定ニ依リ交付スル金額ノ外、之ヲ受クヘキ者ノ請求ニ因リ、一人ニ付五千圓ヲ限リ現金ヲ以テ之ヲ交付ス。

第四條　本令ニ於テ借地權、永小作權、貸借權及國有財産法第二十四條ノ規定ニ依リ、土地ノ貸付ヲ受クル者ノ權利ヲ謂フ。

第五條　國債ノ交付價格ハ、時價ヲ參酌シテ大藏大臣之ヲ定ム。

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス。

〔參照〕

大正十年四月八日公布法律第四十三號國有財産法抄錄

第二十四條　從前ヨリ引續キ寺院又ハ佛堂ノ用ニ供スル祭禮財産ハ、勅令ノ定ムル所ニ依リ、其ノ用ニ供スル間無償ニテ之ヲ當該寺院又ハ佛堂ニ貸付シタルモノト看做ス。

寺院又ハ佛堂ノ上地ニ係ル祭禮財産ハ、其ノ用ニ供スル爲必要アルトキハ、勅令ノ定ムル所ニ依リ、無償ニテ第十五條ノ規定ニ拘ラス、之ヲ當該寺院又ハ佛堂ニ貸付スルコトヲ得。

大藏省令第十六號

大正十二年法律第五十五號第二條ニ依リ發行スル公債ノ發行交付ニ關スル規定左ノ通定ム。

大正十三年六月十二日　　大藏大臣　濱口　雄幸

復興交付公債ノ發行交付ニ關スル規程

第一條　政府ハ、大正十二年法律第五十五號第二條ニ依リ五分利公債ヲ發行ス。

第二條　本公債ノ元金ハ、發行ノ年ヨリ五年据置キ、其ノ翌年ヨリ向五十年內ニ額面金額ヲ以テ之ヲ償還ス。

第三條　本公債初期ノ利子ハ、補償金其ノ他ノ金額ノ支拂ヲ受クヘキ土地所有者、其ノ他ノ利害關係人カ、權利ノ移轉消滅其ノ他ノ事由ニ依リ其金額ヲ請求シ得ヘキ日ヨリ之ヲ附ス。

第四條　本公債ノ交付價格ハ、別ニ之ヲ告示ス。

第五條　土地所有者其ノ他ノ利害關係人ニ交付スヘキ公債ノ額面金額ハ、之ヲ被交付者ニ通知ス。

第六條　前條ノ通知ヲ受ケタル者公債ノ交付ヲ受ケントスルトキハ請求書（書式第一號）ニ印鑑證明ヲ添附シ大藏省ニ提出スヘシ。

第七條　前條ノ請求アリタルトキハ、公債公布通知書（書式第二號）ヲ交付ス。

前項ノ通知書ノ交付ヲ受ケタル者ハ、領收證欄內ニ式ノ如ク記名捺印ノ上、日本銀行ニ提出シ、之ト引換ニ公債ヲ受領スヘシ。

附　則

本令ハ、公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス。

書式第一號第二號裏略。

〔參照〕大正十二年十二月二十日法律第五十五號

第一條政府ハ、勅令ノ定ムル所ニ依リ、復興事業ノ施行ニ伴ヒ、土地所有者其ノ他ノ利害關係人ニ支拂フヘキ補償金其ノ他ノ金額ヲ、五分利付國債證券ヲ以テ交付スルコトヲ得。

第二條　政府ハ前條ノ規定ニ依リ交付スル爲必要ナル額ヲ限度トシ、公債ヲ發行スルコトヲ得、但シ其ノ總額ハ震災善後公債法ニ依リ發行スル公債又ハ借入金ト通シテ、震法ノ規定スル制度額ヲ超ユルコトヲ得ス。

震災善後公債法第二條ノ規定ハ、前項ノ規定ニ依ル公債發行ニ付之ヲ準用ス。

三　復興計畫

1　準備

大正十三年一月十二日午後三時復興院總裁水野錬太郎總裁室に副總裁以下を會して、

復興計畫に關し、諸君が不眠不休の努力を爲したることは、外部に在りても十分に之を認めたる所なり、今や復興計畫及之に伴ふ豫算已に議會を通過す、一日も早く計畫の內容を決定し、道路公園運河共の他の具體案を公表し、可成速に市民をして本建築に着手せしむるため、一層の努力を以て急速に調査を完成せられたし、而して之を決定するには特別都市計畫委員會の議決を經ざるべからざれば、速かに之が手續を爲さんと欲す、復興院豫算は、不幸にして削減せられたれば、之に代るべき執行機關を內務省の外局として新設するの見込なり、從來通り復興事業に努力せられんことを望む。

との訓示あり、十四日佐野建築局長閣議に出席して復興計畫の大綱を說明し、二十一日理事會を副總裁室に開きて、土地整理に關する施行方法を協議し、二十一日亦同樣開會して、土地整理に伴ふ各種事業の進行日程につき打合はせ、後內務大臣官邸に於て、區劃整理に關し、水野總裁に說明す、二十九日の三菱本館技監室に於ける理事會に於ては、土地區劃整理の施行方法につき協議する所あり、三十一日亦副總裁室に開きて、五日開催の特別都市計畫委員會附議の議案に關して協議し、區劃整理の議に入り、二月二日にも、理事會を技監室に開きて、五日開催の特別都市計畫委員會附議事項及之に伴ふ諸般の打合を爲したり。

2　特別都市計畫委員會

委員席次（大正十三年二月末日現在）

會　長　水野錬太郎

一、　從三位勳二等男爵　斯波忠三郎

二、　從五位　渡邊鐵藏

三、　警視總監　赤池濃

四、　貴族院議員　上山滿之進

五、　內務省都市計畫局長　堀切善次郎

六、　東京市會議員　近藤達兒

七、　東京府會議員　木內傳之助

八、　宮內次官　關屋貞三郎

九、　內務省土木局長　長岡隆一郎

一〇、　法制局長官　佐竹三吾

一一、　內務次官　井上孝哉

一二、　農商務次官　鶴見佐吉雄

一三、　東京府知事　宇佐美勝夫

一四、　貴族院議員子爵　井上匡四郎

一五、　東京府會議員　花井源兵衞

一六、　東京府會議員　小坂梅吉

一七、　正四位勳三等男爵　中島久萬吉

一八、　遞信次官　米田奈良吉

一九、　貴族院議員子爵　八條隆正

二〇、　神奈川縣知事　安河內麻吉

二一、　貴族院議員　澤柳政太郎

二二、　若尾璋八

二三、　勳四等　鳩山一郎

二四、　陸軍次官　津野一輔

二五、　東京府會議員　堀江正三郎

二六、　貴族院議員　伊澤多喜男

二七、　從七位勳四等　秋田清

二八、　正五位勳六等　藤宮惟一
二九、　神奈川縣會議員　加藤銀藏
三〇、　東京市會議員　磯部尙
三一、　橫濱市長　渡邊勝三郎
三二、　貴族院議員　橋本圭三郎
三三、　勳六等　井阪孝
三四、　文部次官　松浦鎭次郎
三五、　從三位勳二等　丹羽鋤彥
三六、　正五位勳三等　吉植庄一郎
三七、　東京市會議員　小島七郎
三八、　正六位　藤山雷太
三九、　從四位勳三等　寒豐助
四〇、　橫濱市會議員　池田勝次郎
四一、　東京市會議員　龜田又一
四二、　正四位勳三等　大河內正敏
四三、　東京市長　永田秀次郎
四四、　海軍次官　岡田啓介
四五、　內務省地方局長　潮惠之輔
四六、　正六位勳四等　若尾幾造
四七、　正五位勳三等　今村明恒
四八、　遞信省通信局長　田邊治通
四九、　鐵道省工務局長　三木武吉
五〇、　從五位　後藤佐彥
五一、　鐵道次官　大橋新太郎
五二、　大藏次官　岡野昇
五三、　西野元
五四、　內閣書記官長　小橋一太
五五、　正三位勳二等　長尾半平
五六、　神奈川縣會議員　上野清助
五七、　橫濱市會議員　平沼亮三
五八、　從五位勳三等　原富太郎
五九、　司法次官　林賴三郎
六〇、　東京市會議員伯爵　柳澤保惠
六一、　片岡安
六二、　正七位　矢野恒太
幹事　從五位勳五等　金井清
同　正六位　長谷川赳夫
同　從六位　西村輝一

一、第一回總會　大正十三年二月五日午後二時二十分內務大臣官邸に開催す、會長水野錬太郎委員男爵斯野忠三郎外五十三名、幹事三名、帝都復興院職員松木副總裁(幹一郎)、直木技監(倫太郎)外四局長出席したり。

水野會長の挨拶あり、議案は

議第一號、特別都市計畫委員會議事規則
議第二號、東京都市計畫幷都市計畫事業及其ノ執行年割ノ件
議第三號、東京都市計畫中變更ノ件
議第四號、橫濱都市計畫幷都市計畫事業及其ノ執行年割ノ件

にして、先づ第一號議を附議し、滿場異議なく特別都市計畫委員會議事規則を可決す。

特別都市計畫委員會議事規則

第一條　委員及臨時委員ニシテ會長ノ招集ニ對シ、其通知シタル日時ニ議場ニ參集スルコト能ハサルモノハ、其旨會長ニ屆出ツヘシ。

第二條　委員及臨時委員ノ議席ハ、豫メ抽籤ヲ以テ之ヲ定メ、番號ヲ附ス。

第三條　議長ハ、會議ヲ開閉シ、會議ノ順序ヲ定メ、議事ヲ整理シ、且議場ノ秩序ヲ保持ス。

第四條　委員及臨時委員發言セントスルトキハ、議長ノ許可ヲ受クヘシ。

第五條　議長ハ、議事整理上必要ト認ムルトキハ、委員若ハ臨時委員ノ發言ヲ止メ、又ハ議事ヲ中止スルコトヲ得。

第六條　委員又ハ臨時委員閉會前退場セントスルトキハ、其事由ヲ告ケ、議長ノ承諾ヲ受クヘシ。

第七條　動議ハ贊成者アルニ非サレハ、議題ト爲スコトヲ得ス。

第八條　修正說ハ、書面ヲ以テ議長ニ提出スヘシ、但シ簡單ナルモノハ口頭ヲ以テ陳述スルコトヲ得。

修正說ハ二名以上ノ贊成者アルニ非サレハ、之ヲ議題ト爲スコトヲ得ス。

第九條　修正說ハ、原案ニ先チ表決スヘシ、其ノ表決ノ順序ハ、原案ニ最遠キモノヲ先ニス、若シ共ノ順序ニ關シ異議アルトキハ、會議ニ諮リ之ヲ決スヘシ。

第十條　議長ニ於テ必要ト認ムルトキ、又ハ會議ノ議決ニ依リ、特別委員ヲ設ケ、特定ノ事項又ハ議案ノ調査ヲ付託スルコトヲ得。

第十一條　特別委員ハ、委員及臨時委員ノ中ヨリ之ヲ互選ス、但シ會議ノ決議ニ依リ、議長ニ於テ之ヲ指名スルコトヲ得。

特別委員ハ委員長ヲ互選ス。

第十二條　特別委員會ノ會議ノ方法ニ付テハ、本會ノ例ニ依ル。

第十三條　特別委員長ハ、委員會ノ經過及結果ヲ會議ニ報告ス。

第十四條　議長必要ト認ムルトキハ、關係官公吏其ノ他ノ者ヲシテ會議ニ出席セシメ、意見ヲ述ベ、又ハ說明ヲ爲サシムルコトヲ得。

第十五條　議長ハ、議事錄又ハ速記錄ヲ作成シ、會議ノ顚末及會議ニ出席シタル者ノ氏名ヲ記載セシム。

第十六條　本規則ニ規定ナキ事項ハ、議長之ヲ決ス。

第十七條　本規則ハ、常務委員會ニ之ヲ準用ス。

次に、第二號議案を議題とす。

議第二號

東京都市計畫並都市計畫事業及其ノ執行年割ノ件

官計發第十號

特別都市計畫委員會

東京都市計畫並東京都市計畫事業及其ノ執行年割左ノ通決定セムトス。

右都市計畫法第三條ノ規定ニ依リ其ノ會ノ審議ニ付ス。

大正十三年二月二日　內閣總理大臣子爵　清浦奎吾

第一　東京都市計畫街路ノ新設、改修及運河ノ新鑿、改修ノ件左ノ通定ム。

街路ノ部

幹線

番號	路線(起終點及經過地)	延長(約)	幅員
一	品川ヨリ本芝一丁目、芝口一丁目、木挽町、江戸橋和泉橋、車坂町ヲ經テ三ノ輪町ニ至ル	一三、四七〇米	三三乃至四四米
內(品川町ヨリ本芝一丁目迄		三、三六〇	三三
譯(本芝一丁目ヨリ芝口一丁目迄		二、九〇〇	三六
譯(芝口一丁目ヨリ車坂町迄		五、七三〇	四四
譯(車坂町ヨリ三ノ輪町迄		二、二九〇	三三
二	九段坂下ヨリ南神保町、南國橋ヲ經テ龜戸町ニ至ル	六、二〇〇	二七乃至三六
內(九段坂下ヨリ南神保町迄		五六〇	三三
譯(南神保町ヨリ南國橋西詰迄		二、七一〇	三六
譯(南國橋西詰ヨリ龜戸町迄		二、九三〇	二七

三	吳服橋外ヨリ永代橋澤海橋ヲ經テ砂町ニ至ル	五、二五五	三三
四	有樂町一丁目ヨリ尾張町、木挽町三丁目、築地三丁目ヲ經テ月島二號地ニ至ル（隅田川ヲ含マス）	二、二七〇	二七乃至三六
	內（有樂町一丁目ヨリ木挽町三丁目迄	八七〇	三六
	譯（木挽町三丁目ヨリ築地三丁目迄	四二〇	三三
	築地三丁目ヨリ月島二號地迄	九八〇	二七
五	築地三丁目ヨリ入船町、龜島町、濱町三丁目、淺草橋、南元町、北田原町ヲ經テ金杉下町ニ至ル	八、〇四〇	三三
六	上野公園前ヨリ駒形町ヲ經テ押上町ニ至ル	三、六四〇	三三
七	東京驛東口ヨリ下槇町、龜島橋ヲ經テ越前堀一丁目ニ至ル	一、一〇〇	二二乃至五〇
	內（東京驛東口ヨリ下槇町迄	四二〇	五〇
	譯（下槇町ヨリ龜島橋西詰迄	三四五	二二
	龜島橋西詰ヨリ越前堀一丁目迄	二〇〇	七三
八	永樂町一丁目濠端ヨリ元千代田町ニ至ル	五八〇	五五
九	櫻田門外ヨリ新議事堂前ニ至ル	二五乃至三三	
一〇	相生橋南詰ヨリ松倉町相生町ヲ經テ中ノ郷竹町ニ至ル	五、〇五〇	二五乃至三三
	內（相生橋南詰ヨリ松倉町迄	一、二五〇	三三
	譯（松倉町ヨリ中ノ郷竹町迄	三、八〇〇	二五
一一	東京驛北口鍛冶橋ヨリ新常磐橋、小傳馬町一丁目ヲ經テ淺草橋ニ至ル	一、五八〇	二七
一二	神田橋內ヨリ小川町、鴻島四丁目、本郷一丁目ヲ經テ本郷三丁目ニ至ル	二、〇七五	二七乃至三三
	內（神田橋內ヨリ小川町迄	五三〇	三三
	譯（小川町ヨリ鴻島四丁目迄	七二〇	二七
	鴻島四丁目ヨリ本郷一丁目迄	五四五	三三
	本郷一丁目ヨリ本郷三丁目迄	二八〇	二七
一三	一ツ橋內ヨリ南神保町ヲ經テ豐岐坂下ニ至ル	一、六七〇	二七
一四	大手町一丁目ヨリ一ツ橋內雉子橋ヲ經テ飯田橋北詰ニ至ル	二、六〇五	二七乃至三六

	內（大手町一丁目ヨリ一ツ橋內迄	一、六二〇	三六
	譯（一ツ橋內ヨリ飯田橋北詰迄	一、九八五	二七
一五	虎ノ門ヨリ西久保神谷町ニ至ル	九七〇	二七
一六	櫻田本鄕町ヨリ芝公園ニ至ル	一、〇五五	三三
一七	鍛冶橋外ヨリ柳町、彈正橋、高橋ヲ經テ永代橋西詰ニ至ル	一、〇一八	二二乃至三三
	內（鍛冶橋外ヨリ柳町迄	四三六	三三
	譯（柳町ヨリ永代橋西詰迄	一、二八二	二二
一八	芝口一丁目ヨリ虎ノ門ヲ經テ赤坂見附ニ至ル	二、七四五	三三
一九	雉子橋外ヨリ鐵倉河岸、城邊河岸ヲ經テ新橋驛ニ至ル	四、〇六四	二七
二〇	富士見町一丁目ヨリ市ケ谷見附ニ至ル	九三〇	二七
二一	九段坂下ヨリ富士見町一丁目、半藏門前ヲ經テ新議事堂前ニ至ル	二、五四〇	二七
二二	鴻島四丁目ヨリ二長町、御藏前片町、法恩寺橋ヲ經テ龜戶町ニ至ル	五、四八〇	二二乃至二七
	內（鴻島四丁目ヨリ御藏前片町迄	二、一八〇	二七
	譯（御藏前片町ヨリ龜戶町迄	三、三〇〇	二二
二三	淺草區村木町ヨリ吉野橋ヲ經テ三ノ輪町ニ至ル	二、五四五	二五
二四	橫綱町一丁目ヨリ兩國驛ニ至ル	一六三	三三
二五	本挽町九丁目ヨリ築地四丁目ニ至ル	二〇〇	二七
二六	南元町ヨリ厩橋邊黑船町ニ至ル	三六三	二七
二七	區住町ヨリ扇町ヲ經テ砂町ニ至ル	三、一六三	二二
二八	濱町三丁目ヨリ中洲町、石島町ヲ經テ砂町ニ至ル	三、八九〇	二二
二九	濱町三丁目ヨリ新大橋、菊川橋ヲ經テ大島町ニ至ル	三、二二〇	二二
三〇	中ノ郷元町ヨリ寺島町ニ至ル	一、九二〇	二二
三一	山ノ宿町ヨリ龜澤町ヲ經テ橋場町ニ至ル	一、五六〇	二二
三二	吉野橋ヨリ南千住町常磐線踏切ニ至ル	一、四〇〇	二二

三三	大手町一丁目ヨリ北鞘町、荒布橋、濱町一丁目ヲ經テ兩國橋西詰ニ至ル	二、九八〇	二二
三四	龍閑橋北詰ヨリ紺屋町、美倉橋、竹橋ヲ經テ入谷町ニ至ル	三、九六〇	二二
三五	道三町ヨリ鎌倉河岸、昌平橋、天神町二丁目ヲ經テ池ノ端七軒町ニ至ル	三、五〇〇	二二
三六	今入町ヨリ愛宕町ヲ經テ赤羽橋南詰ニ至ル	一、九三〇	二二
三七	千束町ヨリ龜岡町ニ至ル	一、一四五	二二
三八	入谷町ヨリ山ノ宿町、淺草驛前、本所驛脇ヲ經テ洲崎ニ至ル	七、〇三六	二二
三九	荒布橋東詰ヨリ思案橋ヲ經テ小網町四丁目ニ至ル	三八〇	二二
四〇	四久保神谷町ヨリ宇田川町ニ至ル	九一〇	二二
四一	四小川町ヨリ三崎町三丁目ヲ經テ砲兵工廠前ニ至ル	五八〇	二二
四二	永田町二丁目ヨリ赤坂見附內ニ至ル	一九〇	二七
四三	溜池町ヨリ田町七丁目ニ至ル	一八〇	二七
四四	豐岐坂下ヨリ本鄕一丁目ニ至ル	五八〇	二九
四五	東黑門町ヨリ上野廣小路町ニ至ル	一四五	三六
四六	須田町ヨリ萬世橋南詰ニ至ル	一一〇	三六
四七	木場町ヨリ平久町ニ至ル	八〇	二二

補助線

番號	路線（起終點及經過地）	延長（約）	幅員
		米	米
一	錦町三丁目ヨリ一ツ橋通町ニ至ル	一〇九	一八
二	土州橋東詰ヨリ龜島橋東詰ニ至ル	八三七	一八
三	越中島町ヨリ濱園町ニ至ル	一、〇二五	一八
四	小梅瓦町ヨリ寺島町ニ至ル	一、三六五	一八
五	東平井町地內	三〇〇	二〇
六	光月町ヨリ龍泉寺町ニ至ル	九二五	一六
七	富士見町一丁目ヨリ隼町ニ至ル	一、六四〇	一六
八	元衞町ヨリ錦町三丁目ニ至ル	一、六六七	一六
九	北鞘町ヨリ矢ノ倉町ニ至ル	二六〇	一六
一〇	湯島五丁目ヨリ東竹町ニ至ル	二、一一一	一六
一一	龍右衞門町ヨリ木場町ニ至ル	一、一四三	一五
一二	愛宕下町一丁目ヨリ葵町ニ至ル	八〇三	一五
一三	愛宕下町四丁目ヨリ將監橋南詰ニ至ル	九四六	一五
一四	霧月町ヨリ櫻川町ニ至ル	二四六	一五
一五	宇田川町ヨリ汐留町二丁目ニ至ル	二〇六	一五
一六	內幸町ヨリ櫻田本鄕町ニ至ル	四五五	一五
一七	有樂町一丁目ヨリ西紺屋町ニ至ル	一、一四七	一五
一八	豐玉橋西詰ヨリ明石町ニ至ル	七四六	一五
一九	紀ノ國橋西詰ヨリ入船町六丁目ニ至ル	一、〇五九	一五
二〇	銀座一丁目ヨリ新港町一丁目ニ至ル	八七〇	一五
二一	桶町ヨリ長澤町ニ至ル	四〇〇	一五
二二	三十間堀三丁目ヨリ築地四丁目ニ至ル	五七一	一五
二三	三十間堀二丁目ヨリ築地三丁目ニ至ル	五八六	一五
二四	明石町ヨリ築地四丁目ニ至ル	一四五	三六
二五	明石町ヨリ本八丁堀五丁目ニ至ル	九二八	三六
二六	本港町一丁目ヨリ新船松町ニ至ル	三五五	一五
二七	數寄屋町ヨリ川口町ニ至ル	一、〇四三	一五
二八	小網仲町ヨリ濱町二丁目ニ至ル	九三四	一五
二九	猿樂町一丁目ヨリ猿樂町三丁目ニ至ル	六七三	一五
三〇	坂本町裏ヨリ聖天町ニ至ル	一、九〇六	一五
三一	金杉上町ヨリ龍泉寺町ニ至ル（甲）	九一	一五
三二	金杉上町ヨリ龍泉寺町ニ至ル（乙）	一二四	一五
三三	入谷町ヨリ馬喰町四丁目ニ至ル	二、八七九	一五
三四	向柳原町一丁目ヨリ旅籠町二丁目ニ至ル	八五五	一五
三五	馬道一丁目ヨリ黑船町ニ至ル	八三七	一五

三六	花川戸町ヨリ地方今戸町ヲ經テ今戸町ニ至ル	一、六一四	一五
三七	今戸町ヨリ橋場町ニ至ル	一、二二五	一五
三八	地方今戸町ヨリ橋場町ニ至ル	一、〇一九	一五
三九	龜岡町三丁目ヨリ橋場町ニ至ル	二三七	一五
四〇	元町ヨリ諸町ニ至ル	二、四八四	一五
四一	中ノ鄕瓦地ヨリ越中島ニ至ル	五、四一五	一五
四二	押上町ヨリ柳島町ニ至ル	一、四九二	一五
四三	須崎町ヨリ向島押上町ニ至ル	八七四	一五
四四	四元町ヨリ大島町ニ至ル	二、八七六	一五
四五	清住町ヨリ砂町ニ至ル	三、〇四三	一五
四六	古石場町ヨリ鹽濱町ニ至ル	一八九	一五
四七	柴井町ヨリ愛宕町一丁目ニ至ル	六九二	一一
四八	鳥森町ヨリ源助町ニ至ル	三六四	一一
四九	神明町ヨリ芝公園五號地ニ至ル	五二八	一一
五〇	新網町北側ヨリ芝公園十五號地ニ至ル	六一五	一一
五一	港町ヨリ芝公園十五號地ニ至ル	六〇一	一一
五二	新櫻田町ヨリ愛宕町二丁目ニ至ル	六五一	一一
五三	鳥森町ヨリ宇田川横町ニ至ル	八四八	一一
五四	新榮町五丁目ヨリ日比谷町ニ至ル	五四六	一一
五五	川口町ヨリ銀町一丁目ニ至ル	二二八	一一
五六	采女町ヨリ白魚橋ニ至ル	七四六	一一
五七	新湊町三丁目ヨリ隅田川右岸ニ至ル	一五一	一一
五八	濱町一丁目ヨリ豐島町ニ至ル	八一五	一一
五九	芳町ヨリ箱崎町二丁目ニ至ル	七〇一	一一
六〇	東龍閑町ヨリ鮫洲町三丁目ニ至ル	一、六八七	一一
六一	小網町三丁目ヨリ濱町三丁目ニ至ル	七八八	一一
六二	錦町二丁目ヨリ新銀町ニ至ル	四一三	一一
六三	錦町三丁目ヨリ寒神保町ニ至ル	三一三	一一
六四	西小川町一丁目ヨリ三崎町一丁目ニ至ル	三〇八	一一
六五	淡路町二丁目ヨリ三崎町一丁目ニ至ル	一、一四一	一一
六六	松富町ヨリ花田町ニ至ル	三四二	一一
六七	一番町ヨリ中六番町ニ至ル	六八四	一一
六八	五番町ヨリ元園町二丁目ニ至ル	八三九	一一
六九	龍泉寺町ヨリ三ノ輪町ニ至ル	八九七	一一
七〇	金杉上町ヨリ揚屋町ニ至ル	五二八	一一
七一	金杉上町ヨリ淺草町ニ至ル	九四六	一一
七二	萬年町二丁目ヨリ新谷町ニ至ル	一、六七八	一一
七三	下車坂町ヨリ花川戸町ニ至ル	一、二七〇	一一
七四	上車坂町ヨリ松清町ニ至ル	一、〇九二	一一
七五	千束町一丁目ヨリ金龍山瓦町ニ至ル	一九三	一一
七六	馬道五丁目ヨリ山ノ宿町ニ至ル	四七三	一一
七七	象潟町ヨリ千束町三丁目ニ至ル	二九一	一一
七八	千束町三丁目ヨリ田町一丁目ニ至ル	六一五	一一
七九	吉野町ヨリ玉姫町ニ至ル	六三七	一一
八〇	山谷町ヨリ三ノ輪町ニ至ル	九五〇	一一
八一	千束町二丁目ヨリ千束町三丁目ニ至ル	三二二	一一
八二	千束町一丁目ヨリ北富坂町ニ至ル	一、六二五	一一
八三	金杉上町ヨリ元鳥越町ニ至ル	二、三一一	一一
八四	肴吉町ヨリ二長町ニ至ル	一、七五三	一一
八五	車坂町ヨリ御徒町二丁目ニ至ル	六七七	一一
八六	御徒町一丁目地内	五六八	一一
八七	元鳥越町ヨリ上平右衛門町ニ至ル	五九七	一一
八八	佃島町ヨリ新片町ニ至ル	七九五	一一
八九	御徒町一丁目ヨリ須賀町ニ至ル	一、〇八一	一一
九〇	弓町一丁目ヨリ下谷區竹町ニ至ル	二、〇七五	一一
九一	四島越町ヨリ寒神保町ニ至ル	四七八	一一
九二	湯島天神町一丁目ヨリ下谷區竹町ニ至ル	一、二四一	一一
九三	小島町ヨリ北富坂町ニ至ル	五二二	一一
九四	上野廣小路町ヨリ永住町ニ至ル	一、〇三二	一一
九五	七軒町ヨリ諏訪町ニ至ル	八五五	一一
九六	湯島四丁目ヨリ湯島梅園町ニ至ル	六三七	一一
九七	湯島五丁目ヨリ湯島切通坂町ニ至ル	四四〇	一一
九八	春木町一丁目ヨリ春木町二丁目ニ至ル	三五五	一六
九九	三ノ輪町ヨリ三河島町ニ至ル	三九一	一一
一〇〇	日暮里町金杉地内	五〇二	一一
一〇一	中ノ鄕瓦町地内	一八二	一一
一〇二	原庭町ヨリ柳島元町ニ至ル	一、六七八	一一
一〇三	外手町ヨリ柳島横川町ニ至ル	一、九五七	一一
一〇四	横網町二丁目ヨリ太平町二丁目ニ至ル	一、九二九	一一
一〇五	元町ヨリ龜戸町ニ至ル	二、六三九	一一
一〇六	相生町ヨリ四六軒堀町ニ至ル	六九二	一一
一〇七	本所區竹町ヨリ數矢町ニ至ル	三、八七七	一一
一〇八	小梅業平町ヨリ茂森町ニ至ル	三、六四〇	一一
一〇九	中ノ鄕業平町ヨリ太平町二丁目ニ至ル	一、〇四八	一一
一一〇	押上町ヨリ太平橋二丁目ニ至ル	一、〇四八	一一
一一一	柳島元町ヨリ柳島町ニ至ル	七五三	一一
一一二	柳島横川町ヨリ龜戸町ニ至ル	六二四	一一
一一三	錦綾町ヨリ深川區本村町ニ至ル	四〇四	一一
一一四	安宅町ヨリ德右衛門町ニ至ル	一、〇三四	一一
一一五	德右衛門町ヨリ深川區本村町ニ至ル	一、一六五	一一
一一六	東扇橋町ヨリ千田町ニ至ル	三二八	一一
一一七	深川區本村町ヨリ豐住町ニ至ル	一、四七一	一一
一一八	靈岸町ヨリ千田町ニ至ル	一、八九三	一一
一一九	和倉町ヨリ四平井町ニ至ル	一、三七二	一一

運河ノ部

新　築

番號	名稱	區域	延長(約)	幅員	深度(零點下)
一	築地川 楓川連絡	金六町地先櫻川ヨリ木挽町一丁目地先築地川ニ至ル	二九〇米	三三米 一・八米	

改　修

番號	名稱	區域	延長(約)	幅員	深度(零點下)
一	小名木川	上大島町地先横十間川ヨリ新安宅町地先隅田川ニ至ル	二、四六〇米	五五米 二〇米	
二	横十間川	柳島元町地先北十間川ヨリ豐住町地先十間川ニ至ル	三、六七〇	四〇	一・八
三	大島川	木場町地先大横川ヨリ諸町地先隅田川ニ至ル	一、九二〇	四〇	一・八
四	神田川	柳町河岸地先ヨリ新柳町地先隅田川ニ至ル	一、四二〇	四七	一・八
五	日本橋川	富島町地先龜島町ヨリ大川端町地先隅田川ニ至ル	四七〇	四七	一・八
六	楓　川	本材河岸地先日本橋川ヨリ柳町地先櫛川ニ至ル	一、二二〇	三三	一・八
七	櫻　川	金六町地先京橋川ヨリ港河岸地先龜島川ニ至ル	七五〇	三三	一・八
八	京橋川	北紺屋町地先外濠ヨリ金六町地先櫻川ニ至ル	六〇〇	三三	一・八

九	築地川	木挽町八丁目地先ヨリ築地四丁目地先梅ニ至ル	五五〇	四七	一・八	
一〇	築地川	木挽町一丁目地先ヨリ木挽町八丁目地先ニ至ル	一、一三〇	三三	一・八	
一一	汐留川	木挽町七丁目地先三十間堀川ヨリ木挽町八丁目地先築地川ニ至ル	四〇〇	三三	一・八	

第二、前項ノ計畫中幹線街路ノ新設、改修及運河ノ新設、改修ハ都市計畫事業トシテ大正十二年度ヨリ大正十七年度、六ケ年度繼續執行スルモノトシ、其ノ年割左ノ通定ム。

一、街路ノ新設、改修事業執行年割

大正十二年度	約七分七厘
大正十三年度	約二割四分八厘
大正十四年度	約二割五分一厘
大正十五年度	約二割六厘
大正十六年度	約一割六分九厘
大正十七年度	約一割九厘

二、運河ノ新設、改修事業執行年割

大正十二年度	約一分三厘
大正十三年度	約二割一分一厘
大正十四年度	約二割八厘
大正十五年度	約二割
大正十六年度	約二割
大正十七年度	約一割六分八厘

第三　前項ノ事業ノ一部ハ其ノ年割ノ範圍内ニ於テ土地區劃整理事業トシテ之ヲ執行スルコトヲ得ルモノトス。

案は、第四十七議會に於て、自治團體の施行に委する目的を以て削除したる幅員十二間以下の街路擴築及土地區劃整理事業を含むに依り疑議ありたるもの、如く、市は進んで之を執行すべく、政府亦之を援助すべきを豫期して、第二、三號案を一括し、之を同一特別委員に附す。

議第三號　東京都市計畫事業中變更ノ件

特別都市計畫委員會

大正十年五月十三日內閣認可東京都市計畫事業中左ノ通變更セムトス。

右都市計畫法第三條ノ規定ニ依リ共ノ會ノ審議ニ付ス。

大正十二年二月二日　內閣總理大臣　子爵　清浦　奎吾

大正十年五月十三日內閣認可東京都市計畫事業中左ノ通變更ス。

東京都市計畫事業街路ノ部

一等大路第三類第十五	幅員十二間	前號路線終點ヨリ南千住町大字三河島ニ至リ鐵道線路下ヲ過キ市郡界ニ至リ更ニ下谷區金杉下町百十番地ヨリ淺草區田中町電車通ヲ橫切リ南千住町大字地方橋場字眞先千四百番地地先ニ至ルノ路線		
一等大路第三類第十七	幅員十二間	前號路線終點ヨリ北十間川ニ架設橋ヲ經テ龜戶町ニ於テ鐵道線路竝電車線路ヲ橫切リ五ノ橋及新開橋ヲ經テ砂町大字平井新田字南元締耕地六百二十八番地地先ニ至ルノ路線		
二等大路第一類第十四	幅員十間	寺島町大字寺島千四百五十六番地地先ヨリ曳舟川ニ架シ新荒川堤防ニ至ル路線		
二等大路第二類第十五	幅員八間	下谷區金杉上町五十九番地ノ一地先電車通ヨリ下根岸町ヲ經テ日暮里町大字金杉九百七十三番地ニ至ルノ路線		
二等大路第二類第三十	幅員八間（車道歩道ノ區別セス）	大島町四丁目百八十七番地地先ヨリ同五丁目ヲ經テ同八丁目二百十四番地ニ至ルノ路線		
二等大路第二類第三十三	幅員八間（車道歩道ノ區別セス）	砂町久左衛門新田字小名木川附四十二番地ノ二〇地先ヨリ同治兵衛新田、龜高、萩新田ヲ經テ同町又兵衛新田百三十一番地ニ至ルノ路線		

左ノ路線ヲ創ル。

廣路第一

一等大路第二類第一	改修	三等第二類第一小名木川		
一等大路第二類第二		四等第三類第一入船川		
一等大路第三類第一				
一等大路第三類第五		埋立		
一等大路第三類第六				
二等大路第一類第一		第二　大島川		
二等大路第一類第二				
二等大路第一類第八		次に第四號議案を議題とす。		
二等大路第二類第二		議第四號　橫濱都市計畫並都市計畫事業及共ノ執行年割ノ件		
二等大路第二類第三		特別都市計畫委員會		
二等大路第二類第四		橫濱都市計畫事業及共ノ執行年割左ノ通決定セムトス。		
二等大路第二類第五		右都市計畫法第三條ノ規定ニ依リ共ノ會ノ審議ニ付ス。		
二等大路第二類第六		大正十三年二月二日　內閣總理大臣　子爵　清浦　奎吾		
二等大路第二類第十六		第一　橫濱都市計畫街路ノ新設、改修ノ件左ノ通定ム。		
二等大路第二類第十七		街路線（起終點及經過地）　延長（約）　幅員		
二等大路第二類第十八		一　子安町市郡界ヨリ神奈川町十四番地迄	三、一五五	二二
二等大路第二類第二十九		內譯　神奈川町十番ヨリ橫濱肆前迄	二、四九五	二七
二等大路第三類第十一		橫濱肆前ヨリ久保町道上迄	一、八四九	二二
二等大路第三類第十二		久保町道上ヨリ保土ケ谷町岩間迄	一、一七〇	一八
二等大路第三類第十三		二　幷天橋東詰ヨリ本町四丁目ヲ經テ萬國橋南詰ニ至ル	六二七	二七
二等大路第三類第十四		三　本町四丁目ヨリ眞砂町、南吉田町、藤田町ヲ經テ大岡高等工業學校前ニ至ル	四、五二〇	二二乃至二五
二等大路第三類第十五		內譯　本町四丁目ヨリ南吉田町南七ッ目迄	二、七〇二	二五
		南吉田町南七ッ目ヨリ大島町高等工業學校前迄	一、八一八	二二
		四　大江橋南詰ヨリ尾上町、西ノ橋、北方町ヲ經テ本牧町厚ニ至ル	四、七一〇	二二乃至二五

内（大江橋南詰ヨリ四ノ橋北詰迄　一、六五六　二五
譯（四ノ橋北詰ヨリ本牧町原迄　三、〇五四　二二
五　青木町七軒町ヨリ神奈川町二ッ谷ヲ經ヲ市郡界六角橋南詰ニ至ル　二、一八二　一六乃至二五
内（青木町七軒町ヨリ神奈川町二ッ谷迄　一六
譯（神奈川町二ッ谷ヨリ六角橋南詰迄　一、五五七　二五
程ヶ谷帷子ヨリ四戸部町、南太田町、假ッ目ニ至ル　三、七三七　一六乃至一二
六　内（程ヶ谷町帷子ヨリ四戸部町迄　一、三六四　二二
（四戸部町ヨリ假町迄　一、四三六　二八
譯（假町ヨリ吉岡町五丁目迄　四三六　二二
（吉岡町五丁目ヨリ南吉田町南四ッ目迄　五〇一　一六
七　四平沼町ヨリ伊勢町、日ノ出町、長者橋ヲ經テ千秋橋南詰ニ至ル　二、六五〇　一八乃至二二
内（四平沼町ヨリ伊勢町迄　一、二五八　二一
譯（伊勢町ヨリ日ノ出町迄　六三六　一八
（日ノ出町ヨリ千秋橋南詰迄　七五六　二二
八　井土ケ谷町ヨリ大岡川村永田ヲ經テ程ケ谷町岩間ニ至ル　二七二　一六
内（井土ケ谷町地内　七五四　二二
（井土ケ谷町ヨリ大岡川村永田迄　六一八　一八
譯（大岡川村永田ヨリ保土ケ谷町岩間迄
九　櫻木町一丁目ヨリ野毛町三丁目、日ノ出町南太田町ヲ經テ井土ケ谷町ニ至ル　三、一八二　一六
一〇　平沼橋南詰ヨリ横濱驛前ニ至ル　五六七　三三
一一　神奈川町十番町ヨリ東神奈川驛ニ至ル　二二九　二七
一二　平沼橋南詰ヨリ淺間町淺間下ニ至ル　七〇九　二二
一三　木町一丁目地内　一〇九　一八
一四　青木町七軒町ヨリ淺間町社宮司ニ至ル　二、七〇四　一八
一五　青木町東輕井澤ヨリ神奈川町二ッ谷ニ至ル　一、七四九　一六
一六　子安町海道筋ヨリ子安町神ノ木ニ至ル　一、三六四　一六
一七　東橋北詰ヨリ山元町ニ至ル　六〇〇　一八

一八　蒔田町六反田ヨリ井戸ケ谷ニ至ル　八一八　一六
一九　千歳町二丁目ヨリ南吉田町南六ッ目ニ至ル　一、三八二　二〇
二〇　中村町四ノ谷ヨリ南太田町西中耕地ニ至ル　九四五　一六乃至二〇
内（中村町四ノ谷ヨリ南吉田町南六ッ目迄　六七三　二〇
譯（南吉田町南六ッ目ヨリ南太田町西中耕地迄　二七二　一六
二一　北方町小港ヨリ新山下町ニ至ル　六三六　一八
第二　前項ノ計畫中第一號乃至第十二號ノ街路ノ新設、改修ハ都市計畫事業トシテ大正十二年度ヨリ大正十七年度迄六ケ年度ニ繼續執行スルモノトシ其ノ年割左ノ通定ム。

街路新設、改修事業執行年割

大正十二年度　約一分四厘
大正十三年度　約二割八分六厘
大正十四年度　約二割八分七厘
大正十五年度　約一割七分
大正十六年度　約一割四分五厘
大正十七年度　約九分八厘

第三　前項ノ事業ノ一部ハ其ノ年割ノ範圍内ニ於テ土地區劃整理事業トシテ之ヲ執行スルコトヲ得ルモノトス。

亦直に會長指名の特別委員に付託す。

議、第二號第三號特別委員

赤池濃、宇佐美勝夫、永田秀次郎、堀江正三郎、伯爵柳澤保惠、近藤達兒、橋本圭三郎、鳩山一郎、三木武吉、子爵大河內正敏、藤山雷太、大橋新太郎、堀切善次郎、田邊治通。

議、第四號特別委員

安河內麻吉、渡邊勝三郎、上野清助、平沼亮三、池田勝次郎、子爵井上匡四郎、若尾璋八、井阪孝、原富太郎、若尾幾造、後藤佐

彦、藤宮惟一、長岡隆一郎。

東京の部　特別委員會

第一回　大正十三年二月七日午前十時十五分內務大臣官邸に開會す

出席者委員長子爵大河內正敏、委員赤池濃外十二名、幹事二名、帝都復興院總裁水野錬太郎外五名。

是日は、第二號第三號議案に就き協議し、議會の修正に依りて自治體の仕事と爲りたる區劃整理費等の補助若くは貸付に關する件など問題となりたるもの丶如く、尋で懇話に入り、午後零時二十分散會す。

第二回　二月九日午後一時三十分內務大臣官邸に開く、出席者大河內委員長外十二名、幹事及復興院職員の出席あり。

前回に引續き反覆討議の末「帝國議會の協贊したる三億六百六十七萬圓（橫濱の部を除く）に、兼議院の解散なかりせば當然要求すべかりし一億五百萬圓を以て爲し得る限りの路線なり道幅なり總てを進行し行くこと丶し、一億五百萬圓の追加豫算は成立するものと見て計畫を進むること丶成りたるもの丶如く、又三ノ輪より白鬚橋に至る道路を計畫中に加へ、三河島南千住にも區劃整理を爲すの希望ありたりと傳ふ、午後三時三十五分散會す。

第三回　二月十三日午後一時四十分帝都復興院總裁室に開會す、出席者大河內委員長及委員十一名、幹事二名、復興院職員松木副總裁外四名。

是日審議進行の便宜上、計畫區域を四分し、本所深川を一區、神田川以北下谷淺草本鄉を一區、神田川以南新橋までを一區、麻布芝を一區とし、分擔を定めて審議する爲め、小委員會を設くる事と爲り、直木技監より大體の說明あり、堀留川開鑿の希望、區劃整理に關する疑議等出て、懇談と爲り、討議に復して小委員會の原案を作製し、審査期間を二週日以內に限り、之を付議する事となり、午後三時二十分散會す。

散會後委員長より左の小委員を指す。

特別都市計畫委員會特別委員（東京ノ部）小委員會調査分擔區域並委員氏名

一、第一小委員（神田川以北）　主査、伯爵柳澤保惠
赤池濃、宇佐美勝夫、永田秀次郎、近藤達兒、鳩山一郎、三木武吉、堀切善次郎、田邊治通。

一、第二小委員（本所深川）　主査、藤山雷太
赤池濃、宇佐美勝夫、永田秀次郎、伯爵柳澤保惠、橋本圭三郎、三木武吉、堀切善次郎、田邊治通。

一、第三小委員（第一第二の殘部）　主査、大橋新太郎
赤池濃、宇佐美勝夫、永田秀次郎、堀江正三郎、伯爵柳澤保惠、近藤達兒、堀切善次郎、田邊治通。

第四回　二月二十一日午前十時三十分內務大臣官邸に開催す、出席者大河內委員長、委員十一名、幹事二名、復興院職員直木技監外四名。

第一小委員會第二小委員會は大體に於て決定せんとしつ丶あるも、第三小委員會に於て議論あるより開會を見るに至りたるものにして、土地區劃整理及街路計畫に對する補償に關して協議したるやに傳ふ、是日種々の議論出でたりしも、結局豫算額を以て遂行する能はざる場合は、更に追加豫算を以て殘部を遂行するか、或は此委員に諮りて計畫の一部を變更し、更に之を縮小して豫定金額內に於て之を遂行するか、或は兩者を併用し、計畫の一部を縮小し、不足金額を追加豫算に取るか、其時の場合に依り、再び此委員會に諮問せらるべきを以て、此際は此儘審議を進め行くべしとの意見、一致

したるもの丶如し、午後零時十五分散會す。

第五回　二月二十七日午前十時二十三分内務大臣官邸に開會す。出席者は大河内委員長、委員十一名、幹事二名、復興局職員直木長官（倫太郎）、稻葉整地部長（敏郎）、十河經理部長（信二）。

委員長開會を宣し、特別委員會の報告あり、同報告を原案として、之を審議す。

第一小委員會報告

報告

街路計畫修正對照表　東京第一小委員會（神田川以北）

修正案

番號	路線名	延長	幅員	説明
㊈五	築地三丁目ヨリ入船町、亀島町、湊橋南元町、北新堀町三丁目、湊橋南詰ヨリ會社前ヲ經テ金杉下町ニ至ル	八、〇四〇米	三三米	千束町一丁目地内ノ經過地一部變更
㊈三二	浅草區材木町ヨリ吉野橋ヲ經テ南千住町常磐線路切ニ至ル	二、六五五	二二乃至二五	原案三號線ノ内材木町吉野橋南詰間ヲ本線ニ加ヘタル爲メ延長增加
内譯	浅草區材木町ヨリ吉野橋南詰迄	一、二五五	二五	
	吉野橋南詰ヨリ常磐線路切迄	一、四〇〇	二二	
㊈二三	浅草區田町二丁目ヨリ金杉下町ニ至ル	七八二	二二	原案二三號線ノ内吉野橋南詰、田町二丁目間ヲ削リ金杉下町三ノ輪間ヲ修正三七路線ニ編入シ、殘部ヲ本線トス
㊈二七	三ノ輪町ヨリ白鬚橋西詰ニ至ル	一、六三七	二二	原案二三號線ノ内三ノ輪金杉下町間新線金杉町白鬚橋西詰間トヲ本線トス

㊈二一	山ノ宿町ヨリ龜岡町ヲ經テ橋場町ニ至ル	一、五六〇	二二	山ノ宿町ヨリ今戸橋北詰ニ至ル　三八五　二二
				今戸橋北詰ヨリ橋場町ヲ經テ南千住町地方橋場ニ至ル　一、五二〇　一一乃至一五
				南千住町地方橋場ヨリ常磐線路切迄　一、一七五　一五
				内譯（今戸橋北詰ヨリ橋場町迄　三四五　一一
				譯（橋場町ヨリ南千住地方橋場町迄
				元衛町ヨリ御茶ノ水橋ヲ經テ　二、〇七三　二二
				春木町二丁目ニ至ル
				花川戸町ヨリ田町二丁目ニ至ル　一、三一四　二二
				千束町三丁目ヨリ浅草區田町一丁目ヲ經テ今戸町ニ至ル　八三三　一一乃至一五
				内（千束町三丁目ヨリ田町一丁目迄　二二九　一一
				譯（田町一丁目ヨリ今戸町迄　六〇四　一五
				池ノ端仲町地内　三〇〇　二二
				千束町一丁目地内　一四五　一五
㊈二七	千束町一丁目ヨリ龜岡町ニ至ル	一、一四五	二一	千束町二丁目ヨリ千束町三丁目ニ至ル　八二　一五
	千束町二丁目ヨリ千束町三丁目ニ至ル	三二二	一一	
	坂本裏町ヨリ聖天町ニ至ル	一、九〇六	一五	
	今戸町ヨリ橋場町ニ至ル	一、二二五	一五	
				今戸橋ヨリ橋場町ヲ經テ南千住町地方橋場ニ至ル　一、七〇七　一一乃至一五
				内今戸町ヨリ橋場町迄　一、二二五　一一
				譯（橋場町ヨリ地方橋場迄　四八二　一一

原案三路線及其ノ中間ノ連絡、幅員ヲ全線二二米トス、增加ノ分ハ市電氣事業經濟ノ負擔

原案三六號線ノ内田町一丁目、今戸町間ヲ削リ幅員ヲ二二米トス、增加ノ部分ハ市電氣事業經濟ノ負擔

原案風曲點以東ヲ創リ地方今戸町迄新設同所ヨリ今戸町迄原案三六號線ヲ編入シ幅員ハ修正三六號以東ハ一五米以四ハ一米トス

新設幹線ニ編入ノ上都市計畫事業トス

新設

原案三七號線ノ内千束町三丁目以西ヲ削リ原案八二號ノ線ニ連絡シ全線幅員ヲ一五米トシ七號ヲ都市計畫事業ヨリ除ク

第五號線變更ニ伴ヒ一部路線ヲ變更シ延長ヲ增加ス

橋場町以北幅員二一米ノ路線ヲ追加

八〇	吉野町ヨリ玉姫町ニ至ル	六三七	一一		八〇
八九	佃島町ヨリ新片町ニ至ル	七九七	一一		

注意

一、路線番號欄ニ㊙印ヲ附シタルハ幹線ヲ示ス。

二、八號線ノ一部ハ第三小委員會ニ關係アリ。

三、幹線五號路線ノ修正延長ハ第三小委員會修正對照表ニ掲ク。

伯爵柳澤委員長第一小委員會の經過結果を報告し當局者の說明を、修正通り決定す

第二小委員會報告

報告

大正十三年二月十三日特別委員會ニ於テ付託セラレタル議第二號議案中本所、深川方面ニ係ル部分ニ付、二月十五日、同十九日、同二十六日ノ三回會議ヲ開キ、其間必要ニ應シ實地踏査ヲ爲シ、愼重審議ノ結果、左記ノ通リ修正シ他ハ總テ原案ヲ適當ト認メ候、

此段及報告候也

大正十三年二月二十六日　第二小委員會　主査　藤山雷太

特別都市計畫委員會

特別委員長　子爵　大河內正敏殿

記

第一項街路計畫路線中別表ノ通リ修正ス

第二項中「前項ノ計畫中幹線街路」ノ下ニ「（第三號路線ノ內第五號路線接合點以東及第三〇號路線ノ內環狀線交叉點以北ハ除ク）」ヲ加フ。

街路計畫修正對照表

東京第二小委員會、本所、深川方面）

原案

番號	路線名	延長	幅員	番號	路線名	延長	幅員	說明
㊙二八	濱町三丁目ヨリ中洲町、石島町ヲ經テ砂町ニ至ル	三、八九〇米	二二米	㊙二八	濱町三丁目ヨリ中洲町、東扇橋ヲ經テ砂町ニ至ル	四、〇七二米	二二米	深川區內及砂町內大部分經過地變更
四五	清住町ヨリ砂町ニ至ル	三、〇四三	一五	四五	砂町八右衞門新田地內	五二七	一五	幹線二八號線ノ變更ノ爲大部分削除
				三	靈岸町ヨリ石島町ヲ經テ砂町ニ至ル	四五	砂町	幹線二八號線補助線四五號線修正ニ伴ヒ追加
一二四	清住町ヨリ深川區大島町ニ至ル	一、四六五	一一	一二四	清住町ヨリ深川區大島町ニ至ル	一、四六五	一一	幅員擴張

三	越中島町ヨリ濱園町ニ至ル	一、〇二五	一八	㊙	越中島町ヨリ濱園町ニ至ル
一〇八	中ノ郷竹町ヨリ數矢町ニ至ル	三、八七七	一一	一〇八	中ノ郷竹町ヨリ荒井町ヲ經テ數矢町ニ至ル（中ノ郷町ヨリ荒井町迄ハ內譯）
一一八	深川區木材町ヨリ豐住町ニ至ル	一、四七一	一一	㊙	湯島天神町三丁目ヨリ脫橋ヲ經テ押上町ニ至ル
㊙二九	濱町三丁目ヨリ新大橋、菊川橋ヲ經テ大島町ニ至ル	三、二二〇	二二	濱町、菊川橋ヲ經テ大島町ニ至ル（濱町三丁目ヨリ德右衞門町迄ハ內譯）	
四二五	押上町ヨリ柳島ニ至ル東平井町地內	一、四九二三〇〇	一五二〇	押上町ヨリ四ノ橋ヲ經テ東平井町ニ至ル	
㊙三八	入谷町ヨリ山ノ宿町、淺草扉前本所扉ヲ經テ洲崎ニ至ル	七、〇三六	二二	㊙三八	入谷町ヨリ山ノ宿町淺草扉前ヲ經テ中ノ郷竪平町ニ至ル
				四二	中ノ郷竪平町ヨリ本所扉ヲ經テ洲崎ニ至ル
一一	德右衞門町ヨリ木場町ニ至ル	二、一一一	一六	一一	小梅業平町ヨリ木場町ニ至ル
一一二	柳島元町ヨリ柳島町ニ至ル	七五三	一一	一一二	押上町ヨリ柳島町ニ至ル
四〇	元町ヨリ清住町ニ至ス	二、四八四	一五	四〇	元町ヨリ清住町ニ至ル
一一九	靈岸町ヨリ千田町ニ至ル	一、八九三	一一	一一九	靈岸町ヨリ山本町ヲ經テ砂町ニ至ル
一一七	東扇橋町ヨリ千田町ニ至ル	三二八	一一		
一一四	錦絲町ヨリ深川區本村町ニ至ル	四〇四	一一		
㊙三	吳服橋外ヨリ永代橋、澤海橋ヲ經テ砂町ニ至ル	五、二五五	三三	㊙三	吳服橋外ヨリ水代橋、澤海橋ヲ經テ砂町ニ至ル
㊙三〇	中ノ郷元町ヨリ寺島町ニ至ル	一、九二〇	二二	㊙三〇	中ノ郷元町ヨリ寺島町ニ至ル

注意

一、番號欄中㊙印ヲ附シタル路線ハ幹線ヲ示ス。

二、二九號路線ノ修正ハ第三小委員會ニ關係アリ。

一、〇二五	二二	二二乃至二二七	濱町三丁目ヨリ德右衞門町迄ノ幅員擴張	幅員ヲ擴張シ幹線ニ編入ノ上都市計畫事業トス
三、二二〇	二二		濱町、菊川橋ヲ經テ大島町ニ至ル（濱町三丁目ヨリ德右衞門町迄ハ內譯）	
一、四三八	二二			
一、七八二	二二			
四、二三六	二二			
二、八三六	二二			
四、四三七	一五			
四、三三八	二二			
七六四	一一			
一、四〇〇	一五			
二、三四八	一一			
五、二五五	三三			
一、九二〇	二二			

二線連結幅員及延長ヲ增加シ增加ノ分ハ市電氣事業經濟ノ負擔

二線ニ分割シ中ノ郷業平町以南幅員縮少及本所扉附近經過地變更ニ伴ヒ幅員縮少區域ハ都市計畫事業ヨリ除ク

幹線三〇號路線迄延長シ幅員ヲ二二米突トス增加ノ分ハ市電氣事業經濟ノ負擔

路線全部變更

千田町以東路線延長

創除

東平井町以東七九二米突ハ都市計畫事業ヨリ除ク字新田以東五四五米突ハ都市計畫事業ヨリ除ク

當局者の說明後、異議なく原案に決す。

報　告

大正十三年二月十三日特別委員會ニ於テ付託セラレタル議第二號議案中第一區第二區ヲ除キタル部分ニ付、二月十五日、同十八日、同二十三日、同二十五日ノ四回會議ヲ開キ、其ノ間必要ニ應シ實地ノ踏査ヲ爲シ、慎重審議ノ結果、街路計畫中別表ノ通修正シ、他ノ路線及運河其他ノ事項ハ原案ヲ適當ト認候條此段及報告候也

大正十三年二月二十六日　第三小委員會　主査　大橋新太郎

特別都市計畫委員會

特別委員長　子爵　大河內正敏殿

街路計畫修正對照表　東京第三小委員會(日本橋京橋方面)

番號	路線名	原案 延長	原案 幅員	修正案 延長	修正案 幅員	說明
㊈七	東京驛東口ヨリ下槇町、龜島橋ヲ經テ越前堀一丁目ニ至ル	一、一一〇米	二二乃至五〇米	一、一一〇米	二二乃至四四米	一部幅員縮少
㊈七ノ內	東京驛東口ヨリ下槇町迄	四二〇	五〇	四二〇	四四	路線ニ幾少ノ變更ヲ加ヘ幅員縮少
㊈七ノ內	下槇町ヨリ龜島橋四詰迄	三四五	三三	三四五	三三	
㊈七ノ內	龜島橋四詰ヨリ越前堀一丁目迄	三四五	二二	三四五	二二	原案ノ通
㊈	芝公園增上寺門前ヨリ濱松町一丁目ニ至ル	三五五	一五			削除
㊈	東濱町一丁目ヨリ新船松町ニ至ル	二六	二六			削除
㊈	東濱町一丁目ヨリ新船松町ニ至ル	三五五	一八			幅員擴張
㊈	芝公園增上寺門前ヨリ濱松町一丁目ニ至ル	六一一	二七			新設幹線ニ編入ノ上都市計畫事業トス
一五	宇田川町ヨリ汐留町二丁目ニ至ル	二四六	一五			削除
一五ノ內	宇田川町ヨリ汐留町二丁目ニ至ル	二四六	一五			幅員擴張
一五ノ內	濱町二丁目、淺草橋南元町、北田原町ヲ經テ金杉下町ニ至ル	八、〇四〇	三三	八、〇四八	三三	延長增加並幅員擴張、幹線ニ編入ノ上都市計畫事業トス
一五ノ內	築地三丁目ヨリ入舟町、龜島町、濱町二丁目、淺草橋南元町、北田原町ヲ經テ金杉下町ニ至ル	八、〇四〇	三三	八、〇四八	三三	起點變更ニ依リ延長短縮並幅員擴張、幹線ニ編入ノ上都市計畫事業トス
一五ノ內	濱町一丁目ヨリ入舟町、龜島町、濱町二丁目、淺草橋南元町、北田原町ヲ經テ金杉下町ニ至ル	八、〇四〇	三三	八、〇四八	三三	村松町附近ノ經過地一部變更
一五ノ內	築地三丁目ヨリ入舟町、龜島町、濱町二丁目、淺草橋南元町、北田原町ヲ經テ金杉下町ニ至ル	八、〇四〇	三三	一、二一八	一五	新設
一五ノ內	柳町ヨリ淺草橋南詰ニ至ル	一、六六七	一六	一、六六七	一六	村松町附近ニ於ケル路線少ノ變更
一五ノ內	北新町ヨリ矢ノ倉町ニ至ル	一、六六七	一六	一、六六七	一六	村松町附近ニ於ケル路線少ノ變更
一五ノ內	北新町ヨリ矢ノ倉町ニ至ル	一、六六七	一六	一、六六七	一六	村松町附近ニ於ケル路線少ノ變更
一五ノ內	北新町ヨリ矢ノ倉町ニ至ル	一、六六七	一六	九	九	村松町附近ニ於ケル路線少ノ變更

備考　一、路線番號ノ㊈ハ幹印ヲ付シアルハ幹線ヲ示ス。

二、幹線五號路線ノ修正延長ハ第一小委員會修正ノ分ヲ併セテ計算シアリ。

當局者の說明後埋立に關して、種々の議論出で路線に關しては、道幅の擴築は、公平に兩側を取るを原則とし、殘存建物あるか道路の形若くは連絡上已むを得ざる如き特殊の事情あるものは此の限りにあらざる事とし、運河に關する希望條件、即ち東堀留川龍閑川濱町川埋立を爲すも不可なきを以て、西堀留川を神田川に連絡する事とし、費用に困難せば、橫十間川工費を轉用し、橫十間川は土地買收に止め、工事を延期すべしとの議を可決す、更に希望條件、

市內鐵道線路ニ關スル件

政府ノ經營ニ係ル市內通過鐵道線路ハ、市內交通ノ安全ヲ圖ル爲メ、未設線ハ勿論、既設線ト雖モ總テ之ヲ高架若ハ地下線路トセラレンコトヲ望ム。

を可決し

道路費ニ要スル費金額ハ、各路線別ニ實狀ヲ精査シタルモノニアラス、隨ツテ實際ニ補償ヲ支給シ能ハサル場合ヲ生センコトヲ慮ル、若シ完全ニ補償ヲ爲シ能ハサル費金額ヲ以テ實行ニ着手セント欲セハ、土地所有權借地權借家權等關法ニ依リテ與ヘラレタル權利ヲ無視スルノ結果ヲ生シ、東京市民ハ、不測ノ不利益ヲ被リ、爲ニ苦情百出シテ計畫ノ實行ヲ遲延セシメ、延ヒテ帝都復興ノ大業ヲ妨クルノ嫌ヒアリ、當局ハ宜シク慮ヲ此點ニ致シ、萬遺算ナキヲ期セラレムコトヲ望ム。

の決定を次に讓り、都市計畫事業促進に關する希望條件、

今回本會ニ付議セラレタル東京都市計畫事業ハ、帝都ノ復興促進上速カニ之レカ完成ヲ期スヘキハ固ヲ俟タサル所ニシテ、政府ハ素ヨリ此ノ方針ニ基キテ着々其ノ計畫ヲ進メラルヽヤ明ナリ、然レトモ該事業ノ遂行ハ、街路ノ幹線タルト補助線タルトヲ問ハス、將又土地區劃整理ニシテ國ノ執行スルモノト否トヲ論セス、互ニ相關連シテ實行スルヲ必要トシ、之ヲ分離シテハ、到底其ノ完璧ヲ期シ難キハ勿論ナリ、然ルニ國ノ執行スル事業ニ付テハ最ニ臨時帝國議會ノ協賛ヲ經テ其ノ豫算ヲ確定シタリト雖、市ニ於テ執行スヘキ事業ニ對スル政府ノ財政的援助ニ付テハ、未タ何等ノ決定ヲ見ルニ至ラサルハ、甚タ遺憾トスル所ナリ、仍テ政府ハ、此ノ際速カニ適當ナル方法ニ依リ、財政的援助ヲ確立シ、以テ事業ノ遂捗ヲ期セラレムコトヲ望ム。

は、辭句を修正する事として可決し、

議第三號議案中修正ノ件

議第三號議案東京都市計畫事業中變更ノ件、街路ノ部中左ノ通修正ス。

一等大路第三類第十五幅員十二間

前號路線終點ヨリ南千住町大字三河島ニ至リ、鐵道線路下ヲ過キ、市郡界ニ至リ、更ニ下谷區金杉下町百十番地ヨリ淺草區田中町電車通ヲ橫切リ、南千住町大字地方橫鄕字眞先千四百番地先ニ至ル路線

一等大路第三類第十五幅員十二間

一等大路第三類第十五幅員十二間

前號路線終點ヨリ南千住町大字三河島ニ至リ、鐵道線路下ヲ過キ、市郡界ニ至リ、更ニ下谷區金杉下町百十番地ヨリ淺草區田中町電車通ヲ橫切リ、南千住町大字地方橫鄕字眞先千四百番地先ニ至ル路線

（參照）原案「一」ハ修正箇所」

亦異議なく可決したる後、後廻しとなりたる希望條件に就き、追加東京驛六間道路二本を希望として確定する事とし、散會す、時に午後一時十分。

橫濱ノ部特別委員會

第一回　大正十三年二月八日內務大臣官邸に開會し、委員長子爵井

上匡四郎委員十一名、幹事帝都復興院職員出席。

議第四號、横濱都市計畫並都市計畫事業及其執行年割ノ件を付議す平沼委員(亮三)より横濱市會の決議に成る修正意見の提出ありて之を審議す。

議第四號議案修正意見

一、原案一號路線ノ經過地及路線幅員ヲ左表ノ通リ變更ス。

番號	路線(起終點及經過地)	延長	幅員
一	子安郡市界ヨリ神奈川町、高砂町六、七丁目、平沼町、四戸部町、久保町道上ヲ經テ程ケ谷問ニ至ル	八、四三四米	一八乃至三六米
內	子安郡市界ヨリ神奈川町十番町迄	三、一五五	二七
內	神奈川町十番町迄	一、七〇一九	三三
內	青木町七軒町迄	一、二三〇九	二六
內	高島町六丁目迄	一、二三六	二二
內	四戸部町扇田迄	一、一〇五五	二二
譯	扇田ヨリ久保町道上迄	一、一〇五五	二二
譯	久保町道上ヨリ程ケ谷町岩間迄	一、七〇〇	一八

二、一號路線ノ次ニ左表ノ二號路線ヲ加ヘ原案路線番號ノ二ヲ三ニ改メ以下順次繰下ク。

番號	路線(起終點及經過地)	延長	幅員
二	高島町七丁目ヨリ横濱驛前ヲ經テ櫻木町驛前ニ至ル	二、一四〇米	三六米
內	高島町七丁目ヨリ横濱驛前迄	六九〇	三六
譯	横濱驛前ヨリ櫻木町驛前迄	一、四五〇〇	三六

横濱都市計畫街路修正對照表

番號	路線(起終點及經過地)	原案 延長(約)	原案 幅員	修正案 延長(約)	修正案 幅員	修正要旨
一	子安町市郡界ヨリ神奈川町十番町迄	三、一五五米	二二米	三、一五五米	二五米	一部幅員擴張並路線變更
內	子安町市郡界ヨリ神奈川町十番町迄	三、一五五	二二	三、一五五	二五	
內	神奈川町十番町ヨリ青木町七軒町迄	一、〇五四	二七	一、〇五四	三五	此ノ區間幅員擴張並路線變更
內	青木町七軒町ヨリ横濱驛前迄	一、八四九	二二	一、八四九	二二	
譯	横濱驛前ヨリ久保町道上迄	一、一七一	一八	一、一七一	一八	原案ノ通
譯	久保町道上ヨリ保土ケ谷町岩間迄					
內	子安町市郡界ヨリ神奈川町十番町迄	三、一五五	二二			
內	神奈川町十番町ヨリ青木町七軒町迄	一、〇五四	二七			
內	青木町七軒町ヨリ横濱驛前迄	一、八四九	二二			
譯	横濱驛前ヨリ久保町道上迄	一、一七一	一八			
譯	久保町道上ヨリ保土ケ谷町岩間迄					

三、原案五號路線幅員ハ一六乃至二五米ナルモ之ヲ通シテ二二米ト變更ス。

四、原案一〇號路線ノ幅員ハ三三米ナルモ之ヲ二二米ニ變更ス。

第二回　二月十八日內務大臣官邸に開催し、出席者前回に同じく、復興院鐵道省及横濱市關係者との間に協議せられ、修正案の修正案付議せられ、之を可決す。

横濱都市計畫街路ノ新設改修ノ件修正案

番號	路線(起終點及經過地)	延長(約)	幅員
一	子安町市郡界ヨリ神奈川町横濱驛前四戸部町久保町道上ヲ經テ保土ケ谷町岩間ニ至ル	八、五〇一米	一八乃至三六米
內	子安町市郡界ヨリ神奈川町十番町迄	三、一五五	二五
內	神奈川町十番町ヨリ青木町七軒町迄	一、〇五四	三五
內	青木町七軒町ヨリ横濱驛前迄	一、八四九	二二
譯	横濱驛前ヨリ久保町道上迄	一、一七一	一八
譯	久保町道上ヨリ保土ケ谷町岩間迄		
內	子安町市郡界ヨリ神奈川町十番町迄	三、一五五	二五
內	神奈川町十番町ヨリ青木町七軒町迄	一、〇五四	三五
內	青木町七軒町ヨリ横濱驛前迄	一、八四九	二二
譯	横濱驛前ヨリ久保町道上迄	一、一七一	一八
譯	久保町道上ヨリ保土ケ谷町岩間迄		
內	子安町市郡界ヨリ神奈川町十番町迄	三、一五五	二二
內	神奈川町十番町ヨリ青木町七軒町迄	一、〇五四	二七
內	青木町七軒町ヨリ横濱驛前迄	一、八四九	二二
譯	横濱驛前ヨリ久保町道上迄	一、一七一	一八
譯	久保町道上ヨリ保土ケ谷町岩間迄		
一	子安町市郡界ヨリ神奈川町十番町迄	三、一五五	二二
內	子安町市郡界ヨリ神奈川町十番町迄	三、一五五	二二
內	神奈川町十番町ヨリ青木町七軒町迄	一、〇五四	二七
內	青木町七軒町ヨリ横濱驛前迄	一、八四九	二二
譯	横濱驛前ヨリ久保町道上迄	一、一七一	一八
譯	久保町道上ヨリ保土ケ谷町岩間迄		
五	青木町七軒町ヨリ神奈川町二ツ谷ヲ經テ市郡界六角橋南詰ニ至ル	二、一八二	二二
五	青木町七軒町ヨリ神奈川町二ツ谷ヲ經テ市郡界六角橋南詰ニ至ル	二、一八二	一六乃至二五
五	青木町七軒町ヨリ神奈川町二ツ谷ヲ經テ市郡界六角橋南詰ニ至ル	二、一八二	二二
五	青木町七軒町ヨリ神奈川町二ツ谷ヲ經テ市郡界六角橋南詰ニ至ル	二、一八二	全線ヲ通シテ二十二メートルトス
內	青木町七軒町ヨリ神奈川町二ツ谷迄	一、五五五	一六
譯	神奈川町二ツ谷ヨリ六角橋南詰迄	一、五五五	二五
五	青木町七軒町ヨリ神奈川町二ツ谷ヲ經テ市郡界六角橋南詰ニ至ル	二、一八二	五
內	青木町七軒町ヨリ神奈川町二ツ谷迄	一、五五五	一六
譯	神奈川町二ツ谷ヨリ六角橋南詰迄	一、五五五	二五
九	櫻木町一丁目ヨリ野毛町三丁目ヲ經テ日ノ出町一丁目ニ至ル	三、一八二	一六
九	櫻木町一丁目ヨリ野毛町三丁目ヲ經テ日ノ出町一丁目ニ至ル	三、一八二	九ヲ
九	櫻木町一丁目ヨリ野毛町三丁目ヲ經テ日ノ出町一丁目ニ至ル	三、一八二	全線ヲ通シテ二十二メートルトス
一〇	平沼橋南詰ヨリ横濱驛前ニ至ル	五六七	三三
一〇	平沼橋南詰ヨリ横濱驛前ニ至ル	五六七	一〇
一〇	平沼橋南詰ヨリ横濱驛前ニ至ル	五六七	全線ヲ通シテ二十二メートルトス
一三	本町一丁目地內	一〇九	一八
一三	本町一丁目地內	一〇九	一三
一五	青木町東經井澤ヨリ神奈川町二ツ谷ニ至ル	一、七四九	一六
一五	高島町八丁目ヨリ西戸部町塵田ニ至ル	一、五六四	一五
一五	高島町八丁目ヨリ西戸部町塵田ニ至ル	一、五六四	一五

二、第二回總會　大正十三年二月二十八日午後二時三十分內務大臣官邸に開會す、出席者は水野會長、委員男爵斯波忠三郎外四十八名、幹事二名、復興局職員直木長官外四部長なり、是日の議案は、

第一、議第四號横濱都市計畫並都市計畫事業及其執行年割ノ件。

（特別委員長報告）

第二、議第五號、常務委員會委任事項議定ノ件。

第三、議第二號、東京都市計畫並都市計畫事業及其ノ執行年割ノ件

議第三號、東京都市計畫事業中變更ノ件。

（右二件特別委員長報告）

水野會長開會を宣し、議第四號横濱都市計畫並都市計畫事業及其ノ執行年割ノ件を付議し、特別委員會長をして報告する所あらしむ。

報告

本特別委員會ハ、大正十三年二月八日及十八日ノ二回會議ヲ開キ、付託セラレタル議第四號議案ニ付、愼重審議ノ結果、左ノ通決定致候、此段及報告候也。

大正十三年二月二十八日　特別委員長　子爵　井上匡四郎

特別都市計畫委員會會長　水野錬太郎殿

記